



第7回 **CAMPUS LIFE**
キャンパスライフ
大学院生生活実態調査報告書



ま え が き

大学院学生実態調査も第7回となりました。この調査は、本学大学院生の生活実態や要望を調査することで、福利厚生等並びに修学指導における課題を把握し、本学における大学院教育全般の改善を図る目的で2年ごとに行われております。今回は平成30年11月に7教育部の修士・博士前期及び博士・博士後期の学生全員(1,482人)にアンケート調査を実施しました(回収率66%)。その結果が纏まりましたのでご報告致します。

本報告書は、調査の概要、続いて調査項目①家族・住居・通学、②収入・支出、③健康状態、④学生生活上の問題点、⑤修学状況、⑥進路選択・就職について、総計80問の質問により調査(日本語と英語)し、各質問項目について分析結果とデータを示しています。更にこの調査から得られた各教育部の現状と課題並びに総括と提言を記載しております。

本調査からは、本学大学院生の生活の実態がよく分かります。例えば前期課程学生の半数以上がアルバイトをしていること、前期課程学生、後期課程学生の約7割が何らかの悩みや不安を抱えており、学生の半数近くが現在気になる身体症状があると答えていること、そして、こういった悩みを相談するのはほとんどが友人や家族であること、交通事故に30%の大学院生が遭遇していること、指導教員とのコミュニケーションは「充分とれている」、「ある程度とれている」は前期課程学生が83%、後期課程学生が88%、「あまりとれていない」、「全くとれていない」は前期課程学生が17%、後期課程学生が12%であること、また海外渡航が少なく(前期課程学生の67%は入学後なし)国際学会での発表は修士で13%、博士で32%であることなど、これから本学の大学院教育の改善・改革を進める上で貴重なデータが得られています。

大学院教育に関して文部科学省は、平成17年度より「新時代の大学院教育」、平成23年度には、「グローバル化社会の大学院教育」を謳い、その充実と改革を進めてきています。更に平成30年度には「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」で高等教育が目指すべき姿が示されました。本学におきましても、各大学院教育部において、グローバル人材を育成するため、英語講義の開設や英語コース等の充実を図っています。

一方で教育システムの充実と同様に学生を取り巻く環境を整備することが、研究活動を支える必要条件と考えられます。グローバル化に伴い世界各国からの留学生も増加しており、大学には多様なサービスが求められる時代となっています。多くの言語文化を背景にする学生が集うことから各々への対応が必要です。また、社会人学生への支援の充実も欠かすことができません。大学院での学びには、奨学金などの経済的支援、就労支援等、生活基盤の安定が必要条件となり、学業に専念することが可能となります。

本調査には研究活動上の関わりでは教員に伝わらないデータも含まれており、さらなる支援のための手がかりとして、ご活用いただければ幸甚です。

最後になりますが、本学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室の委員の先生方および学務部職員の方々には、アンケート項目の設定、調査の実施、集計、結果の分析まで、ご多忙の中精力的に遂行して頂き、早期に報告書を作成して頂きました。本年度の本調査に関わられた教職員の皆様に深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただきました沢山の大学院生の皆様にもこの場を借りて深く感謝いたします。

平成31年3月

徳島大学理事(教育担当)

高石喜久

目 次

まえがき	1
序 章 大学院生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 回答票の回収状況	5
7 図中の％表示	5
8 前期課程・後期課程	5
9 教育部等の略語表示	5
附表 「平成30年度学生生活実態調査」(日本人学生用)	8
附表 「2018 STUDENT LIFE SURVEY」(外国人留学生用)	16
第1章 本調査の対象者について	28
1-1 出身地	28
1-2 最終学歴	29
1-3 社会人大学院生と留学生	30
第2章 家族・住居・通学について	32
2-1 家庭の年間所得	32
2-2 住居区分	33
2-3 住居費	34
2-4 配偶者や子供の有無	35
2-5 通学方法	37
2-6 通学時間	38
第3章 収入・支出について	39
3-1 1か月の平均収入額	39
3-2 親等からの援助額	40
3-3 1か月の平均支出額(授業料支出は除く)	41
3-4 奨学金	42
3-5 アルバイト	43
3-6 アルバイト従事時間数	44
3-7 アルバイトの目的	45
3-8 アルバイト収入金額	46
3-9 アルバイトにおけるトラブル	47
第4章 健康状態について	49
4-1 睡眠時間	49
4-2 気になる症状	50
4-3 症状の内容	51

4-4	主な悩みと不安	52
4-5	相談相手	53
4-6	現在の精神状態	54
4-7	喫煙	55
4-8	飲酒	56
4-9	保健管理・総合相談センターの認識	57
第5章	学生生活上の問題点について	58
5-1	迷惑行為	58
5-2	総合相談部門（学生相談室）の利用	60
5-3	犯罪被害・交通事故・違法薬物使用	62
5-4	大学事務室の対応	65
第6章	修学状況について	66
6-1	教育理念・方針と教育に対する満足度	66
6-2	本学を選んだ理由と目的	69
6-3	研究活動と研究指導	74
6-4	研究環境と所属大学院に対する満足度	79
6-5	図書館の利用状況	81
6-6	海外渡航の経験と英会話	84
6-7	日本語会話	88
6-8	学習への取組みと本学の教育への期待	91
第7章	進路選択・就職について	96
7-1	後期課程への進学意思	96
7-2	進学希望先	97
7-3	就職希望職種	98
7-4	進路選択の要件	100
7-5	進路選択の情報入手手段	102
7-6	キャリア支援室の利用状況	103
7-7	就職に関する大学への要望	105
第8章	教育部の現状と課題	110
8-1	総合科学教育部	110
8-2	医科学教育部	112
8-3	口腔科学教育部	118
8-4	薬科学教育部	121
8-5	栄養生命科学教育部	124
8-6	保健科学教育部	129
8-7	先端技術科学教育部	135
特記	留学生の現状と課題	137
第9章	総括と提言	141
	あとがき	143

序章 大学院生生活実態調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、本学大学院生の生活の実態や要望を把握し、今後の福利厚生施設等の改善並びに修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の組織

この調査は、徳島大学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室の委員及び協力者が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区 分	氏 名	所 属	職 名
委 員 長	滝 口 祥 令	大学院医歯薬学研究部	教 授
委 員	衣 川 仁	大学院社会産業理工学研究部	教 授
委 員	鶴 尾 吉 宏	大学院医歯薬学研究部	教 授
委 員	吉 村 弘	大学院医歯薬学研究部	教 授
委 員	島 本 隆	大学院理工学研究部	教 授
委 員	長 宗 秀 明	大学院社会産業理工学研究部	教 授
委 員	TRAN HOANG NAM	国 際 セ ン タ ー	講 師
協 力 者	畠 一 樹	総 合 教 育 セ ン タ ー	特任講師
協 力 者	前 田 健 一	保健管理・総合相談センター	教 授

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学大学院修士・博士前期課程及び博士・博士後期課程に在学する学生全員1,482人（平成30年11月1日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、各教育部の学務（教務）係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配布し、回答用紙（マークカード）を回収した。

4. 調査の時期

この調査は、平成30年11月1日から11月12日まで実施し、11月1日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を11月15日までとした。

5. 調査の内容

調査項目は、大学院生の生活全般を把握できるように精選した。

6. 回答票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者 1,482 人のうち回答数は 983 人で、回収率は 66.3%であった。教育部・専攻別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

7. 図中の%表示

端数処理の関係で合計が 100%にならない場合がある。

8. 前期課程・後期課程

報告書中では、修士課程と博士前期課程を合わせて前期課程、博士後期課程と 4 年生博士課程(医・歯・薬)を合わせて後期課程と表現した。

9. 教育部等の略語表示

本報告書中、教育部名等を以下のとおり略語で記載する。

総合科学教育部	→	総合科学
医科学教育部	→	医科学
口腔科学教育部	→	口腔科学
薬科学教育部	→	薬科学
栄養生命科学教育部	→	栄養生命科学
保健科学教育部	→	保健科学
先端技術科学教育部	→	先端技術科学
第 1 回大学院生生活実態調査 (平成 17 年度実施)	→	第 1 回調査
第 2 回大学院生生活実態調査 (平成 20 年度実施)	→	第 2 回調査
第 3 回大学院生生活実態調査 (平成 22 年度実施)	→	第 3 回調査
第 4 回大学院生生活実態調査 (平成 24 年度実施)	→	第 4 回調査
第 5 回大学院生生活実態調査 (平成 26 年度実施)	→	第 5 回調査
第 6 回大学院生生活実態調査 (平成 28 年度実施)	→	第 6 回調査

平成30年度 大学院生生活実態調査 集計表 (教育部・専攻・学年別)

教育部(研究科)名	修士・博士前期課程												修士・博士後期課程																								
	1年				2年				小計				1年				2年				3年				4年				小計				回収率				
	全体 (人)	うち留学生 (人)	提出者 (人)	提出者 (%)	全体 (人)	うち留学生 (人)	提出者 (人)	提出者 (%)	全体 (人)	うち留学生 (人)	提出者 (人)	提出者 (%)	全体 (人)	うち留学生 (人)	提出者 (人)	提出者 (%)	全体 (人)	うち留学生 (人)	提出者 (人)	提出者 (%)	全体 (人)	うち留学生 (人)	提出者 (人)	提出者 (%)	全体 (人)	うち留学生 (人)	提出者 (人)	提出者 (%)	全体 (人)	うち留学生 (人)	提出者 (人)	提出者 (%)					
総合科学教育部	29	24	10	8	35	15	8	1	64	39	18	10	60.9	55.6	2	1	0	0	4	2	0	0	4	2	0	0	5	1	1	0	11	4	1	0	36.4		
地域科学専攻																																					
臨床心理学専攻	12	1	1	14	10	0	0	26	22	1	1	84.6	100.0																								
小計	41	36	11	9	49	25	8	1	90	61	19	11	67.8	57.9	2	1	0	0	4	2	0	0	5	1	1	0	5	1	1	0	11	4	1	0	36.4		
医学専攻	5	0	0	3	3	0	0	8	8	0	0	100.0																									
医学専攻																																					
プロテオミクス医科学専攻																																					
小計	5	0	0	3	3	0	0	8	8	0	0	100.0																									
口腔保健学専攻	4	1	1	0	11	4	0	0	15	5	1	0	33.3																								
口腔科学専攻																																					
小計	4	1	1	0	11	4	0	0	15	5	1	0	33.3																								
創薬科学専攻	35	33	0	0	33	26	1	1	68	59	1	1	86.8	100.0	11	11	1	1	11	11	3	3	8	8	1	1	8	8	1	1	1	1	1	1	1	1	
医療生命科学専攻																																					
薬学専攻																																					
小計	35	33	0	0	33	26	1	1	68	59	1	1	86.8	100.0	15	15	2	2	11	11	3	3	9	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
栄養生命科学教育部	29	26	0	0	28	23	0	0	57	49	0	0	86.0		10	5	1	1	9	4	2	0	15	3	1	0	15	3	1	0	34	12	4	1	35.3		
保健学専攻	23	16	0	0	32	20	0	0	55	36	0	0	65.5		6	3	0	0	6	2	0	0	10	3	0	0	10	3	0	0	22	8	0	0	36.4		
知的力学システム工学専攻	93	72	3	1	101	74	10	4	194	146	13	5	75.3	38.5	6	2	2	0	15	8	5	2	20	4	9	1	20	4	9	1	41	14	16	6	34.1		
環境創生工学専攻																																					
物質生命科学システム工学専攻	83	68	4	3	76	59	5	1	159	127	9	4	79.9	44.4	10	8	2	1	7	6	2	1	11	5	2	2	11	5	2	2	28	19	6	4	67.9		
システム創生工学専攻	169	127	28	20	180	130	21	9	349	257	49	35	73.6	71.4	21	11	13	8	10	6	6	6	26	12	15	8	26	12	15	8	57	29	34	25	50.9		
小計	345	267	35	24	357	263	36	14	702	530	71	44	75.5	62.0	37	21	17	9	32	20	13	9	57	21	26	11	57	21	26	11	126	62	56	35	48.2		
合計	482	384	47	33	513	364	45	16	995	748	92	56	75.2	60.9	118	74	27	18	127	72	30	19	151	59	34	17	91	30	10	3	487	235	101	65	48.3		

注) 在学者数欄は11月1日現在で、休学者を除いた数である。

〈学年別〉

課 程	学 年	全 体		回 収 率 全 体 (%)
		対象者数 (人)	回 収 数 (人)	
修士・博士前期課程	1 年	482	384	79.7
	2 年	513	364	71.0
	小 計	995	748	75.2
博士・博士後期課程	1 年	118	74	62.7
	2 年	127	72	56.7
	3 年	151	59	39.1
	4 年	91	30	33.0
	小 計	487	235	48.3
	合 計	1,482	983	66.3

〈男女別〉

課 程	教 育 部 名	回 収 率 (%)		
		男	女	計
修士・博士前期課程	総 合 科 学 教 育 部	68.1	67.4	67.8
	医 科 学 教 育 部	100.0	100.0	100.0
	口 腔 科 学 教 育 部	0.0	41.7	33.3
	薬 科 学 教 育 部	88.0	83.3	86.8
	栄 養 生 命 科 学 教 育 部	90.9	84.8	86.0
	保 健 科 学 教 育 部	50.0	73.0	65.5
	先 端 技 術 科 学 教 育 部	74.8	79.6	75.5
	小 計	74.8	76.4	75.2
博士・博士後期課程	総 合 科 学 教 育 部	40.0	33.3	36.4
	医 科 学 教 育 部	30.1	56.9	38.2
	口 腔 科 学 教 育 部	59.5	63.3	61.2
	薬 科 学 教 育 部	96.7	100.0	97.2
	栄 養 生 命 科 学 教 育 部	44.4	32.0	35.3
	保 健 科 学 教 育 部	33.3	36.8	36.4
	先 端 技 術 科 学 教 育 部	48.4	51.6	49.2
	小 計	46.2	52.0	48.3
	合 計	66.3	66.5	66.3

平成30年度 学生生活実態調査

平成30年11月
徳島大学

お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成30年11月1日現在、本学に在学する大学院学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入してください。他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

〔調査実施期間 11月1日(木)～11月12日(月)〕

**回答用紙（マークカード）の提出期限は、11月15日(木)です。
所属教育部の学務（教務）係へ提出してください。**

回答記入上の注意事項

- 1 平成30年11月1日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号をHBの黒鉛筆で塗りつぶして回答してください。ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けています。質問中、回答用紙（マークカード）の裏面に記入する必要がある場合は、質問番号とその内容を記入してください。

また、大学内における学生生活全般について、気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。

学生生活実態調査票（大学院）

A. 基本的事項について

1 【全員】所属教育部はどこですか。

1. 総合科学教育部
2. 医科学教育部
3. 口腔科学教育部
4. 薬科学教育部
5. 栄養生命科学教育部
6. 保健科学教育部
7. 先端技術科学教育部

2 【全員】専攻はどこですか。

- | | | | | |
|-----------|-------------------|-------------|------------------|----------------|
| 総合科学教育部 | [1. 地域科学専攻 | 2. 臨床心理学専攻] | | |
| 医科学教育部 | [1. 医科学専攻 | 2. 医学専攻 | 3. プロテオミクス医科学専攻] | |
| 口腔科学教育部 | [1. 口腔科学専攻 | 2. 口腔保健学専攻] | | |
| 薬科学教育部 | [1. 創薬科学専攻 | 2. 医療生命薬学専攻 | 3. 薬学専攻] | |
| 栄養生命科学教育部 | [1. 人間栄養科学専攻] | | | |
| 保健科学教育部 | [1. 保健学専攻] | | | |
| 先端技術科学教育部 | [1. 知的力学システム工学専攻 | 2. 環境創生工学専攻 | 3. 物質生命システム工学専攻 | 4. システム創生工学専攻] |

3 【全員】何年生ですか。

1. 修士・博士前期課程1年生
2. 修士・博士前期課程2年生
3. 博士後期課程1年生
4. 博士後期課程2年生
5. 博士後期課程3年生
6. 博士課程1年生
7. 博士課程2年生
8. 博士課程3年生
9. 博士課程4年生

4 【全員】性別はどちらですか。

1. 男
2. 女

5 【全員】出身地はどこですか。

1. 徳島県
2. 四国（徳島県以外）
3. 九州
4. 中国
5. 近畿
6. 中部（新潟，富山，石川，福井，山梨，長野，岐阜，静岡，愛知）
7. 関東（茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川）
8. 東北
9. 北海道

6 【全員】現在所属している教育部に進学する前の最終学歴はどこですか。

1. 徳島大学
2. 徳島大学以外の国内の大学
3. 高等専門学校の専攻科
4. 外国の大学
5. 徳島大学大学院修士・博士前期課程
6. 徳島大学大学院以外の国内の大学院
7. 外国の大学院

7 【全員】社会人または留学生ですか。

1. 社会人大学院生
2. 留学生
3. どちらでもない

B. 家族・住居・通学について

8 【全員】あなたの家庭の年収（税込み）はおおよそどれくらいですか。

1. 250万円未満
2. 250～500万円未満
3. 500～750万円未満
4. 750～1,000万円未満
5. 1,000～1,500万円未満
6. 1,500万円以上

9 【全員】あなたの住居区分はどれですか。

1. 自宅（家族と同居）
2. アパート・マンション（家族と別居）
3. 国際交流会館
4. 間借り
5. 親戚・知人宅
6. その他

10 【国際交流会館及び日亜会館留学生宿舍入居者を除く自宅外通学者】1か月の家賃（電気代，ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。

1. 3万円未満
2. 3万円～4万円未満
3. 4万円～5万円未満
4. 5万円～6万円未満
5. 6万円～7万円未満
6. 7万円～8万円未満
7. 8万円～9万円未満
8. 9万円～10万円未満
9. 10万円以上

- 11 【全員】あなたには現在、生計を共にしている配偶者・子供がいますか。
1. 配偶者なし、子供なし
 2. 配偶者なし、子供あり
 3. 配偶者あり、子供なし
 4. 配偶者あり、子供あり
- 12 【問11で「2」「4」を選んだ方】授業や研究をしているとき、子供の世話は誰がみていますか。(複数回答可)
1. 配偶者
 2. 親や親戚
 3. 保育施設にあずける
 4. 小学校等の学校に通っている
 5. その他
- (注：要望事項があれば、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号12とともに書いてください)
- 13 【全員】あなたの主な通学方法は何か。
1. 徒歩
 2. 自転車
 3. バイク(原付自転車・自動二輪)
 4. 自動車
 5. バス・JR
- 14 【全員】通学時間はどれですか。
1. 15分未満
 2. 15分～30分未満
 3. 30分～1時間未満
 4. 1時間～2時間未満
 5. 2時間以上

C. 収入・支出について

- 15 【全員】あなたの1か月の平均収入額(親等からの援助を除く)はいくらですか。
1. 3万円未満
 2. 3～5万円未満
 3. 5～7万円未満
 4. 7～10万円未満
 5. 10～15万円未満
 6. 15～20万円未満
 7. 20～25万円未満
 8. 25～30万円未満
 9. 30万円以上
- 16 【全員】親等からの援助はいくらありますか。
1. 全くない
 2. 3万円未満
 3. 3～5万円未満
 4. 5～7万円未満
 5. 7～10万円未満
 6. 10～15万円未満
 7. 15～20万円未満
 8. 20万円以上
- 17 【全員】あなたの1か月の平均支出額(授業料支出は除く)はいくらですか。
1. 3万円未満
 2. 3～5万円未満
 3. 5～7万円未満
 4. 7～10万円未満
 5. 10～15万円未満
 6. 15～20万円未満
 7. 20～25万円未満
 8. 25～30万円未満
 9. 30万円以上
- 18 【全員】奨学金を受けることを希望しますか。
1. 現在受給中であるが、更に希望する
 2. 現在受給していないが、希望する
 3. 現在受給していないし、希望もしない
- 19 【全員】現在、アルバイトをしていますか。
1. はい
 2. いいえ
- 20 【問19で「1」を選んだ方】①1週間の従事時間は平均何時間ですか。(移動に要する時間も含む)
1. 5時間未満
 2. 5～10時間未満
 3. 10～15時間未満
 4. 15～20時間未満
 5. 20～25時間未満
 6. 25時間以上
- 21 【問19で「1」を選んだ方】②アルバイトは主にどのような目的でしていますか。(複数回答可)
1. 生活費や学費のため
 2. 学会参加のため
 3. レジャー・旅行費のため
 4. 日常の娯楽・嗜好品等購入のため
 5. 高額商品(パソコン、バイク、自動車等)購入のため
 6. 社会体験のため
 7. その他
- 22 【問19で「1」を選んだ方】③あなたのアルバイトによる収入(1か月平均)はいくらですか。
1. 3万円未満
 2. 3～5万円未満
 3. 5～7万円未満
 4. 7～10万円未満
 5. 10～15万円未満
 6. 15万円以上
- 23 【問19で「1」を選んだ方】④アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。(複数回答可)
1. ない
 2. 給料の不払い
 3. 給料が契約より低かった
 4. 客とのトラブル
 5. 解雇
 6. 雇用者との意見の不一致
 7. 事故・ケガ
 8. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号23とその内容を書いてください)

D. 健康状態について

24 【全員】 1日の睡眠時間は平均何時間ぐらいですか。(休日を除く)

1. 4時間未満 2. 4～6時間未満 3. 6～8時間未満 4. 8～10時間未満 5. 10時間以上

25 【全員】 現在気になる身体症状はありますか。

1. ない 2. 時々ある 3. 常にある

26 【問25で「3」を選んだ方】 気になる症状は何ですか。(複数回答可)

1. 頭痛 2. 腹痛・嘔気 3. 下痢・便秘 4. 動悸・不整脈 5. めまい・立ちくらみ
6. 咳・痰 7. 生理痛・生理不順 8. アトピー・アレルギー 9. 不眠 10. その他

27 【全員】 現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。(複数回答可)

1. ない 2. 経済状態 3. 勉強 4. 交友・異性関係 5. 身体的不調
6. 家族関係 7. 自分の性格 8. 就職や進路 9. 生き甲斐や目標 10. その他

28 【全員】 悩み事は誰に相談しますか。(複数回答可)

1. 友人 2. 家族 3. 教員 4. 総合相談部門(学生相談室)
5. 保健管理部門 6. 学務(教務)係 7. 1～6以外の人 8. 誰にもしない

29 【全員】 現在の精神状態はどうですか。

1. 充実している 2. 気分は普通 3. いらいらする 4. なんとなく不安
5. 落ち込みやすい 6. やる気がでない 7. その他

30 【全員】 喫煙しますか。

1. 喫煙しない 2. ときどき喫煙する 3. 毎日喫煙する 4. 過去に喫煙していたが、現在はしない

31 【全員】 飲酒をしますか。

1. 飲酒はしない 2. たまに飲酒する 3. 1週間に1～2日飲酒する
4. 1週間に3～4日飲酒する 5. 1週間に5日以上飲酒する

32 【全員】 保健管理・総合相談センター保健管理部門を利用したことがありますか。(複数回答可)

1. 健康診断のために行ったことがある
2. 健康診断以外(診療, 相談, 健康機器の利用, 証明書作成など)で利用したことがある
3. 保健管理・総合相談センター保健管理部門があることを知らなかった
4. 保健管理・総合相談センター保健管理部門は知っているが、行ったことがない

E. 学生生活上の問題点

33 【全員】 あなたは、現在所属の大学院入学以来、迷惑行為を受けたことがありますか。(複数回答可)

1. 受けたことはない 2. 悪徳商法に引っかかった 3. いたずら電話を受けた
4. ストーカーにあった 5. 大学内でセクハラを受けた 6. 大学内でアカハラを受けた
7. 飲酒を強要された 8. インターネットによる誹謗・中傷を受けた
9. カルトのような集団への勧誘を受けた
10. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号33とその内容を書いてください)

セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)とは

相手を不快にさせる性的な言動を行い、それに対する反応によって学習・研究上で一定の不利益を与えたり、精神的な苦痛などを与えること。

アカハラ(アカデミック・ハラスメント)とは

大学などで、指導教員が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。

34 【問33で「5」を選んだ方】 誰に相談しましたか。(複数回答可)

1. 友人 2. 家族 3. 教員 4. 総合相談部門(学生相談室)
5. 学務(教務)係 6. 1～5以外の人 7. 誰にもしない

35 【問33で「6」を選んだ方】誰に相談しましたか。(複数回答可)

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. 総合相談部門 (学生相談室)
5. 学務 (教務) 係
6. 1～5以外の人
7. 誰にもしない

36 【全員】保健管理・総合相談センター総合相談部門 (学生相談室) を利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. 総合相談部門 (学生相談室) があるのは知っているが、利用したことがない
3. 総合相談部門 (学生相談室) を知らない

37 【問36で「1」を選んだ方】総合相談部門 (学生相談室) を利用して対応はどうでしたか。

1. 満足である
 2. どちらかといえば満足である
 3. どちらかといえば不満足である
 4. 不満足である
- (注: 「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号37とその理由を書いてください)

38 【全員】あなたは、現在所属の大学院入学以来、盗難 (盗み)、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。(複数回答可)

1. 被害に遭ったことがない
2. 盗難 (盗み) に遭ったことがある
3. 強盗に遭ったことがある
4. 傷害に遭ったことがある
5. 痴漢に遭ったことがある
6. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号38とその内容を書いてください)

39 【全員】あなたは、交通事故の被害者または加害者になったことがありますか。

1. 被害者・加害者の両方になったことがある
2. 被害者になったことがある
3. 加害者になったことがある
4. 被害者・加害者両方ともなかったことがない

40 【全員】大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている薬物を使用したことがありますか。

1. ある
2. ない

41 【全員】大学事務室の対応に満足していますか。

1. 満足している
 2. どちらかといえば満足である
 3. どちらかといえば不満足である
 4. 不満足である
- (注: 「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号41とその理由を書いてください)

F. 修学状況

42 【全員】所属する教育部の教育理念や教育方針を知っていますか。

1. 良く知っている
2. だいたい知っている
3. あまり知らない
4. 知らない

43 【問42で「1」「2」を選んだ方】上記の教育部の教育理念や教育方針で教育を受けていると思いますか。

1. 思う
2. 思わない

44 【全員】あなたは学位の授与 (修了) に至るまでの教育課程について満足していますか。

1. 満足している
 2. どちらかといえば満足している
 3. どちらかといえば不満足である
 4. 不満足である
- (注: 「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号44とその理由を書いてください)

45 【徳島大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 第一志望だった
2. 第二志望だった
3. 第三志望だった
4. その他

46 【他大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 第一志望だった
2. 第二志望だった
3. 第三志望だった
4. その他

47 【全員】あなたが現在所属する大学院に入学した主な理由は何ですか。(複数回答可)

1. 出身大学だから
2. 希望する研究分野があるから
3. 指導教員に勧められたから
4. 地元の大学だから
5. 就職等将来を考慮して
6. 研究環境が整っているため
7. 希望する就職先がなかったから
8. 継続して修学するため
9. 先輩や友人に勧められて
10. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号47とその内容を書いてください)

- 48 【全員】大学院で勉学することにより、あなたの目指すものは何ですか。
1. 高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人
 2. 創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者
 3. 確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員
 4. 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人
 5. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号48とその内容を書いてください）
- 49 【全員】あなたは、あなたが受講している授業の内容や進め方について満足していますか。
1. 満足している
 2. どちらかといえば満足している
 3. どちらかといえば不満足である
 4. 不満足である
- （注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号49とその理由を書いてください）
- 50 【全員】授業以外の自分で行う研究活動は週何時間ですか。
1. 30分未満
 2. 30分～90分未満
 3. 90分～5時間未満
 4. 5～10時間未満
 5. 10～20時間未満
 6. 20～40時間未満
 7. 40～60時間未満
 8. 60時間以上
- 51 【全員】研究の直接の指導教員は誰ですか。
1. 教授
 2. 准教授
 3. 講師
 4. 助教
 5. その他
- 52 【全員】指導教員から週何時間ぐらい研究指導を受けていますか。
1. 30分未満
 2. 30～90分未満
 3. 90分～5時間未満
 4. 5～10時間未満
 5. 10時間以上
- 53 【全員】あなたは研究指導の内容や進め方について満足していますか。
1. 満足している
 2. どちらかといえば満足している
 3. どちらかといえば不満足である
 4. 不満足である
- （注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号53とその理由を書いてください）
- 54 【全員】あなたは修士（博士）論文の研究テーマに満足していますか。
1. 満足している
 2. どちらかといえば満足している
 3. どちらかといえば不満足である
 4. 不満足である
- （注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号54とその理由を書いてください）
- 55 【全員】指導教員とコミュニケーションがとれていると思いますか。
1. 充分とれている
 2. ある程度とれている
 3. あまりとれていない
 4. まったくとれていない
- 56 【全員】大学院に相応しいレベルでの教育が行われていると思いますか。
1. 充分に行われている
 2. ある程度行われている
 3. あまり行われていない
 4. 全く行われていない
- （注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号56とその理由を書いてください）
- 57 【全員】現在の研究環境についての満足度はどの程度ですか。
1. 満足している
 2. どちらかといえば満足している
 3. どちらかといえば不満足である
 4. 不満足である
- 58 【問57で「3」「4」を選んだ方】その理由はどれですか。（複数回答可）
1. 施設・設備
 2. 研究費用
 3. 研究時間
 4. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号58とその内容を書いてください）
- 59 【全員】あなたは所属している教育部・専攻に全体として満足していますか。
1. 満足している
 2. どちらかといえば満足している
 3. どちらかといえば不満足である
 4. 不満足である
- （注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号59とその理由を書いてください）
- 60 【全員】図書館をどのくらいの頻度で利用しますか。
1. ほぼ毎日利用している
 2. 1週間に2～3回くらい利用する
 3. 1週間に1回程度利用する
 4. 2週間に1回程度利用する
 5. 1か月に1回程度利用する
 6. 半年に1回程度利用する
 7. 1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である
- 61 【全員】電子ジャーナルやデータベース等をどのくらいの頻度で利用しますか。
1. ほぼ毎日利用している
 2. 1週間に2～3回くらい利用する
 3. 1週間に1回程度利用する
 4. 2週間に1回程度利用する
 5. 1か月に1回程度利用する
 6. 半年に1回程度利用する
 7. 1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である

- 62 【全員】図書館のサービス（施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等）に対する満足度はどの程度ですか。
 1. 満足している 2. どちらかといえば満足している 3. どちらかといえば不満足である 4. 不満足である
 (注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号62とその理由を書いてください)
- 63 【全員】現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか。
 1. よく学習している 2. かなりしている 3. あまりしていない 4. 全然していない
- 64 【全員】入学後、海外渡航をしたことがありますか。
 1. ない 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回以上
- 65 【問64で「1」以外を選んだ方】海外渡航の目的はどれでしたか。(複数回答可)
 1. 留学 2. 語学研修 3. 学会参加 4. 学術調査 5. 社会活動 6. 観光
 7. 一時帰国 8. その他
- 66 【日本人の方】国際学会において自身で研究発表をしたことがありますか。
 1. 海外の国際学会で口頭発表したことがある 2. 海外の国際学会でポスター発表したことがある
 3. 国内の国際学会で口頭発表したことがある 4. 国内の国際学会でポスター発表したことがある
 5. 国際学会で研究発表をしたことはない
- 67 【日本人の方】英会話ほどの程度できますか。
 1. 専門用語を使った会話ができる 2. 日常会話ができる 3. なんとか日常会話ができる
 4. あまりできない 5. できない
- 68 【日本人の方】語学力を高めるために何をしていますか。(複数回答可)
 1. 英会話等の学校に通っている 2. ラジオ・テレビの英会話番組で学習している
 3. TOEIC, TOEFL 等を受験する 4. 外国語の新聞、雑誌を購読している
 5. 外国のラジオ、テレビを視聴している 6. つとめて外国人と英語でコミュニケーションする
 7. 何もしていない
- 69 【留学生の方】日本語会話はどの程度できますか。
 1. 専門用語を使った会話ができる 2. 日常会話ができる 3. なんとか日常会話ができる
 4. あまりできない 5. できない
- 70 【留学生の方】徳島大学が開講する日本語コースを受講していますか。
 1. 受講している 2. 以前受講したことがある 3. 今後受講する予定である 4. 受講の予定はない
- 71 【問70で「1」「2」を選んだ方】日本語コースの満足度はどの程度ですか。
 1. 満足している 2. どちらかといえば満足している 3. どちらかといえば不満足である 4. 不満足である
 (注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号71とその理由を書いてください)
- 72 【全員】あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか。(複数回答可)
 1. 統合的な学習課題を体系的に履修するコース 2. 複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導
 3. 企業等での長期間の実践的なインターンシップ 4. 高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会
 5. 産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究 6. 個々の教員の教育・研究指導能力の向上
 7. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号72とその内容を書いてください)
 8. 特にない
- 73 【全員】本学は国際化への対応について積極的であると思いますか。
 1. 非常に積極的であると思う 2. どちらかといえば積極的であると思う
 3. どちらかといえば積極的とは思わない 4. 積極的とは思わない
 (注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号73とその理由を書いてください)

G. 進路選択・就職について

74 【修士・博士前期課程の方】博士（後期）課程への進学を考えていますか。

1. 進学したい（進学予定者を含む）
2. 奨学金等の経済的支援があれば進学したい
3. 就職したい
4. 未定

75 【問74で「1」「2」を選んだ方】それは本学ですか，他大学ですか。

1. 本学
2. 他大学
3. 未定

76 【問74で「3」「4」を選んだ方及び博士後期・博士課程の方】希望職種は何ですか。（複数回答可）

1. 大学・官公庁の教育・研究職
2. 1以外の公務員
3. 技術職
4. 事務職
5. 企業等の研究職
6. 教育職
7. マスコミ関係
8. 専門職（医師等）
9. 既に就職している
10. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号76とその内容を書いてください）

77 【全員】進路選択で重視するものは何ですか。（3個以内で回答）

1. 収入
2. 就職先の将来性・安定性
3. 社会的評価
4. 能力を発揮できること
5. 勤務地の地理的条件
6. 先端技術を駆使しているところ
7. 経営方針
8. 企業規模
9. 転勤・異動の有無
10. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号77とその内容を書いてください）

78 【全員】進路を考える上での情報入手手段は何ですか。（複数回答可）

1. 指導教員
2. 就職担当教員
3. 就職相談員
4. 先輩・知人
5. 直接会社に照会
6. 就職情報誌・新聞・マスコミ
7. 家族等
8. 大学内資料
9. Web・インターネット
10. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号78とその内容を書いてください）

79 【全員】本学のキャリア支援室を利用したことがありますか。

1. 現在も利用している
2. 以前に利用したことがある
3. 利用したことがない

80 【全員】就職に関して大学に要望することはありますか。（複数回答可）

1. 就職情報誌など就職関係書籍の充実
2. 面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実
3. 公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実
4. 企業説明会の内容充実
5. 就職ガイダンスの充実
6. 求人企業の開拓
7. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号80とその内容を書いてください）

〔その他ご意見・ご要望等があれば回答用紙の裏面の自由記入欄に「意見・要望等」と記し
具体的に記載してください〕

ご協力ありがとうございました

2018 STUDENT LIFE SURVEY

November 2018
Tokushima University

The purpose of this survey is to grasp the general life conditions of the students studying in UT. The collected data will be used to improve welfare facilities and to develop more effective educational support system for students.

This is an anonymous survey administered to all students enrolled at Tokushima University as of November 1, 2018. The collected information shall not be used for any other purposes, and your honest responses to the questions will be highly appreciated.

It may take considerable time to answer all the questions, but please understand the purpose and benefits. Your cooperation is greatly appreciated.

[Survey Period: November 1 – 12]

Answer sheets (computer-scored answer sheets) must be submitted no later than November 15 (Thu.) at the School Affairs Section (Educational Affairs Section) of the graduate school you belong to.

NOTES

1. Please answer questions as of November 1, 2018.
2. Optical answer sheet (computer-scored answer sheet) is used for this survey. Please choose one answer for each question and fill out the numbered blanks using HB pencils. Note that some questions allow multiple answers.
3. Some questions are administered to only certain respondents. Answer questions that are applicable to you.
4. For the questions that require written answers, use the back of the answer sheet with the number of the question and the specifics.
You may also write comments or requests regarding school life on the back of the answer sheet (if any).

STUDENT LIFE CONDITIONS SURVEY (GRADUATE SCHOOL)

A. BASIC INFORMATION

1. 【Subject: ALL】

Which Graduate School do you belong to?

1. Graduate School of Integrated Arts and Sciences
2. Graduate School of Medical Sciences
3. Graduate School of Oral Sciences
4. Graduate School of Pharmaceutical Sciences
5. Graduate School of Nutrition and Bioscience
6. Graduate School of Health Sciences
7. Graduate School of Advanced Technology and Science

2. 【Subject: ALL】

What do you major in?

Graduate School of Integrated Arts and Sciences

1. Regional Sciences
2. Clinical Psychology

Graduate School of Medical Sciences

1. Medical Science
2. Medicine
3. Proteomics Medical Sciences

Graduate School of Oral Sciences

1. Oral Science
2. Oral Health Science

Graduate School of Pharmaceutical Sciences

1. Pharmaceutical Chemistry (Pharmaceutical Sciences)
2. Pharmaceutical Life Sciences
3. Pharmacy

Graduate School of Nutrition and Bioscience

1. Human Nutrition

Graduate School of Health Sciences

1. Health Sciences

Graduate School of Advanced Technology and Science

1. Intelligent Structures and Mechanics Systems Engineering
2. Earth and Life Environmental Engineering
3. Life and Materials Systems Engineering
4. Systems Innovation Engineering

3. 【Subject: ALL】

What grade are you in?

1. First year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
2. Second year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
3. First year in the second program of the Doctoral Course
4. Second year in the second program of the Doctoral Course
5. Third year in the second program of the Doctoral Course
6. First year of the Doctoral Course
7. Second year of the Doctoral Course
8. Third year of the Doctoral Course
9. Fourth year of the Doctoral Course

4. 【Subject: ALL】

What is your gender?

1. Male
2. Female

5. 【Subject: ALL】

Where are you originally from?

1. Tokushima Prefecture
2. Shikoku Region (other than Tokushima)
3. Kyushu Region
4. Chugoku Region
5. Kinki Region
6. Chubu Region (Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Yamanashi, Nagano, Gifu, Shizuoka, Aichi)
7. Kanto Region (Ibaraki, Tochigi, Gunma, Saitama, Chiba, Tokyo, Kanagawa)
8. Tohoku Region
9. Hokkaido
10. Other than Japan (Write your country on the back of your answer sheet)

6. 【Subject: ALL】

What is your academic history prior to the enrollment in the current graduate school?

1. Tokushima University
2. University in Japan other than Tokushima University
3. Advanced Course of a Technical College (Koutou-senmon Gakkou) in Japan
4. University abroad
5. Master's Course/first program of Doctoral Course of Tokushima University
6. Graduate School in Japan other than Tokushima University
7. Graduate School abroad

7. 【Subject: ALL】

Are you a working student or a foreign student?

1. Student working outside of the campus
2. Foreign student
3. Neither

B. FAMILY, LIVING CONDITION, COMMUTING

8. 【Subject: ALL】

How much is the annual income (including tax) of your family?

1. Less than ¥2,500,000
2. ¥2,500,000 – 4,999,999
3. ¥5,000,000 – 7,499,999
4. ¥7,500,000 – 9,999,999
5. ¥10,000,000 – 14,999,999
6. More than ¥15,000,000

9. 【Subject: ALL】

What is your housing condition?

1. Family home (living with family)
2. Apartment (Not living with family)
3. International House of Tokushima University
4. Boarding house
5. Home of a relative/acquaintance
6. Others

10. 【Subject: All excluding International House/Nichia Kaikan International House residents】

How much is the monthly rent for your housing (excluding electricity, gas, or other utilities)?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000 – 39,999
3. ¥40,000 – 49,999
4. ¥50,000 – 59,999
5. ¥60,000 – 69,999
6. ¥70,000 – 79,999
7. ¥80,000 – 89,999
8. ¥90,000 – 99,999
9. More than ¥100,000

11. 【Subject: ALL】

Do you have a spouse or child(ren) living with you?

1. No spouse or child
2. No spouse, but have child(ren)
3. Have a spouse, but no child
4. Have a spouse and child(ren)

12. 【Subject: Those who chose (2) or (4) for Q11】

Who takes care of your child(ren) while you are attending a class or doing research? (Multiple answers allowed)

1. Spouse
2. Your or spouse's parent(s)/relative(s)
3. Daycare facility
4. School (elementary school, etc.)
5. Others

(Note: If you have any requests for the University, use the back of the answer sheet to write the number of this question (12) and the specifics.)

13. 【Subject: ALL】

How do you usually commute to the university?

1. By walking
2. By bicycle
3. By motorcycle (motor scooter, two-wheeled motor vehicle)
4. By car
5. By bus/JR

14. 【Subject: ALL】

How long does it take to commute to the university?

1. Less than 15 minutes
2. 15 – less than 30 minutes
3. 30 minutes – less than 1 hour
4. 1 – less than 2 hours
5. More than 2 hours

C. INCOME / EXPENDITURE

15. 【Subject: ALL】

How much is your average monthly income (excluding financial assistance from parents)?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000 – 49,999
3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999
5. ¥100,000 – 149,999
6. ¥150,000 – 199,999
7. ¥200,000 – 249,999
8. ¥250,000 – 299,999
9. More than ¥300,000

16. 【Subject: ALL】

How much is the average amount of financial assistance from your parents?

1. None
2. Less than ¥30,000
3. ¥30,000 – 49,999
4. ¥50,000 – 69,999
5. ¥70,000 – 99,999
6. ¥100,000 – 149,999
7. ¥150,000 – 199,999
8. More than ¥200,000

17. 【Subject: ALL】

How much is the average monthly expenditure (excluding tuition)?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000 – 49,999
3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999
5. ¥100,000 – 149,999
6. ¥150,000 – 199,999
7. ¥200,000 – 249,999
8. ¥250,000 – 299,999
9. More than ¥300,000

18. 【Subject: ALL】

Do you wish to receive a scholarship?

1. Yes. I am currently receiving a scholarship and wish to continue it.
2. Yes. I am NOT currently receiving any scholarship but wish to receive one.
3. No. I am NOT currently receiving any scholarship and do not wish to receive any.

19. 【Subject: ALL】

Do you have a part-time job?

1. Yes
2. No

20. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

① How much is the average weekly work hours (including commuting time)?

1. Less than 5 hours
2. 5 – less than 10 hours
3. 10 – less than 15 hours
4. 15 – less than 20 hours
5. 20 – less than 25 hours
6. More than 25 hours

21. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

② What is the purpose of having a part-time job?

1. For living expenses or tuitions
2. To attend academic conferences
3. For leisure/travel
4. For daily leisure (ex. favorite food or beverages, etc.)
5. To purchase expensive products (PC, motorcycle, car, etc.)
6. To gain social experiences
7. Others

22. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

③ How much is the average monthly income from your part-time job?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000 – 49,999
3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999
5. ¥100,000 – 149,999
6. More than ¥150,000

23. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

④ Have you experienced any difficulties with your part-time job?

1. No
2. Unpaid salary
3. Paid less than agreed in contract
4. Trouble with customer(s)
5. Termination of employment
6. Disagreement with employer
7. Accident/injury
8. Others (use the back of the answer sheet to write the number of this question (23) and the specifics)

D. HEALTH CONDITIONS

24. 【Subject: ALL】

How long do you sleep per day (excluding weekends and holidays)?

1. Less than 4 hours
2. 4 – less than 6 hours
3. 6 – less than 8 hours
4. 8 – less than 10 hours
5. More than 10 hours

25. 【Subject: ALL】

Are there any physical conditions you are concerned about?

1. Yes
2. Sometimes
3. Constantly

26. 【Subject: Those who chose (3) for Q25】

What is/are the symptom(s)? (Multiple answers allowed)

1. Headache
2. Stomachache/ nausea
3. Dizziness/ light headedness
4. Palpitation/irregular heartbeat
5. Diarrhea/ constipation
6. Coughs/sputum
7. Menstrual cramps/ menstrual irregularities
8. Atopy/allergy
9. Insomnia
10. Others

27. 【Subject: ALL】

Do you have any other concerns or worries? If any, what is/are the main concern(s)? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Financial concerns
3. Research and Study
4. Friends/relationships
5. Poor physical condition
6. Family relation
7. Own personality
8. Future career
9. Motivation or purpose in life
10. Others

28. 【Subject: ALL】

Who do you usually consult concerns or worries? (Multiple answers allowed)

1. Friend(s)
2. Family
3. Teacher/professor
4. Student and Staff Counseling Division
5. Health Service Division
6. Section of Academic Affairs in your Department/Faculty
7. Those other than 1 – 6
8. Nobody

29. 【Subject: ALL】

What is your current emotional state?

1. Fulfilled
2. Normal
3. Irritated
4. Anxious for no apparent reason
5. Easily depressed
6. Low energy
7. Others

30. **【Subject: ALL】**

Do you smoke?

1. Never
2. Sometimes
3. Everyday
4. Smoked in the past but not anymore

31. **【Subject: ALL】**

Do you drink alcoholic beverages?

1. No
2. Sometimes
3. 1–2 times a week
4. 3–4 times a week
5. More than 5 times a week

32. **【Subject: ALL】**

Have you ever visited the Health Service Division ? (Multiple answers allowed)

1. Yes, I have visited there for health check-ups
2. Yes, I have visited there for reasons other than health check-ups (examination, consultation, healthcare equipment, issuance of certificate, etc.)
3. No, I have never visited there, since I have never heard of the facility.
4. No, I have never been there, though I have heard of the facility.

E. ISSUES CONCERNING YOUR STUDENT LIFE

33. **【Subject: ALL】**

Have you ever been a victim of any nuisance since the enrollment in the current graduate school?
(Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes, I have been a victim of an illegal business practice.
3. Yes, I have received an obscene phone call.
4. Yes, I have been a stalking victim.
5. Yes, I have experiences sexual harassment on campus.
6. Yes, I have experienced academic harassment on campus.
7. Yes, I have been forced to drink alcohol.
8. Yes, I have been defamed on the internet.
9. Cult-like group recruitment
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (33) and the specifics.)

SEXUAL HARASSMENT:

It involves physical, verbal, or nonverbal behavior of a sexual nature in which a person may suffer certain disadvantage in academic/research conditions or emotional distress due to his or her response to the harassment.

ACADEMIC HARASSMENT:

It refers to the continuous use of power by a teacher/professor to harass a student in academic and research situations, including disturbance to one's study or research activities.

34. **【Subject: Those who chose (5) for Q33】**

Have you consulted someone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

1. Friend
2. Family
3. Teacher/professor
4. Student and Staff Counseling Division
5. School Affairs (Educational Affairs) Section
6. Those other than 1–5
7. Nobody

35. **【Subject: Those who chose (6) for Q33】**

Have you consulted anyone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

1. Friend
2. Family
3. Teacher/professor
4. Student and Staff Counseling Division
5. School Affairs (Educational Affairs) Section
6. Those other than 1–5
7. Nobody

36. 【Subject: ALL】

Have you ever visited Student and Staff Counseling Division?

1. Yes
2. No. I have never been there although I have heard of the facility.
3. No. I have never heard of such facility.

37. 【Subject: Those who chose (1) for Q36】

How was the service at the Student and Staff Counseling Division?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfying
4. Unsatisfying

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (37) and the specific reasons.)

38. 【Subject: ALL】

Have you ever been a victim of a crime, such as theft, burglary, assault, or sexual molestation since the enrollment in the current graduate school? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes. I have been a victim of theft.
3. Yes. I have been a victim of burglary.
4. Yes. I have been a victim of assault.
5. Yes. I have been a victim of sexual molestation.
6. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (38) and the specifics.)

39. 【Subject: ALL】

Have you ever been a victim or a cause of a road accident?

1. I have been both a victim and a cause.
2. I have been a victim.
3. I have been a cause.
4. I have never been either a victim or a cause.

40. 【Subject: ALL】

Have you ever used any illegal drug(s) such as marijuana or methamphetamine?

1. Yes
2. No

41. 【Subject: ALL】

How would you rate the service of the administration office of Tokushima University?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (41) and the specific reasons.)

F. EDUCATION ENVIRONMENT

42. 【Subject: ALL】

Are you familiar with the educational philosophies or policies of your graduate school?

1. Very familiar
2. Moderately familiar
3. Slightly unfamiliar
4. Unfamiliar

43. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q42】

Do you think the education you are receiving reflects the philosophies or policies of your graduate school?

1. Yes
2. No

44. 【Subject: ALL】

How would you rate the curriculums of your graduate school?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactor
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (44) and the specific reasons.)

45. **【Subject: Graduates of Tokushima University】**

Was your current graduate school of Tokushima University the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.
2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.
4. Others

46. **【Subject: Graduates of universities other than Tokushima University】**

Was your current graduate school of Tokushima University the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.
2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.
4. Others

47. **【Subject: ALL】**

What is (are) the reason(s) you chose the graduate school you are currently enrolled in? (Multiple answers allowed)

Because:

1. I am a graduate of Tokushima University.
2. the field that meets my interests is available.
3. it was recommended by the previous professor.
4. it is in my hometown.
5. the field is open to relatively wide range of career opportunities.
6. it has a well-developed research environment.
7. there were no jobs available that suited my preferences at that time.
8. I wanted to continue my education.
9. it was recommended by an experienced person or friend.
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (47) and the specifics.)

48. **【Subject: ALL】**

What do you hope to achieve through the education of the graduate school?

1. To be a highly-specialized professional with advanced knowledge and skills
2. To be a researcher with creativity and ability for research and development
3. To be a college professor with strong capability for research and education
4. To work as a sophisticated, intelligent member of society who can lead the knowledge-based society
5. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (48) and the specifics.)

49. **【Subject: ALL】**

How would you rate the contents and structures of the classes you are attending?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (49) and the specific reasons.)

50. **【Subject: ALL】**

What is the average amount of hours spent for self research per week?

1. Less than 30 minutes
2. 30 – less than 90 minutes
3. 90 minutes – less than 5 hours
4. 5 – less than 10 hours
5. 10 – less than 20 hours
6. 20 – less than 40 hours
7. 40 – less than 60 hours
8. More than 60 hours

51. **【Subject: ALL】**

Who provides guidance to you throughout your research?

1. Professor
2. Associate Professor
3. Lecturer
4. Assistant Professor
5. Others

52. **【Subject: ALL】**

How long do you receive guidance from the person you answered in Question 51?

1. Less than 30 minutes per week
2. 30 – less than 90 minutes per week
3. 90 minutes – less than 5 hours per week
4. 5 – less than 10 hours per week
5. More than 10 hours per week

53. 【Subject: ALL】

How would you rate the contents and structures of the research guidance?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (53) and the specific reasons.)

54. 【Subject: ALL】

Are you satisfied with the research thesis for your Master's (Doctoral) Degree?

1. Satisfied
2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (54) and the specific reasons.)

55. 【Subject: ALL】

How is the communication between you and your instructor?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

56. 【Subject: ALL】

Do you think the level of the guidance you are receiving is appropriate for graduate school?

1. Highly appropriate
2. Moderately appropriate
3. Minimally appropriate
4. Not appropriate

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (56) and the specific reasons.)

57. 【Subject: ALL】

How would you rate your satisfaction with the research environment?

1. Satisfied
2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

58. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q57】

What is (are) the reason(s)? (Multiple answers allowed)

1. Facility/equipment
2. Research funding
3. Research time

4. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (58) and the specific reasons.)

59. 【Subject: ALL】

How would you rate your overall satisfaction with the graduate school you belong to?

1. Satisfied
2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (59) and the specific reasons.)

60. 【Subject: ALL】

How often do you visit the library?

1. Almost everyday
2. 2-3 times a week
3. Once a week
4. Once in two weeks
5. Once a month
6. Once in six month
7. Once a year or less

61. 【Subject: ALL】

How often do you use electronic journal and data base ?

1. Almost everyday
2. 2-3 times a week
3. Once a week
4. Once in two weeks
5. Once a month
6. Once in six month
7. Once a year or less

62. 【Subject: ALL】

How would you rate your satisfaction with the library services(facilities,books,magazines,and electronic journal)?

1. Satisfied
2. Relatively Satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (62) and the specific reasons.)

63. 【Subject: ALL】

How would you rate your efforts for your study/research as a graduate school student?

1. Very high
2. High
3. Low
4. No effort

64. 【Subject: ALL】

Have you ever been abroad (other than Japan) since the enrollment in the current graduate school?

1. No
2. Once
3. Twice
4. Three times
5. More than four times

65. 【Those who chose (2), (3), (4), or (5) for Q64】

What was the purpose of the travel abroad? (Multiple answers allowed)

1. To study
2. To learn language
3. To attend academic conference
4. For academic research
5. For social activities
6. Sightseeing
7. Returning home temporarily
8. Others

66. 【Subject: JAPANESE students】

Have you ever made a presentation at an international academic conference?

1. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held abroad.
2. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held abroad.
3. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held in Japan.
4. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held in Japan.
5. No, I have never made a presentation at an international academic conference.

67. 【Subject: JAPANESE students】

How is your English conversational skill?

1. I can communicate in English using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in English.
3. I can somewhat communicate in English.
4. I can scarcely communicate in English.
5. I cannot communicate in English at all.

68. 【Subject: JAPANESE students】

Are you making any efforts to improve your language skills? (Multiple answers allowed)

1. Attending a language school.
2. Learning through language programs on radio/TV.
3. Taking language tests regularly (TOEIC, TOEFL, etc.)
4. Subscribing newspapers/magazines written in foreign language.
5. Watching/listening to TV/radio programs in foreign language.
6. Trying to communicate with foreigners using English.
7. Not making any particular efforts.

69. 【Subject: FOREIGN students】

How is your Japanese conversational skill?

1. I can communicate in Japanese using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in Japanese.
3. I can somewhat communicate in Japanese.
4. I can scarcely communicate in Japanese.
5. I cannot communicate in Japanese at all.

70. 【Subject: FOREIGN students】

Are you taking the Japanese Courses provided by Tokushima University?

1. Yes, I am currently taking the Japanese course.
2. Not currently, but I used to take the Japanese course.
3. Not currently, but I am planning to take the Japanese course.
4. No, and I am not planning to take the Japanese course in the future.

71. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q70】

How would you rate your satisfaction with the Japanese Course of Tokushima University?

1. Satisfied
2. Relatively Satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (71) and the specific reasons.)

72. 【Subject: ALL】

For the sake of your future, what do you expect from the education of Tokushima University?

1. Courses with comprehensive and systematic educational themes.
2. Education and research guidance from more than one teachers/professors to gain different perspectives.
3. Practical and long-term internship programs at companies and organizations.
4. Opportunities for education and research at other high-level graduate schools.
5. Proactive cooperation and joint researches with industries or communities.
6. Improvement in the educational/instructional capabilities of each teacher/instructor.
7. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (72) and the specifics.)
8. No particular expectations

73. 【Subject: ALL】

How would you rate the efforts of Tokushima University in responding to the trend of internationalization?

1. Very high
2. Relatively high
3. Relatively low
4. Very low

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (73) and the specific reasons.)

G. FUTURE CAREER

74. 【Those who are currently in the Master's Course/first program of the Doctoral Course】

Are you planning to advance to the Doctoral Course (second program)?

1. Yes (If you are already accepted, choose this answer.)
2. Yes, only if I could receive a financial support, such as a scholarship.
3. I would like to seek an employment.
4. Not decided yet.

75. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q74】

Where are you planning to receive the education?

1. Tokushima University
2. Other university
3. Not decided yet.

76. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q74 / Those who are currently enrolled in the Doctoral Course/second program of the Doctoral Course】

What kind of career do you hope to pursue?

1. Educator/researcher at a university, government or other public offices
2. Government employee other than answer (1)
3. Technical career
4. Administrative career
5. Corporate researcher
6. Educator
7. Media
8. Professional career (medical practitioner, etc.)
9. Currently employed
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (76) and the specifics.)

77. 【Subject: ALL】

What do you place the most value on when choosing a career? (Choose up to three items.)

1. Income
2. Potential and stability of the employer
3. Social recognition/evaluation
4. That I can demonstrate my full potential and skills
5. Geographic condition
6. Whether or not the state-of-the-art technologies are used
7. Managerial policies
8. Business size
9. Possibility of transfer or relocation
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (77) and the specifics.)

78. 【Subject: ALL】

What is (are) the method(s) you use to access information on future career? (Multiple answers allowed)

1. Teacher/instructor
2. Occupational assistant teacher/instructor
3. Occupational counselor
4. Older students/friends
5. Direct inquiry to the companies/schools
6. Job information magazine/newspapers/media
7. Family
8. Information available at the university
9. Web/Internet
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (78) and the specifics.)

79. 【Subject: ALL】

Have you ever used Career Support Room of Tokushima University ?

1. Yes, I am currently using the facility.
2. Yes, I have used the facility in the past.
3. No

80. 【Subject: ALL】

Do you have any requests for Tokushima University regarding future career? (Multiple answers allowed)

1. Enhancement of books/documents, such as career information magazines
2. Enhancement of practical support for interview practice or resume development
3. Enhancement of support for examination preparation, i.e., workshops for civil service employee exam, teacher certification exam, etc.
4. Improvement of the contents of corporate orientation programs
5. Enhancement of the employment guidance
6. Identifying companies with job openings
7. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (80) and the specifics.)

〔 If you have any other comment or request, use the back of the answer sheet to write “COMMENTS/
REQUESTS” and the specifics. 〕

Thank you for your cooperation.

第1章 本調査の対象者について

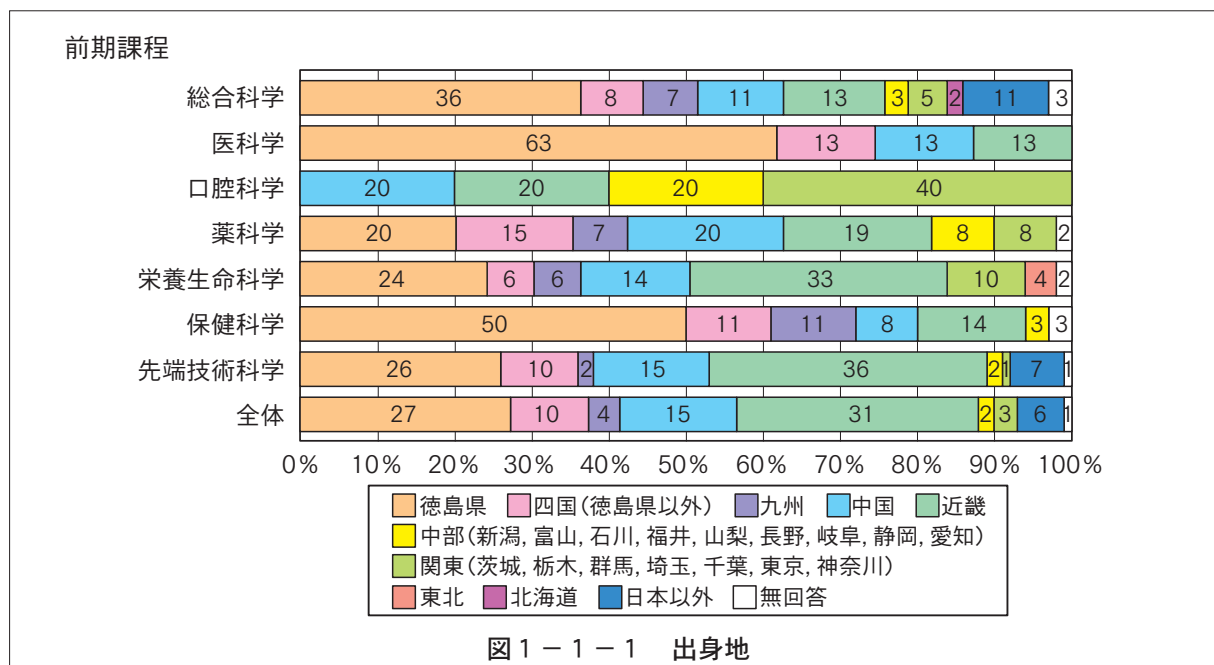
本調査は、本学大学院の総合科学，医科学，口腔科学，薬科学，栄養生命科学，保健科学，先端技術科学の7教育部の前期課程に在籍する995名，および後期課程に在籍する487名の計1,482名を対象とした。

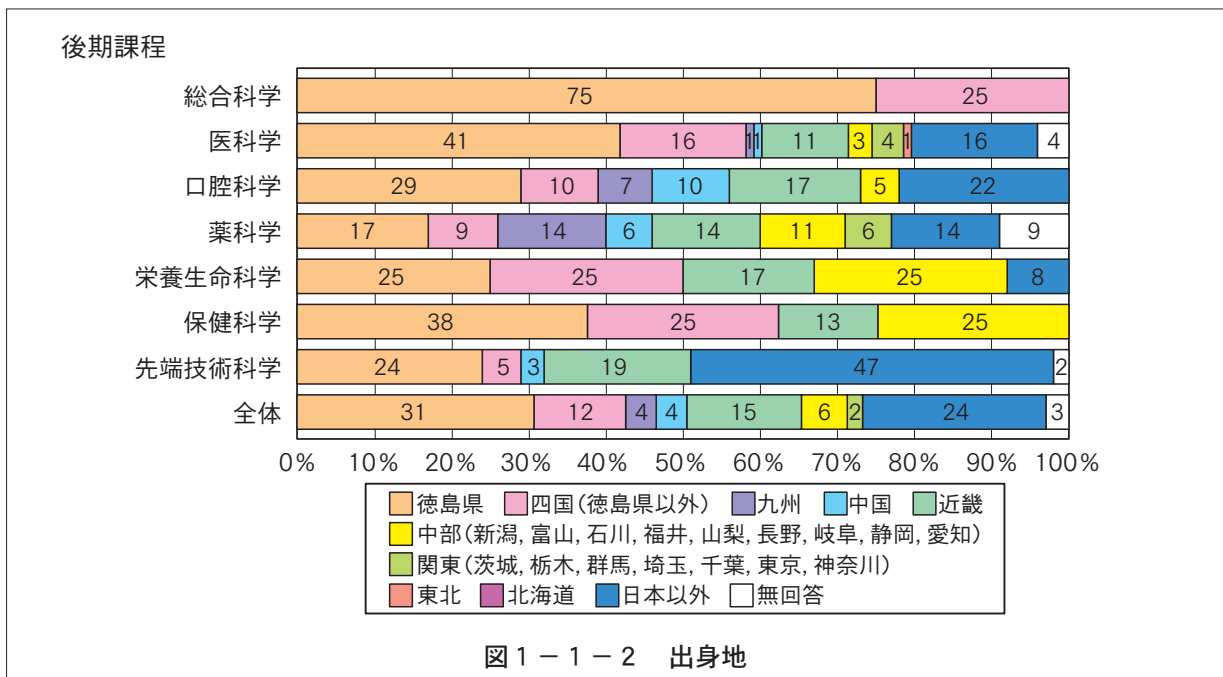
回答数は，前期課程で748，後期課程で235，計983であった。回収率は前期課程が75%，後期課程が48%，全体では66%であった。教育部ごとの回収率をみると，前期課程で33%から100%，後期課程で35%から97%で，前期課程での口腔科学の回収率の低さが目についたがおおむね堅調で，一方の後期課程では総合科学・医科学・栄養生命科学・保健科学の回収率が低かった。また，学年ごとの回収率では後期課程3年・4年の回収率の低さが依然目立っており，調査結果の解釈の際には注意を要する。なお，男女間での回収率にはそれほど大きな差は認められなかった。

1-1 出身地 (図1-1-1, 図1-1-2)

最初出身地をみる。前期課程では近畿(31%)，徳島県(27%)，中国(15%)と，近畿出身者が県内出身者を上回った。また，それに続いたのが徳島県を除く四国の出身者ではなく中国であり，いずれも例年にない傾向といえるだろう。徳島県出身者の割合についてさらにみておくと，全体では第6回調査からやや減少したが，教育部別では，減少傾向が続いていた口腔科学が今回は0%となったことが目を引く。

後期課程においても前期課程と同様に近県出身者の割合は高いが，特に徳島県出身者の割合が高い。

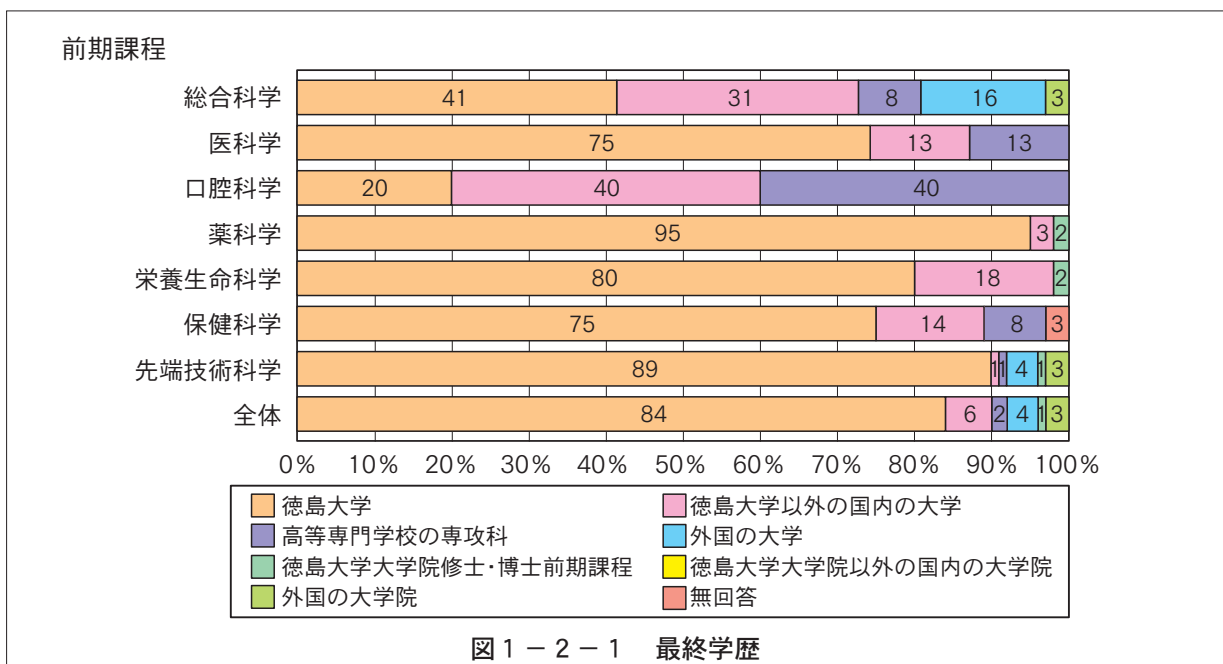


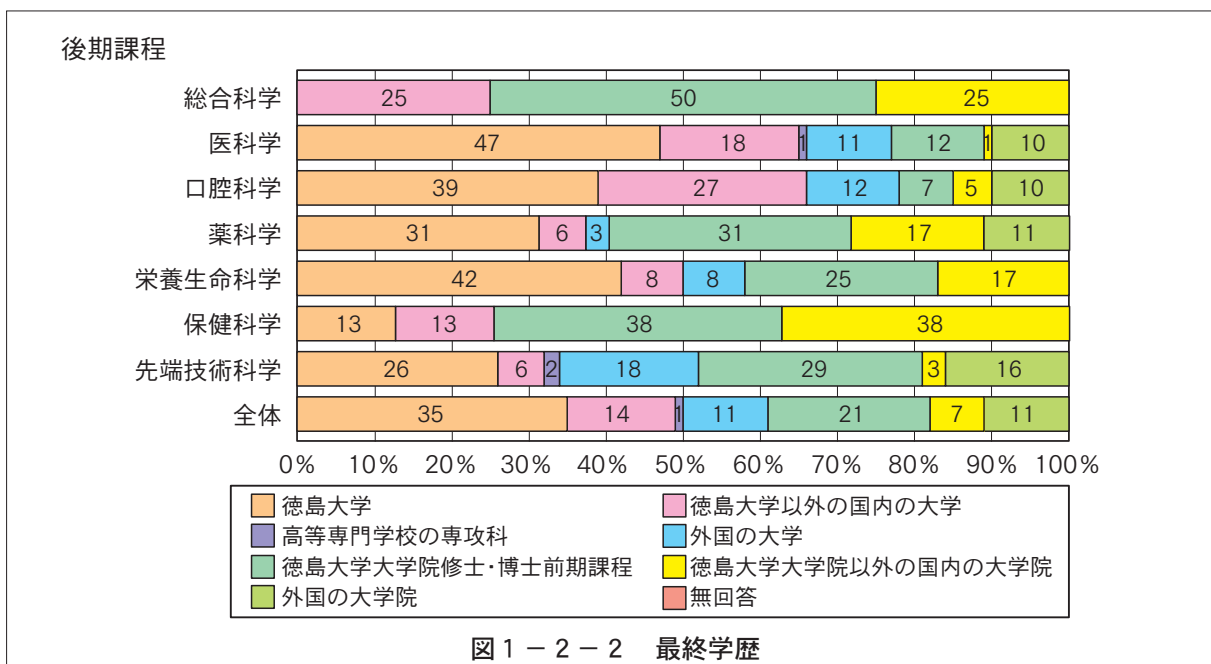


1-2 最終学歴 (図 1-2-1, 図 1-2-2)

次に出身大学（大学院）についてみる。前期課程では、全体で84%が本学出身者であった。教育部別では、総合科学・口腔科学が低く、特に口腔科学は第6回調査の17%から20%に微増となったが、依然低い状況である。教育部により、大多数が本学出身者であったところと、半数程度ないしはそれ以下のところに分かれた。一方、外国の大学（大学院）の出身者は7%であった。

後期課程における徳島大学および徳島大学大学院修士・博士前期課程出身者は、第4回調査以来、63%、50%、51%、56%と推移している。なお、外国の大学（大学院）の出身者は22%であった。

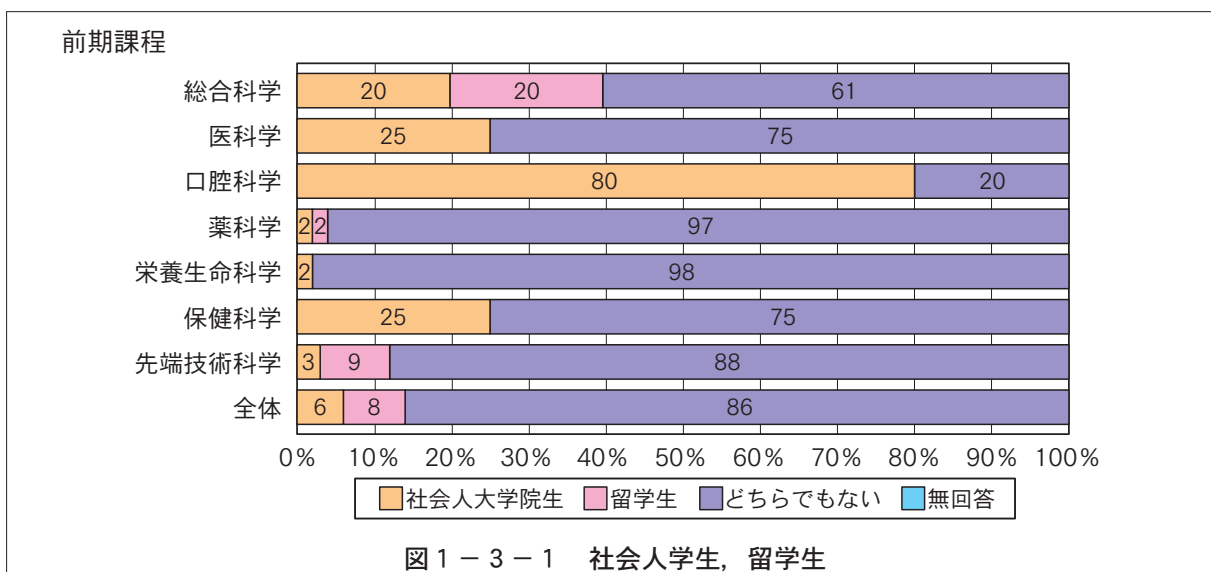




1 - 3 社会人大学院生と留学生 (図 1 - 3 - 1, 図 1 - 3 - 2)

社会人からみる。前期課程においては、全体の6%は第6回調査とほぼ変化ないが、やはり教育部ごとの違いが大きい。傾向としては、80%と引き続き高い割合を示している口腔科学、20~25%の総合科学・医科学・保健科学、そして数%にとどまる薬科学・栄養生命科学・先端技術科学の三つに大きく分かれている。第6回調査では67%と増加に転じた医科学は25%に減少した。後期課程においては、全体で37%であり、例年通り前期課程に比べてかなりの高率を示している。なかでも保健科学と総合科学、医学科の高率が目立つ。

留学生の割合は、前期課程で9%、後期課程で20%である。留学生のアンケートの回収率は、前期課程は60%、後期課程では64%であった。



後期課程

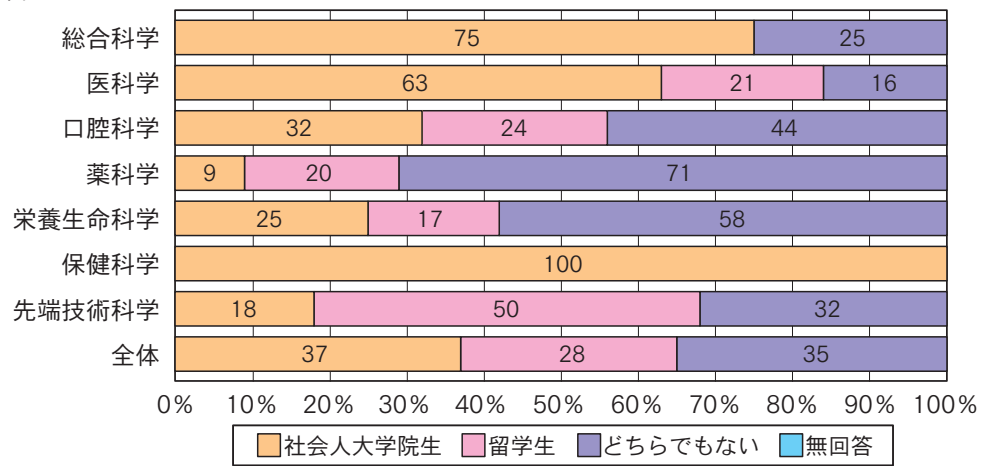


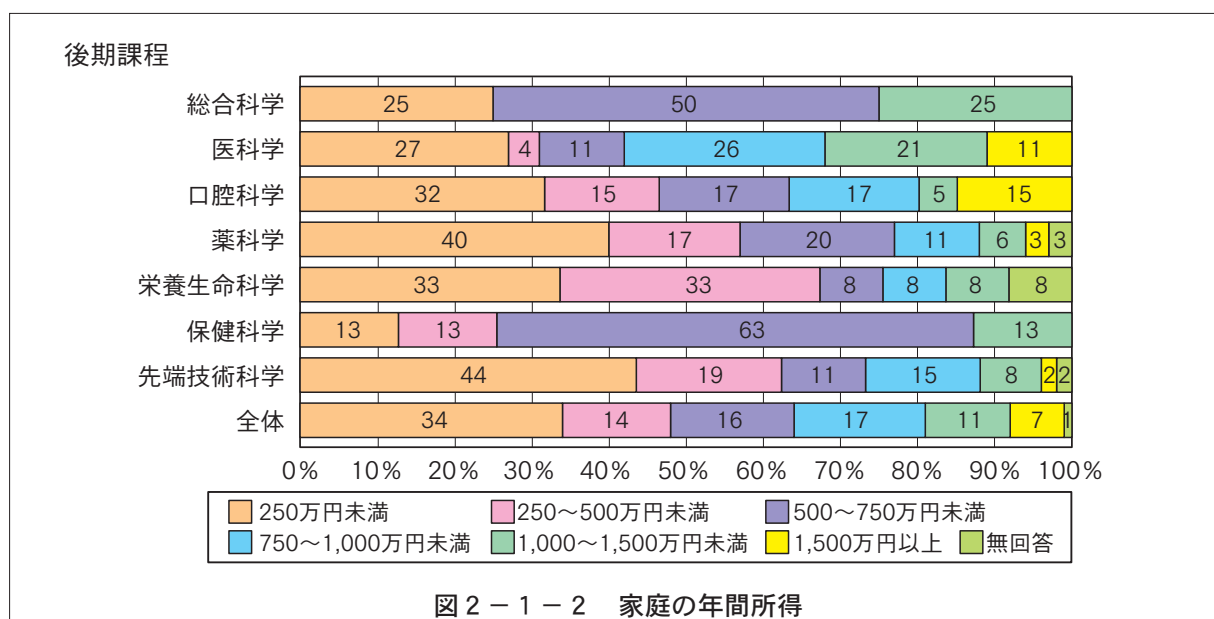
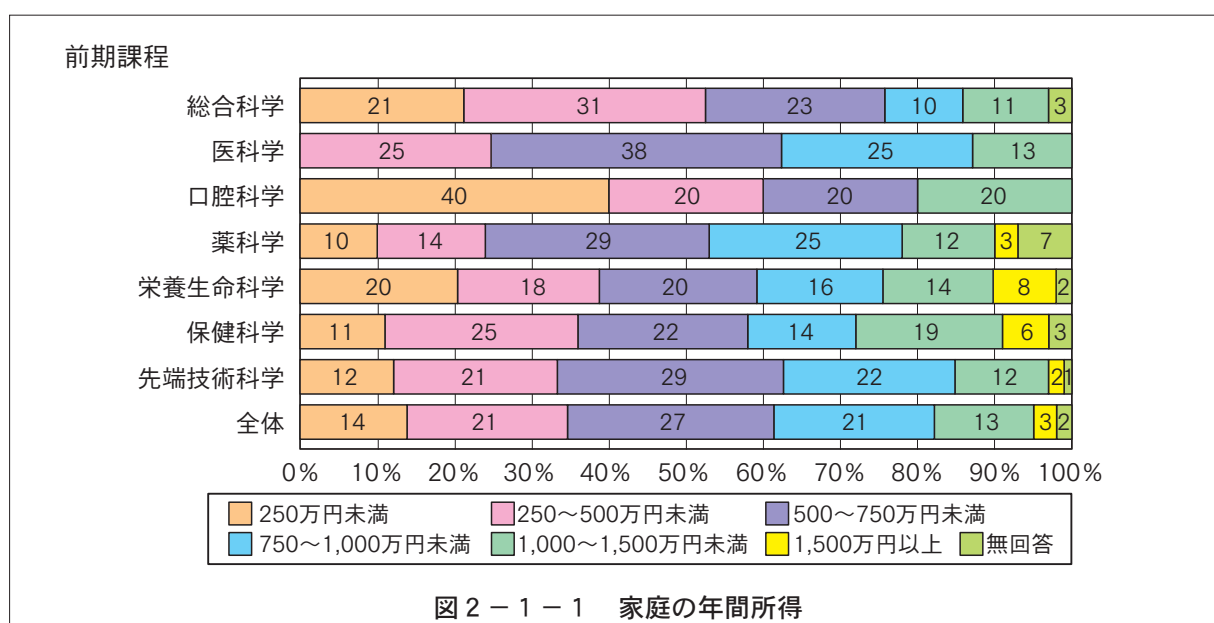
図 1 - 3 - 2 社会人学生, 留学生

第2章 家族・住居・通学について

2-1 家庭の年間所得 (図2-1-1, 図2-1-2)

大学院生の年間所得については、全体としては前期及び後期課程ともに平成28年度の第6回調査に比べて、その割合に大きな変化はみられなかった。しかし、前期課程と後期課程において、教育部によっては変化がみられた。

前期課程のうち、総合科学では250万円未満の割合が21%に増加、750～1,000万円未満が10%に減少、1,000～1,500万円が11%に増加した。医科学では、250万円未満が見られず、250～750万円の割合が63%に増加し、750～1,000万円未満が25%に減少した。口腔科学では、前回では見られなかった250万円未満が40%を占め、250～500万円未満が20%に減少した。薬科学では、250万円未満が10%に増加し、500～750万円未満が29%に増加した。栄養生命科学では、250万円未満が20%に増加し、500～750万円未満が16%に減少した。保健科学では、250万円未満が11%に増加し、500～750万円未満が22%に減少した。先端技術科学では、250万円未満が12%に増加し、500～750万円未満が29%に減少した。全体では、250万円未満が14%に増加し、500～750万円未満が27%に減少した。



前期課程全体では、年収500～750万円未満の割合が27%と最も高く、次いで250～500万円未満と750～1,000万円未満がともに21%，250万円未満が14%，1,000～1,500万円が13%であった。この割合は、前期課程の大学院生数の70%を占める先端技術科学の割合とほぼ同じであった。

後期課程のうち、総合科学では250万円未満の割合が25%に減少，1,000～1,500万円が25%に増加した。医科学では、500～750万円が11%に減少，750～1,000万円が26%に増加，1,500万円以上が11%に増加した。栄養生命科学では、250～500万円が33%に増加した。保健科学では、250万円未満と250～500万円がともに13%に増加，1,000～1,500万円も13%に増加した。

後期課程全体では、年収250万円未満の割合が34%と最も高く、次いで750～1,000万円が17%，500～750万円が16%，250～500万円が14%，1,000～1,500万円が11%であった。

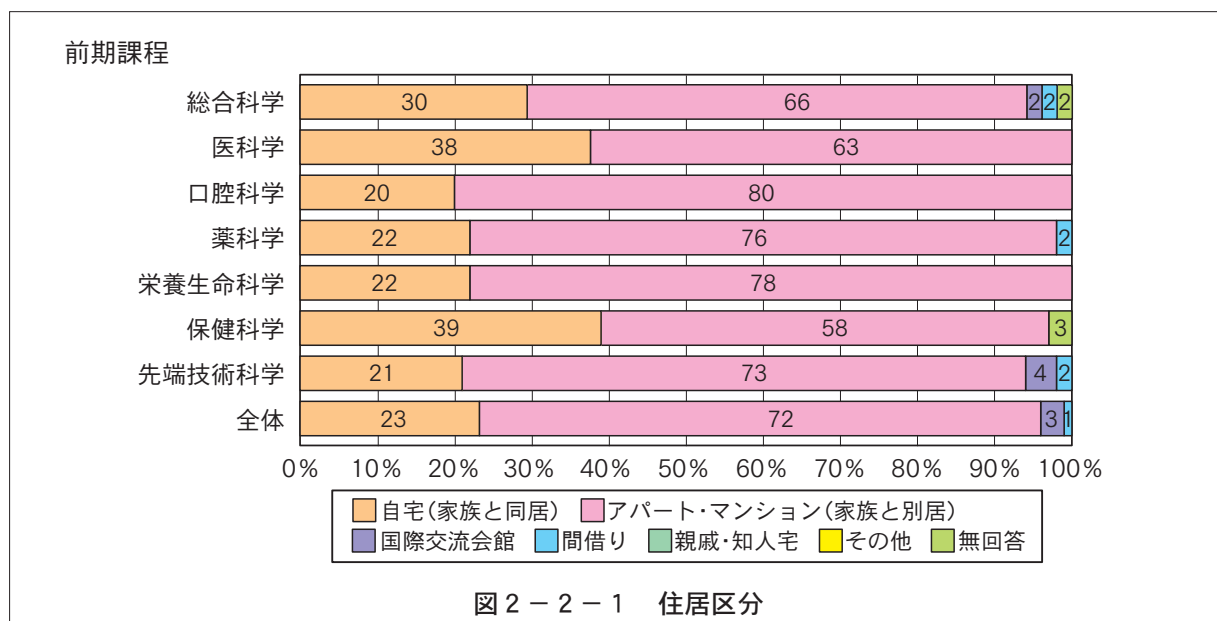
前期及び後期課程ともに、大部分の教育部で年収500万円以上の割合は50%以上であったが、前期課程の口腔科学で40%，後期課程の薬科学で43%，栄養生命科学で34%，先端技術科学では37%であった。

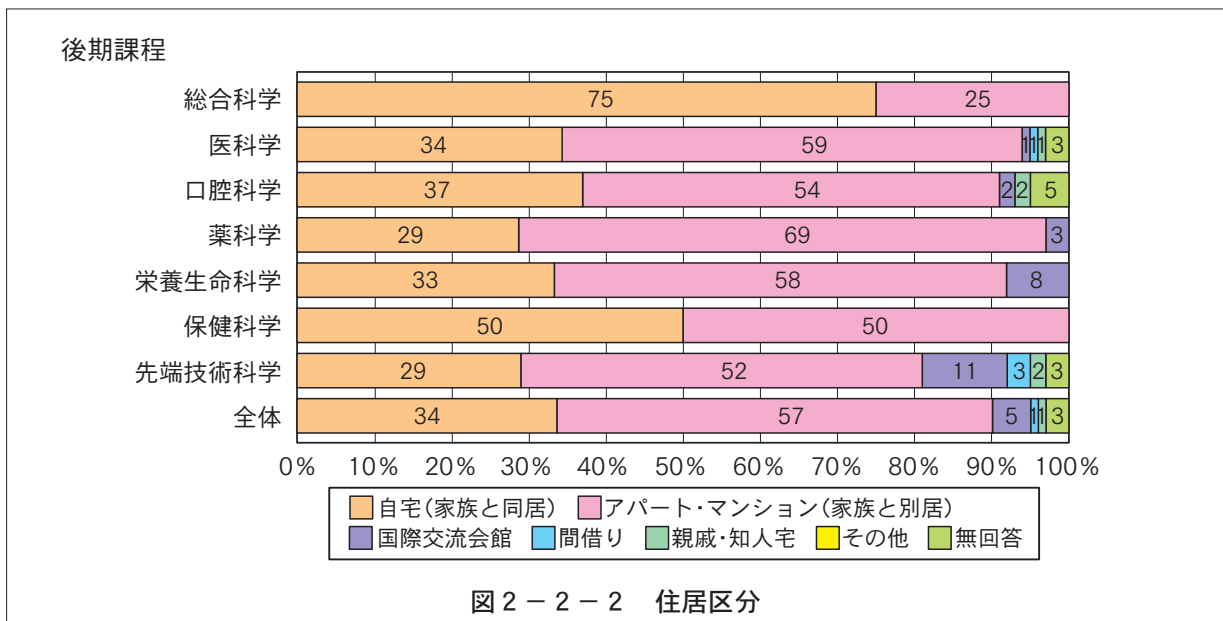
留学生の全体では、年収250万円以下の割合が前期課程では57%，後期課程では77%で、大きな変化はなかった。留学生数の割合は前期課程では9%であるが、後期課程では20%であるため、後期課程の大学院生の年間所得については、留学生の低所得の割合が影響していると考えられる。

2-2 住居区分 (図2-2-1, 図2-2-2)

大学院生の住居区分については、全体としては前期及び後期課程ともに平成28年度の第6回調査とほぼ同様な傾向がみられた。大学院生のうち、約20～30%は前期及び後期課程ともに自宅から通学しており、約60～70%はアパート・マンションに居住していた。後期課程において、総合科学では75%、保健科学では50%の大学院生が、自宅から通学していた。

留学生については、前期課程では5%が自宅（家族と同居）、52%がアパート・マンション（家族と別居）、35%が国際交流会館に居住していたが、後期課程では15%が自宅（家族と同居）、58%がアパート・マンション（家族と別居）、15%が国際交流会館に居住しており、前回の調査とほぼ同様な傾向であった。





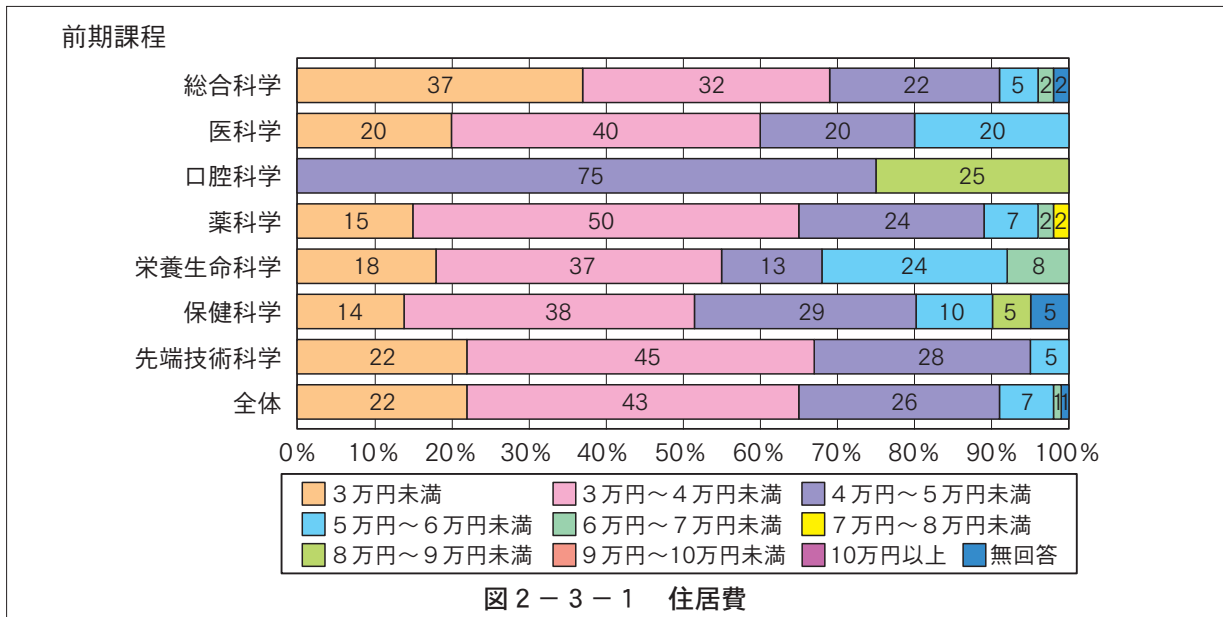
2-3 住居費 (図 2-3-1, 図 2-3-2)

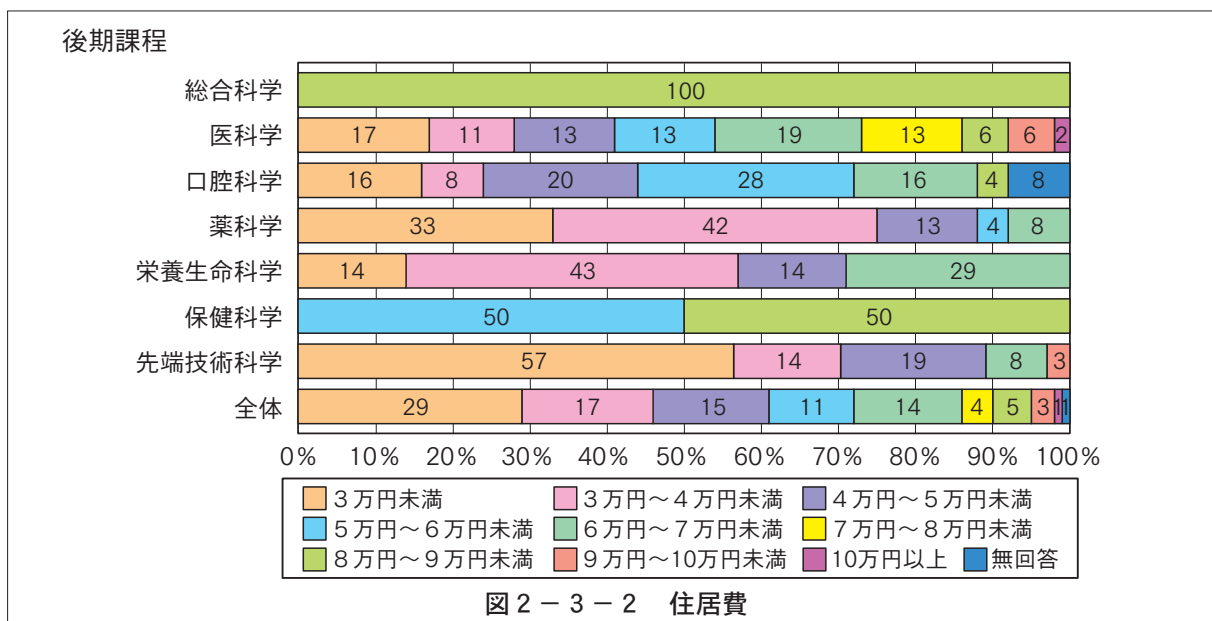
大学院生の住居費については、全体としては前期及び後期課程ともに平成 28 年度の第 6 回調査とほぼ同様な傾向がみられた。

前期課程では、3～4 万円未満が 43%，4～5 万円未満が 26%，3 万円未満が 22%であった。これは前期課程の大学院生数の 71%を占める先端技術科学の割合とほぼ同じである。3 万円未満の住居費の割合は、口腔科学ではみられず、4～5 万円未満の割合が口腔科学で 75%と高く、5～8 万円未満の割合は医科学、口腔科学、栄養生命科学で他の教育部と比べて高かった。

後期課程では、3 万円未満が 29%，3～4 万円未満が 17%，4～5 万円未満が 15%，6～7 万円未満が 14%，5～6 万円未満が 11%であった。後期課程では、総合科学の全員が 8～9 万円未満であり、3 万円未満の住居費の割合が先端技術科学で 57%と他の教育部と比べて高かった。

留学生については、全体として居住費は、3 万円未満の割合が前期課程では 57%，後期課程では 64%であり、3～4 万円未満の割合が前期課程で 31%，後期課程で 24%であった。留学生のほぼ半数は、3 万





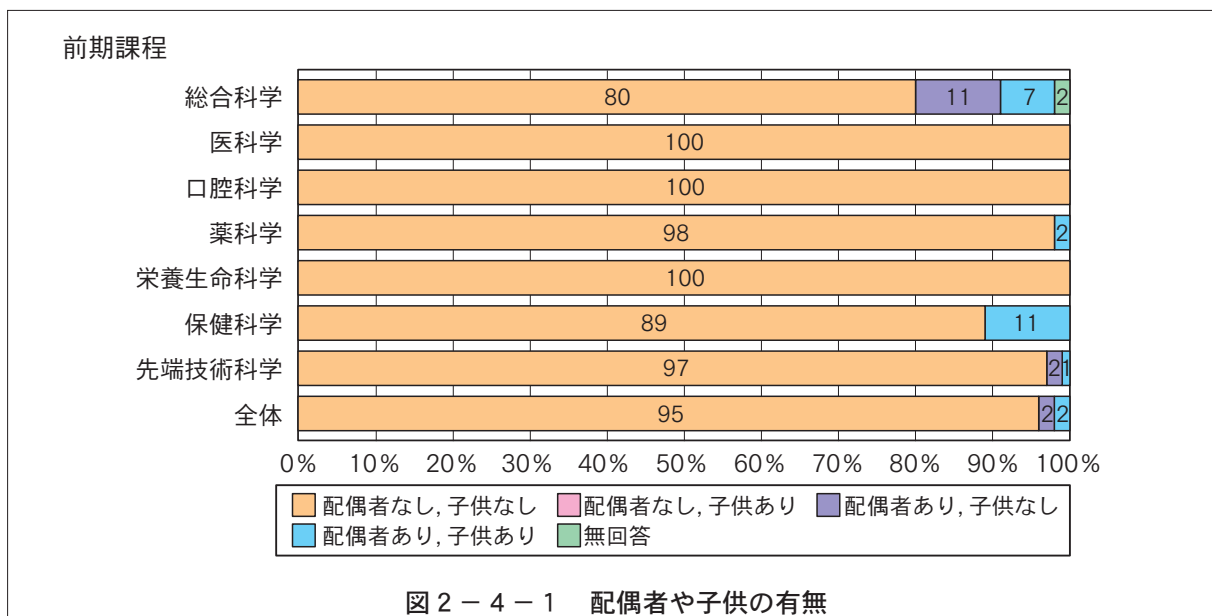
円未満の居住費で生活していた。

2 - 4 配偶者や子供の有無 (図 2 - 4 - 1 ~ 図 2 - 4 - 4)

大学院生の配偶者や子供については、全体として配偶者や子供がない割合は、前期課程では95%であり、後期課程では63%であり、全体としては前期及び後期課程ともに平成28年度の第6回調査とほぼ同様な傾向がみられた。配偶者がある割合は、前期課程では総合科学で18%、保健科学で11%であり、後期課程では、総合科学が75%で最も割合が高かった。

留学生についても、全体として同様な割合がみられ、配偶者や子供がない割合は、前期課程では83%であり、後期課程では65%であった。

子供がある大学院生について、授業や研究をしているときに子供の世話をしているのは、全体として前期及び後期課程において、配偶者(36%, 42%)、親や親戚(21%, 15%)、保育所にあずける(7%, 23%)であり、全体として前期及び後期課程ともに平成28年度の第6回調査とほぼ同様な傾向であった。留学生については、前期課程では大学院生と同様な傾向がみられ、43%は配偶者が世話をしていた。



後期課程

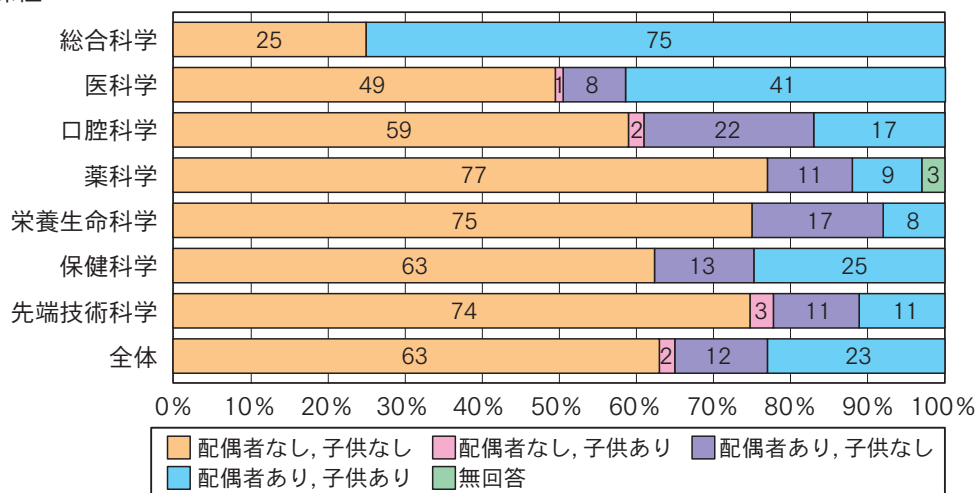


図 2 - 4 - 2 配偶者や子供の有無

前期課程

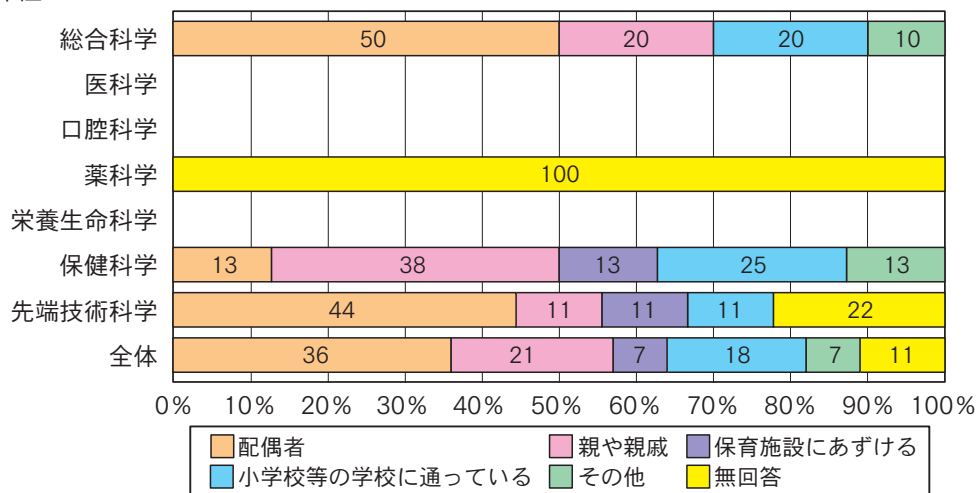


図 2 - 4 - 3 配偶者や子供の有無（複数回答可）

後期課程

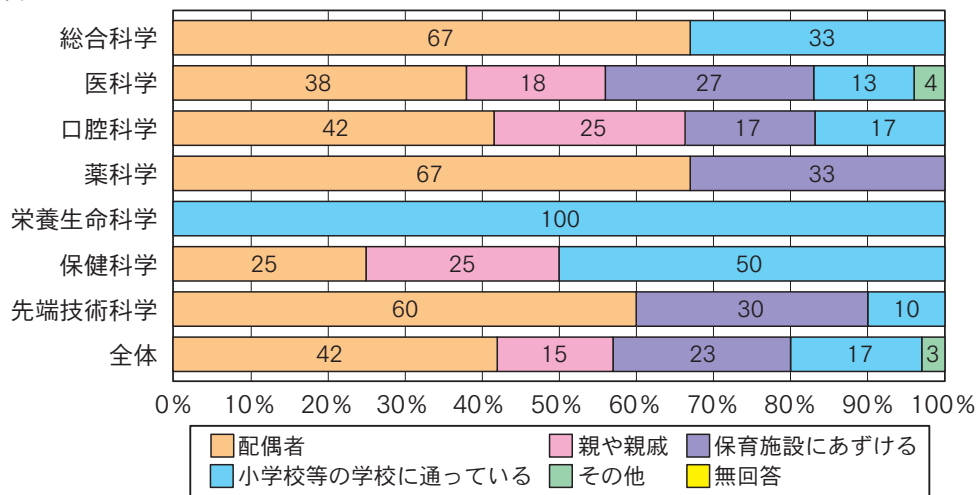


図 2 - 4 - 4 配偶者や子供の有無（複数回答可）

後期課程では43%が保育施設にあずけており、29%が小学校等の学校に通っており、配偶者が世話をしているのは19%であった。

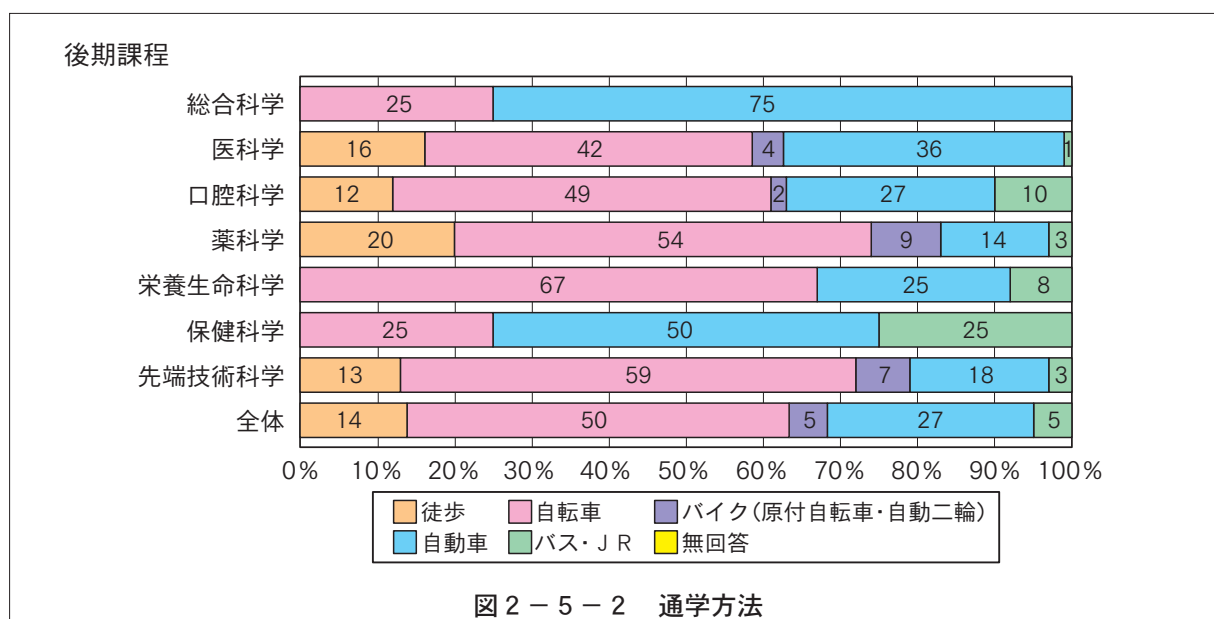
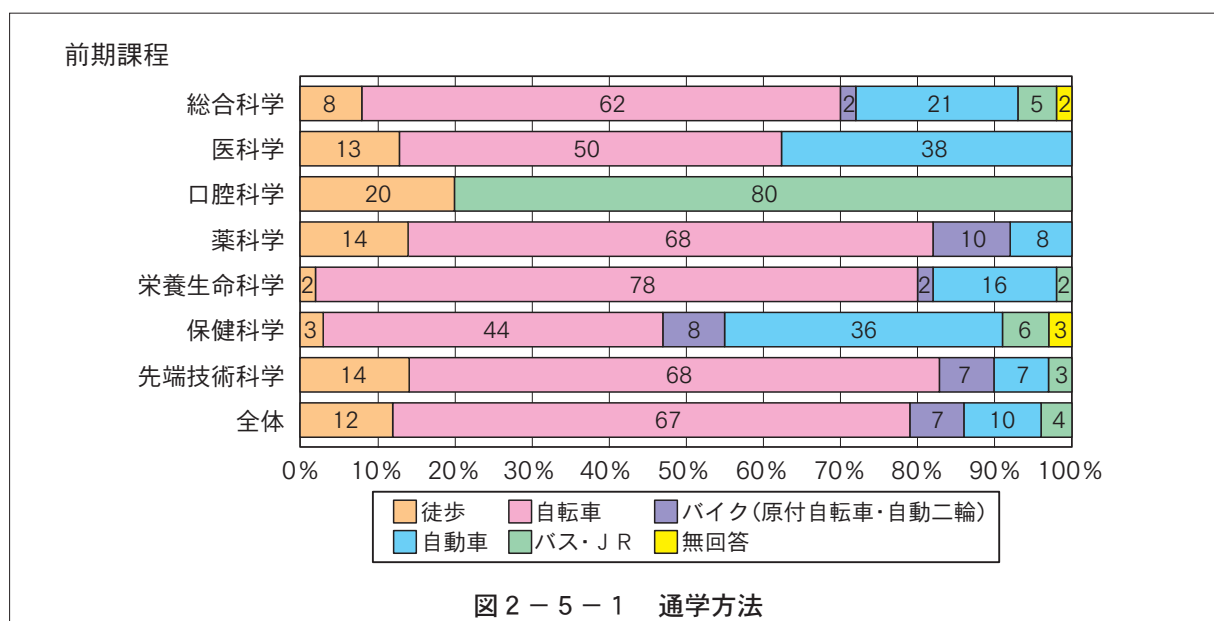
2-5 通学方法 (図2-5-1, 図2-5-2)

大学院生の通学方法については、全体として平成28年度の第6回調査の結果とほぼ同様であり、前期及び後期課程ともに、自転車(67%, 50%)の割合が最も高く、徒歩(12%, 14%), バイク(原付自転車・自動二輪)(7%, 5%), 自動車(10%, 27%)であった。

前期課程では、自転車の割合は口腔科学ではみられず、自動車の割合は医科学(38%), 保健科学(36%), 総合科学(21%)で高く、バス・JRの割合は口腔科学で80%と高かった。

後期課程では、自転車の割合は総合科学と保健科学で25%と低く、徒歩は総合科学、栄養生命科学、保健科学ではみられず、自動車の割合は総合科学(75%), 保健科学(50%)で高かった。

留学生についても、前回と同様に全体として大学院生と同じ傾向がみられ、前期及び後期課程ともに、自転車の割合(78%, 81%)が最も高く、徒歩(7%, 14%), バイク(原付自転車・自動二輪)(8%,



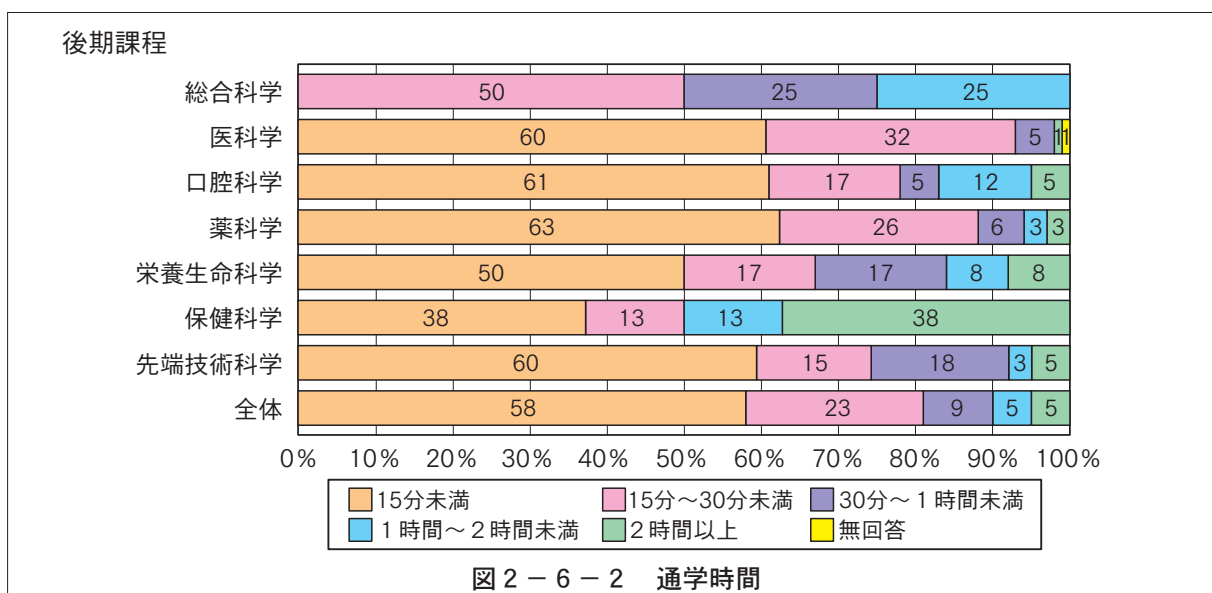
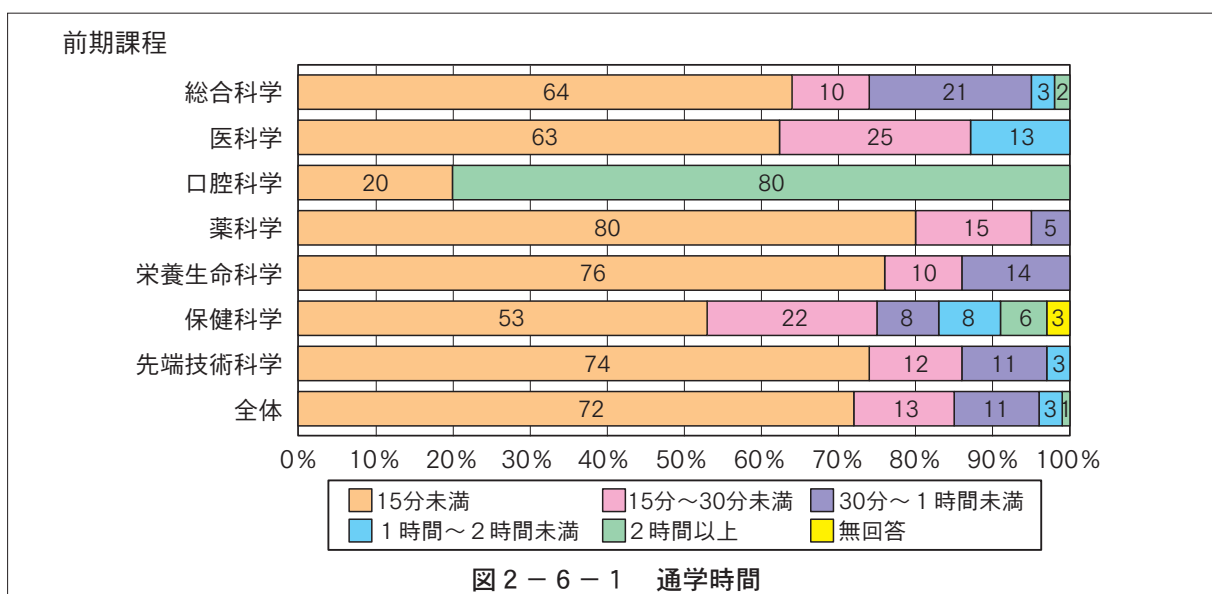
3%), 自動車(7%, 2%)であった。

2-6 通学時間 (図2-6-1, 図2-6-2)

大学院生の通学時間については、全体として平成28年度の第6回調査の結果とほぼ同様の結果であり、前期及び後期課程ともに、15分未満(72%, 58%)の割合が最も高く、次いで15分～30分未満(13%, 23%), 30分～1時間未満(11%, 9%)であった。

前期課程では、口腔科学で15分未満の割合(20%)が低く、2時間以上の割合(80%)は高かった。後期課程では、総合科学で15分未満の割合はみられず、15分～30分未満の割合(50%)は高く、30分～1時間未満と1時間～2時間未満の割合はともに25%であった。保健科学では、15分未満の割合(38%)はやや低く、2時間以上の割合は38%であった。

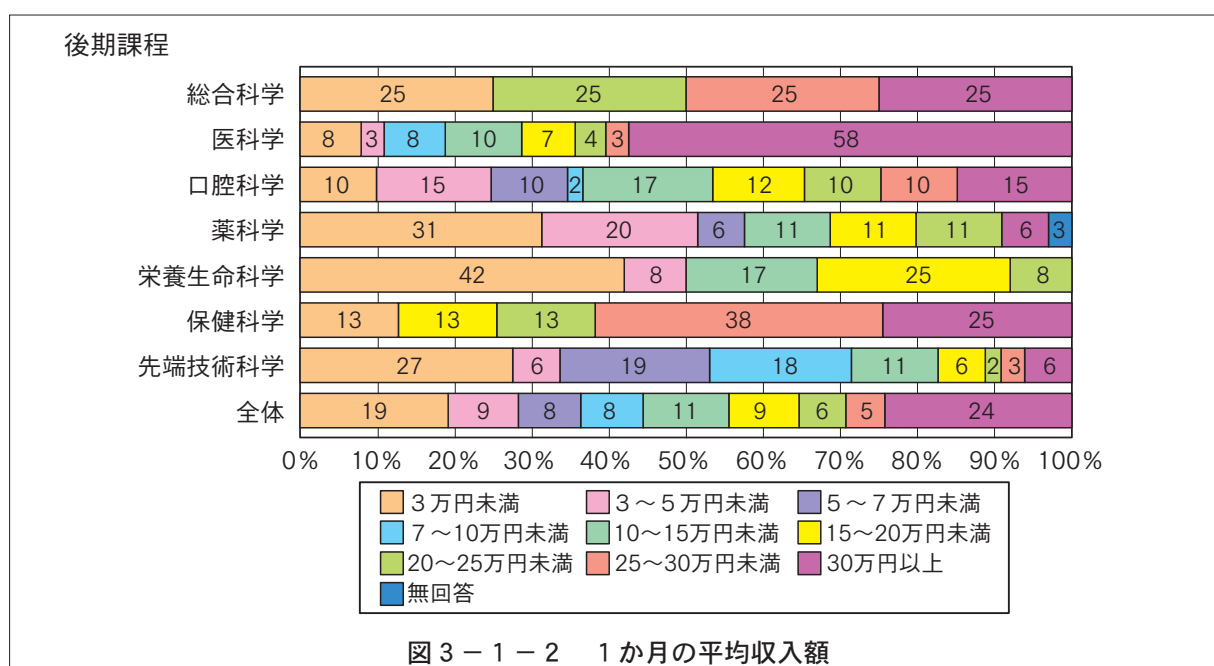
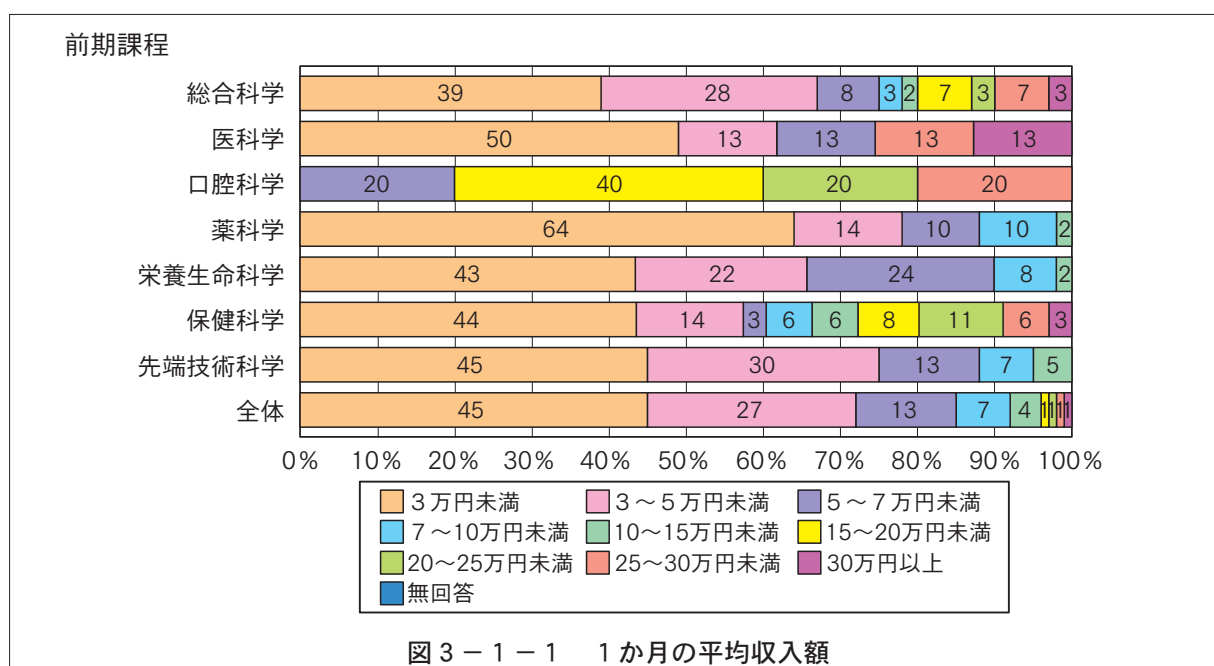
留学生についても、前回と同様に全体として大学院生と同じ傾向がみられ、前期及び後期課程ともに、15分未満(55%, 72%)の割合が最も高く、15分～30分未満(13%, 18%), 30分～1時間未満(32%, 9%)であった。



第3章 収入・支出について

3-1 1か月の平均収入額 (図3-1-1, 図3-1-2)

前期課程では、全体の45%は月平均収入額（親等からの援助を除く）が3万円未満、90%は10万円未満であり、これは第6回の調査結果とほぼ同様である。教育部別にみると、3万円未満については、薬科学が64%で、それに医科学の50%が続く。総合科学、栄養生命科学、保健科学、先端技術科学は類似しており、39～45%が3万円未満である。一方、医科学では26%が25万円以上、口腔科学では40%が20万円以上の収入を得ている。医科学では5万円未満が63%に対して25万円以上が26%いるなどばらつきが大きい。保健科学は44%が3万円未満である一方、20%は20万円以上の収入を得ており、こちらもばらつきが見られる。留学生の1か月の平均収入は、68%は5万円未満、さらに33%は3万円

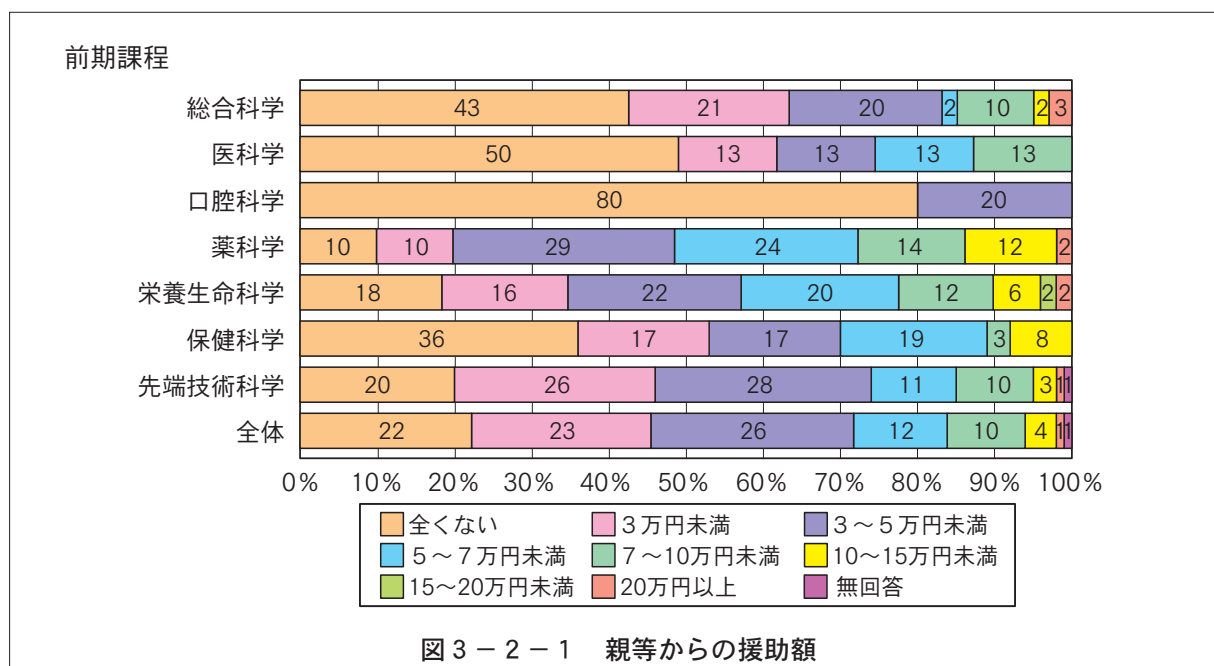


未満であり、多くは奨学金等の受給による収入と考えられる。

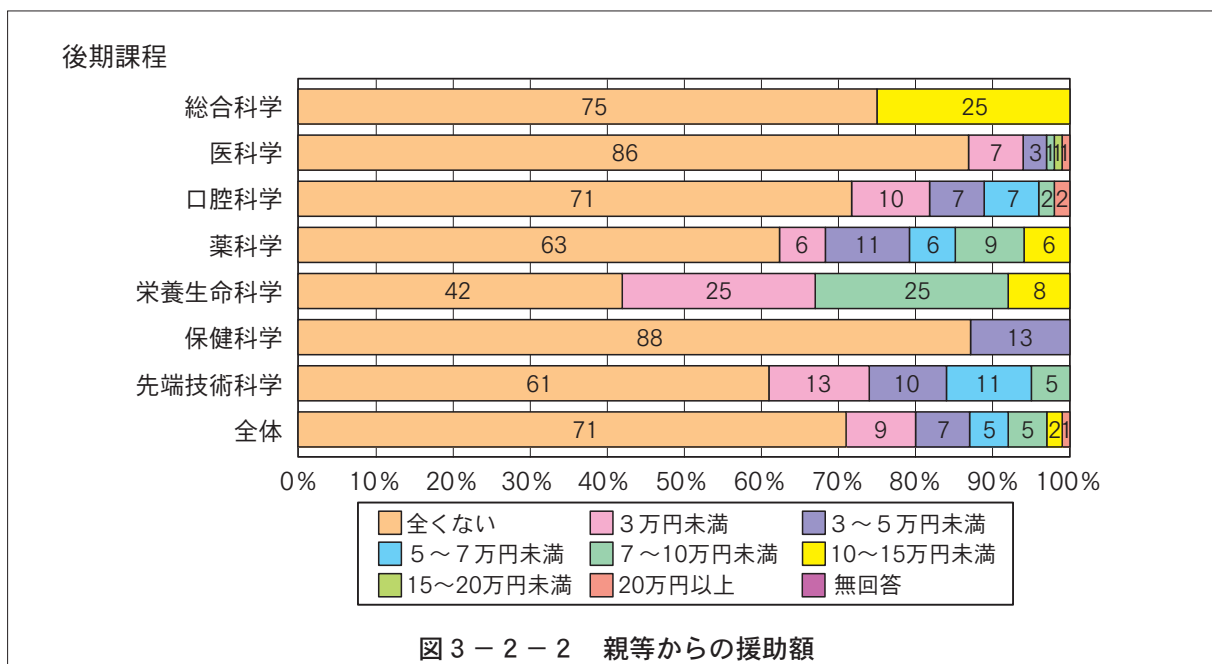
後期課程では1か月の平均収入額のばらつきが大きく、全体の19%が平均収入3万円未満である一方、24%は30万円以上の収入を得ている。これは第6回の調査結果とほぼ同様である。教育部別に比較すると、先端技術科学では70%が平均収入10万円未満であり、この割合は第6回の調査と同様であった。薬科学と栄養生命科学の約半数は収入5万円未満であり、この割合も第6回の調査と同様であった。保健科学では25%の学生が30万円以上の収入を得ているが、前回調査では75%であったことからその割合は大きく減少した。医科学では58%が30万円以上の収入を得ているのに対し、19%は10万円未満である。口腔科学の37%は10万円未満の収入であり、第6回の調査より割合は増加した。留学生については全体の63%が10万円未満、25%が10～15万円未満の収入を得ており、第6回の調査の結果とほぼ同様であった。

3-2 親等からの援助額 (図3-2-1, 図3-2-2)

前期課程では、親等からの援助が全くない大学院生は全体の22%であり、第6回の調査結果とほぼ同じである。また、45%は5万円未満の援助額である。教育部によりばらつきがあり、親等からの援助が全くない大学院生の割合は口腔科学80%、医科学50%であるのに対し、薬学科10%、栄養生命科学18%、先端技術科学20%であった。留学生については、全体の48%は親等からの援助が全くない。

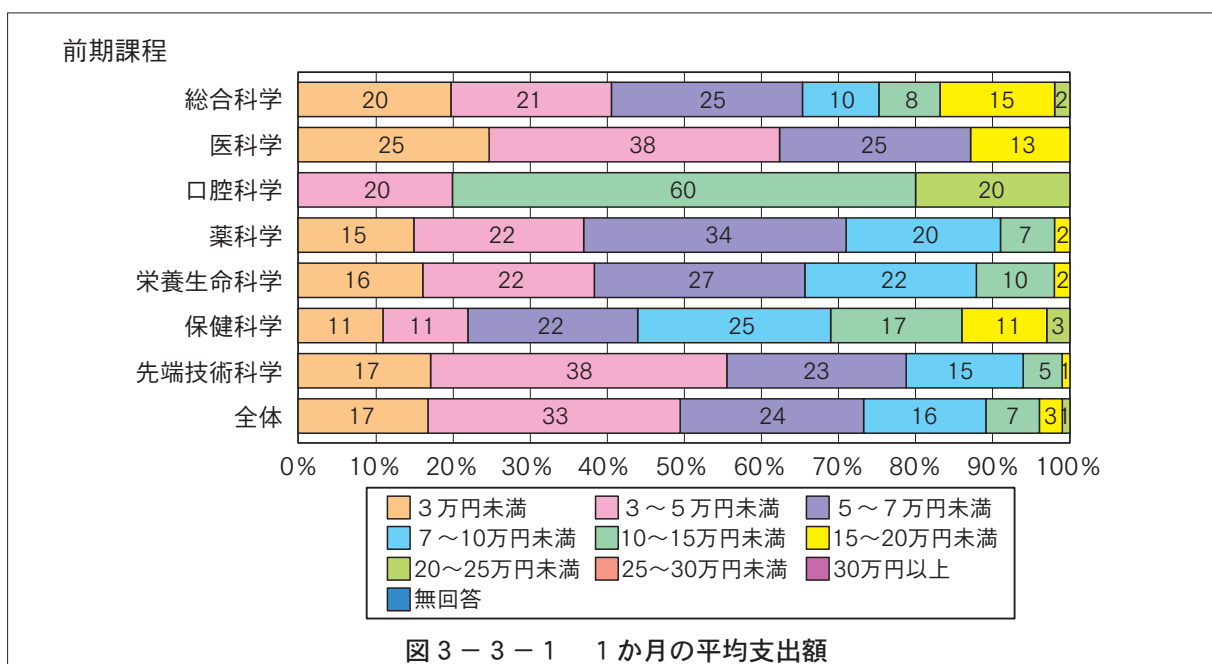


後期課程では、前期課程(22%)と比較して親等からの援助を全く受けていない割合が全体の71%と高く、援助額5万円未満のものは16%であり、収入面での独立傾向が伺える。これは第6回の調査の結果と同じ傾向である。一方、援助額10万円以上の大学院生の割合は前期課程5%よりも少なく、3%であった。教育部別に比較すると、親等からの援助を全く受けていない割合は、保健科学88%、医科学86%、総合科学75%の順で高く、栄養生命科学42%を除いて、いずれの教育部も後期課程大学院生の半数以上は援助を受けていない。留学生については全体の75%が親等からの援助はなく、22%が7万円未満の援助である。



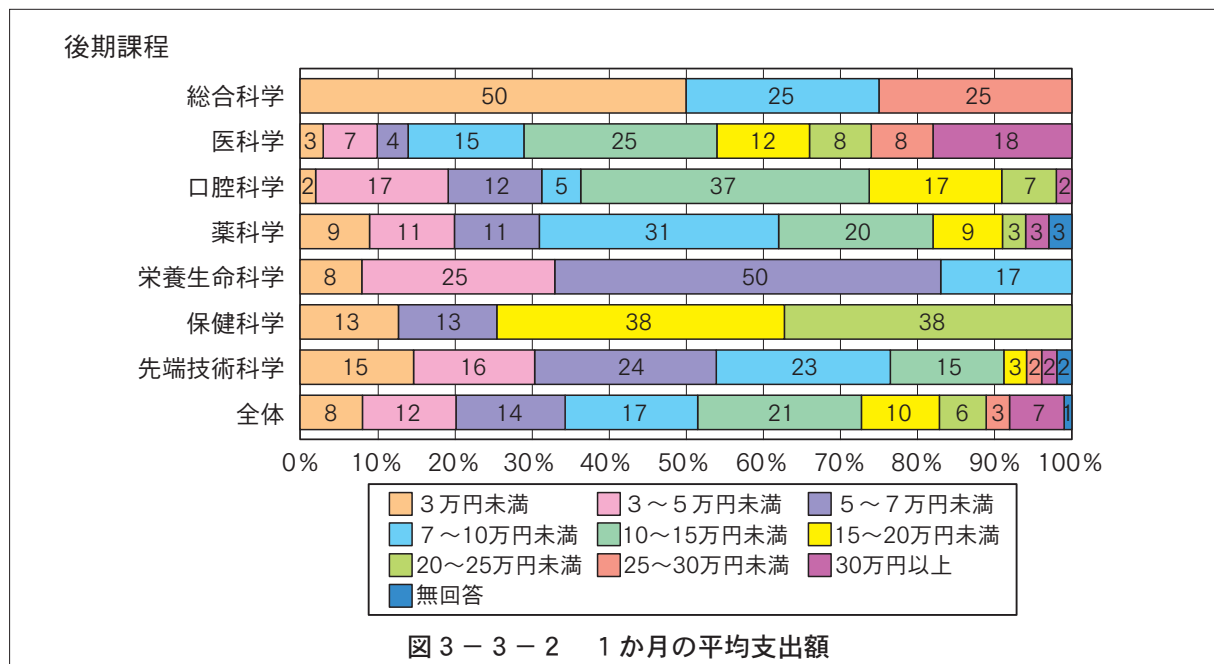
3-3 1か月の平均支出額（授業料支出は除く）（図3-3-1, 図3-3-2）

前期課程では、全体の50%が1か月平均5万円未満の支出であり、90%が月平均10万円未満の支出で生活をしている。これは第6回の調査の結果とほぼ同様である。教育部別に比較すると、月平均10万円未満の支出で生活している大学院生の割合は、先端技術科学(93%)、薬科学(91%)、医科学(88%)、栄養生命科学(87%)、総合科学(76%)、保健科学(69%)の順に高く、口腔科学(20%)ではその割合は低い。留学生の94%は月平均支出額10万円未満で生活しており、これは第6回の調査よりも増加した。



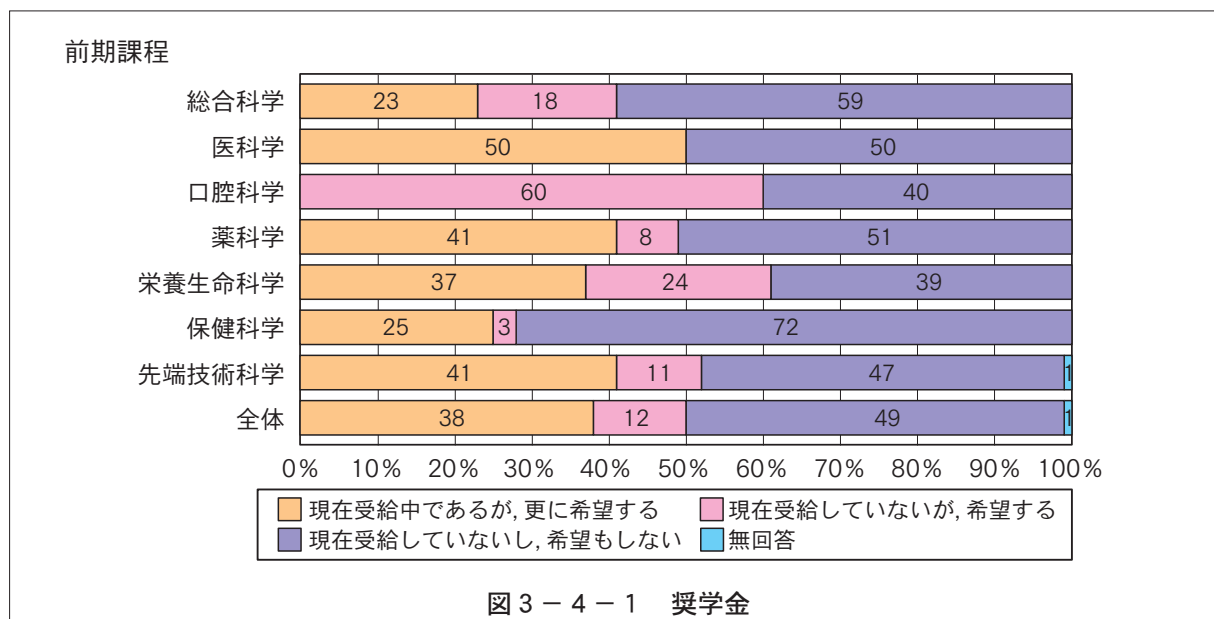
後期課程では、大学院生の51%は月平均10万円未満で生活し、さらに月平均支出額5万円未満である割合は全体の20%であり、第6回の調査の結果と比較して5%増加した。教育部別で比較すると、支出額10万円以上の大学院生の割合は保健科学(76%)、医科学(71%)、口腔科学(63%)の順で高い。

留学生については、全体の69%の平均支出額は10万円未満である。



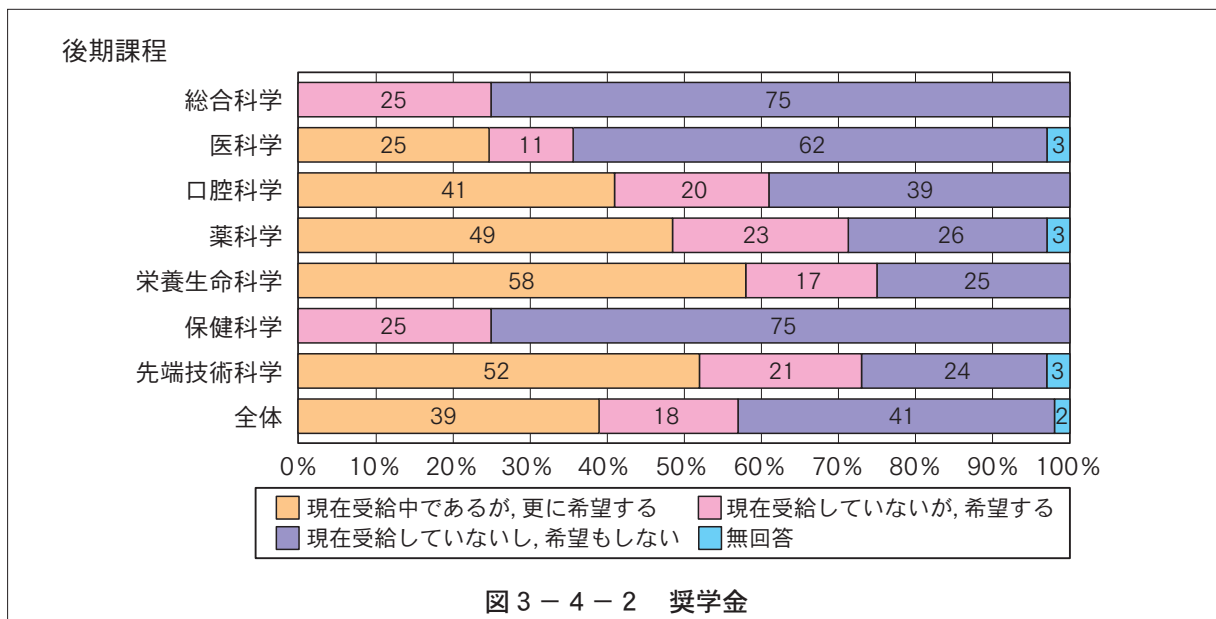
3-4 奨学金を受けることを希望しますか (図 3-4-1, 図 3-4-2)

前期課程では、奨学金希望者は全体の50%であり、第6回の調査の結果と同様であった。一方、49%は奨学金受給を希望していない。現在の奨学金受給者の割合は医科学が最も高く(50%)、次いで薬科学(41%)、先端技術科学(41%)である。現在受給していないし、希望もしない割合は保健科学が最も高く(72%)、総合科学がそれに続く(59%)。留学生の98%は奨学金を希望しており、第6回の調査の結果と同様であった。



後期課程では、全体として奨学金を希望する割合は前期課程(50%)よりも少し高く、57%であり、第6回の調査の結果と比較して7%減少した。教育部別に比較すると、奨学金受給の割合は栄養生命科学(58%)、先端技術科学(52%)、薬科学(49%)の順に高い。現在受給していないが、将来的に希望する割合はすべての教育部であまり高くない(11~25%)。一方、95%の留学生は奨学金受給を希望し

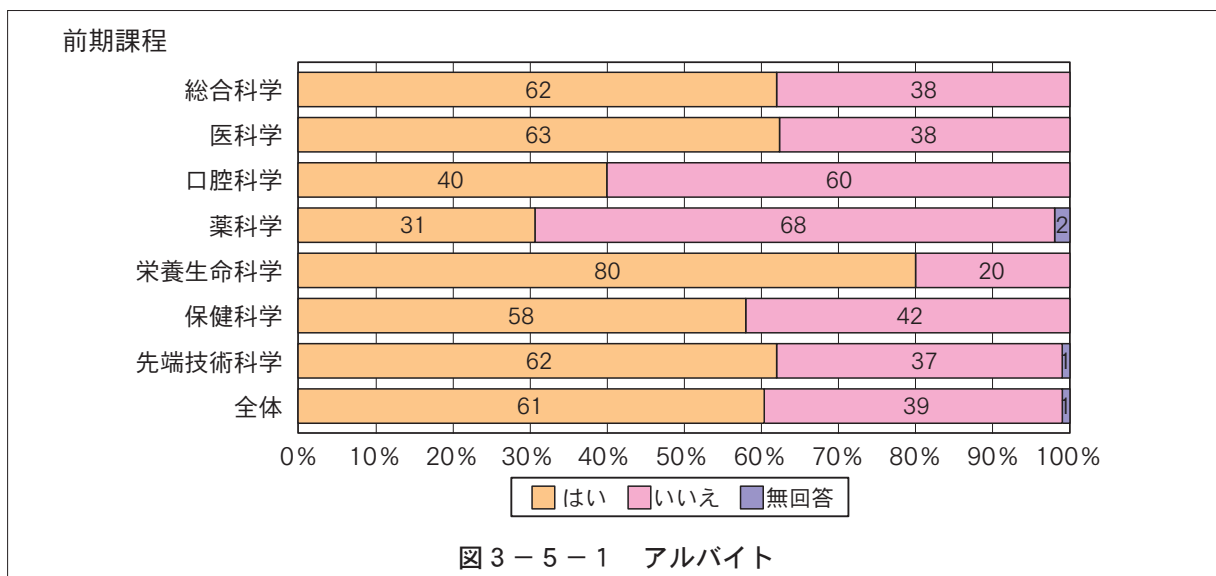
ている。



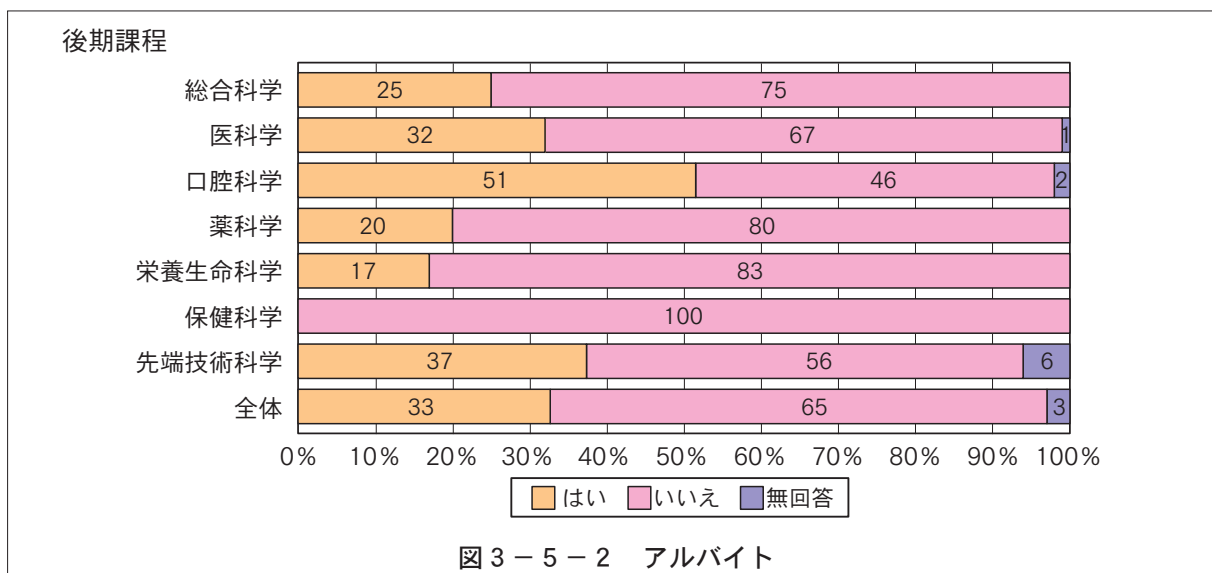
3-5 現在、アルバイトをしているか (図 3-5-1, 図 3-5-2)

前期課程では、全体の61%の大学院生がアルバイトをしており、この割合は第6回の調査の結果よりも7%増加している。教育部別に比較すると、アルバイト学生の割合は栄養生命科学(80%)が最も高く、総合科学、医科学、保健科学、先端技術科学で約60%である。

逆に、薬科学で68%、口腔科学で60%はアルバイトをしていない結果であった。留学生の47%がアルバイトをしており、これは第6回の調査の結果(37%)に比べて増加した。

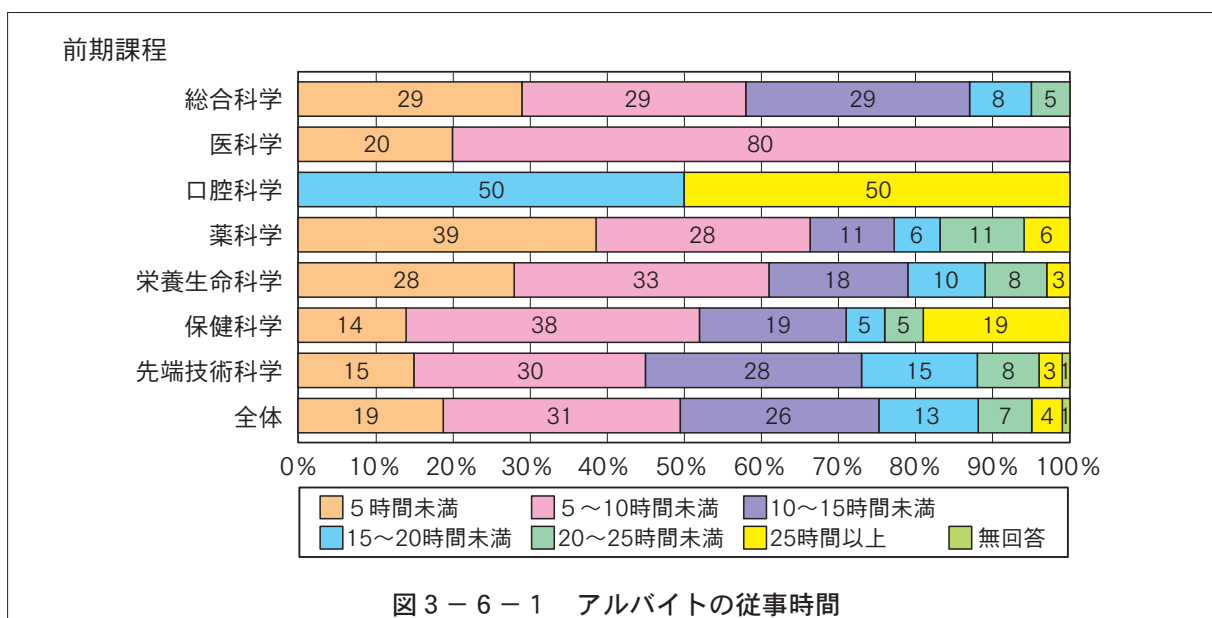


後期課程では、全体として33%の大学院生がアルバイトを行っており、前期課程(61%)と比較すると少ない。教育部別では、口腔科学を除く教育部ではアルバイトを行っている割合は前期課程よりも後期課程で少ない。アルバイト学生の割合は口腔科学が51%と最も高く、次いで先端技術科学(37%)、医科学(32%)の順である。後期課程の留学生の22%がアルバイトを行い、この割合は第6回の調査の結果よりも4%増加している。

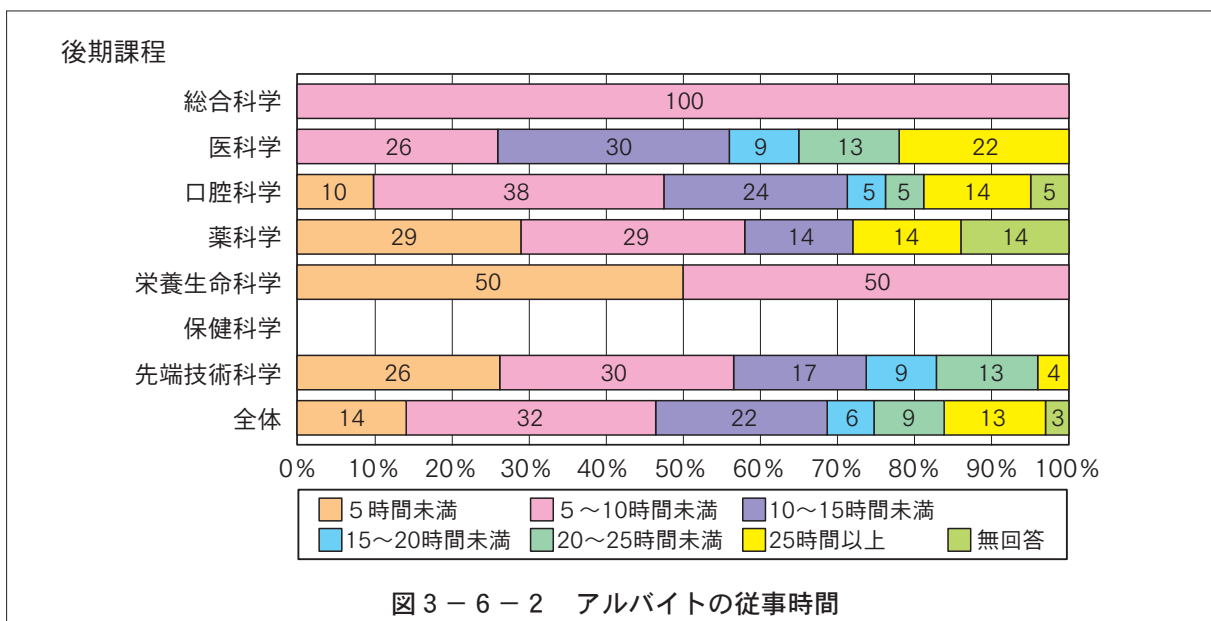


3-6 アルバイト従事時間数 (図 3-6-1, 図 3-6-2)

前期課程では、全体の50%はアルバイト従事時間10時間未満であり、50%は10時間以上で、そのうち4%の大学院生は25時間以上のアルバイトに従事している。第6回の調査の結果と比較すると、全体としてアルバイト従事時間は長くなっている。教育部別に比較すると、医科学ではすべて20時間未満のアルバイト従事であり、20時間以上のアルバイト従事学生は口腔科学が50%と最も高く、次いで保健科学の24%である。留学生については、全体の32%が10時間未満のアルバイトを行い、20時間未満は86%であった。第6回の調査結果ではすべて従事時間は20時間未満であったことから、アルバイト従事時間は増加している。

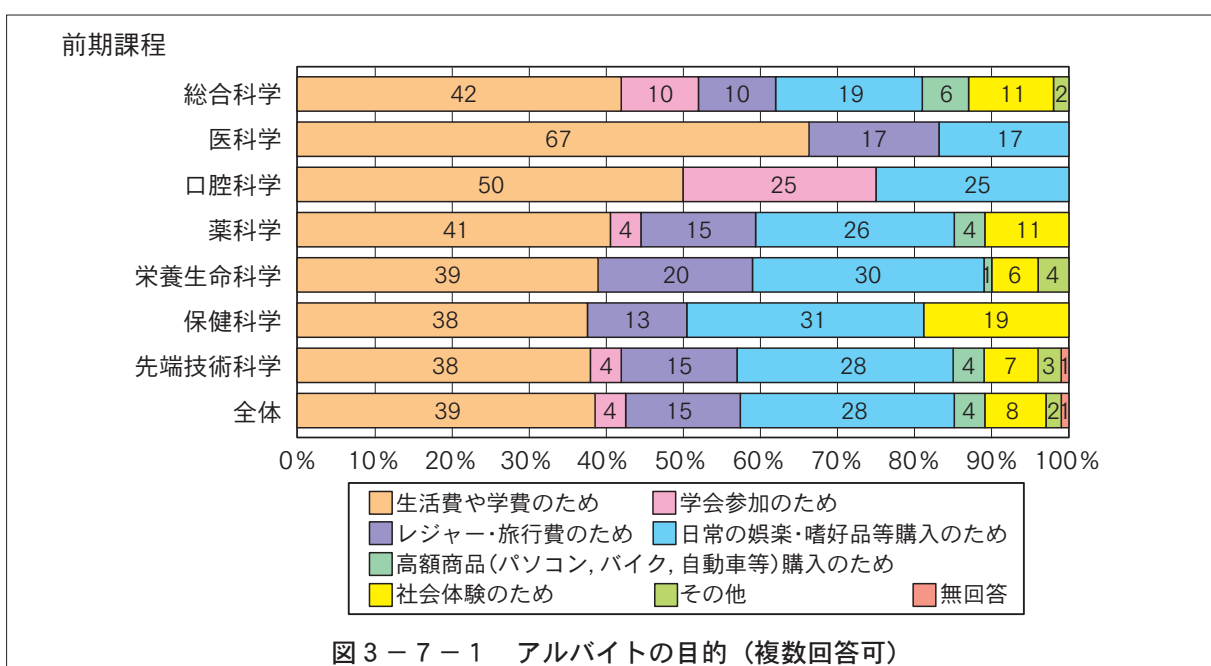


後期課程では、全体としてアルバイト時間10時間未満の大学院生の割合は46%で前期課程(50%)よりもわずかに低く、25時間以上従事している者の割合は13%と前期課程(4%)よりも高い。教育部別に比較すると、総合科学、栄養生命科学ではすべて20時間未満の従事時間であるが、医科学の22%、薬科学の14%、口腔科学の14%は25時間以上のアルバイトを行っている。留学生については、20時間未満のアルバイト従事の割合は78%で、第6回の調査結果(100%)と比較すると減少した。



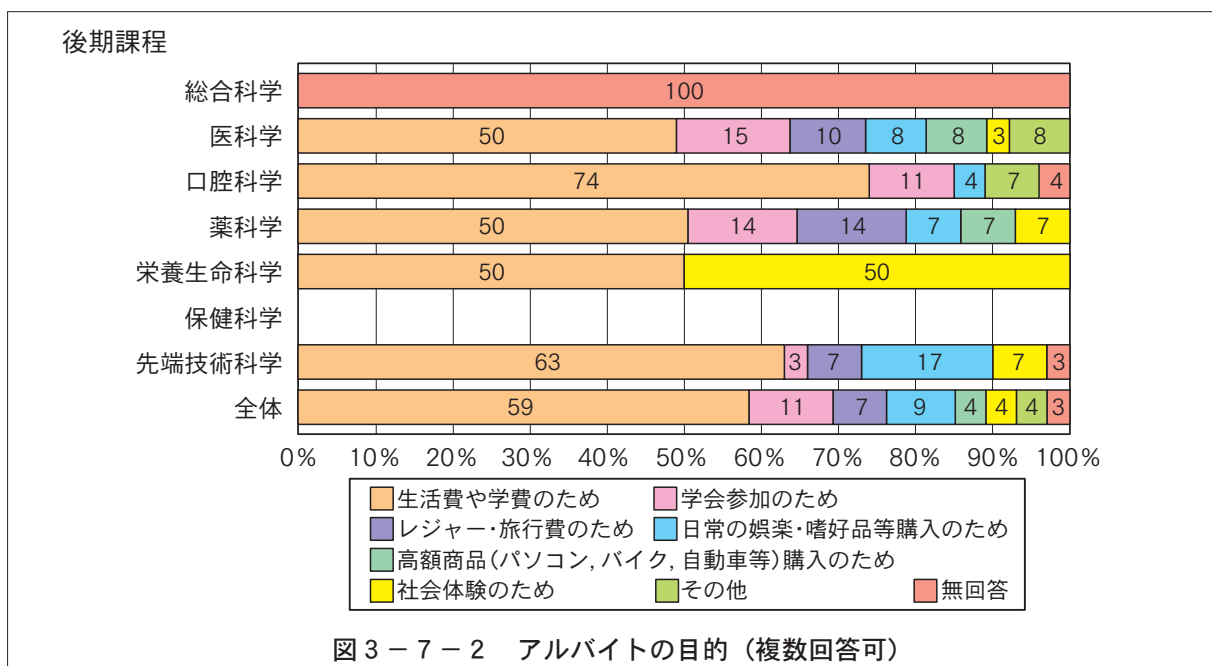
3-7 アルバイトの目的 (図 3-7-1, 図 3-7-2)

前期課程では、全体の 39%はアルバイトの目的が「生活費や学費のため」であり、これは第 6 回の調査結果とほぼ同じである。「学会参加のため」の 4%を含めると、43%が大学院生としての生活費捻出のためにアルバイトを行っている。一方、「レジャー・旅行」、「日常の娯楽など」を目的としたアルバイトは 43%であり、第 6 回の調査結果 (35%) と比較して少し増加した。教育部別に比較すると、「生活費や学費のため」の割合が最も高いのは医科学の 67%であり、口腔科学が 50%と続く。他は 40%前後でほぼ同等である。「レジャー・旅行」、「日常の娯楽など」を目的としたアルバイトの割合は栄養生命科学 (50%) が最も高く、口腔科学 (25%)、総合科学 (29%) の順で低い。「高額商品 (パソコン、バイク、自動車等) 購入のため」のアルバイトはすべての教育部で 0~6%と低い。一方、「社会体験のため」のアルバイトと回答した割合は保健科学で 19%であったが、その他の教育部については 6~11%であった。留学生については全体の 84%が「生活費や学費のため」のアルバイトであり、第 6 回の調査結果



(60%) よりも大幅に増加した。

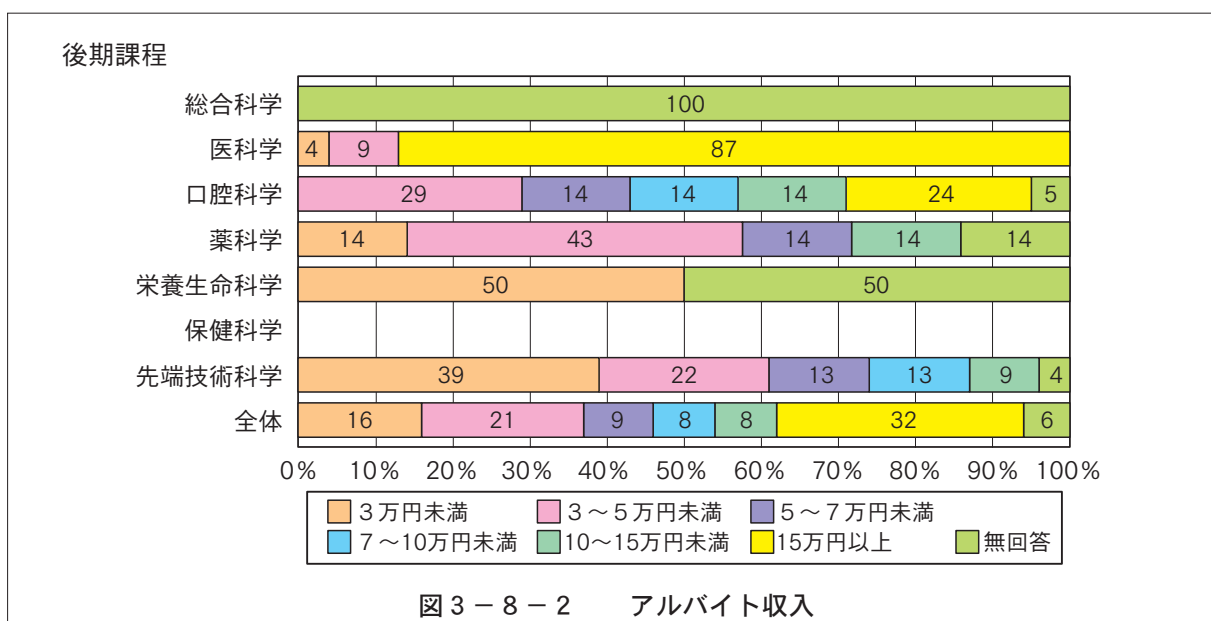
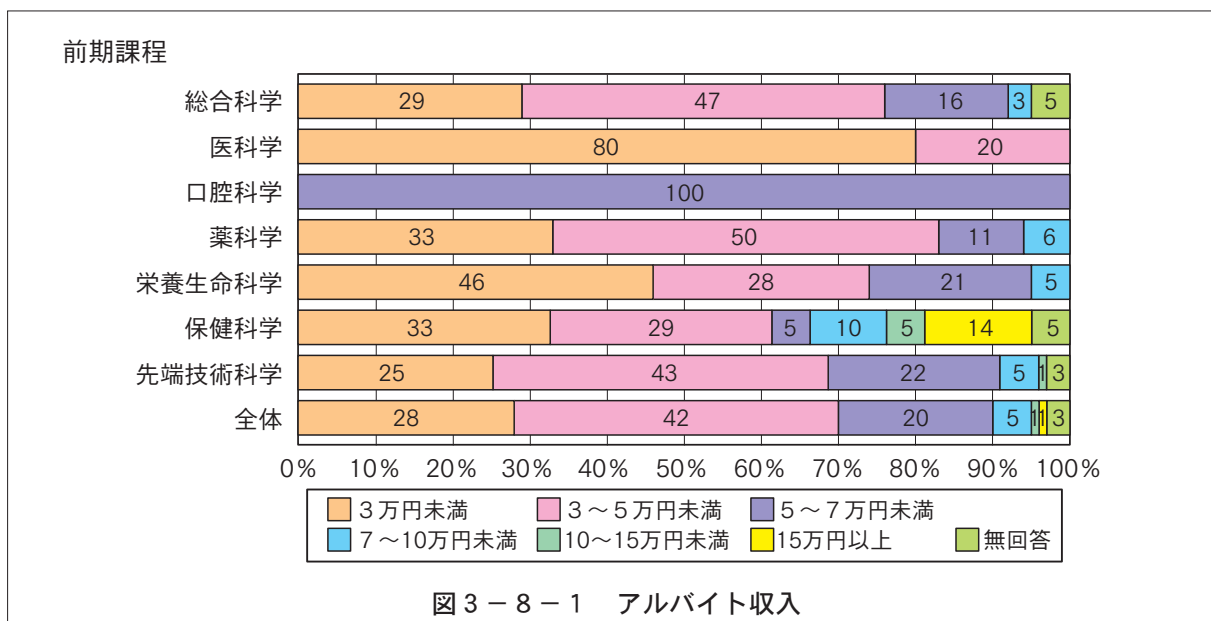
後期課程では、全体の59%のアルバイトの目的は「生活費や学費のため」であり、前期課程(39%)と比較して割合が高い。一方、「レジャー・旅行」、「日常の娯楽など」の交遊費捻出を目的とする割合は16%で、前期課程(43%)と比較してきわめて低い。この傾向は第6回の調査結果と同様である。「社会体験のため」と回答した者は全体の4%で、前期課程の8%と比較すると低い。教育部別に比較すると、「生活費や学費のため」と「学会参加のため」など大学院生としての生活費捻出を目的としている割合が最も高いのは口腔科学の85%で、先端技術科学の66%、医科学の65%、薬科学の64%がそれに続く。一方、「レジャー・旅行」と「日常の娯楽など」については、先端技術科学の24%が最も高く、口腔科学の4%が最も低い。留学生の79%は「生活費や学費のため」であり、「学会参加のため」を含めると86%になる。「社会体験のため」は7%であった。



3-8 アルバイト収入金額 (図3-8-1, 図3-8-2)

前期課程では、全体の28%が3万円未満の、42%が3~5万円未満のアルバイト収入であり、5万円以上のアルバイト収入があるのは27%であった(無回答を除く)。第6回の調査結果と比較すると収入金額はやや増加している。教育部別の比較では、3万円未満のアルバイト収入を得ている割合は医科学(80%)が最も高く、栄養生命科学(46%)と続く。一方、保健科学の14%は15万円以上の収入を得ている。留学生については、90%が7万円未満の収入であり、10万円以上の収入を得ている割合は0%であった。

後期課程では、全体の54%はアルバイト収入が10万円未満であり、40%は10万円以上の収入を得ていて、第6回の調査結果よりも収入は増加している。教育部別に比較すると、医科学の87%は15万円以上であり、口腔科学の38%は10万円以上の収入を得ている。薬科学の71%は5~7万円未満の、栄養科学(無解答を除く)のすべては5万円未満の収入である。留学生については72%が7万円未満のアルバイト収入であり、一方で7%は15万円以上の収入を得ている。

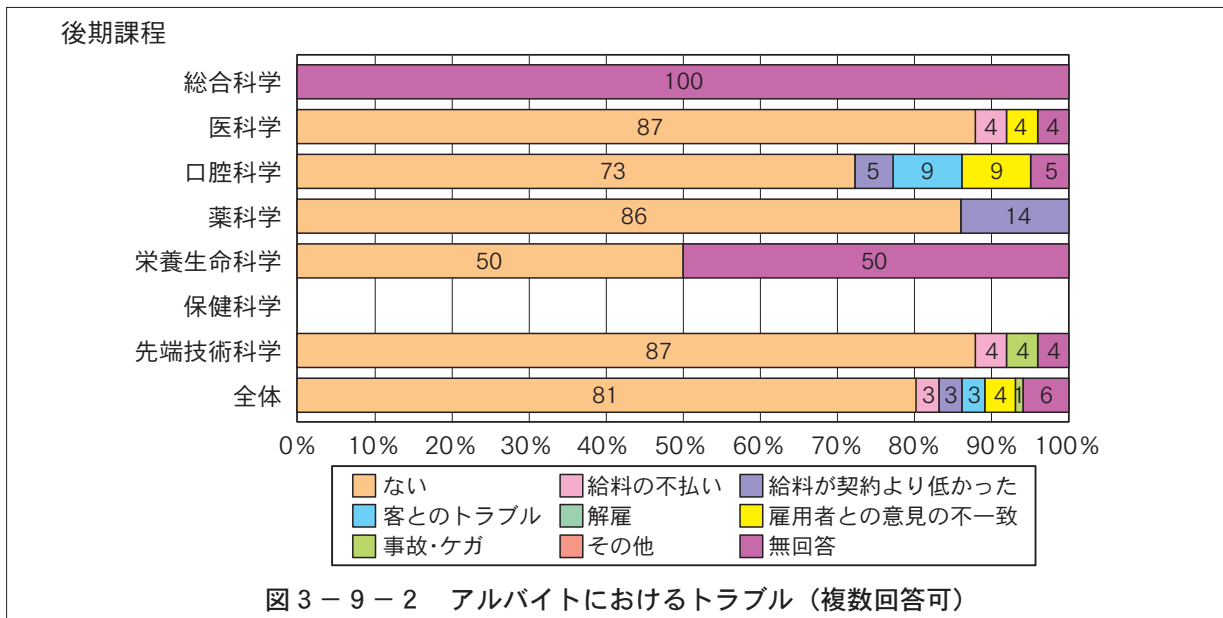
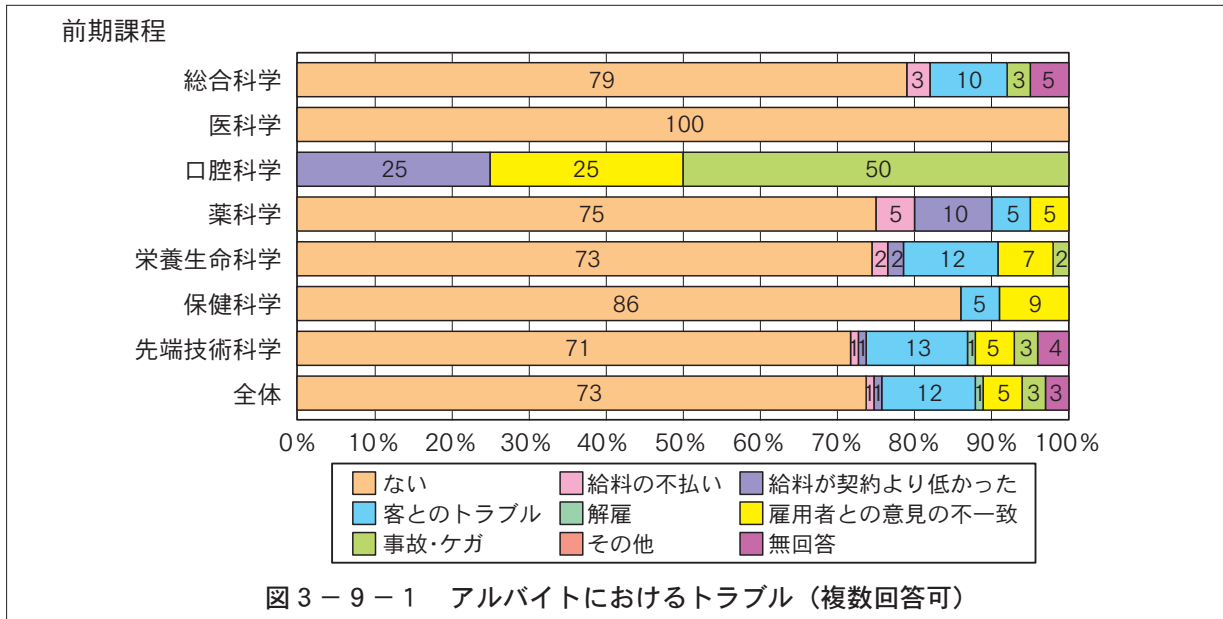


3-9 アルバイトにおけるトラブル (図 3-9-1, 図 3-9-2)

前期課程では、全体の73%でアルバイトにおけるトラブルはみられず、第6回の調査結果(79%)よりも低い。最も多いトラブルは「客とのトラブル」(12%)で、次いで「雇用者との意見の不一致」(5%)である。教育部別では、トラブルを経験したことがない比率は医科学で100%であり、保健科学の86%、総合科学の79%とつづく。保健科学の5%、栄養生命科学の12%、総合科学の10%で「客とのトラブル」を、口腔科学の25%は「雇用者との意見の不一致」を、薬科学の10%は「給料が契約より低かった」を経験している。留学生については、79%でトラブルはみられず、7%で「給料の不払い」、同じく7%で「客とのトラブル」を経験していた。

後期課程では、全体の81%はアルバイトにおけるトラブルの経験はない。トラブルの内容は「雇用者との意見の不一致」(4%)、「給料の不払い」(3%)、「給料が契約より低かった」(3%)、「客とのトラブル」(3%)、その他(1%)である(無回答を除く)。教育部別では、薬科学の14%で「給料が契約より低かった」を経験し、口腔科学の9%で「客とのトラブル」を、同じく口腔科学の9%で「雇用者

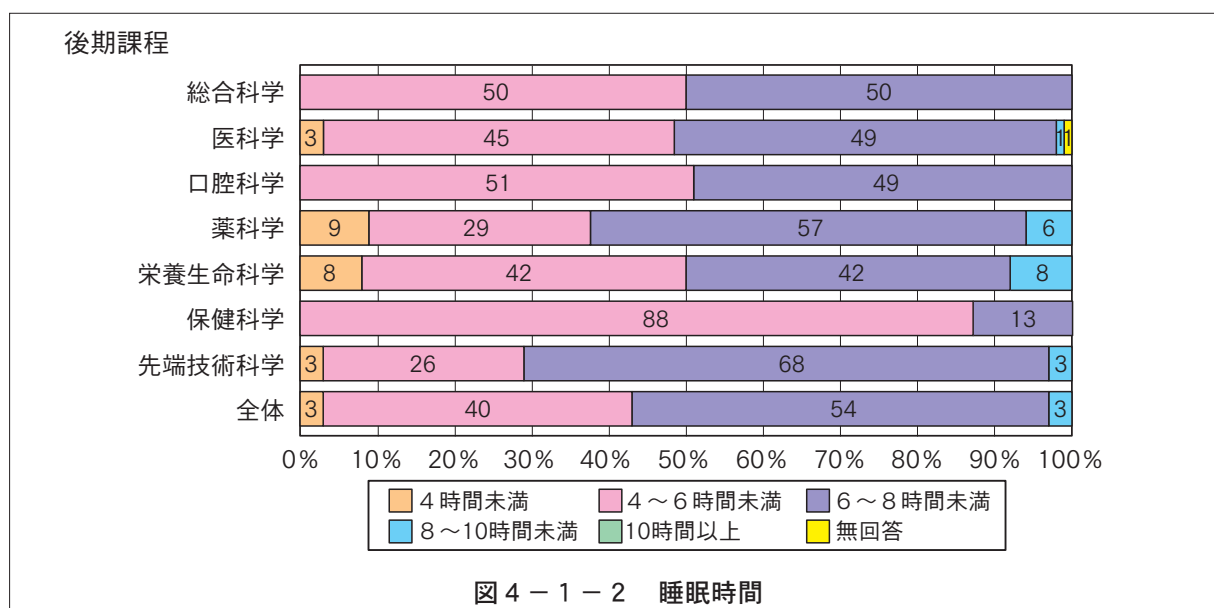
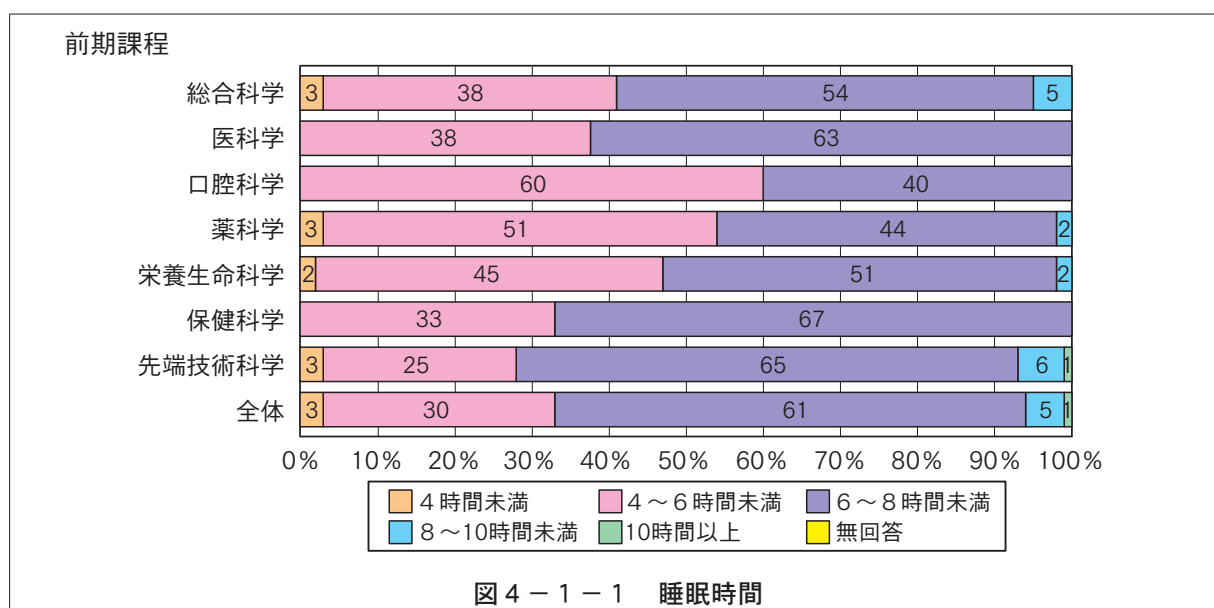
との意見の不一致」を経験している。



第4章 健康状態について

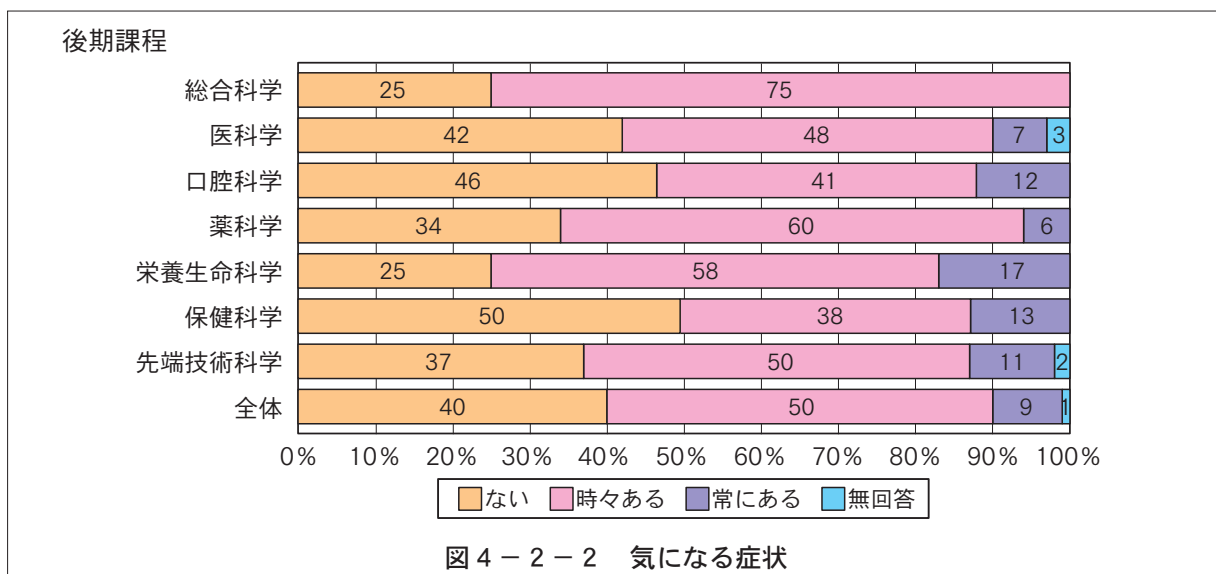
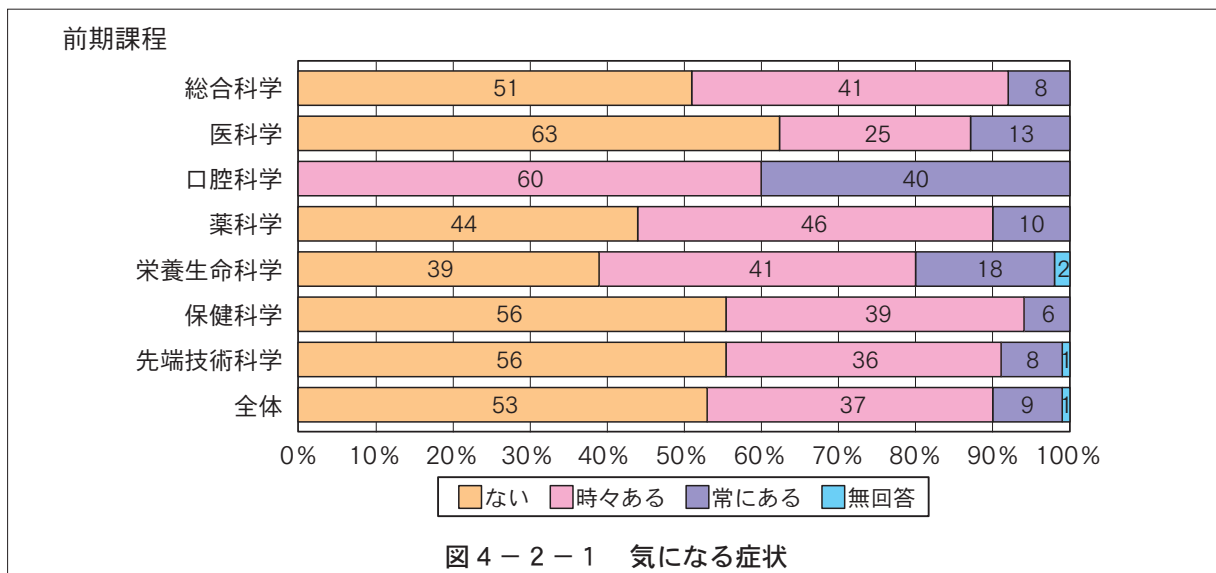
4-1 睡眠時間 (図4-1-1, 図4-1-2)

睡眠時間は殆どの学生が8時間未満と回答しており、前期課程の学生では、30%が6時間未満であり、多くの学生で十分な睡眠時間を確保できていない。睡眠時間は8時間程度必要と考えられており、必要な睡眠時間からわずかでも少ないとそれが睡眠負債となり、パフォーマンスの低下や健康障害を引き起こすと言われる。研究や授業など学業が忙しい部分もあるだろうが、スマホやゲームなどの長時間使用が睡眠時間の不足に影響している可能性がある。後期課程の学生では、さらにこうした傾向が顕著に表れており、睡眠不足の危険性を学生に周知する必要がある。



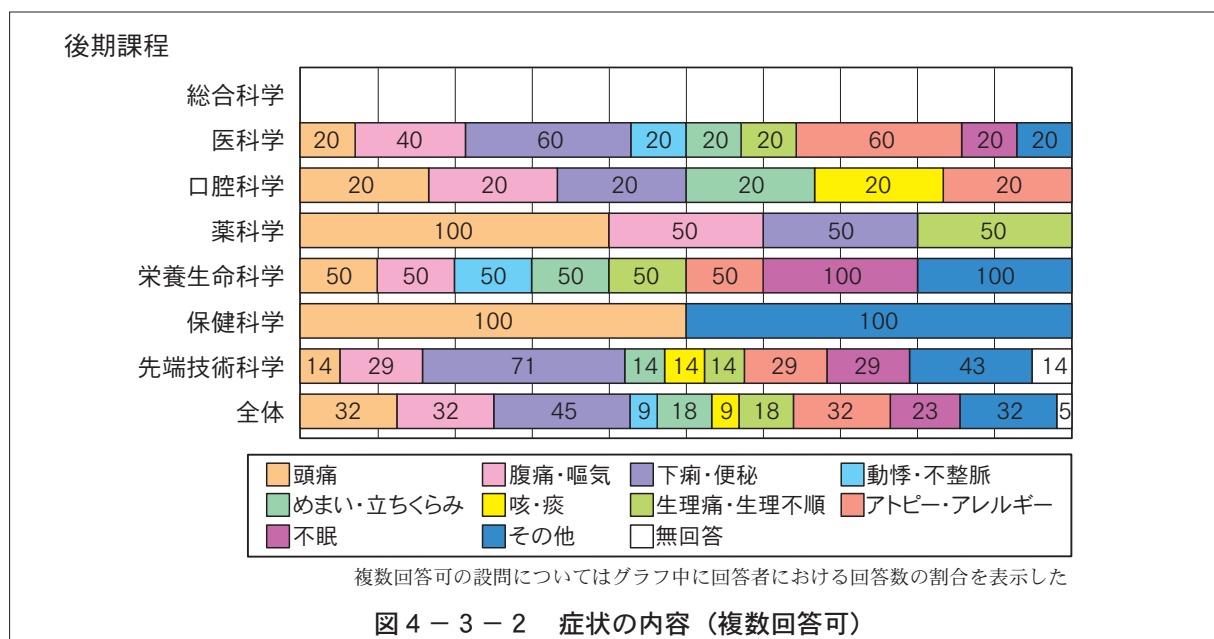
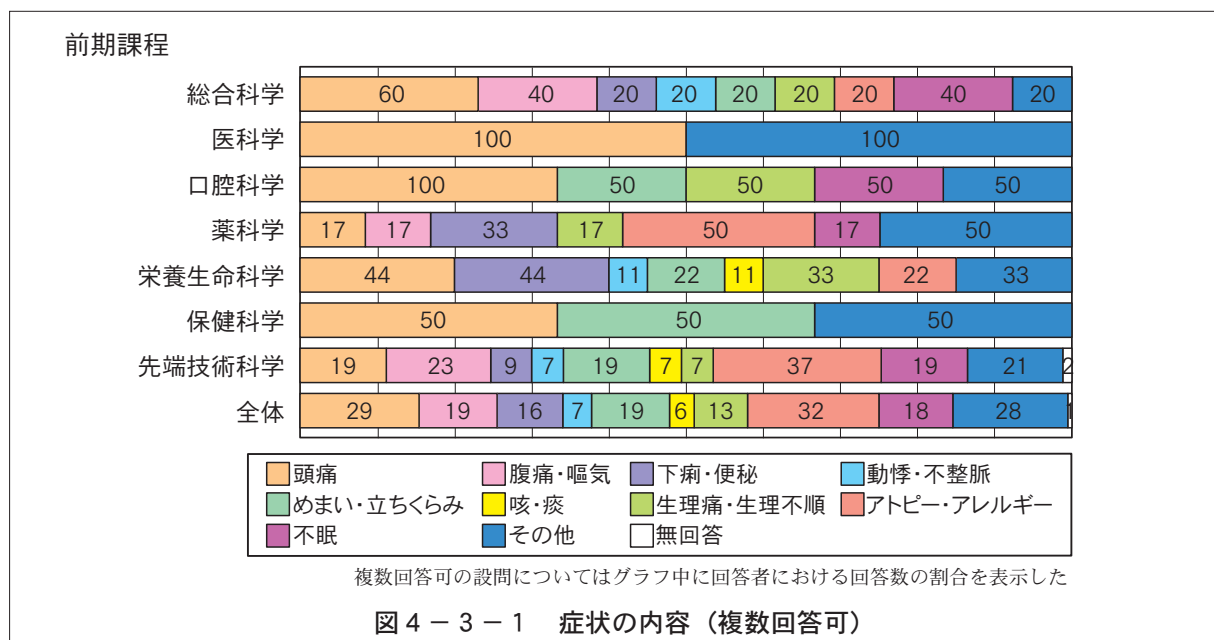
4-2 気になる症状 (図4-2-1, 図4-2-2)

前後期を含めて、約半数の学生が何らかの身体症状があると回答している。多くの症状が生活習慣の不良を原因として発生していると考えられ、睡眠時間の不足も含めて生活習慣の改善が必要である。また、自覚症状があってもその改善や治療にしっかりと取り組まない学生も多く見受けられ、健康管理に対する意識の向上が課題である。



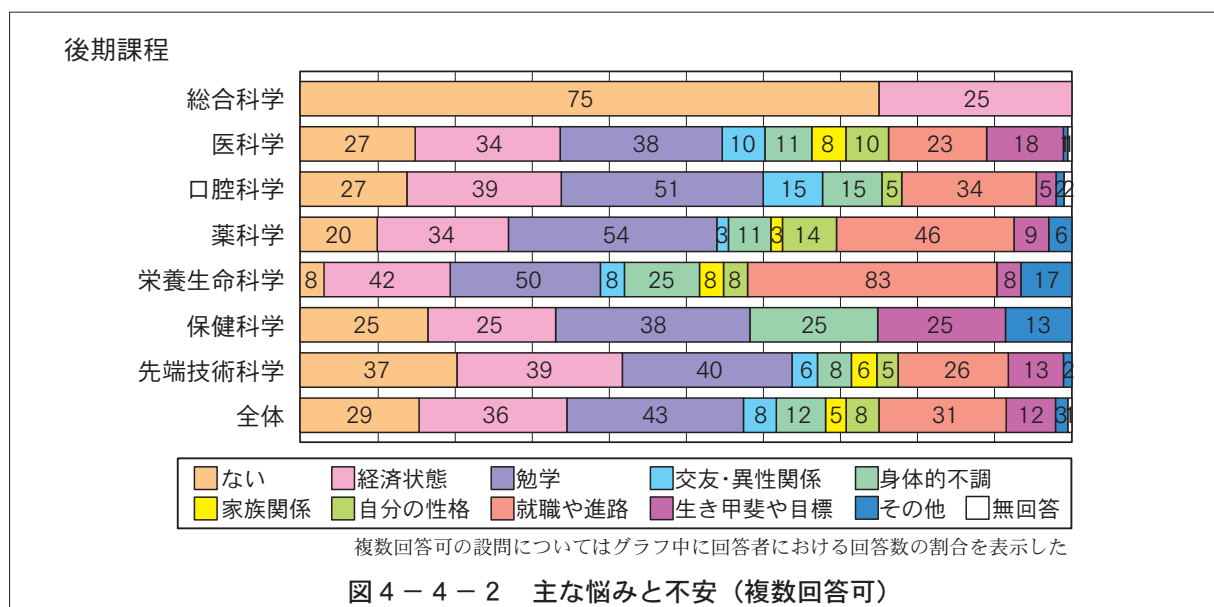
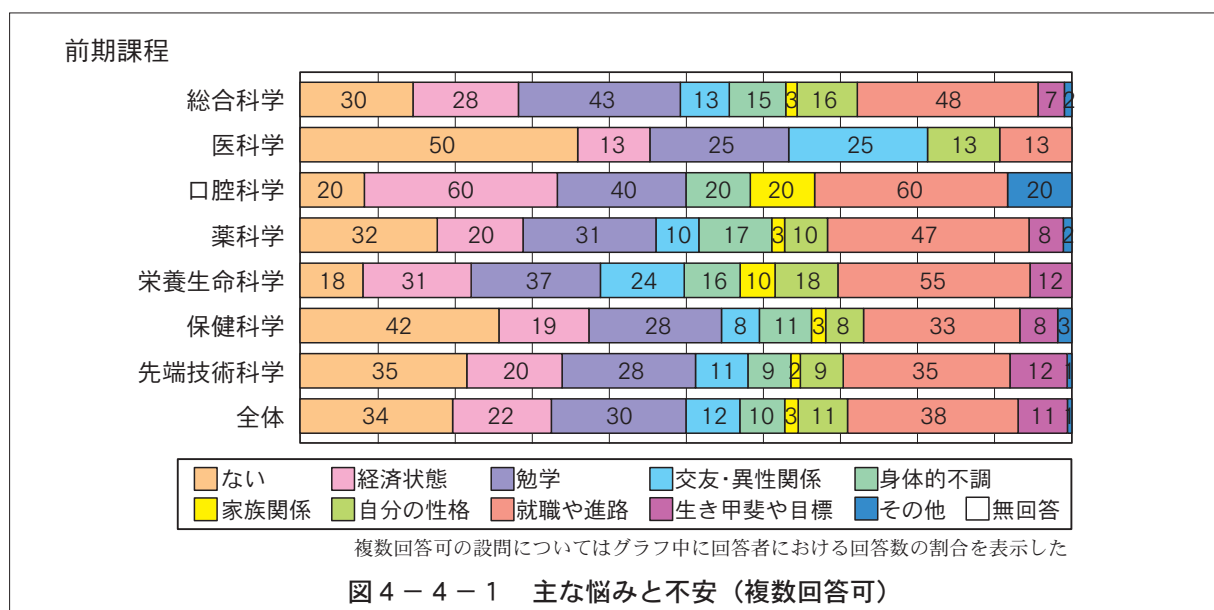
4-3 症状の内容 (図4-3-1, 図4-3-2)

症状として多いものは、頭痛、消化器症状、アトピー・アレルギー、およびその他である。アトピー症状も適切な治療とスキンケアや生活習慣の改善でほとんどの症状軽減が可能であると言われるが、実際には十分な治療を実行できていないと思われる学生も多く見受けられる。頭痛はスマホやパソコンの長時間使用、消化器症状は食事内容や夜遅い食事などが原因となっていると思われ、改善が必要である。特に、医科学や保健科学でその他の症状が非常に多く、おそらくその多くが肩こりや腰痛など整形外科的症状ではないかと思われ、実習等の影響が考えられる。今後は腰痛等の質問項目を追加する必要があるかもしれない。



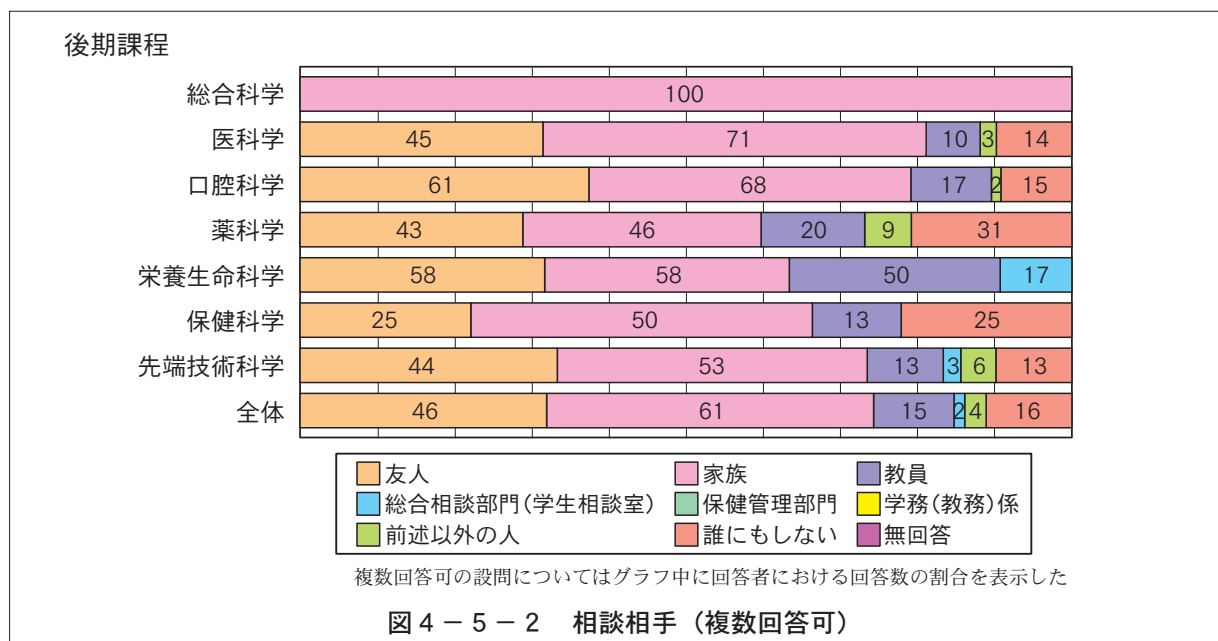
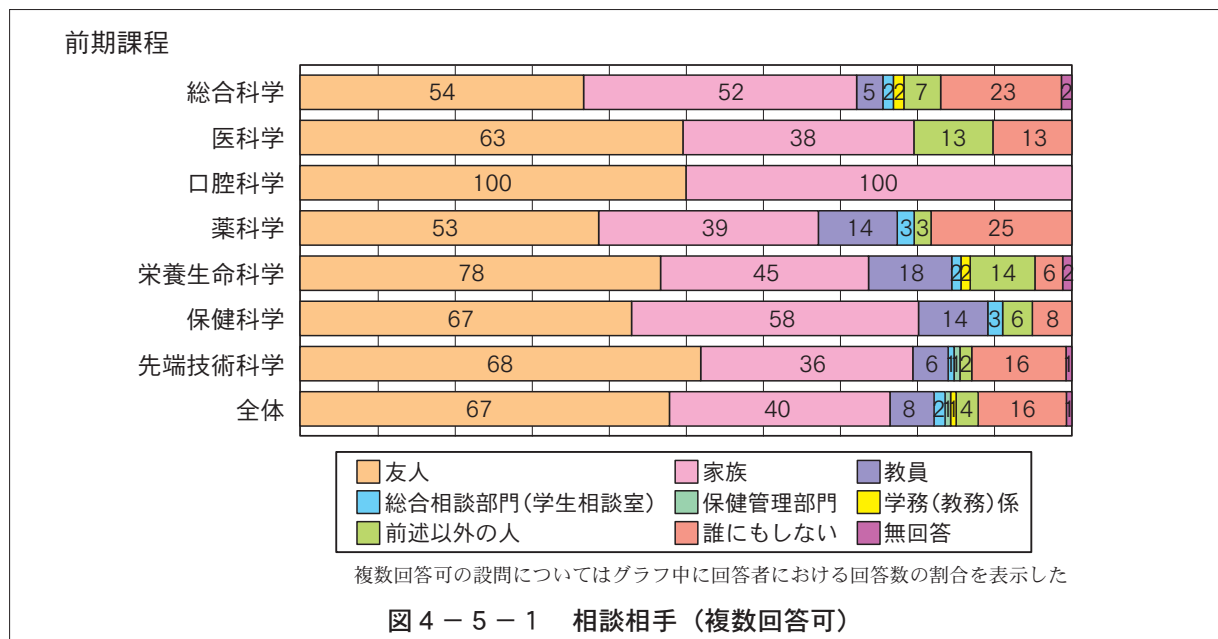
4-4 主な悩みと不安 (図4-4-1, 図4-4-2)

主な悩みと不安では、経済状態、勉学、就職や進路などが多くなっており、学生特有の現実的な問題を主な悩みとしている。こうした問題は、特に、後期課程の学生で多くなる傾向が認められる。逆に、約3割の学生で、悩みがないと答えていることにやや驚きがある。政治や経済、自然災害など不安定さが増している社会状況の中で、それらに対応できる知識や危機感が欠落していることへの心配がある。留学生では経済状態と勉学が悩みの過半数を占め学生全体での割合に比べかなり高く、大学としてこうした点への支援を強化していく必要がある。



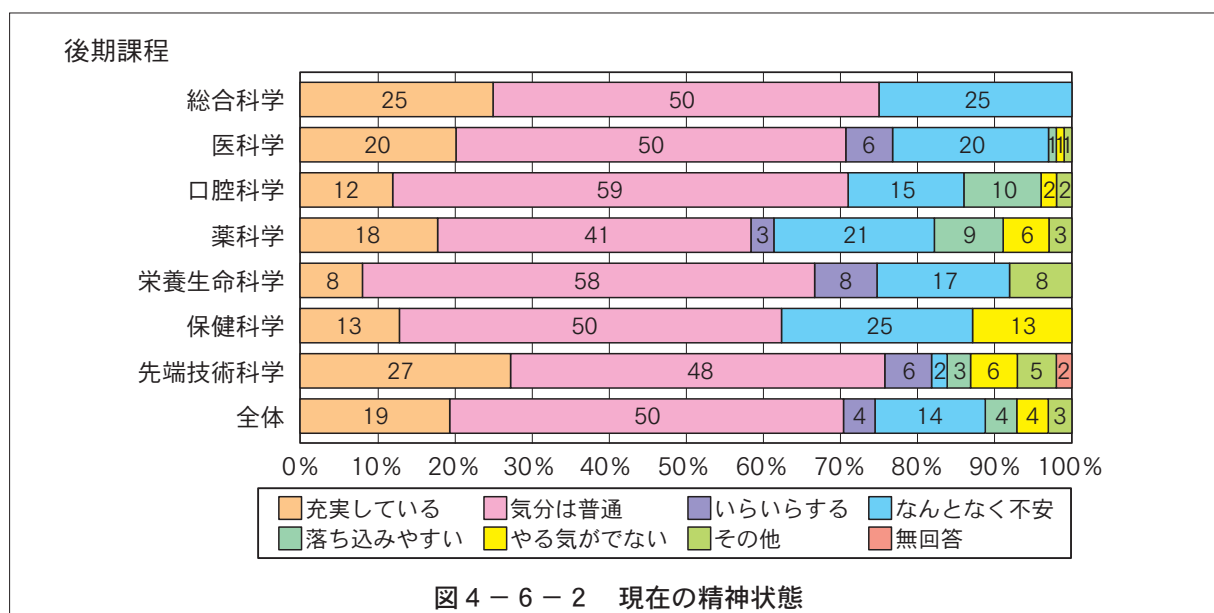
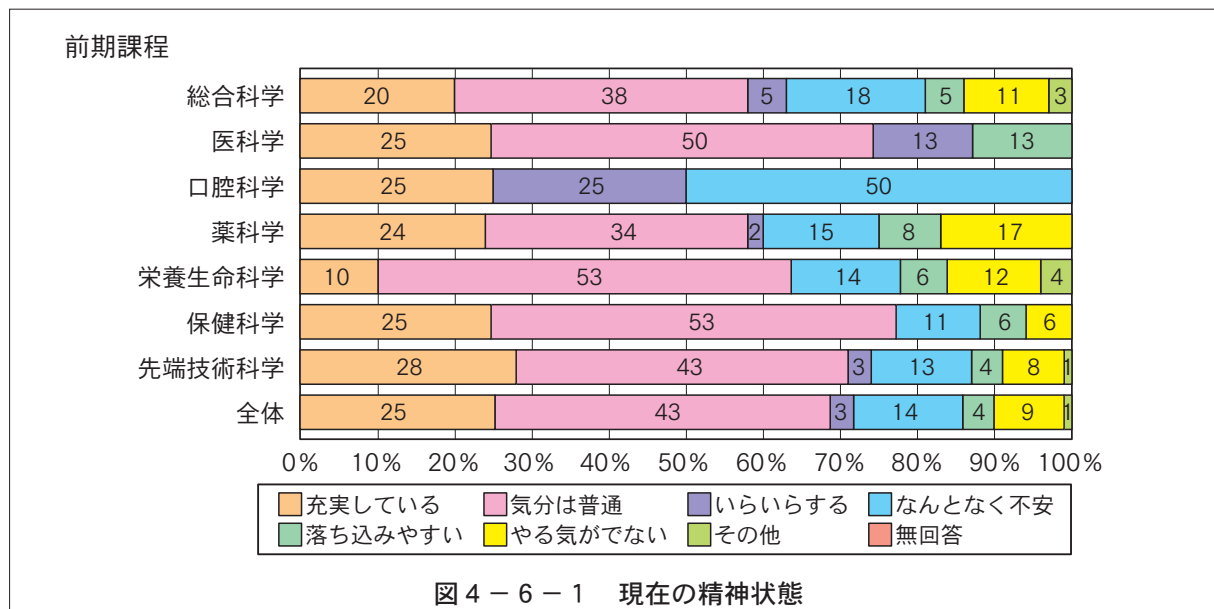
4-5 相談相手 (図4-5-1, 図4-5-2)

前期課程の学生は友人に相談する割合が最も多く次いで家族となっている。前期課程においては大学時代と連続して、クラスや学年で身近に相談できる友人が多いからだと思われる。しかし後期課程になると相談相手で最も多いのは家族となり、周囲に相談できる友人が少なくなってくると思われる。学務係や総合相談部門など学内の相談機関の割合が少ないのは敷居が高いこともあるかもしれないが、悩みの多くが大学の対処を希望するような問題ではないからかもしれない。



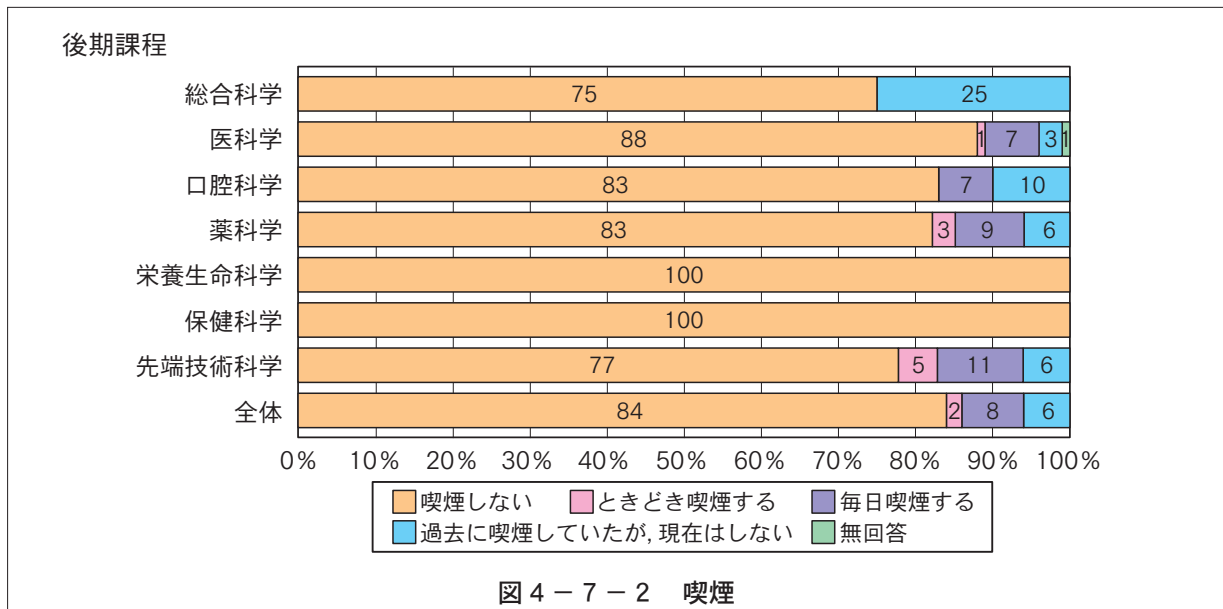
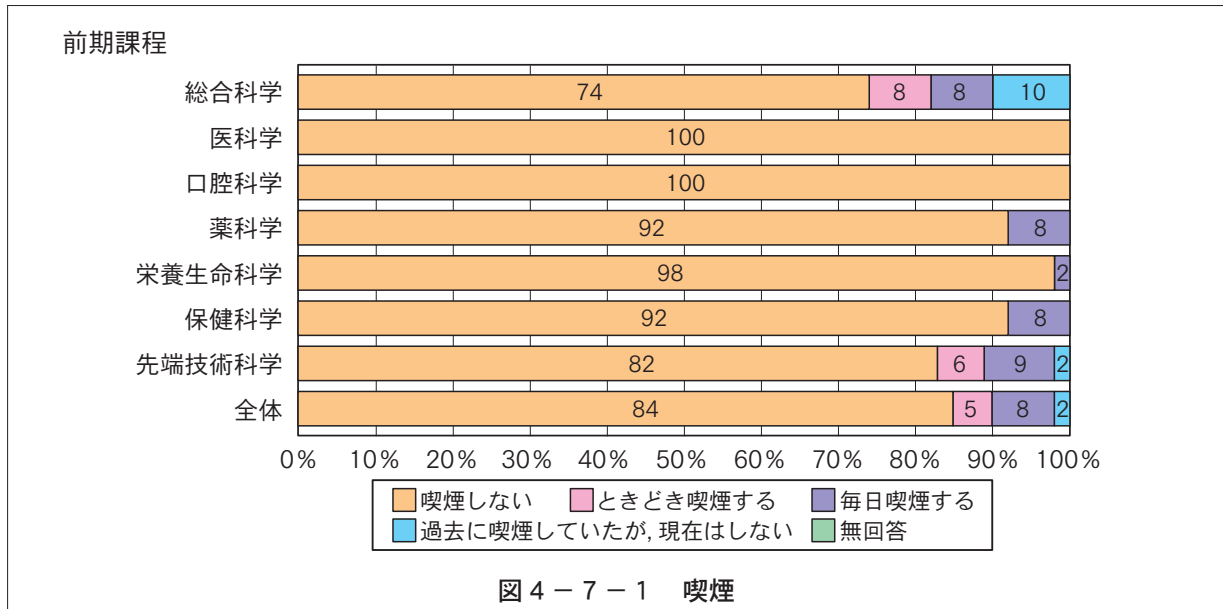
4-6 現在の精神状態 (図4-6-1, 図4-6-2)

前期・後期課程の学生ともに約70%の学生が充実しているまたは気分は普通と回答しており、特に問題のない状態と考えられる。ただし約10%の学生が落ち込みやすいまたはやる気が出ないと回答しており、うつ的傾向の学生も少なからず存在すると考えられる。周囲の学生や教員がそうした変化になるべく早く気づき早い段階で相談や医療に誘導できるように心がけたい。



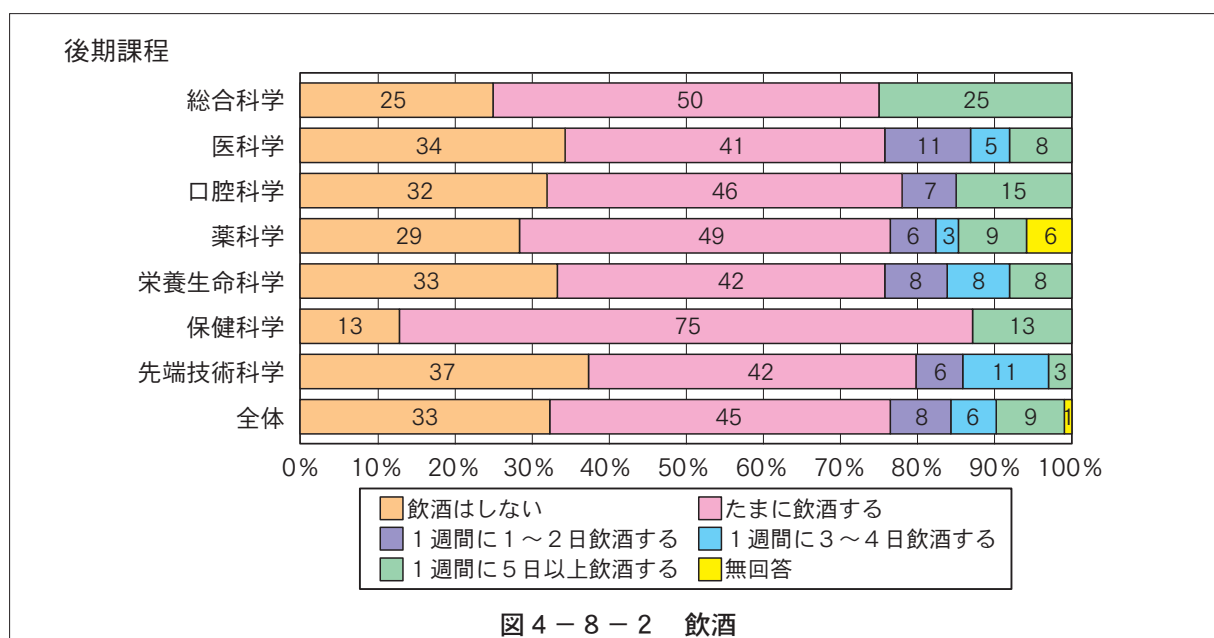
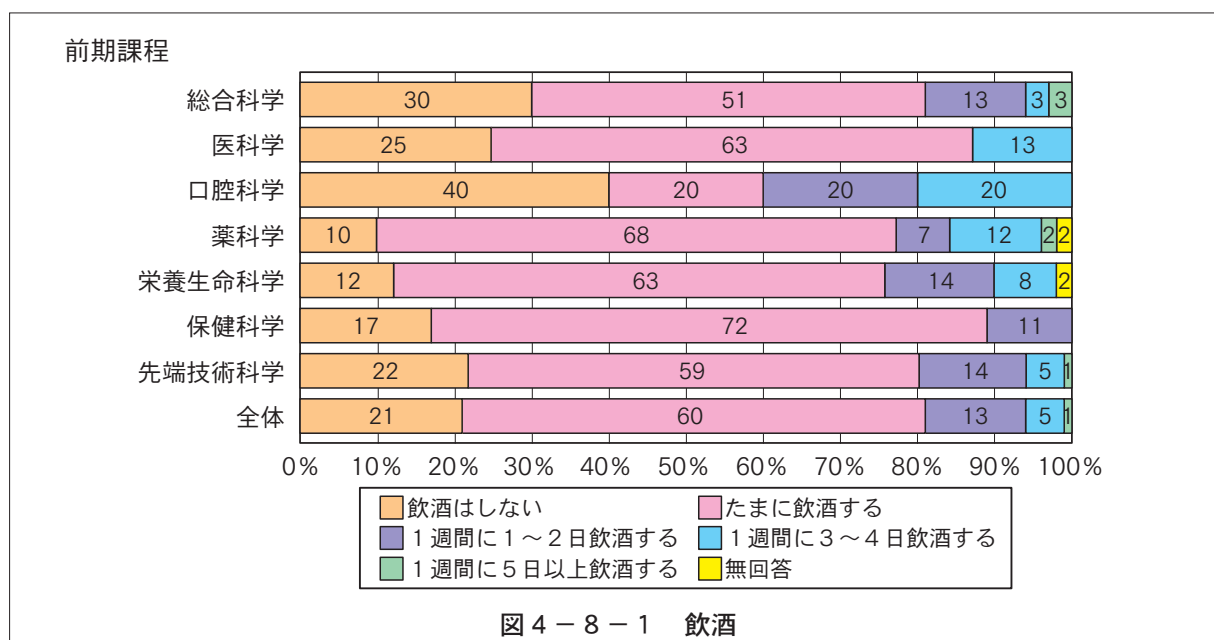
4-7 喫煙 (図4-7-1, 図4-7-2)

喫煙率については年々減少傾向が続いており、前期・後期の学生も喫煙率は10%程度と一般の喫煙率と比較した場合はかなり低い状態となっている。しかし喫煙開始年齢の学生が1人でも喫煙を開始することが問題であり、さらに禁煙の啓蒙を続けていく必要がある。大学でも敷地内禁煙や建物内禁煙など禁煙への対応が行われているため、喫煙者が喫煙場所以外で喫煙を行ったり、吸殻を路上に捨てたりするマナーの悪化も見受けられ、受動喫煙の危険性もなくなっているとはいえない。



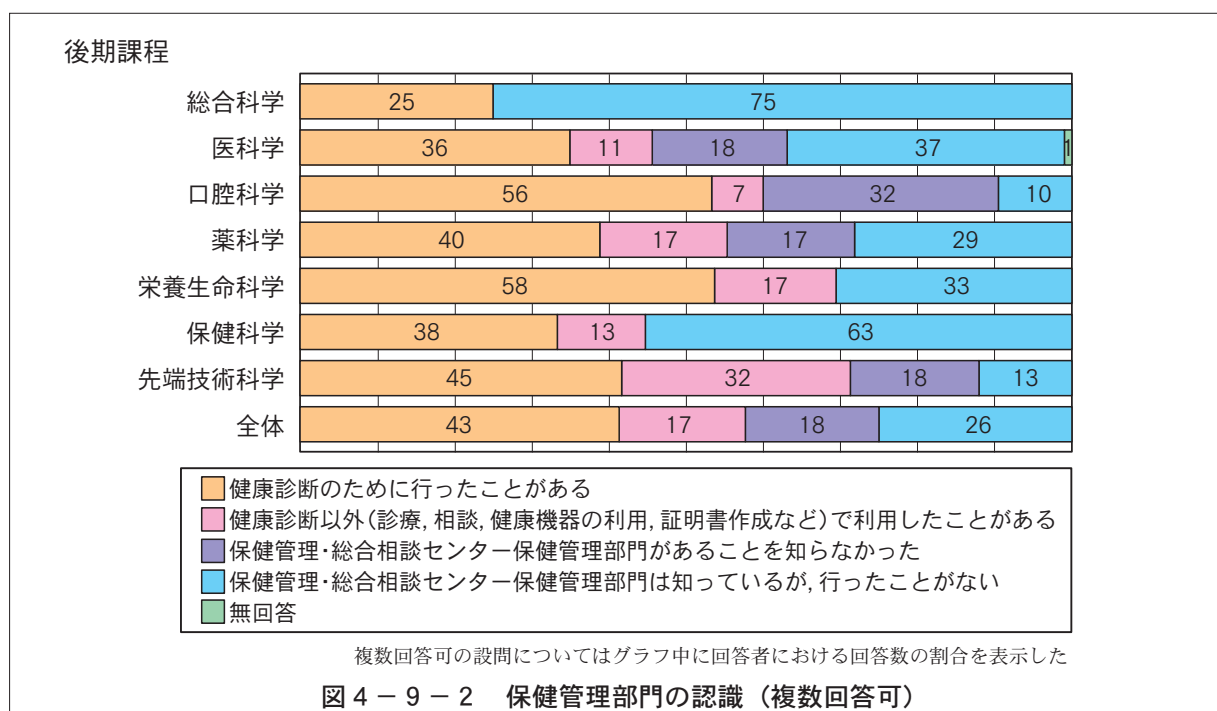
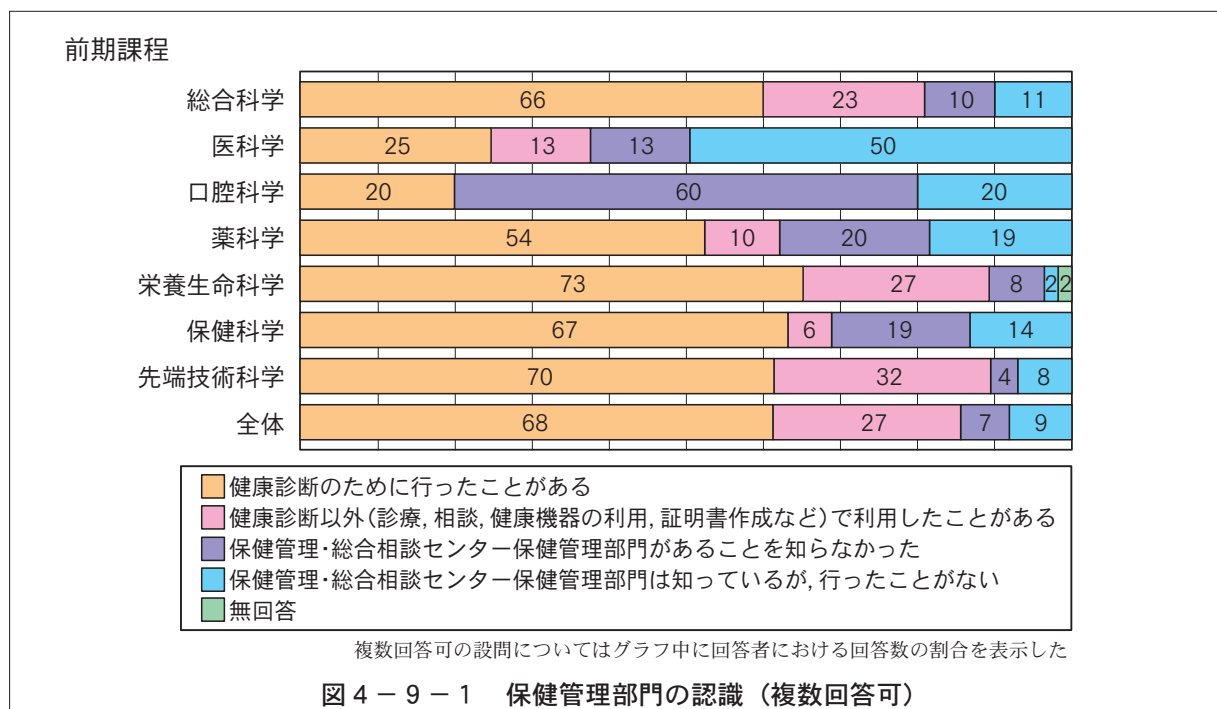
4-8 飲酒 (図4-8-1, 図4-8-2)

1週間に5日飲酒すると回答した学生は前期課程で1%, 後期課程で9%とごく少数であり, 多くの学生が飲まないまたは飲み会等での機会飲酒であり, 日常的な飲酒習慣がなくなっていることが見て取れる。ただ一方で飲みなれていないため機会飲酒で急性アルコール中毒になる危険性も高まっているとも思われその点については注意が必要である。飲酒については適量であれば, 飲まないよりも飲むほうがある種の疾患の発生率を低下させるとのデータもあり, 健康への善悪についてはいまだに議論の余地がある。



4-9 保健管理・総合相談センターの認識 (図4-9-1, 図4-9-2)

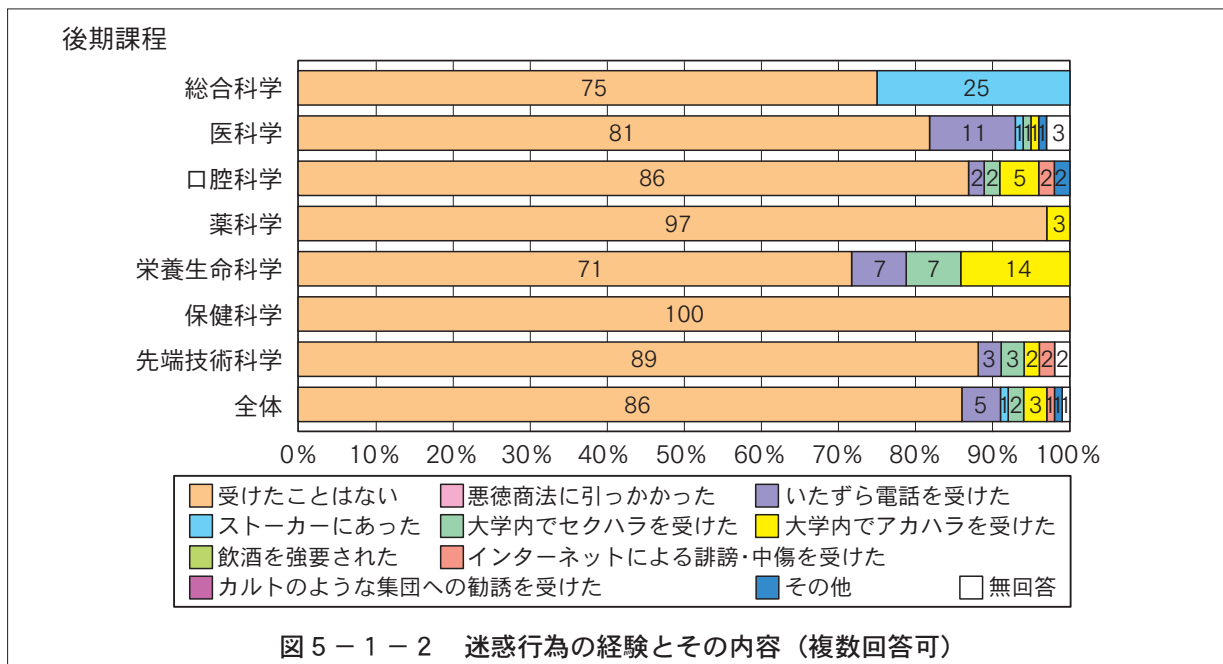
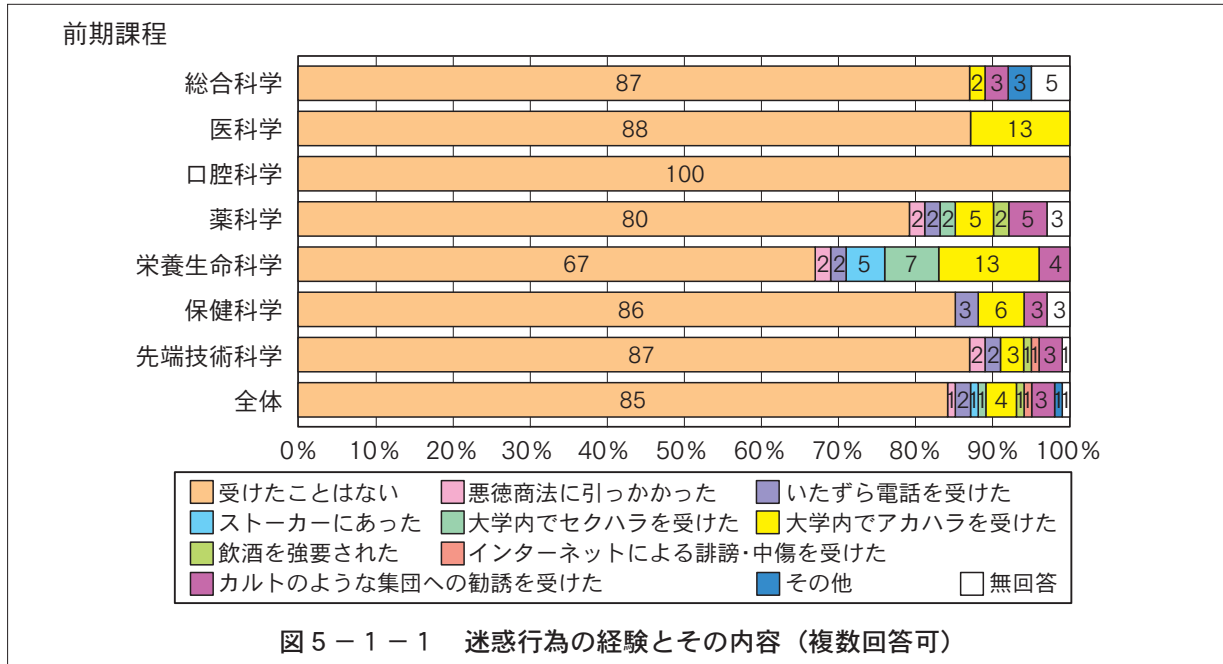
学部1年生の健康診断の受診率がほとんど100%に近いため、当大学から進学した学生は少なくとも1度は利用したはずである。このことを考慮に入れるとセンターに行ったことがない学生は非常に少ないはずであり、この統計結果には疑問が残り、健康診断がセンターの業務との認識がないのではないかとと思われる。また毎年入学時のオリエンテーションでセンターの紹介を行っており、基本的にセンターを知らないはずはなく、いつの間にか忘れてしまったということかもしれない。留学生では前期課程の学生より逆に後期課程の学生がセンターを多く利用しており、「在留期間が長い」、「就職等で必要」等が理由として挙げられる。



第5章 学生生活上の問題点について

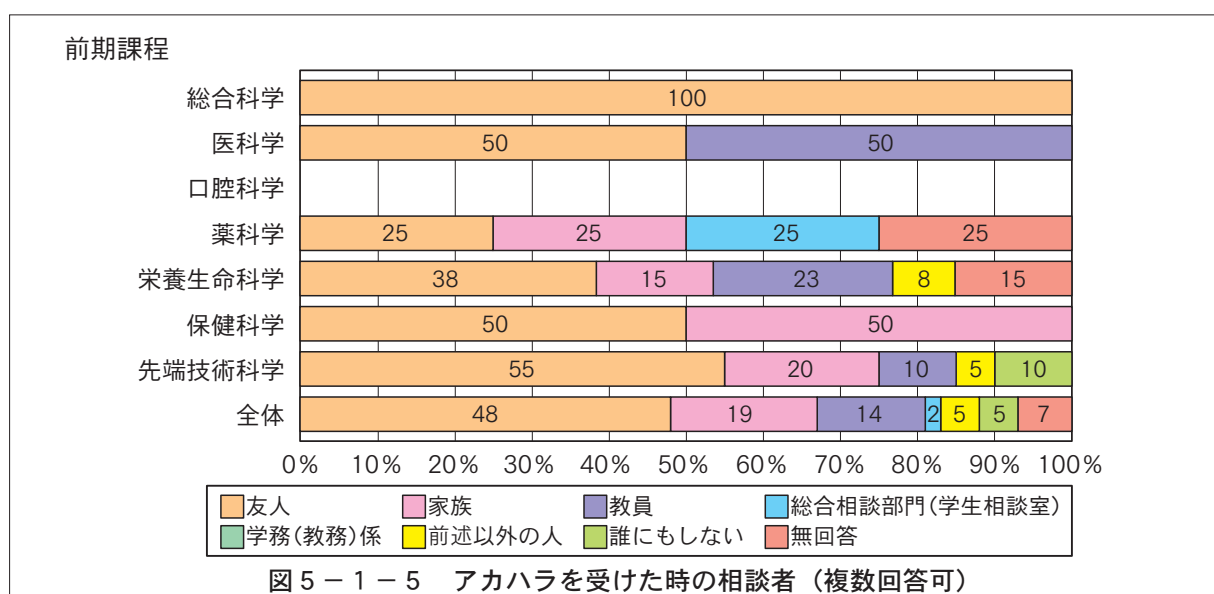
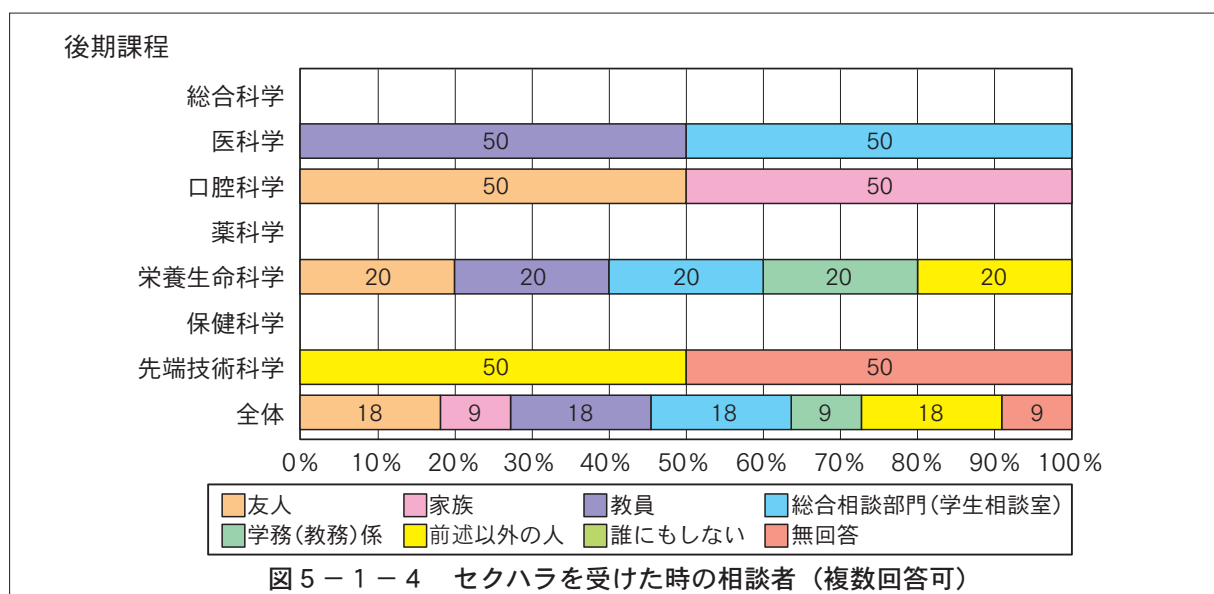
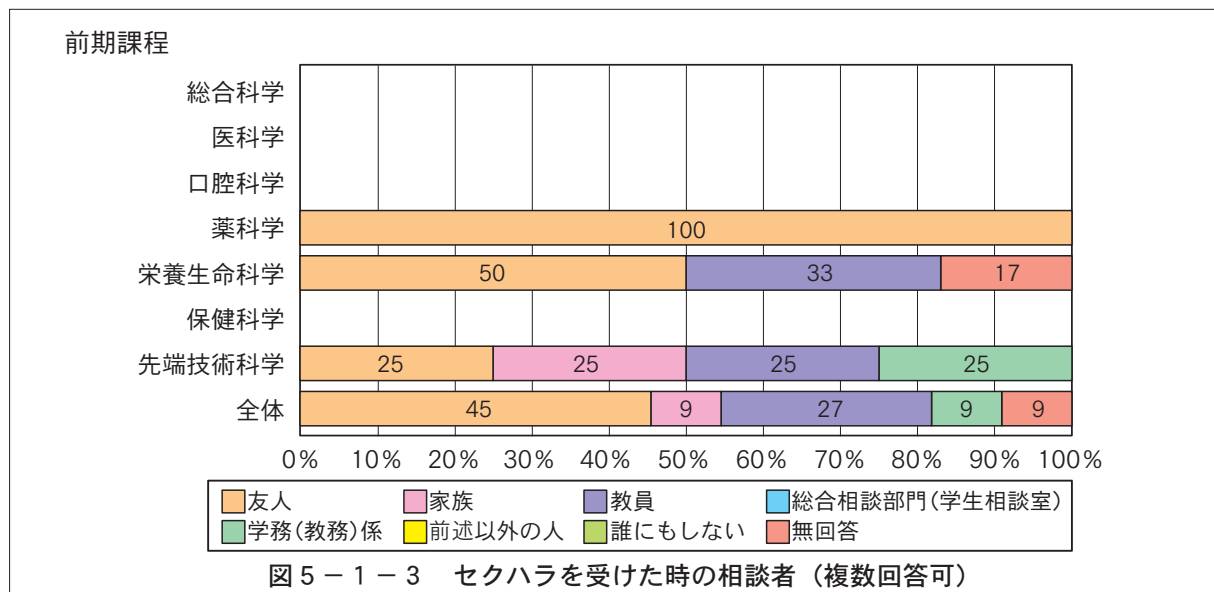
5-1 迷惑行為 (図5-1-1～図5-1-6)

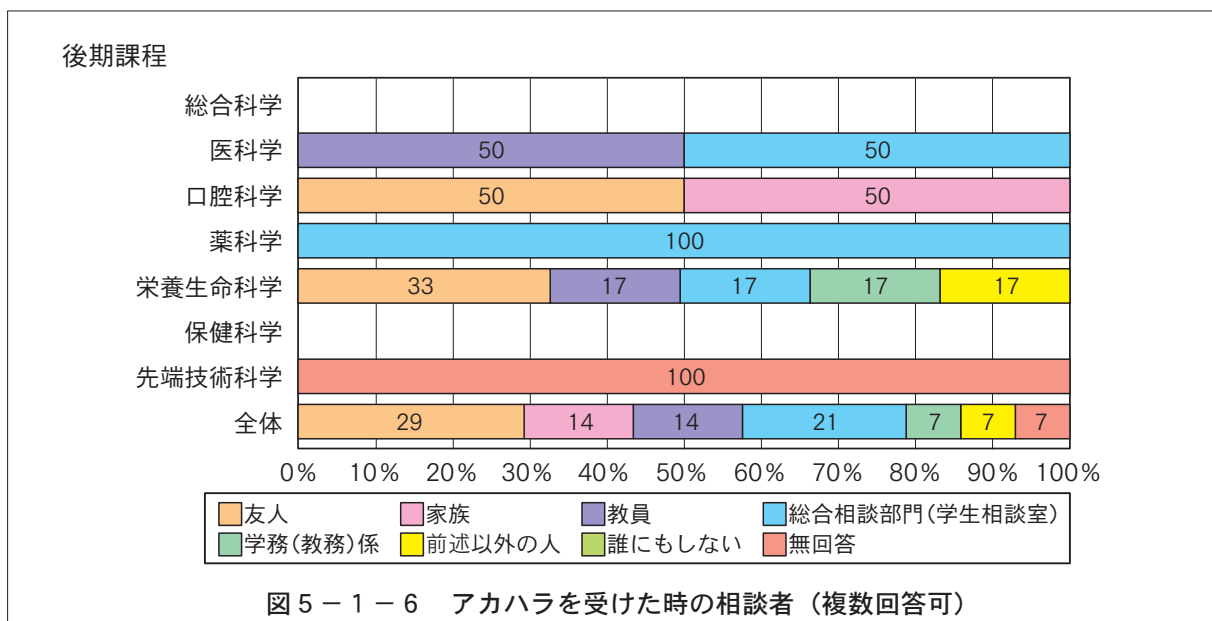
学生全体では約15%の学生が何らかの迷惑行為を受けていることが明らかとなった。セクハラやアカハラについては啓発活動や学内での防止活動も行われているが、根絶することはなかなか困難であるといわざるを得ない。またインターネットによる誹謗・中傷を受けたとする回答もあり、今後EメールやSNSでの迷惑行為が増えることへの注意が必要である。



セクハラを受けた時の相談者として、前期課程の学生で最も多いのは友人であるがその次に多かったのは教員であり、一般的な悩み相談で割合の高い家族が少なく相談内容として家族を選びにくい事情がうかがえる。後期課程では、身近に相談できる友人が少なくなるような事情も推測でき、教員や総合相

談部門，学務係など学内にある相談部署を利用する割合が増えてきている。



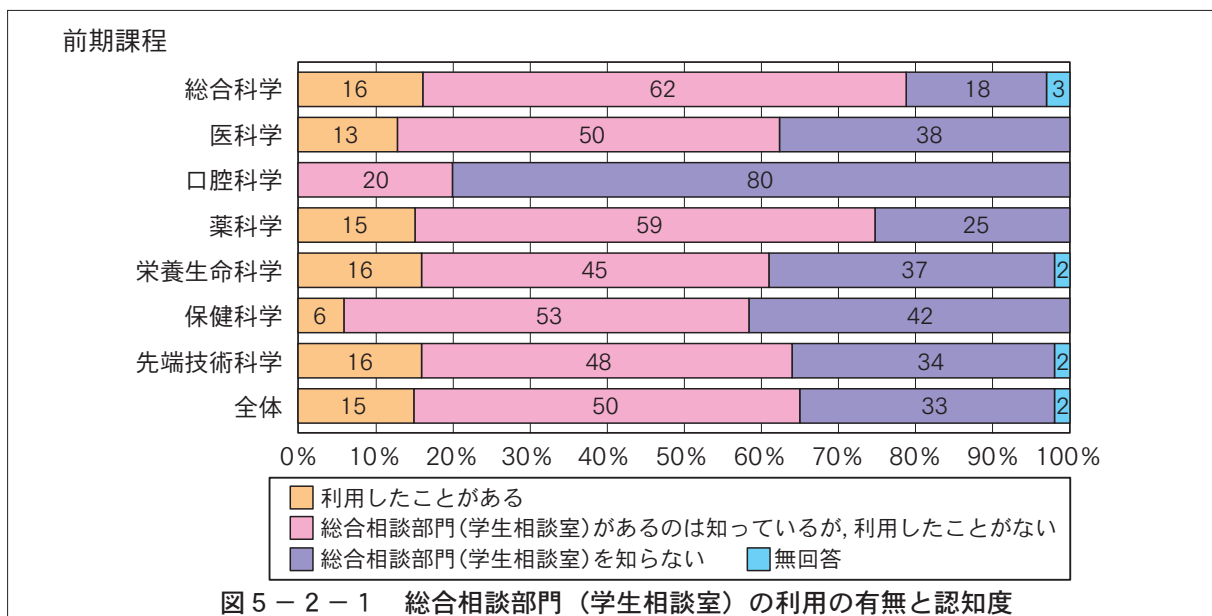


前期課程の学生では、アカハラの相談は友人、家族、教員の順になっておりセクハラと異なり家族の割合が増えている。後期課程の学生では、友人、総合相談部門、同率で家族と教員となっており、前期課程の学生とはやや異なる相談者を選択している傾向が認められる。特に総合相談部門への相談が多いことは、事情が深刻化していることも推測され注意が必要である。

5-2 総合相談部門（学生相談室）の利用 (図 5-2-1～図 5-2-4)

総合相談部門を利用したことがある学生は15%程度と前回調査とほとんど変わっていない。総合相談部門は保健管理部門と違って何か困ったり悩みが生じたりしたときに初めて利用する機関であるのでこの利用割合はかなり高いと考えられる。蔵本地区では総合相談部門の活動が常三島地区より遅れて開始されたためやや認知度が低く蔵本地区の学部で利用率が低い傾向があり、こちらについては改善の余地がある。留学生では前期課程の学生で28%、後期課程で25%であり言葉の壁があることを考慮するとかなり高い数字である。ただこちらも蔵本地区での利用率が低く認知度の向上が必要である。

利用後の満足度に関しては多くの学生が満足であるまたはどちらかといえば満足であると回答してお



後期課程

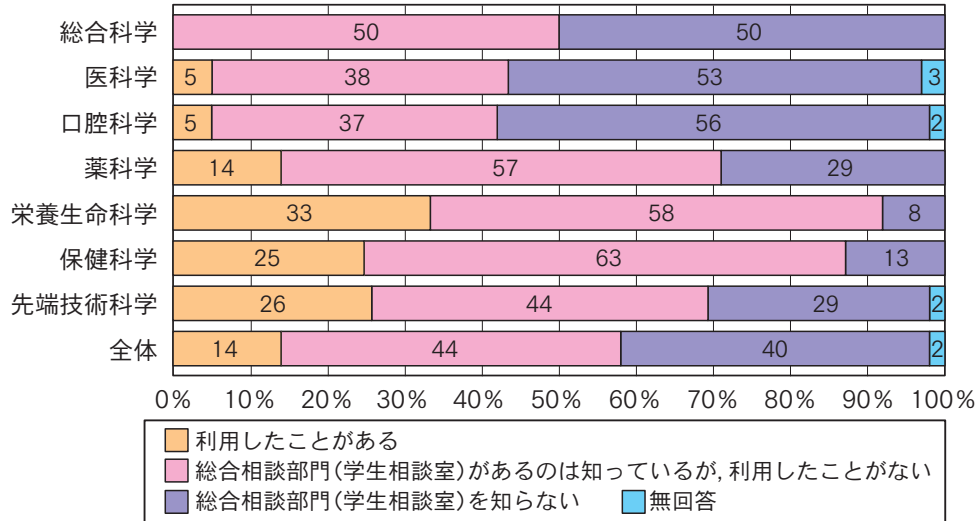


図5-2-2 総合相談部門(学生相談室)の利用の有無と認知度

前期課程

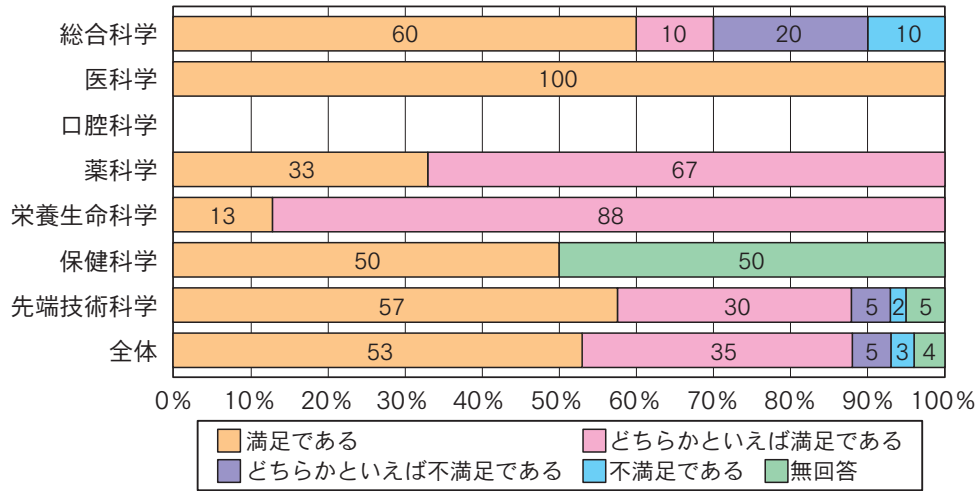


図5-2-3 総合相談部門(学生相談室)利用後の満足度

後期課程

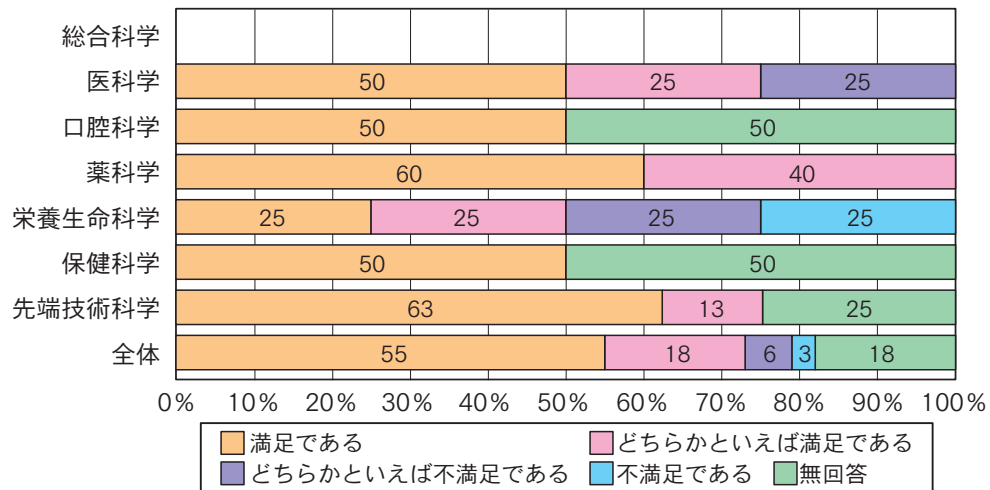
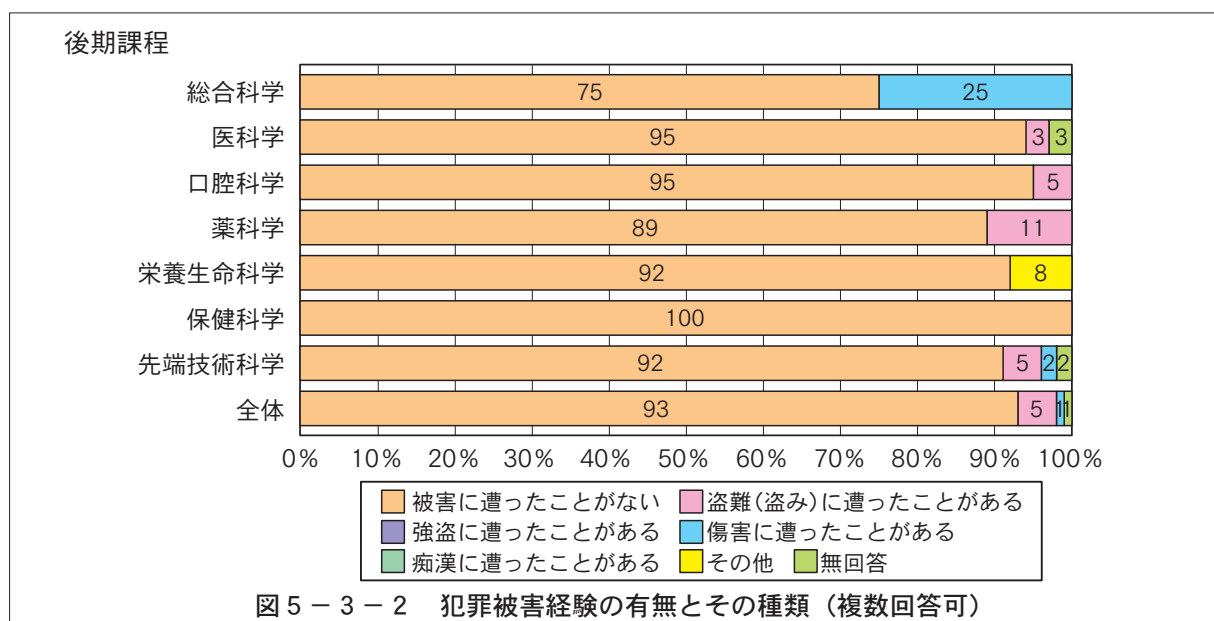
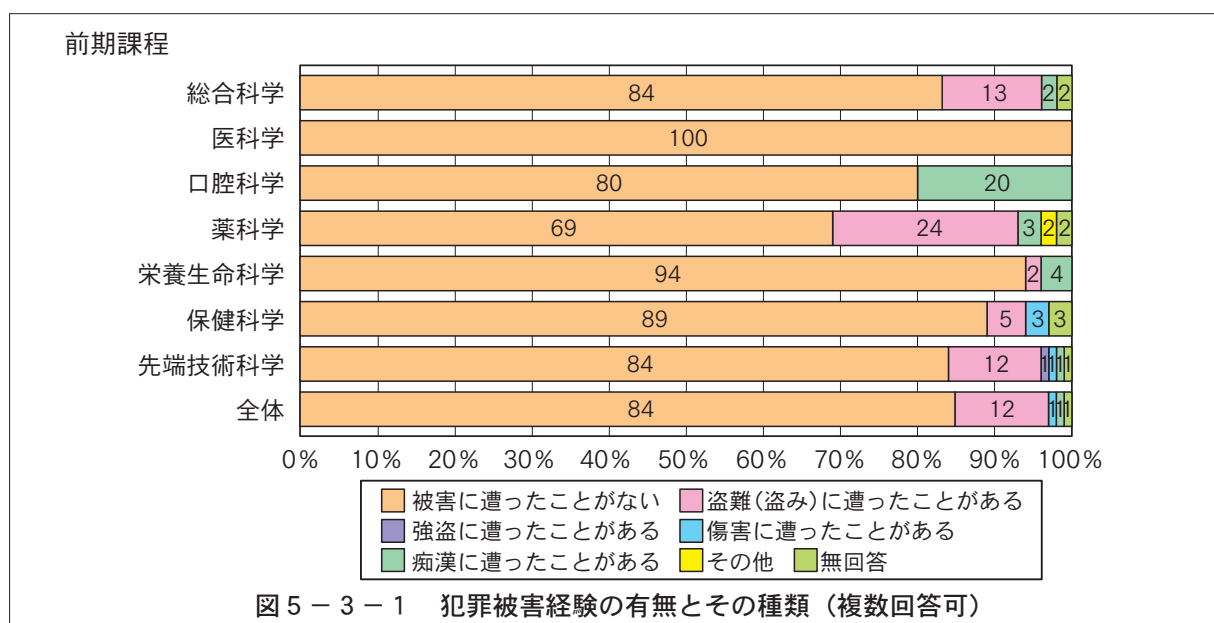


図5-2-4 総合相談部門(学生相談室)利用後の満足度

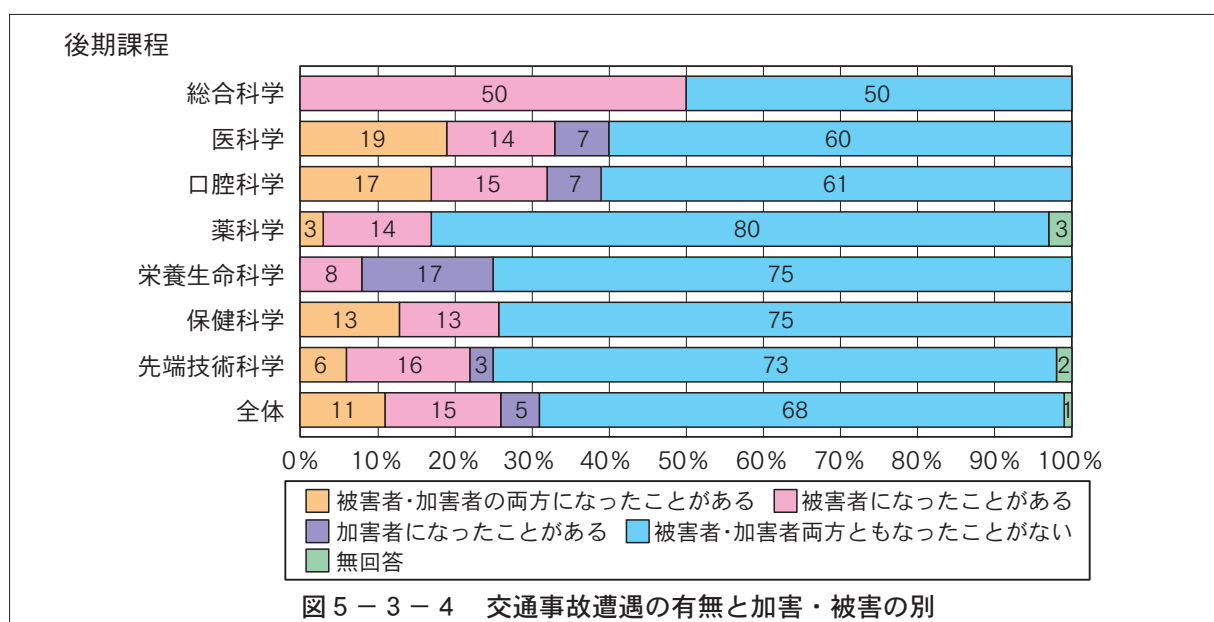
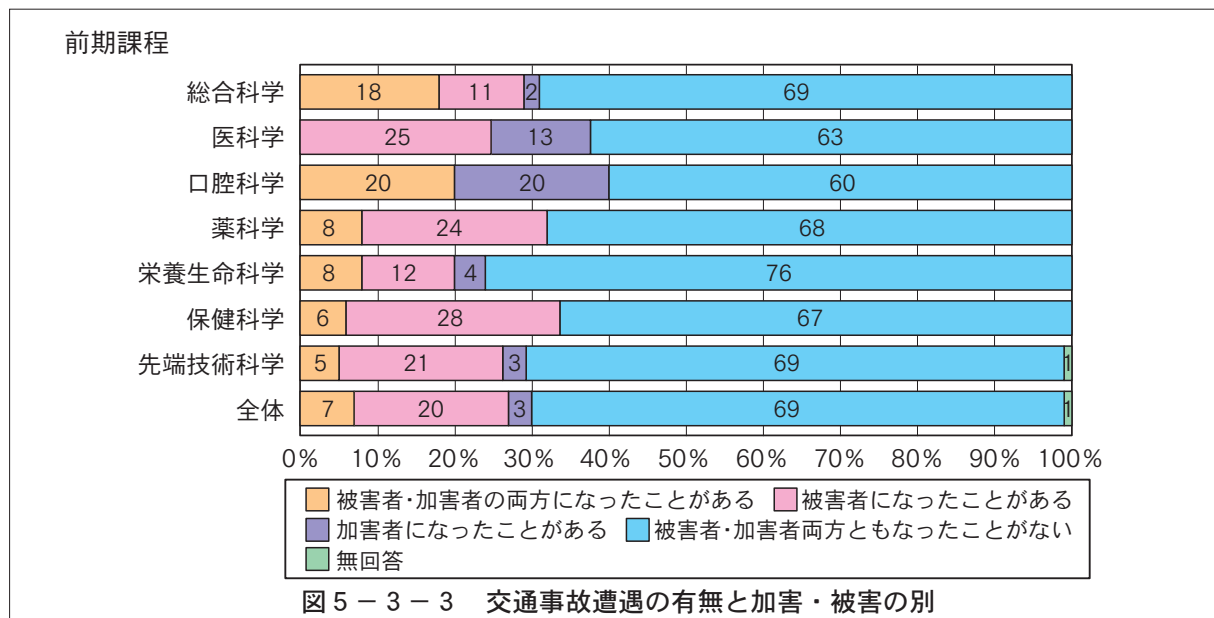
り、カウンセリングによる効果は十分にありとされる。ただ満足であると回答した前期課程の学生は薬学科で33%、栄養生命科学で13%と常三島地区の学生と比較してやや低く利用率と合わせて蔵本地区での相談の充実が求められる。留学生においても多数が満足と回答しており外国生活での不安解消に貢献している。

5-3 犯罪被害・交通事故・違法薬物使用 (図5-3-1～図5-3-6)

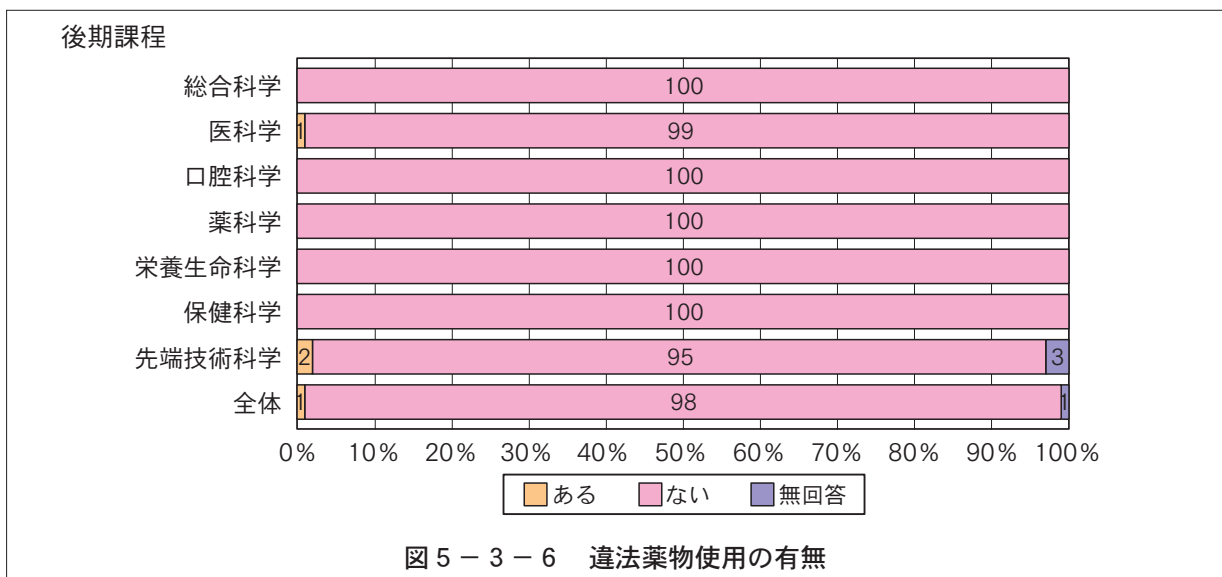
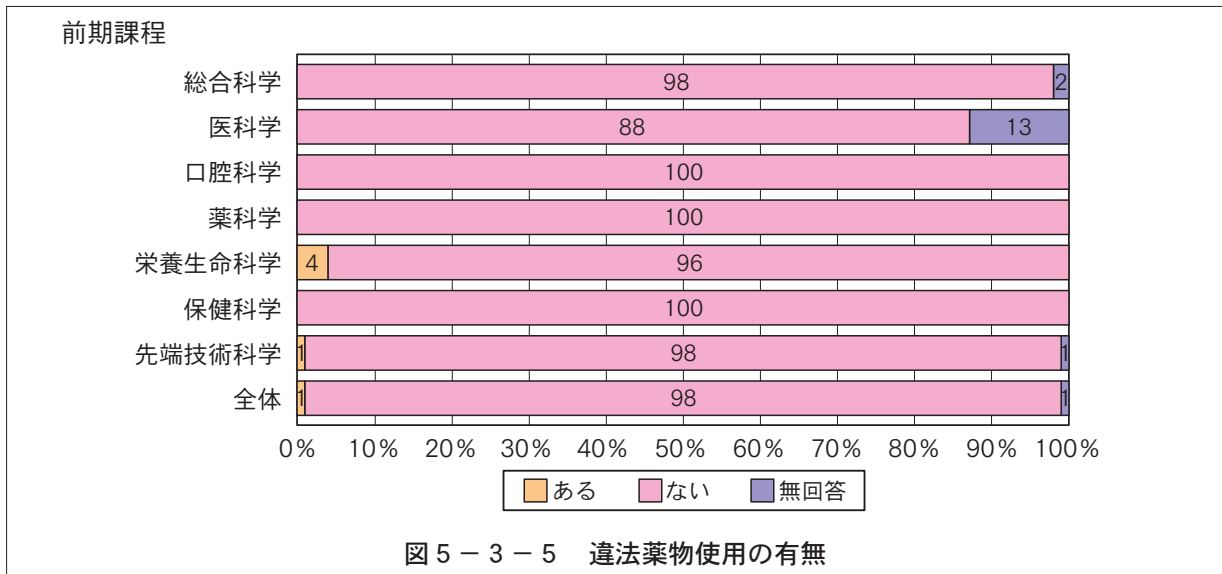
事件事故に関しては「盗難(盗み)に遭ったことがある」が最も高く前期課程の学生で12%、後期課程の学生で5%となっており、戸締りを十分にせず外出することも多いのかもしれない。また強盗、傷害、痴漢など身体に危害が及ぶような被害も認められており、学生へのさらなる注意喚起が必要である。



交通事故に関しては全体で30%もの学生が交通事故を経験している。交通事故の加害者となったケースもかなり多いため大変問題が多いと考えられる。学生の自転車やバイクの運転マナーの悪さに関しては日ごろ実感しており、自転車での転倒で保健管理部門を受診する学生も多い。ながらスマホ等で周囲への注意がおろそかになっている学生も多く重大事故につながる恐れがある。前期課程の留学生では27%が交通事故を経験し加害者となった割合も高く（15%）、交通ルール等への不案内が影響している可能性がある。

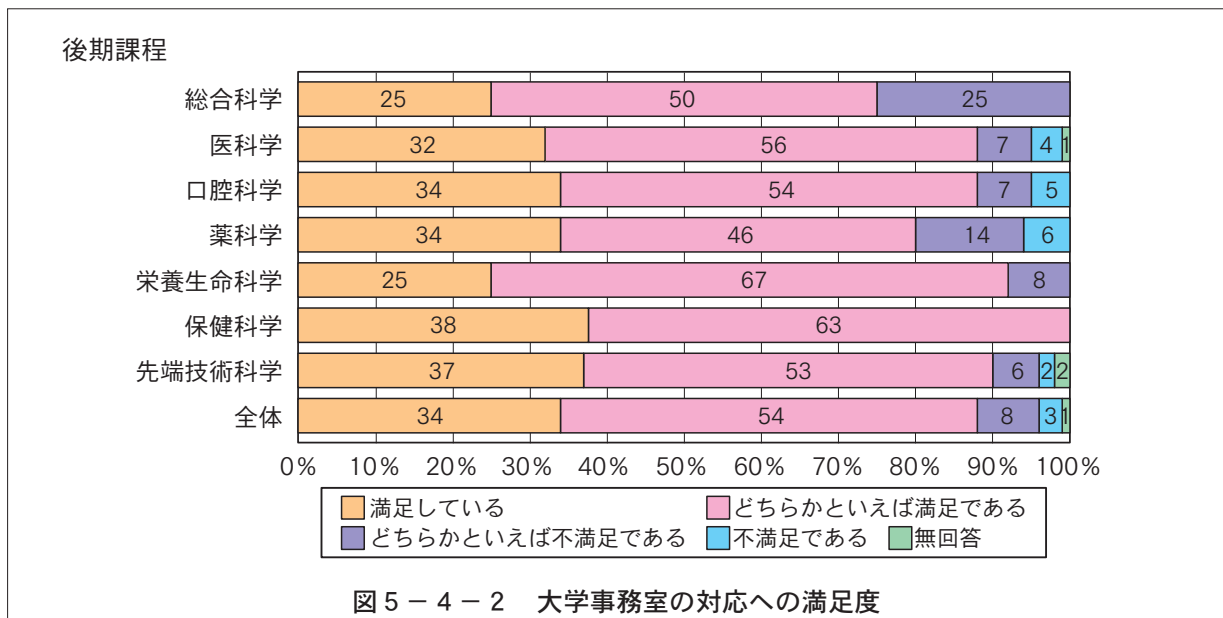
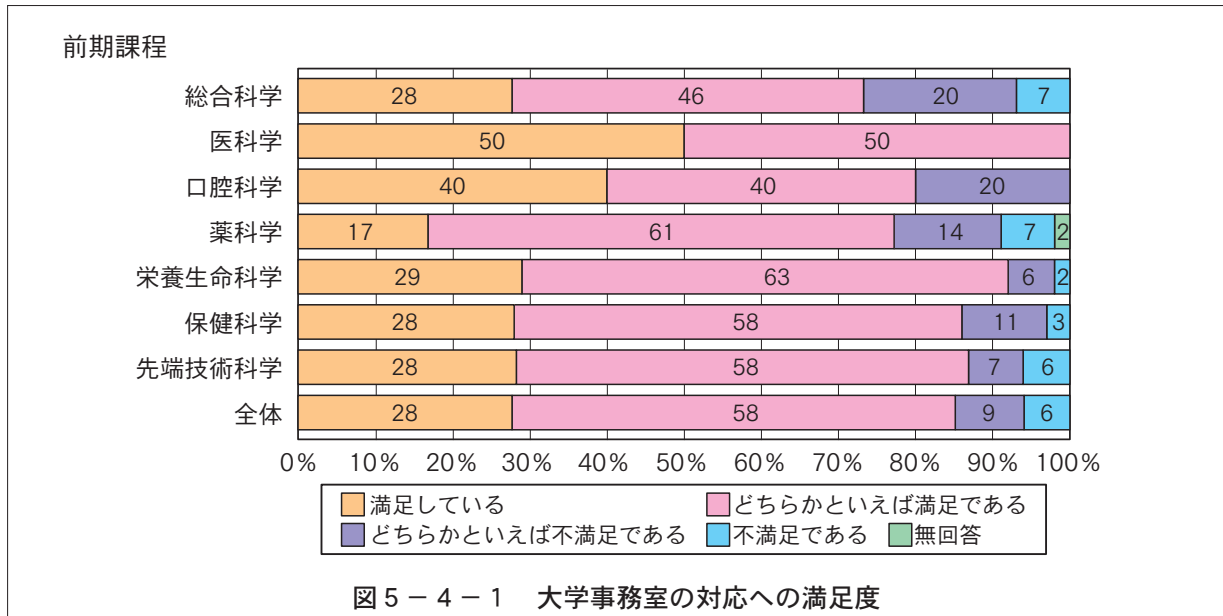


違法薬物の使用についてありと回答した学生がごく少数ながら存在し、違法薬物を入手しようとするれば入手できる状況が存在することを示唆している。最近は直接購入するという入手方法だけでなく闇サイトなどからネット経由で購入することもあるのではないだろうか。入手経路を完全に断つことができない以上、薬物の危険性を繰り返し周知させていく活動が必要である。



5-4 大学事務室の対応 (図5-4-1, 図5-4-2)

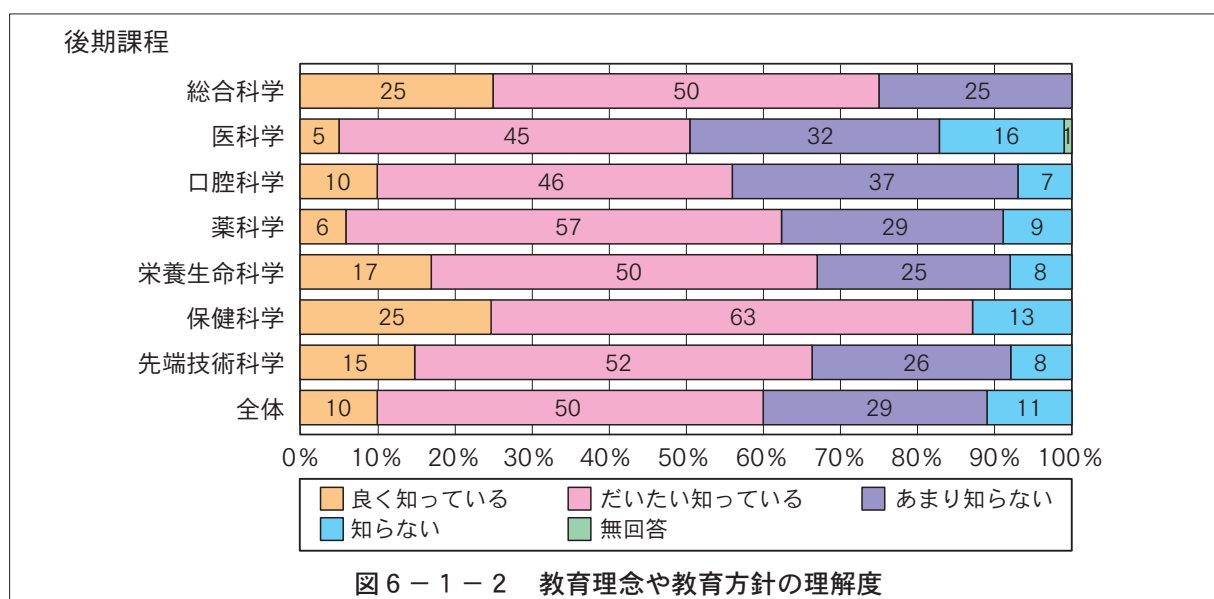
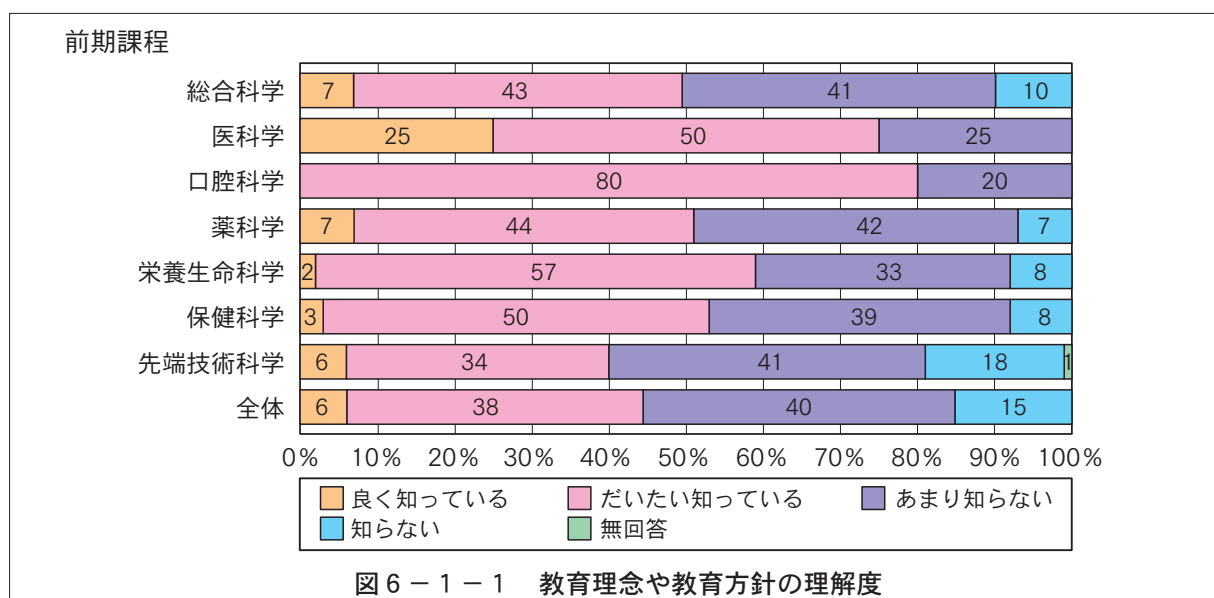
大学事務室の対応について満足しているまたはどちらかと言えば満足していると回答している学生は前期課程で84%, 後期課程で88%であり, 前回調査と大差はない。学部間でやや満足度の差があるようにも見受けられるので満足度が低かった学部においては学生への対応改善に努力をしてもらいたい。留学生への対応についても満足またはどちらかと言えば満足と回答した割合が90%以上であり好感を持たれていると考えてよい。



第6章 修学状況について

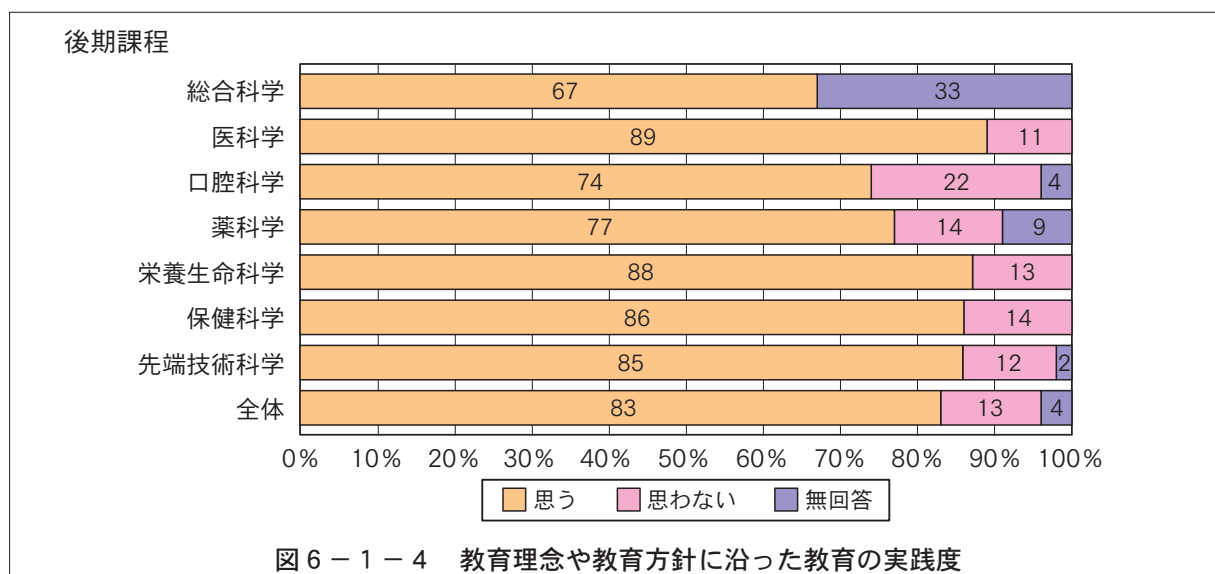
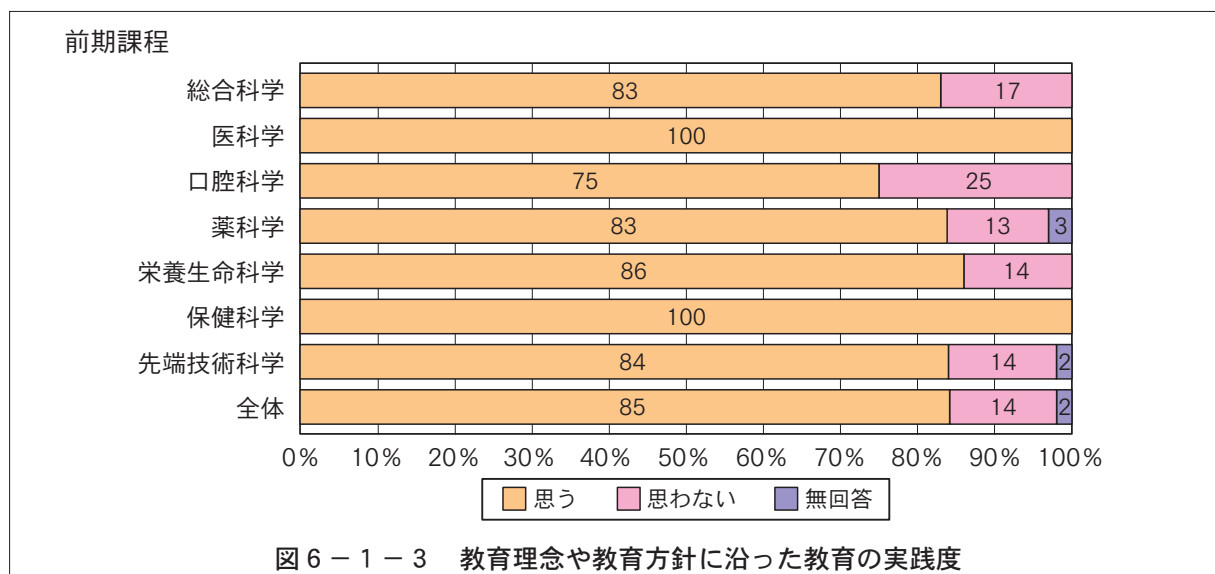
6-1 教育理念・方針と教育に対する満足度 (図6-1-1~図6-1-8)

前期課程において、所属する教育部の教育理念や教育方針を知っている割合は44%（良く知っている：6%，だいたい知っている：38%）であり、他の回答も含め前回の第6回調査と同様の結果であった（図6-1-1）。教育部別に見ると、先端技術科学を除く教育部は5割から8割と概ね教育理念や方針を知っていると判断できる。先端技術科学では4割にとどまり、過去の調査とさほど変わらず、全体母数の7割を占める先端技術科学での周知活動が必要である。また、後期課程では、全体として60%の学生が認知しており、第6回調査から7ポイント上昇した（図6-1-2）。教育部別に見ると、全体母数の3割を占める医科学でのより一層の周知活動が必要であると思われる。留学生については、「良く知っている」または「だいたい知っている」と回答した割合が、前期課程で58%、後期課程で69%であり、概ね満足できる数値であった。



教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると

思うかどうかを尋ねたところ、前期課程では85%、後期課程では83%が「思う」と答えており（図6-1-3、図6-1-4）、前回の第6回調査と同ポイントであり、十分満足できる数値であると思われる。留学生については、「思う」と回答した割合が、前期課程で91%、後期課程で78%であった。後期課程のポイントが少し低いのが気にかかる。



教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は29%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生（62%）と合わせて91%であり（図6-1-5）、前回の第6回調査同様、十分満足できる数値であると思われる。ただ、口腔科学において、満足している学生が0であるところが少し気にかかる。後期課程では全体で89%がほぼ満足しており、こちらも十分満足できる数値であった（図6-1-6）。留学生については、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合は、前期課程で91%、後期課程で97%であり、こちらも十分満足できる数値であった。

図6-1-7、図6-1-8より、大学院に相応しいレベルの授業が「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合は前期課程（充分に行われている：39%、ある程度行われている：55%）、後期課程（充分に行われている：47%、ある程度行われている：48%）となり、前期課程で94%、後期課程で95%と、十分満足できる数値であった。留学生についても、「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合が、前期課程で95%、後期課程で98%と、こちらも十分満足できる数値であった。

前期課程

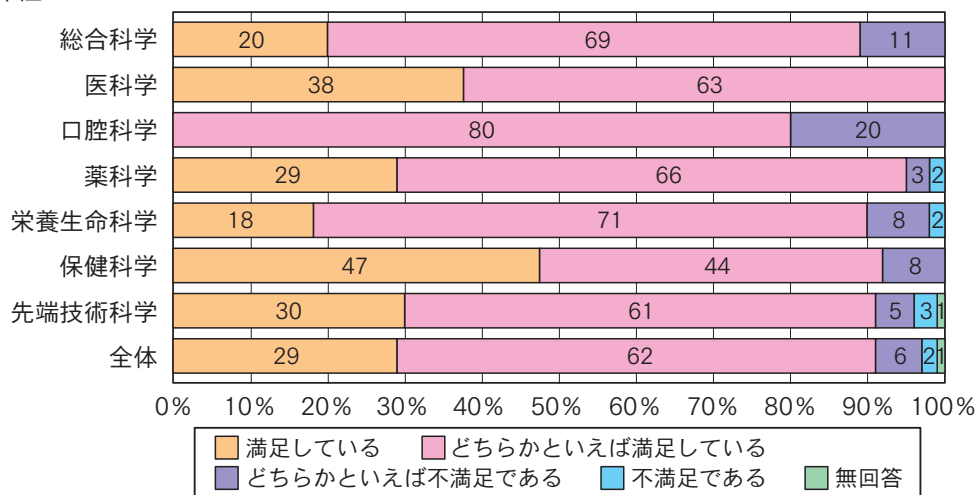


図 6 - 1 - 5 教育課程の満足度

後期課程

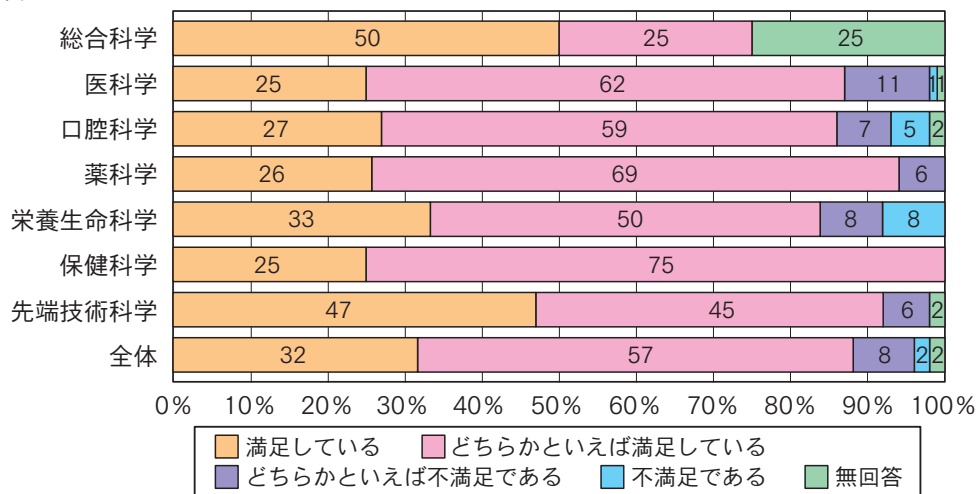


図 6 - 1 - 6 教育課程の満足度

前期課程

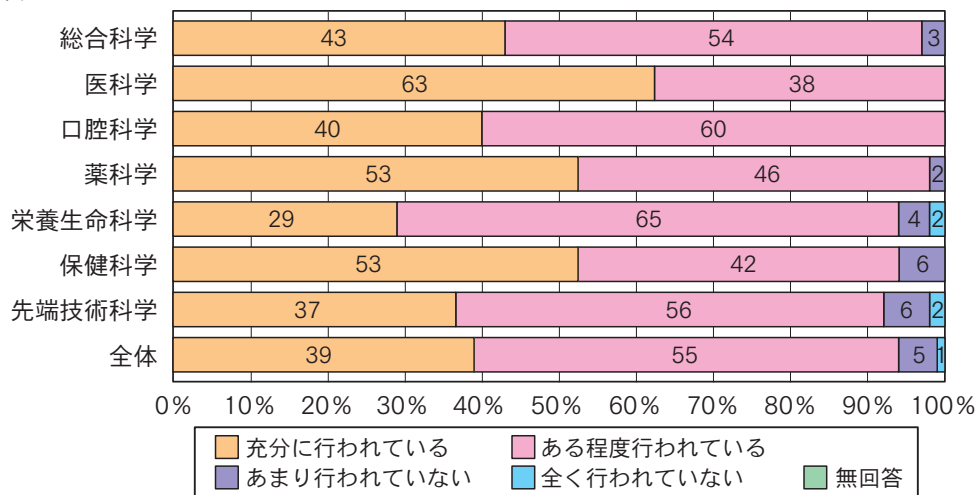
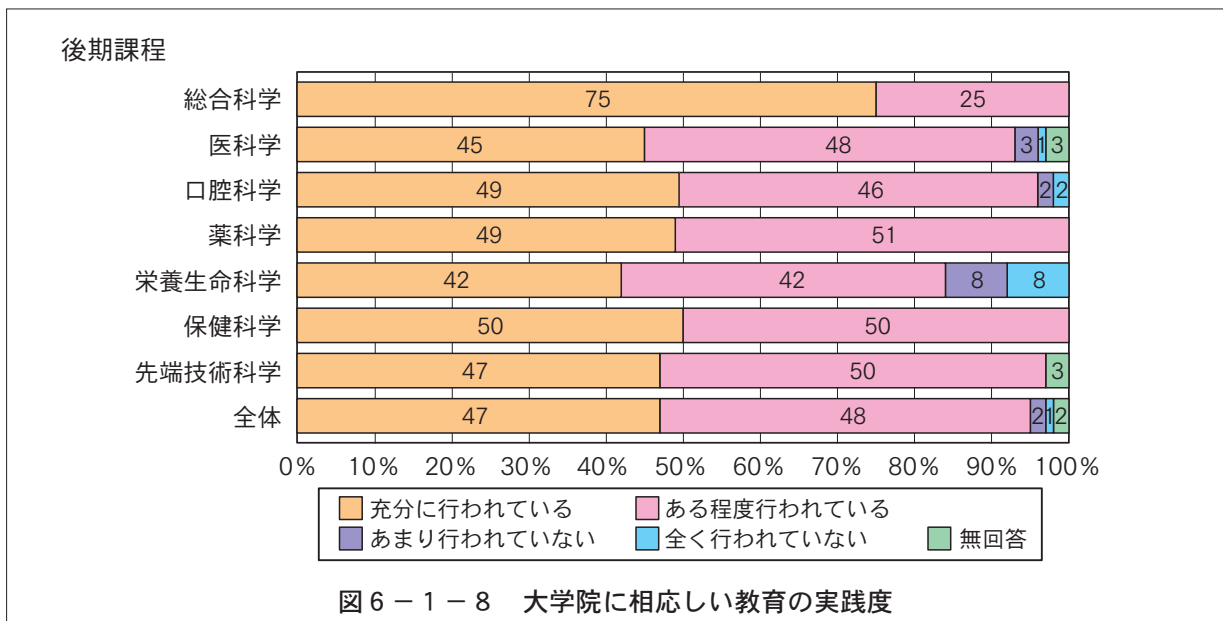
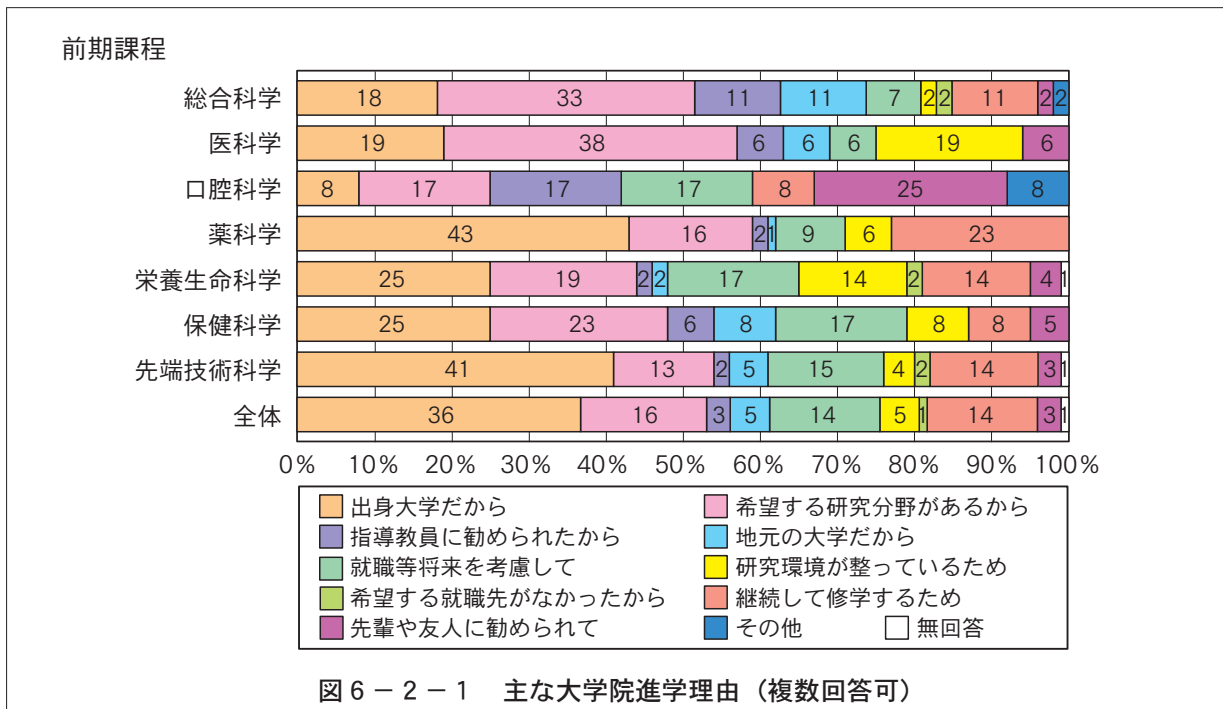


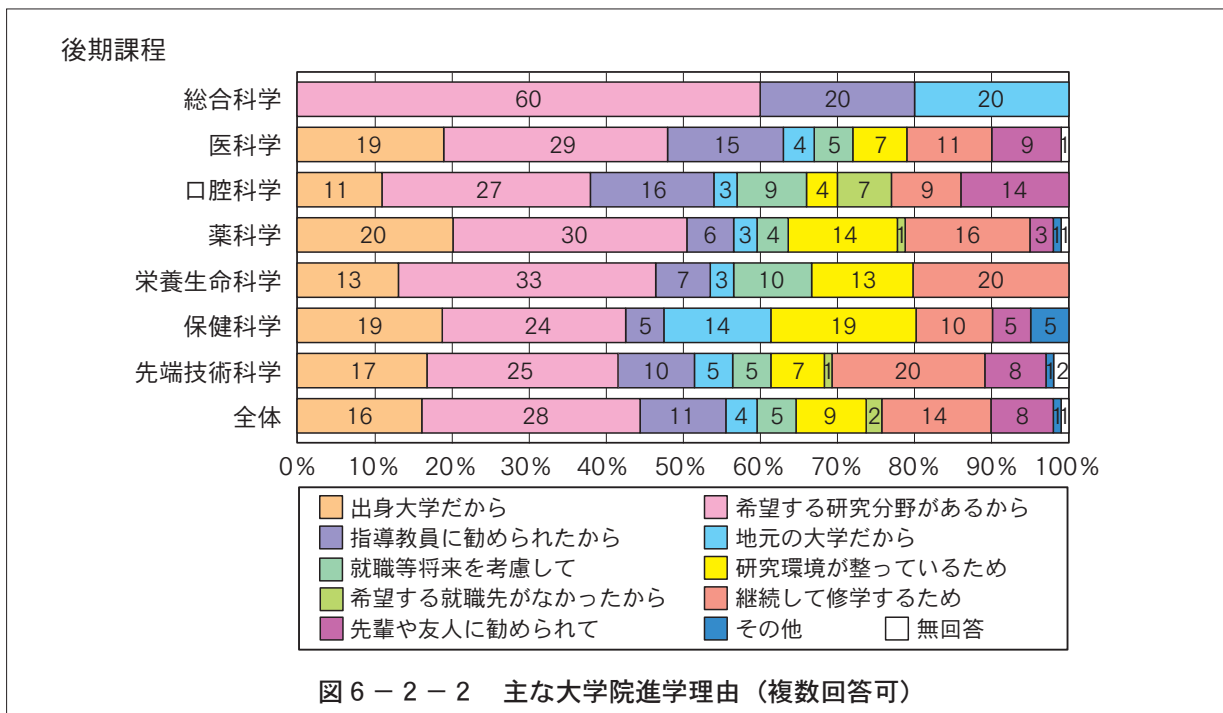
図 6 - 1 - 7 大学院に相応しい教育の実践度



6-2 本学を選んだ理由と目的 (図 6-2-1~図 6-2-10)

前期課程の学生の主な入学理由は、「出身大学だから」が36%、「希望する研究分野があるから」が16%、「就職等将来を考慮して」が14%となっており、第6回調査とほぼ同様の結果であった(図 6-2-1)。教育部別に見ると、薬科学と先端技術科学では、「出身大学だから」という理由が最も多い。総合科学、医科学、口腔科学では、「希望する研究分野があるから」という理由が最も多く、特に総合科学、医科学におけるその割合は第6回調査から急増しており、喜ばしい傾向である。また、医科学における「研究環境が整っている」19%、口腔科学における「先輩や友人に勧められて」25%も特筆すべき結果である。後期課程の学生は、「希望する研究分野があるから」が最も多く(図 6-2-2)、留学生についても両課程ともに「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合が最も多かった。これらは、本学の研究分野が進学希望の学生に選ばれ、大学院の教育・研究の方向性が間違っていない証拠であると思わ

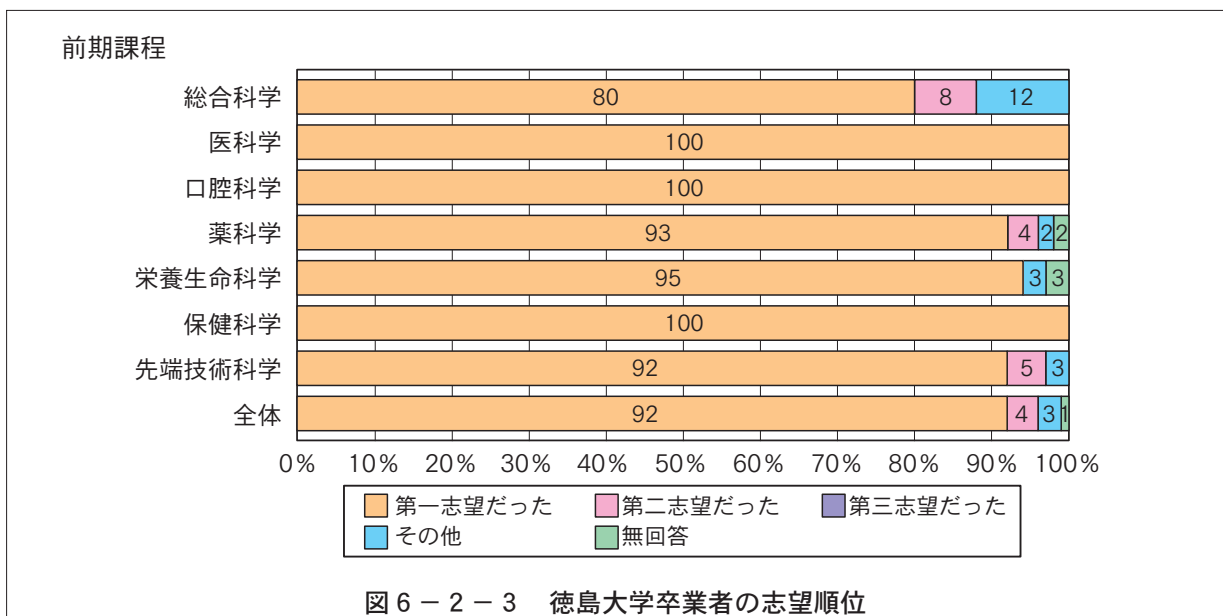




れる。

大学院進学に関する調査では、徳島大学卒業生と他大学卒業生に分類して調査を行なった。まず徳島大学卒業生について、「現在所属する大学院が第一志望だった」と回答した前期課程の学生は全体で92%であった（図6-2-3）。後期課程も88%が「第一志望だった」と回答しており（図6-2-4）、両課程とも望んで進学していることは喜ばしい結果である。

他大学を卒業した学生については、前期課程に進学した学生の68%が「第一志望だった」と回答しており、前回第6回の調査（75%）よりも減少していた（図6-2-5）。ただ、他大学を卒業して本学大学院前期課程に進学する学生数は100名程度（15%程度）であり、その半数を占める先端技術科学の第一志望率は76%と高く、さほど危惧する必要は無いと思われる。他大学を卒業して後期課程に在籍する学生については、「第一志望だった」が69%であった（図6-2-6）。後期課程の場合は、進学者の4割強が他大学からの進学者であり、そのうちの3割を占める医科学、2割を占める口腔科学、3割を占める先端技術科学において、「その他」や「無回答」が少なくない点は少し気がかりである。



後期課程

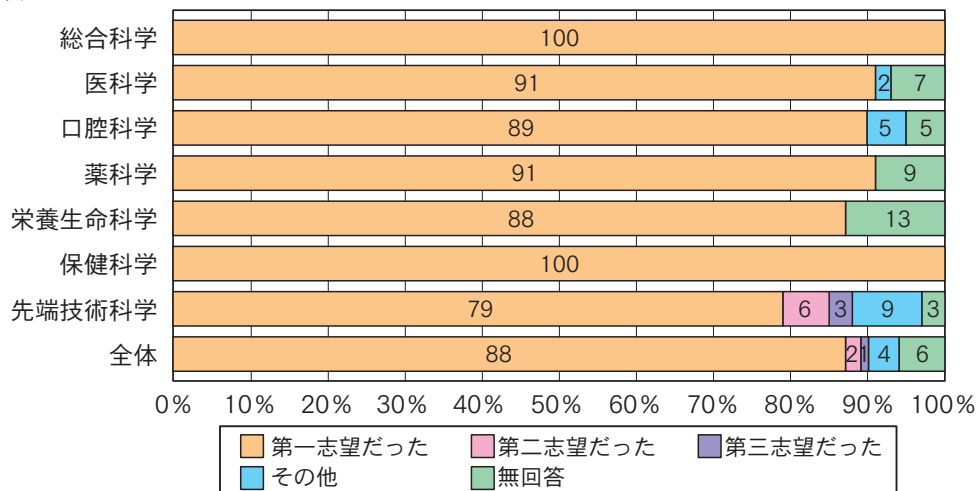


図 6 - 2 - 4 徳島大学卒業者の志望順位

前期課程

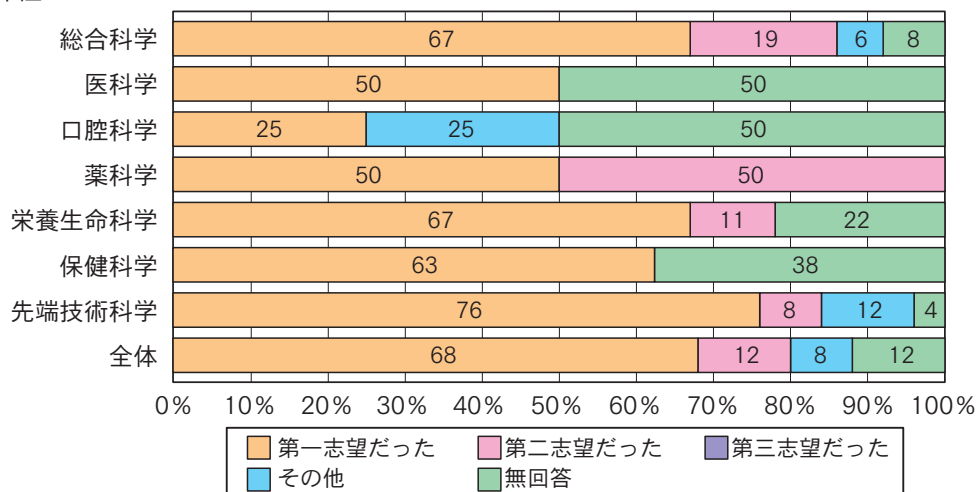


図 6 - 2 - 5 他大学卒業者の志望順位

後期課程

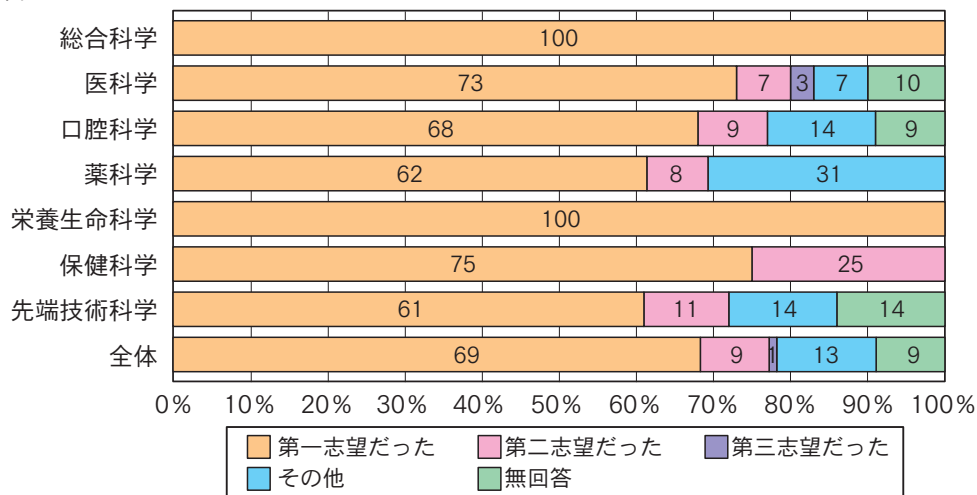
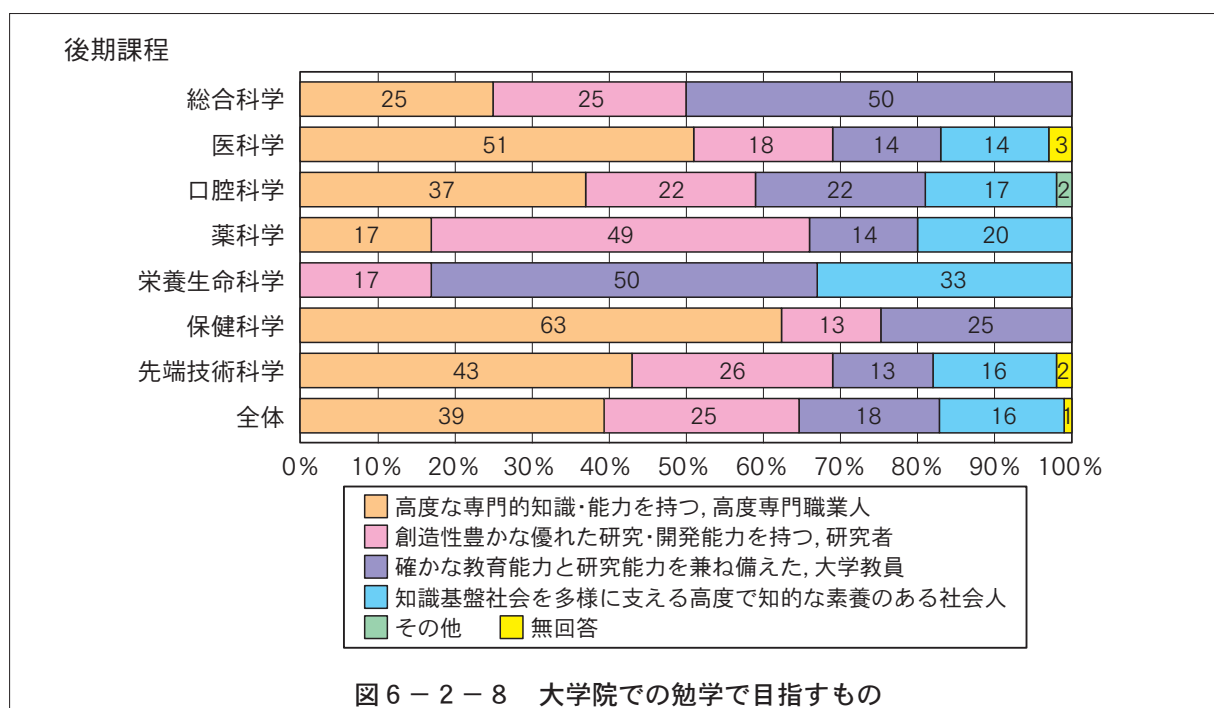
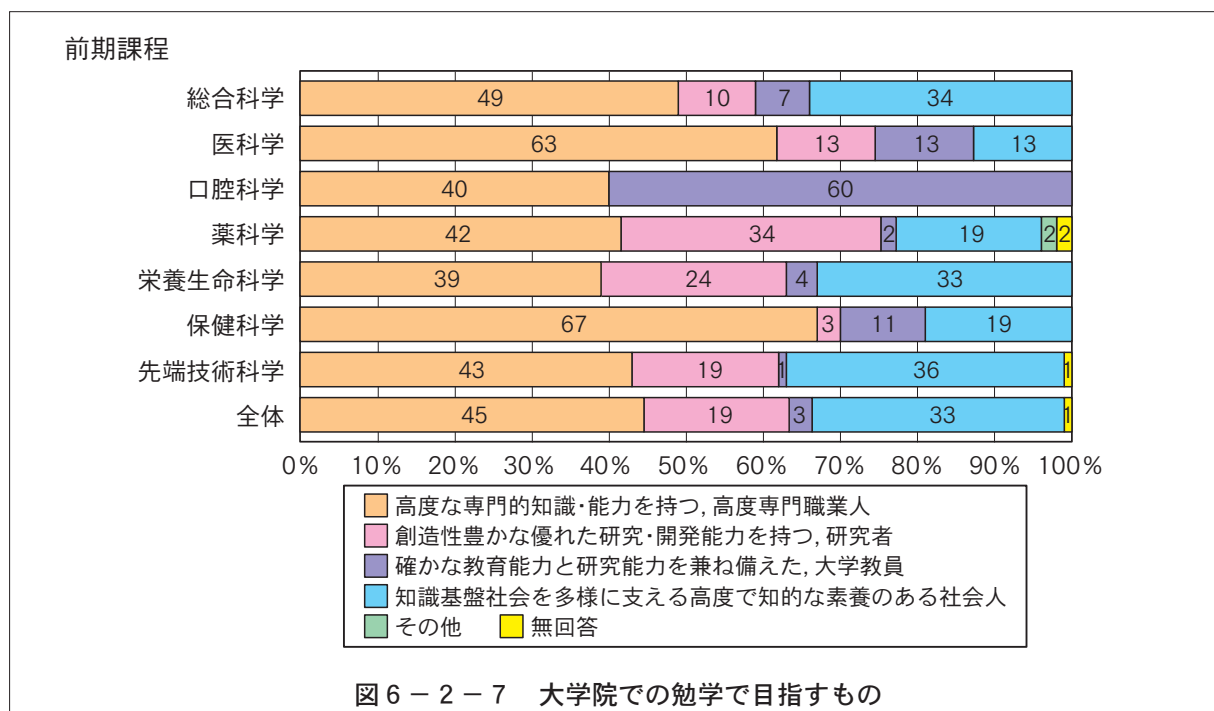


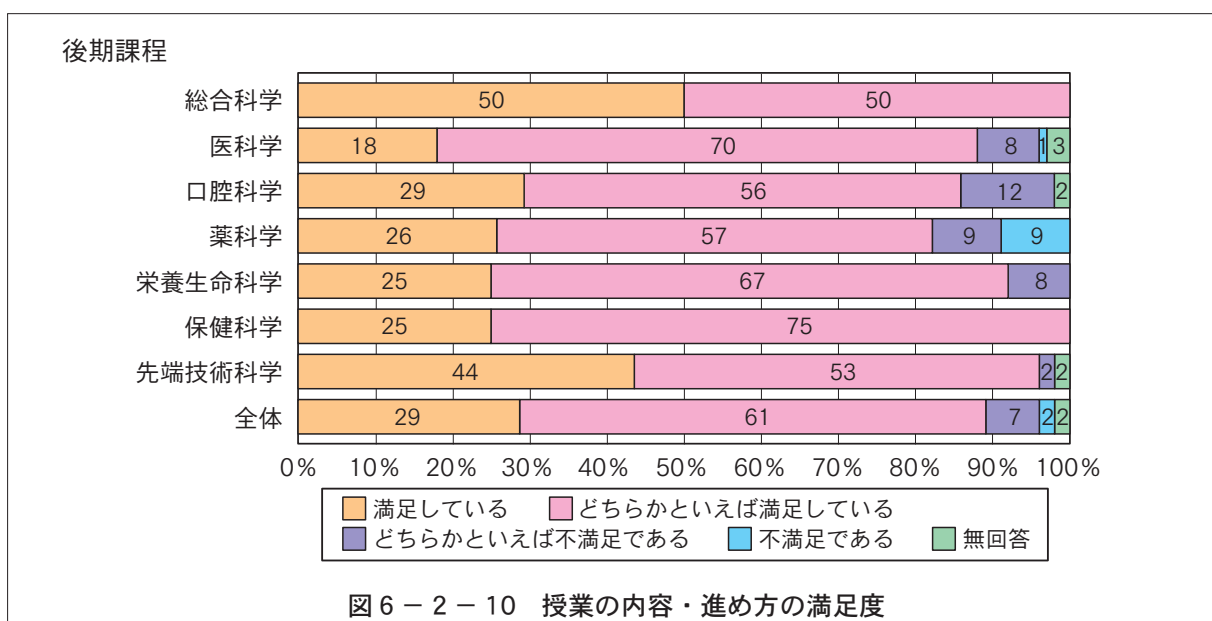
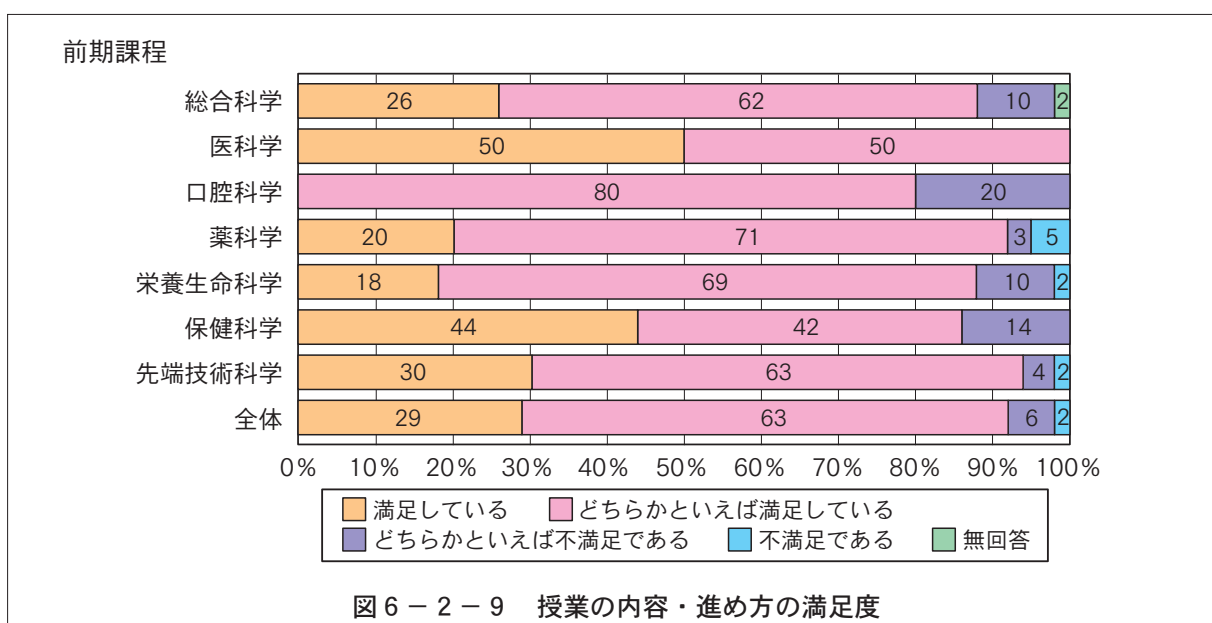
図 6 - 2 - 6 他大学卒業者の志望順位

大学院での勉学で目指すものとして、前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指す学生（45%）が最も多く、次いで、「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が33%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者」が19%と、前回第6回調査とほぼ同じであった（図6-2-7）。教育部別に見ると、保健科学（67%）、医科学（63%）では「高度専門職業人」を目指す学生が特に多いのに対し、薬科学（34%）では「研究者」を目指す学生も意外と多く、口腔科学では6割が「大学教員」を目指す等、学生の意識の違いが現れる結果となった。後期課程の学生全体では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指す学生（39%）が最も多く、次いで「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者」が25%、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員」が18%となっている（図6-2-8）。特に「大学教員」を目指す学生の割合は前期課程の3%を大きく上回っている点が特徴で、前回第6回調査よりも3ポイント増加した



ことは大学人にとっては喜ばしい傾向である。留学生については、前期課程では「高度専門職業人」が45%と最も多く、後期課程では「研究者」が36%と最も多かった。これも留学生の意識の違い（留学の目的）が現れる結果となった。

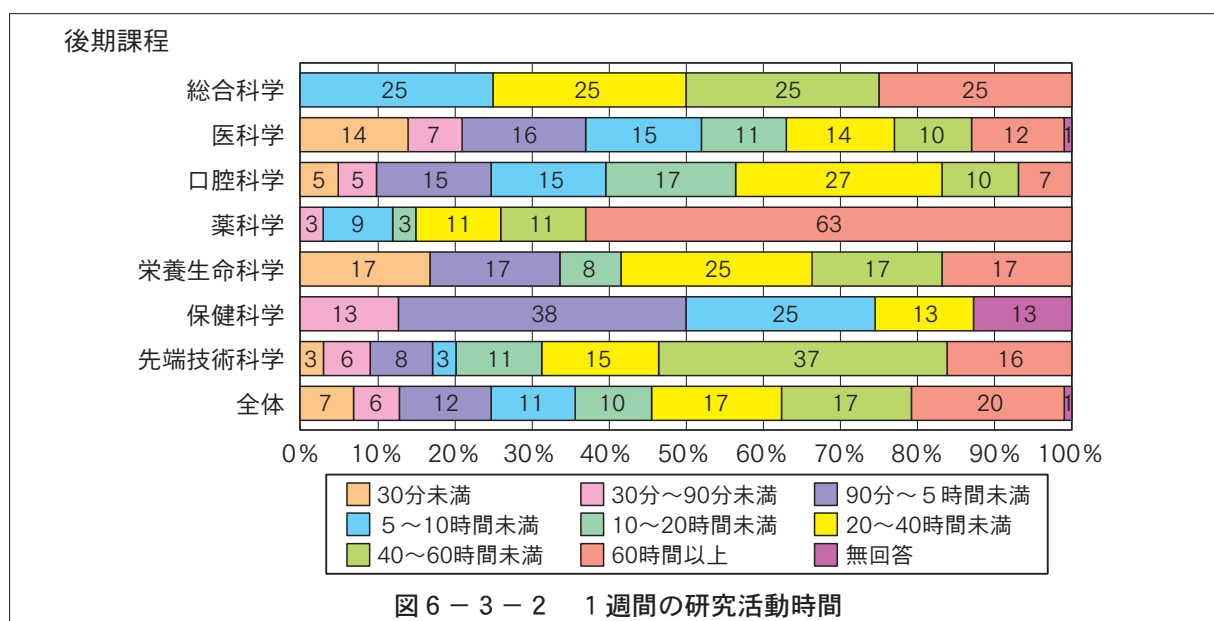
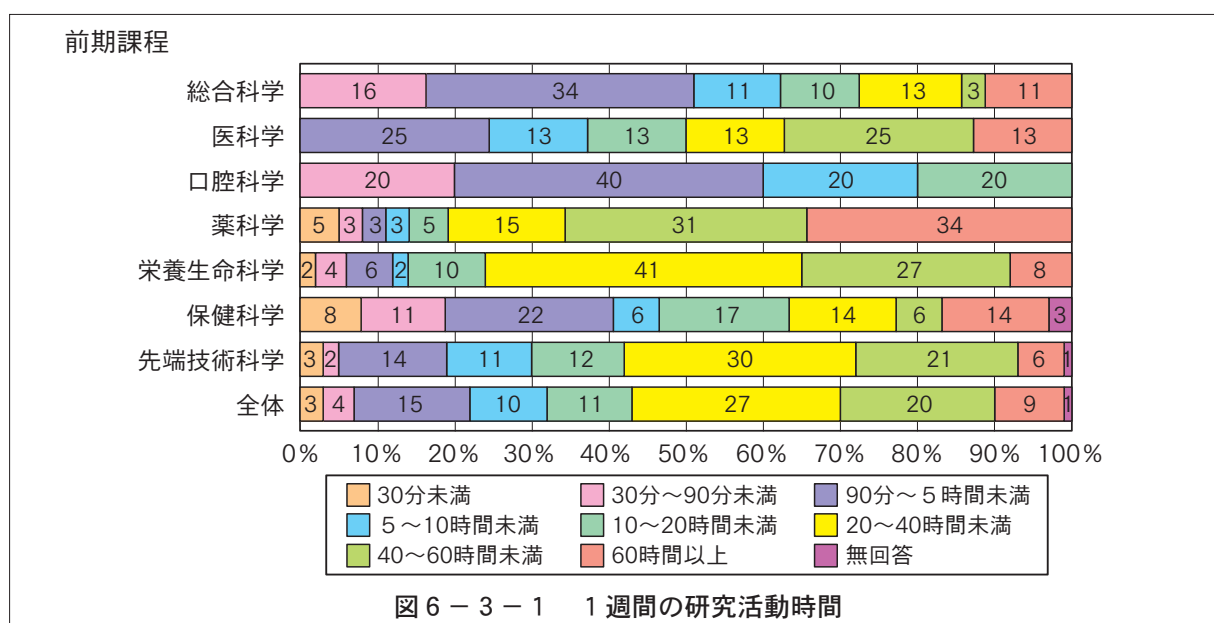
図6-2-9および図6-2-10に示した授業の内容や進め方に関する満足度については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は、前期課程で92%（満足している：29%、どちらかといえば満足している：63%）、後期課程で90%（満足している：29%、どちらかといえば満足している：61%）と授業に高い満足感を感じており、喜ばしい結果である。教育部別に見ると、前期課程では、母数が少ないとはいえ口腔科学の「満足」が0%、「どちらかといえば不満足」20%は少し気になる。また、薬科学の「不満足」が前期課程で5%、後期課程で9%と少し目立つ部分も気になる点である。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は、前期課程で94%、後期課程で90%と、こちらも授業に高い満足感を感じているようである。



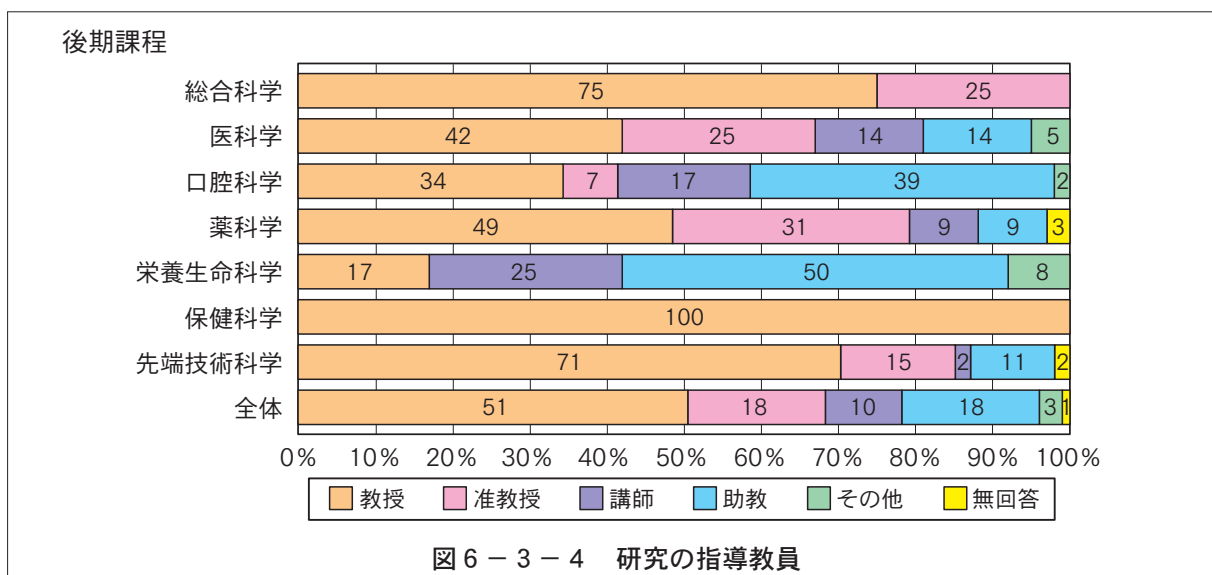
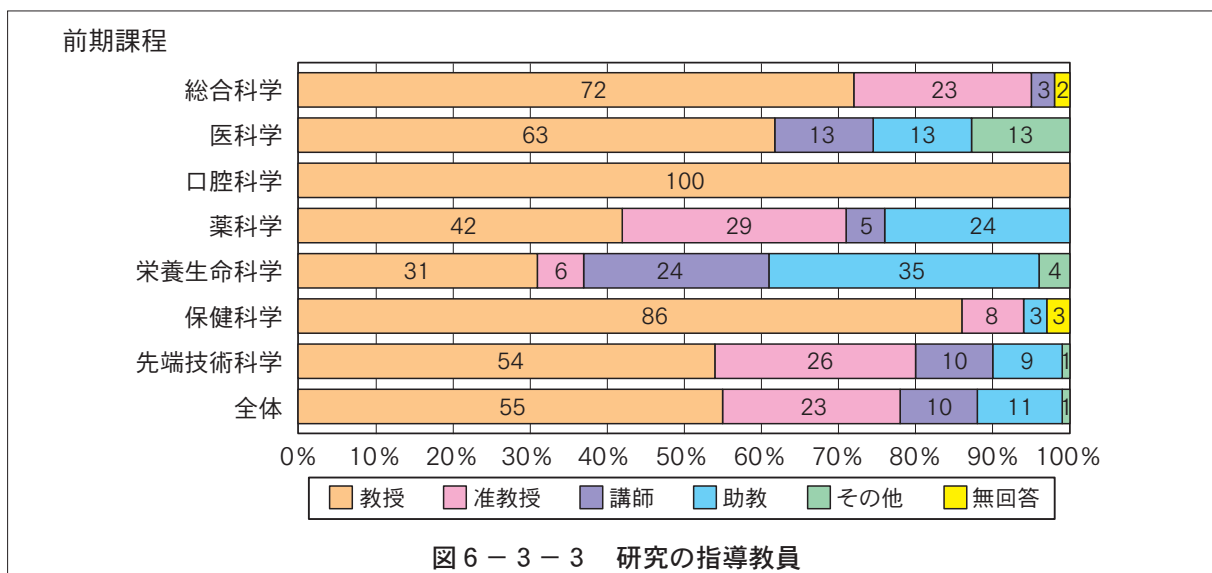
6-3 研究活動と研究指導 (図6-3-1～図6-3-12)

前期課程の学生全体での授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間では、「20～40時間未満」との回答(27%)が最も多く、「40～60時間未満」20%、「60時間以上」9%を合わせると半数以上(56%)の学生が週20時間以上の研究活動を行っている(図6-3-1)。これは前回第6回調査より3ポイント増加しており、研究大学を目指す本学にとって良い傾向である。ただ、教育部別に見た場合、週20時間以上研究活動を行っている割合が少ない口腔科学(0%)、総合科学(27%)、保健科学(34%)は少し心配な数値である。

一方、後期課程の学生が授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、「60時間以上」が20%と前期課程の学生よりも多い(図6-3-2)。ただこちらも保健科学の研究時間が少ない点が気がりである。留学生については、週20時間以上研究活動を行っている割合が、前期課程で67%、後期課程で82%であった。



学生の研究を直接指導している教員は、前期課程で教授55%、准教授23%、講師10%(図6-3-3)、後期課程で教授51%、准教授18%、講師10%(図6-3-4)である。また留学生の研究指導



も 90%前後が教授・准教授であり、特に問題は感じられない。

学生が指導教員から研究指導を受けている 1 週間の平均時間は、前期課程で「30～90 分未満」が 44%と最も多く、次に「90 分～5 時間未満」が 28%であった（図 6 - 3 - 5）。後期課程でも同様の傾向（図 6 - 3 - 6）であり、特に問題は感じられない。留学生に関しても同様の傾向であった。

研究指導の内容や進め方についての前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」が 46%で最も多く、「満足している」の 43%と合わせると、約 9 割の学生が概ね満足している結果となった（図 6 - 3 - 7）。後期課程の学生の回答も同様の結果であり（図 6 - 3 - 8）、留学生の回答も同様の結果であった。従って、質問 52（図 6 - 3 - 5、図 6 - 3 - 6）の教員による研究指導時間には大きなばらつきが見られたが、指導を受けた学生の満足度は概ね高く、時間の長短ではなく指導内容や密度が重要と判断できる。

修士論文の研究テーマに関する満足度は、「満足している」が最も多く（47%）、「どちらかといえば満足している」の 45%と合わせると、9 割を超える学生が概ね満足している結果となった（図 6 - 3 - 9）。博士論文の研究テーマに関する満足度（図 6 - 3 - 10）も同様に 9 割を超える学生が概ね満足しており、留学生に関しても同様の結果であった。

前期課程

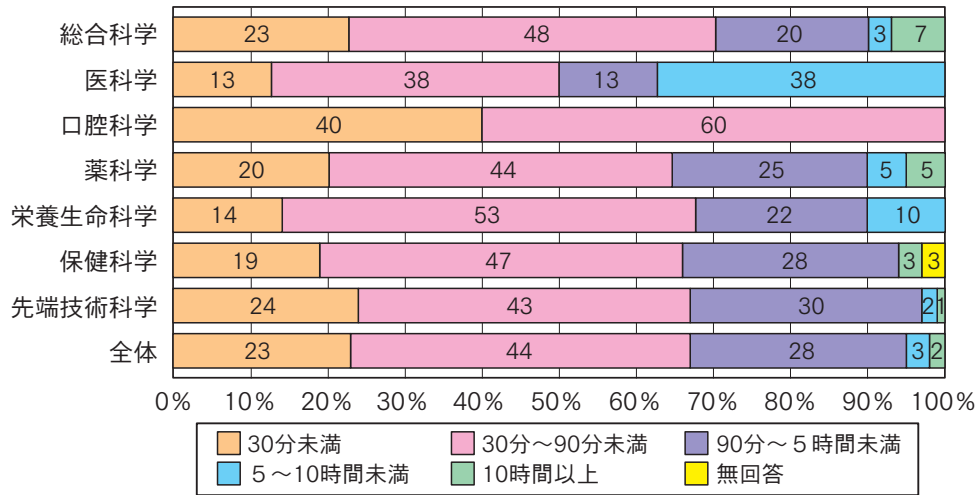


図 6 - 3 - 5 1 週間に研究指導を受ける時間

後期課程

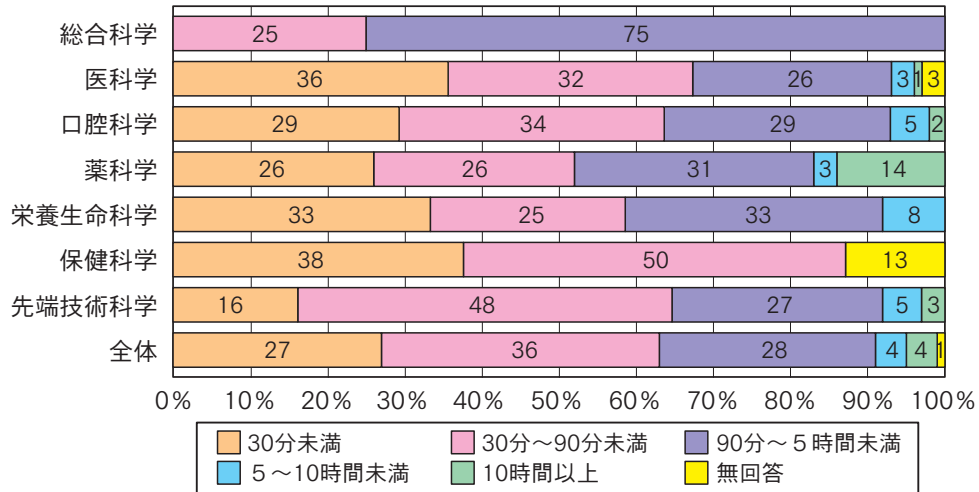


図 6 - 3 - 6 1 週間に研究指導を受ける時間

前期課程

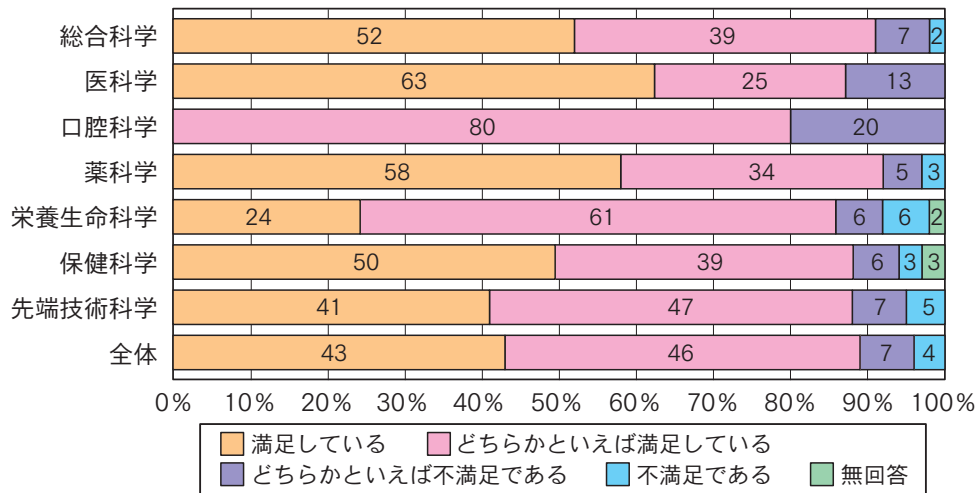


図 6 - 3 - 7 研究指導についての満足度

後期課程

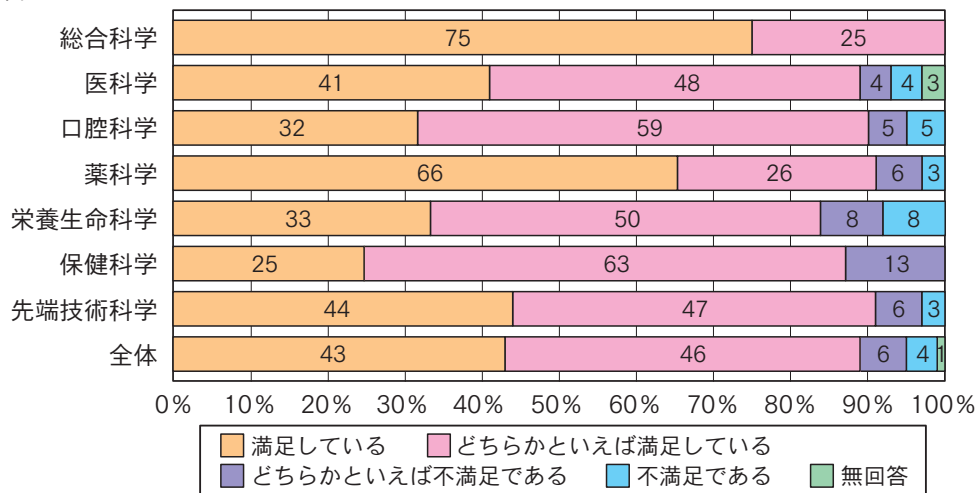


図 6 - 3 - 8 研究指導についての満足度

前期課程

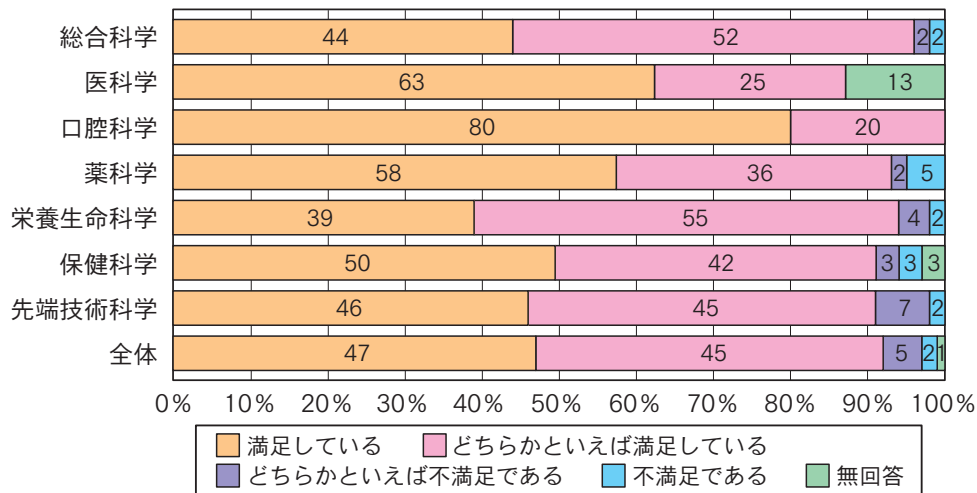


図 6 - 3 - 9 修士論文の研究テーマについての満足度

後期課程

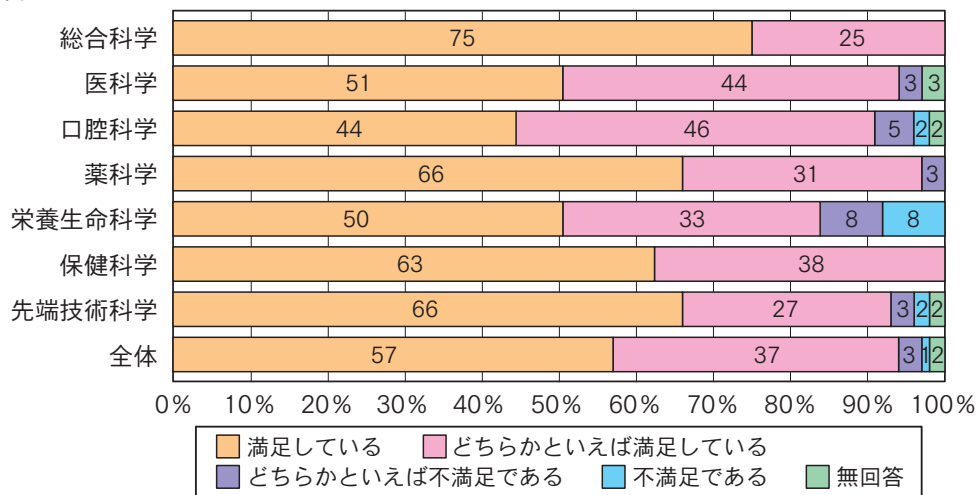
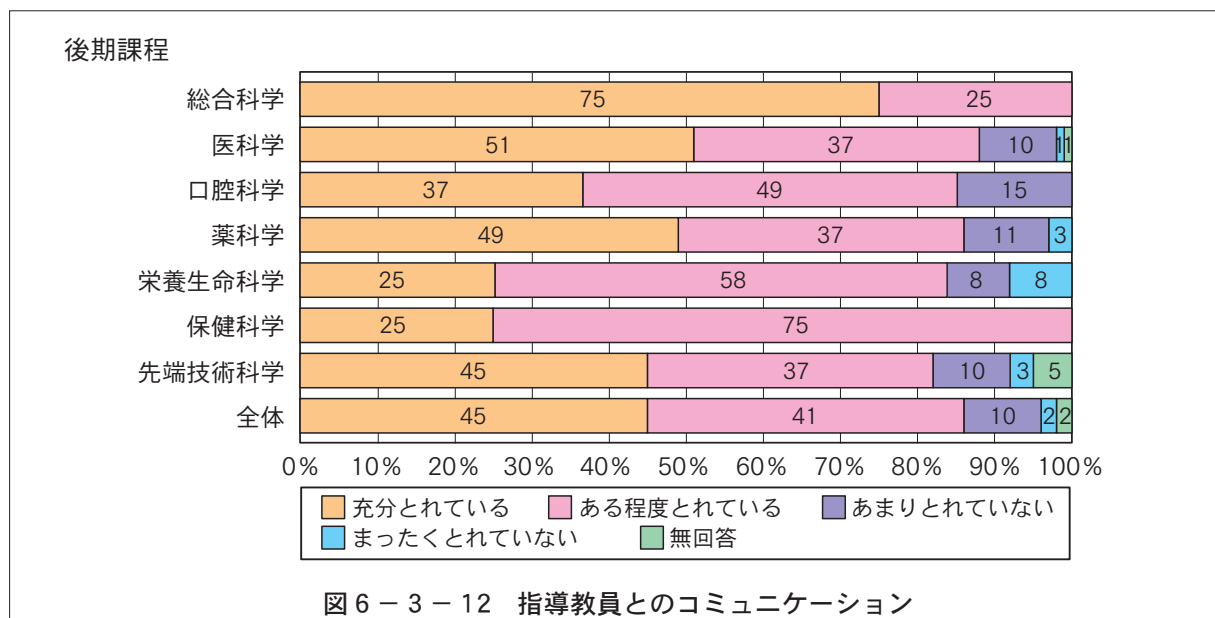
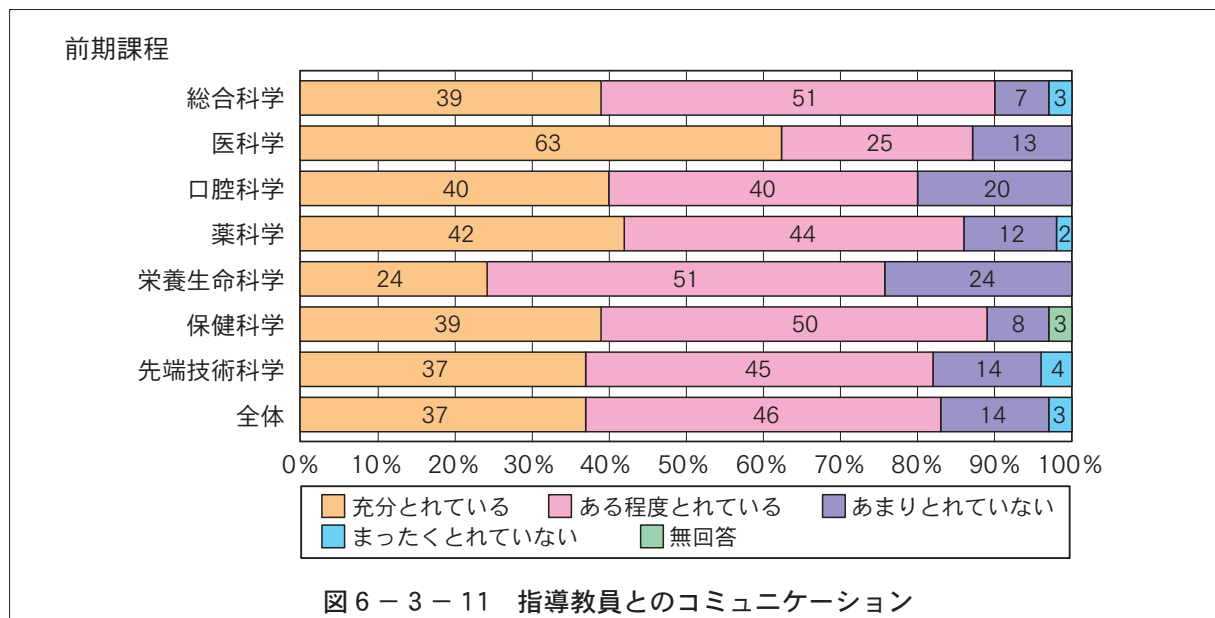


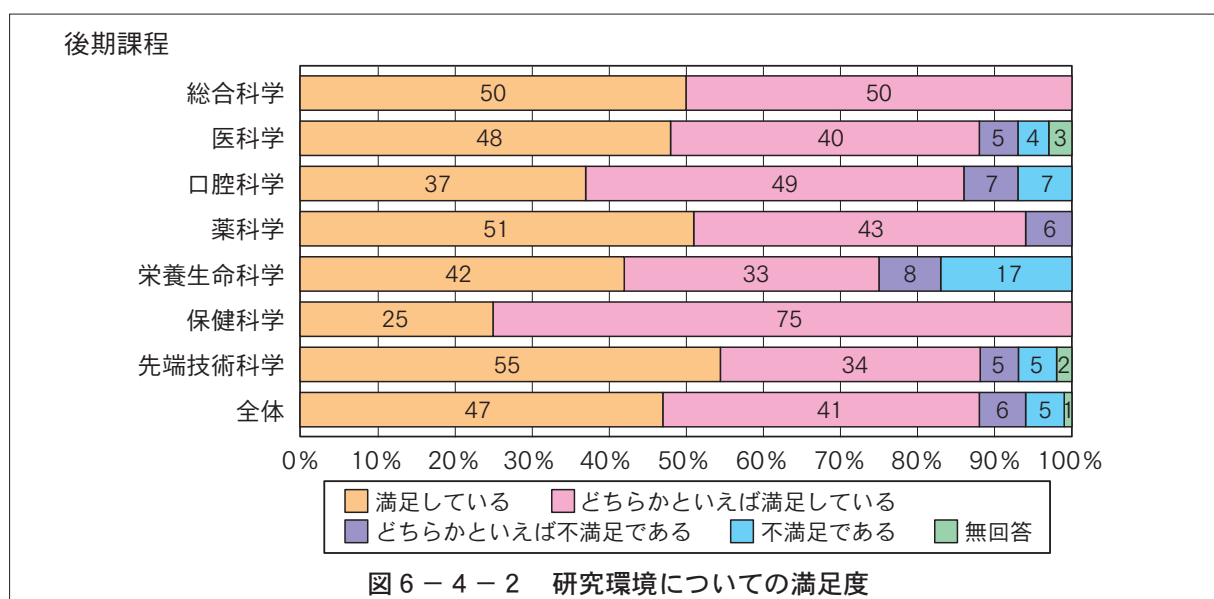
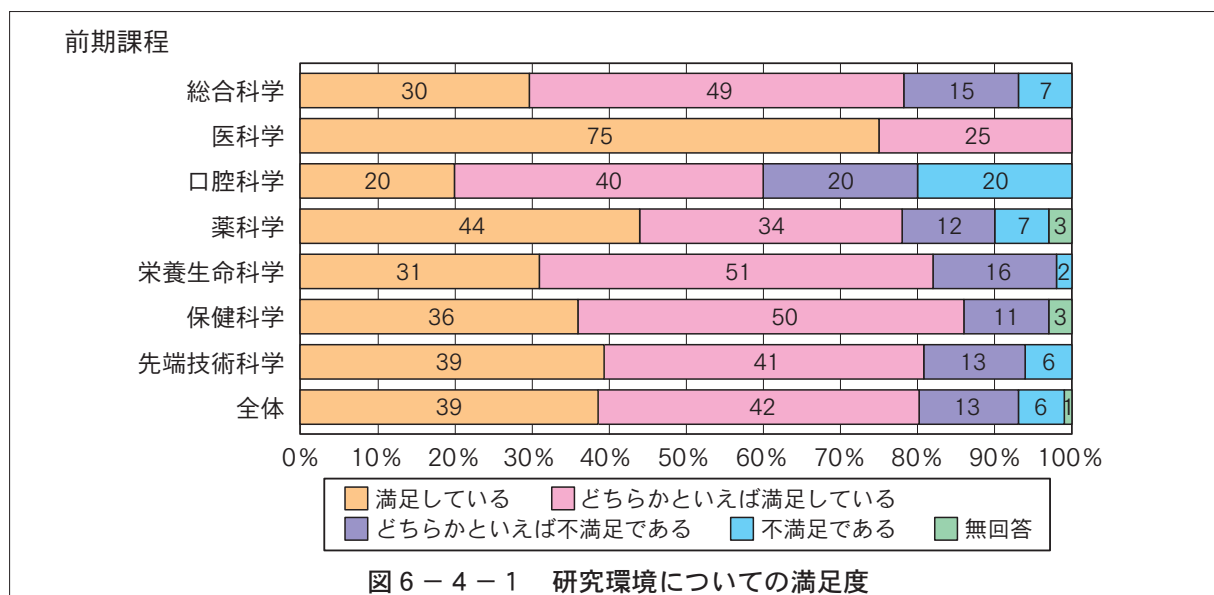
図 6 - 3 - 10 博士論文の研究テーマについての満足度

指導教員とのコミュニケーションに関しては、前期課程の学生は、「ある程度とれている」との回答が最も多く（46%）、「充分とれている」が37%、「あまりとれていない」が14%、「まったくとれていない」が3%であった（図6-3-11）。「充分とれている」と「ある程度とれている」を合わせると約8割強の学生が、指導教員とのコミュニケーションに概ね満足していると回答していた。後期課程に関してもほぼ同様の結果（図6-3-12）であり、留学生に関してもよく似た結果であったため、概ね満足していく結果といえる。ただし、どちらも10%強の学生が「あまりとれていない」あるいは「まったくとれていない」と回答している点は、心配な点として、何らかの対策が必要かもしれない。



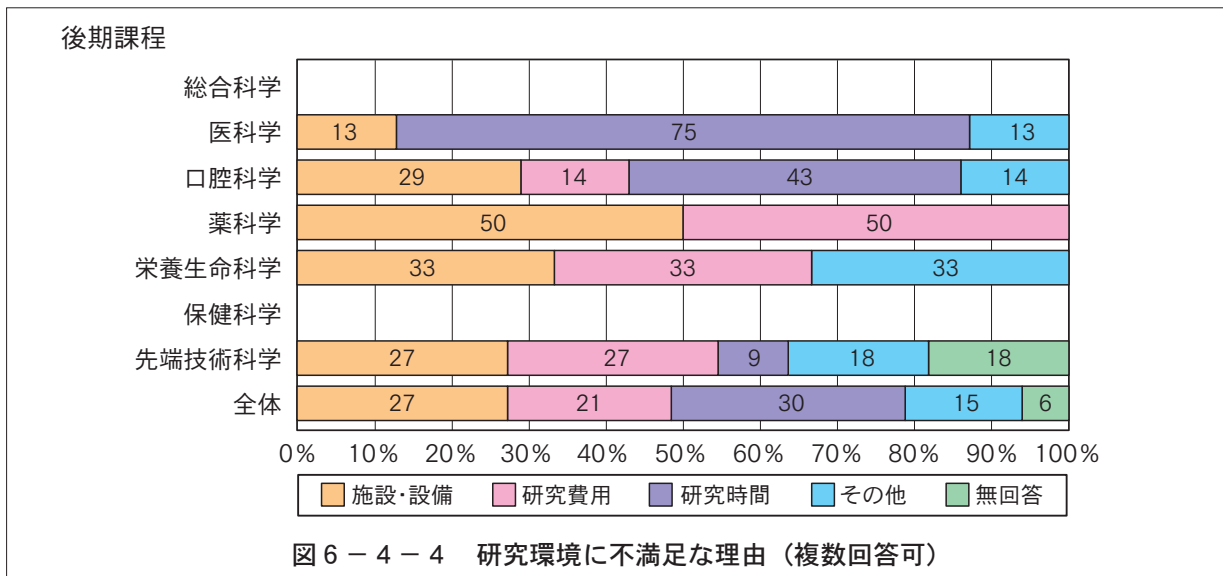
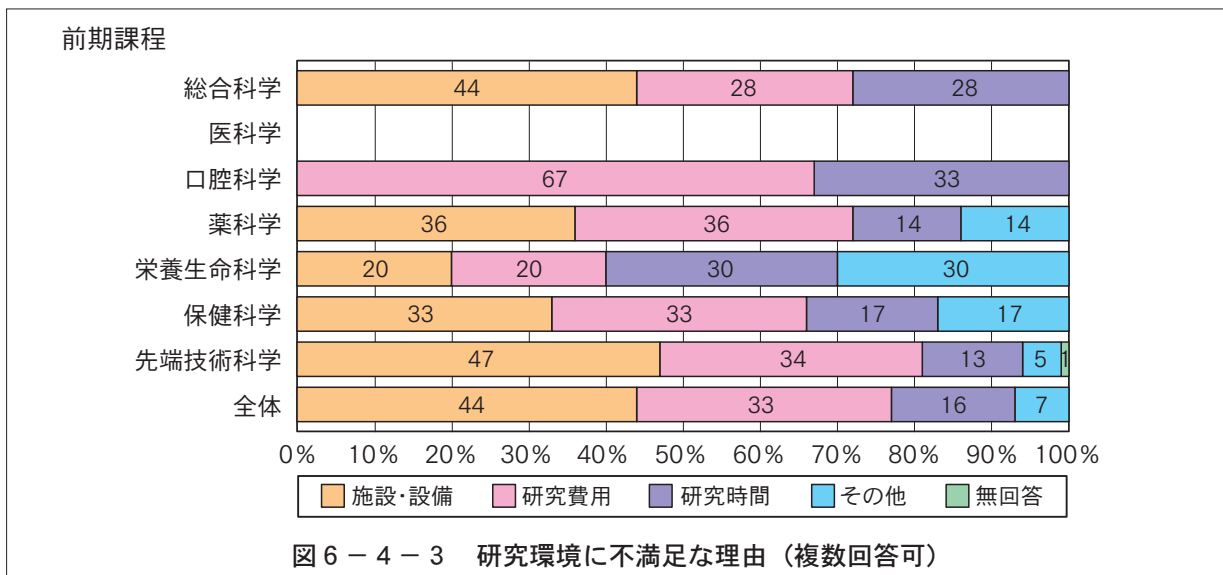
6-4 研究環境と所属大学院に対する満足度 (図6-4-1～図6-4-6)

図6-4-1より、研究環境に関する前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」が42%で最も多く、「満足している」の39%を合わせると約8割の学生が研究環境に概ね満足している結果であった。図6-4-2より、後期課程の学生も「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると88%であり、留学生は9割を超える学生が概ね満足していた。しかし、「どちらかといえば不満足」および「不満足」の学生が少なからずいることを忘れてはいけない。

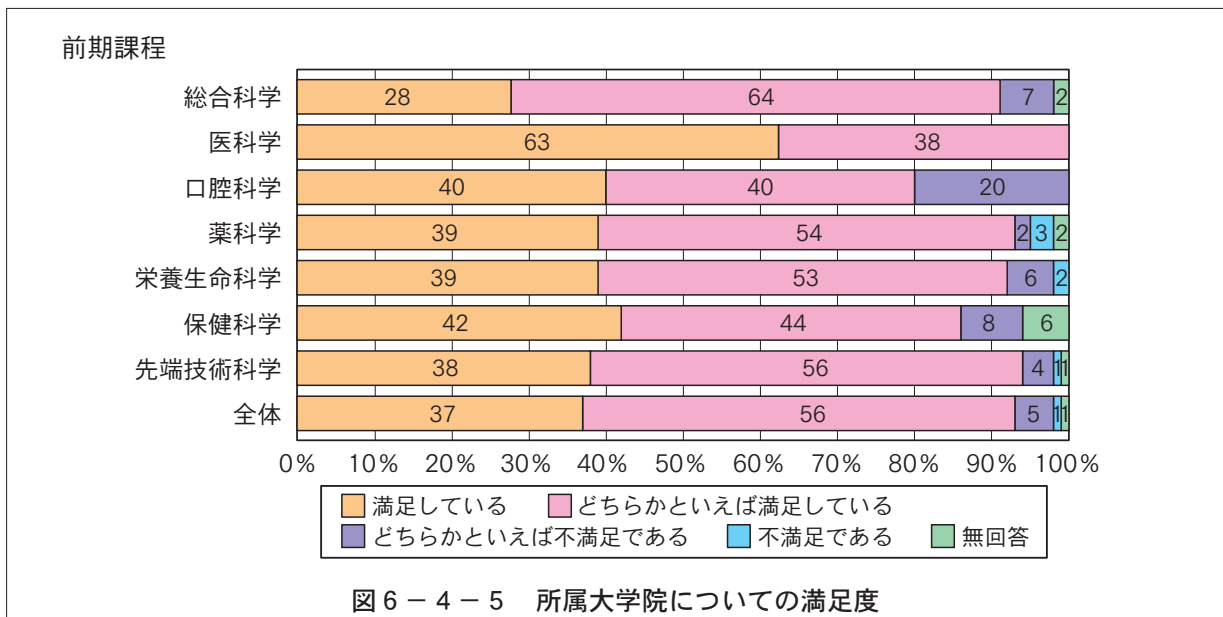


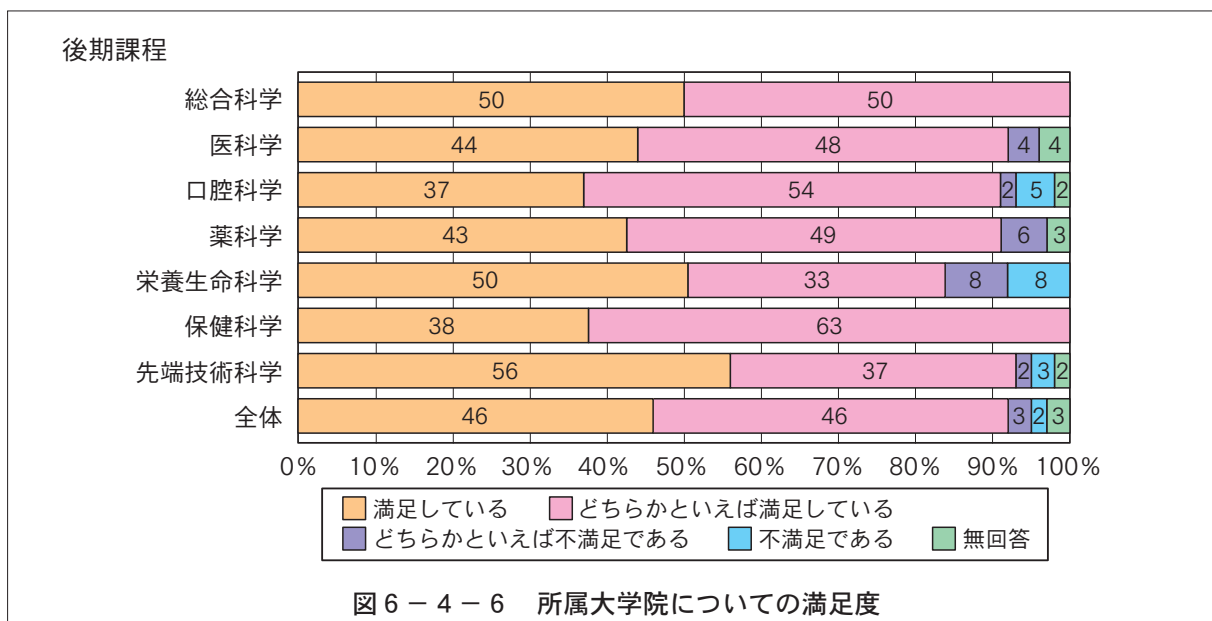
研究環境に満足していない前期課程学生に、その理由を尋ねた設問への回答では、「施設・設備」が44%で最も多く、「研究費用」が33%、「研究時間」が16%であった(図6-4-3)。「施設・設備」および「研究費用」は、大学全体の財政環境が厳しい昨今、ある程度はしかたないと考えるべきであろうが、「研究時間」に関しては何らかの配慮が必要かもしれない。後期課程学生の場合、その傾向はより一層強まり、「研究時間」の不満足を訴える学生が30%と最も多い(図6-4-4)。特に医科学では75%が「研究時間」の不満足と答えている。

所属大学院の満足度に関する前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」と答えた割合が56%で最も高く、「満足している」の37%を合わせると、93%の学生が概ね満足している(図6-



4 - 5)。後期課程の学生の回答も、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると92%あり、大半の学生が概ね満足している（図6 - 4 - 6）。留学生も同様の回答であり、満足度に



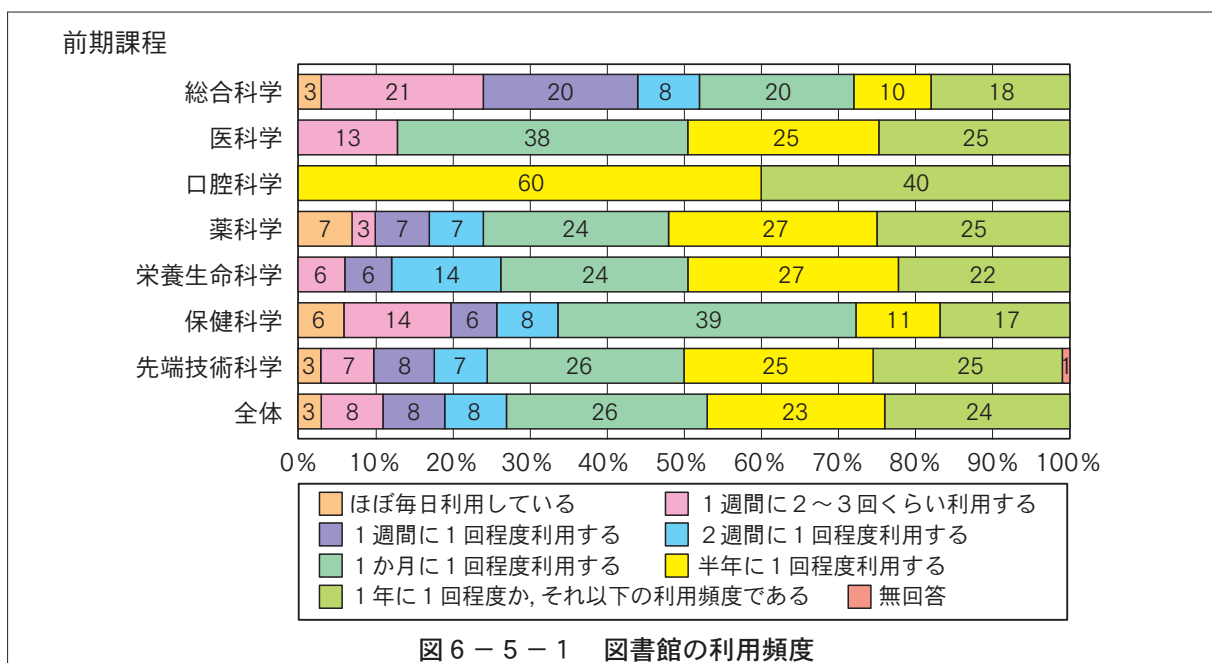


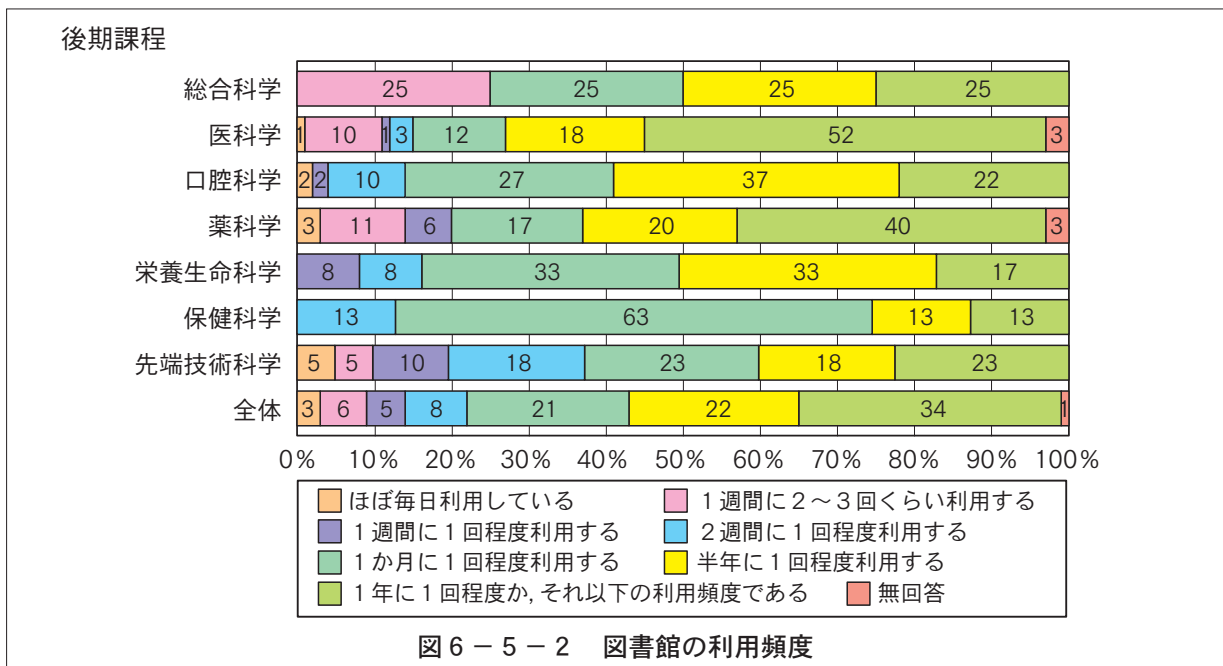
関しては特に問題は感じられない。

6-5 図書館の利用状況 (図 6-5-1 ~ 6-5-6)

図書館を1週間に1回以上利用する学生は前期課程で19%、後期課程で14%であり、前回の第6回調査に比べると、前期課程は変わらず、後期課程では3%減少していた。利用頻度に関しては、週に複数回利用する学生の多い教育部は、前期課程では総合科学や保健科学であり、後期課程では総合科学や薬科学であった。逆に、年に複数回利用しないという使用頻度の少ない学生が多かった教育部は、前期課程では口腔科学で、後期課程では医科学と薬科学であった。全般的に利用率は常三島地区で高く、蔵本地区で低い傾向が前回調査と同様に認められた (図 6-5-1, 図 6-5-2)。

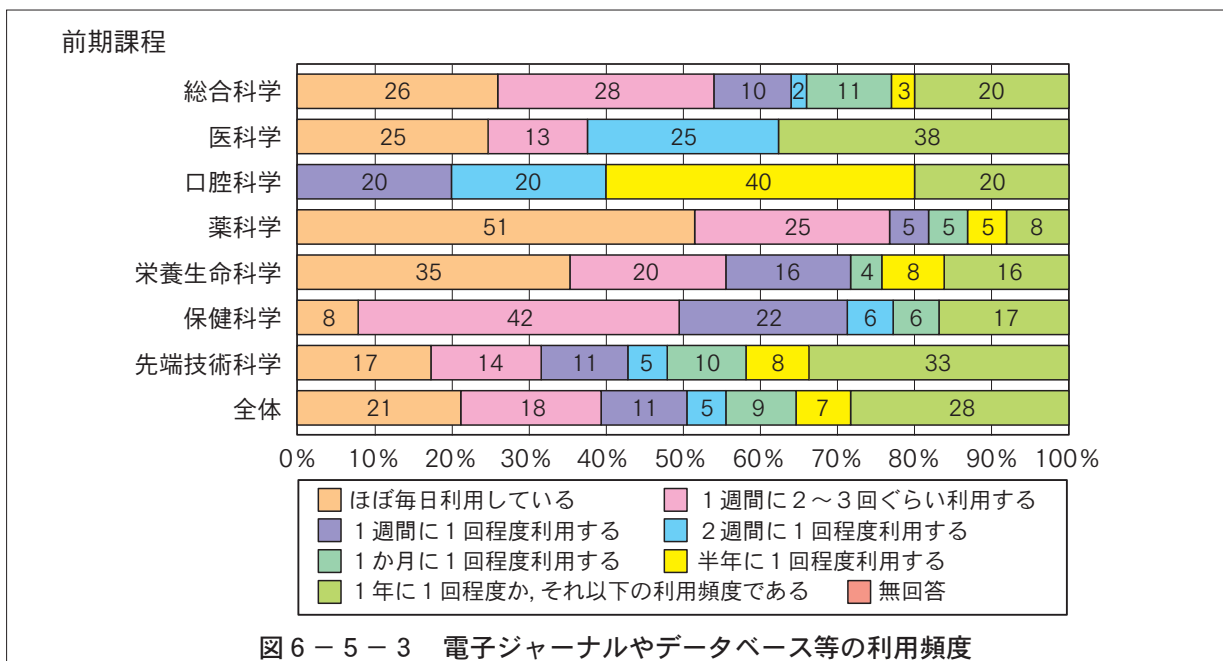
次に、電子ジャーナルやデータベース等については利用頻度が高く、週に1回以上利用する学生の全体平均は、前期課程では50%、後期課程では75%と、第6回調査とほぼ同じ数値を示した。この結果から、大学院生の学習や研究活動におけるウェブを介した文献・データベース等の検索の重要性が今回





も再確認された(図6-5-3, 図6-5-4)。

また図書館の提供するサービスに対する満足度は、全体平均において前期課程の92%、後期課程の88%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足をしている」という結果で、概ね評価が高かった(図6-5-5, 図6-5-6)。しかし過去の調査時に比べ、蔵本地区の教育部を中心に「どちらかといえば不満足である」という評価の増加が目立ち始めている。今後、その分析と改善・対応が望まれるが、これは特定の教育部に限ったことではない。施設等のハード面での充実はもちろんであるが、特にソフト面において、学生の学習と研究活動にとって必要不可欠になっているウェブを介した学術雑誌やデータベース等の閲覧サービスは、本学全ての教育部学生の学習と研究活動をカバーできるように維持と拡充を進めることが強く望まれる。なお、留学生からのアンケート結果を見ても、全体平均では前期課程の95%、後期課程の94%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」という結果であり、図書館の提供するサービスの利用状況や要望においては日本人学生と大きな違いはないものと推測された。



後期課程

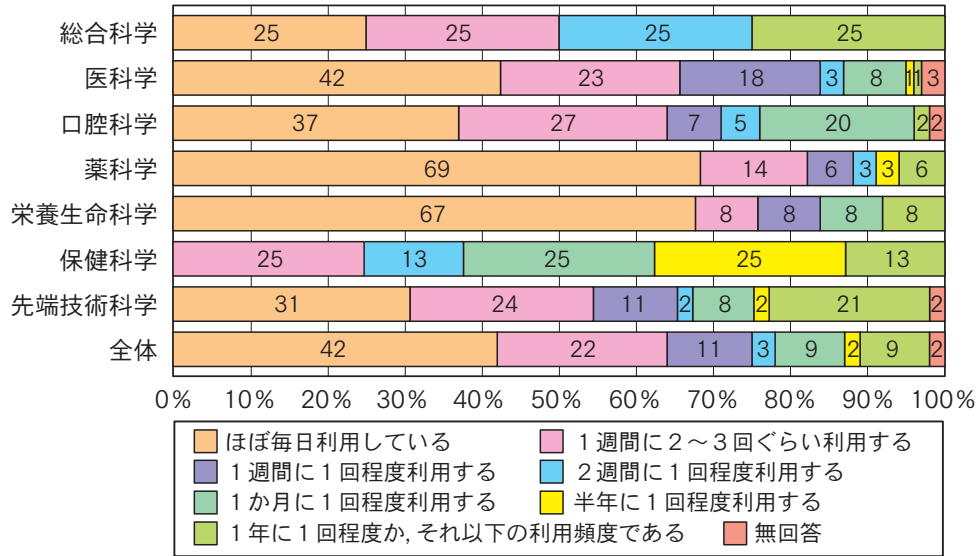


図6-5-4 電子ジャーナルやデータベース等の利用頻度

前期課程

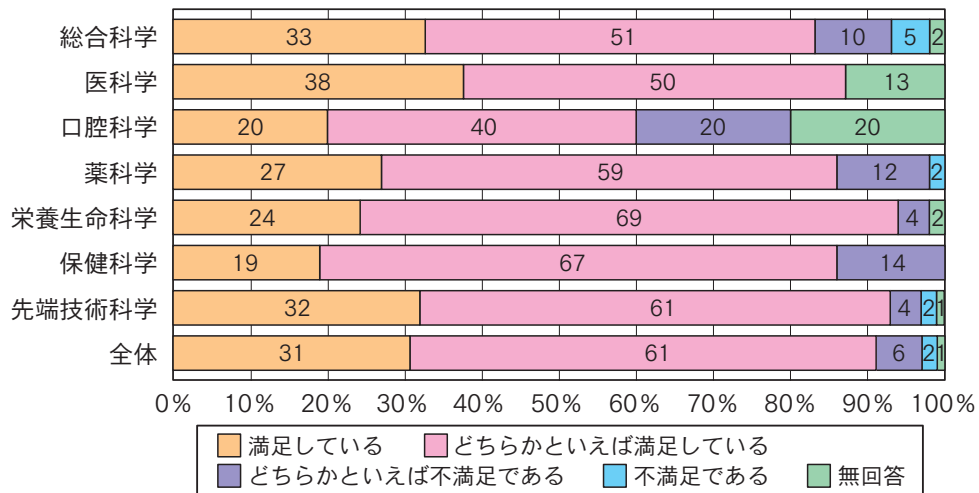


図6-5-5 図書館のサービス（施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等）に対する満足度

後期課程

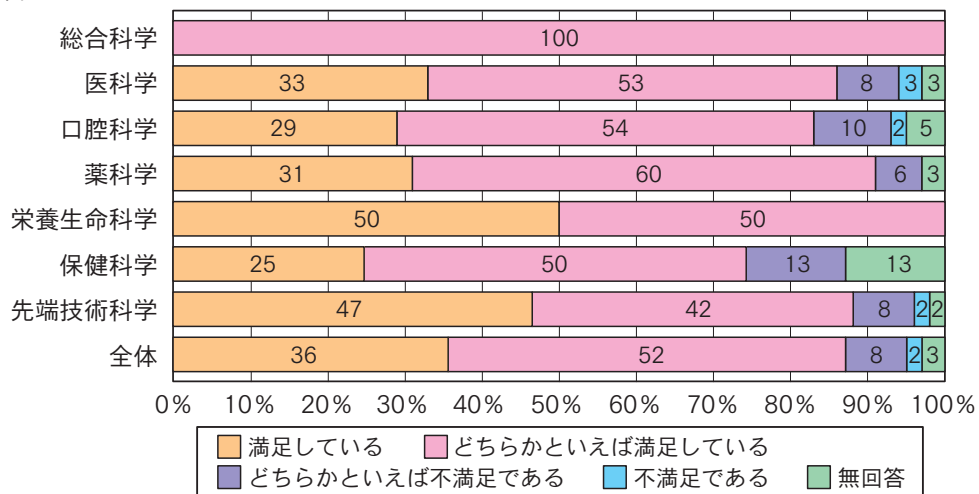
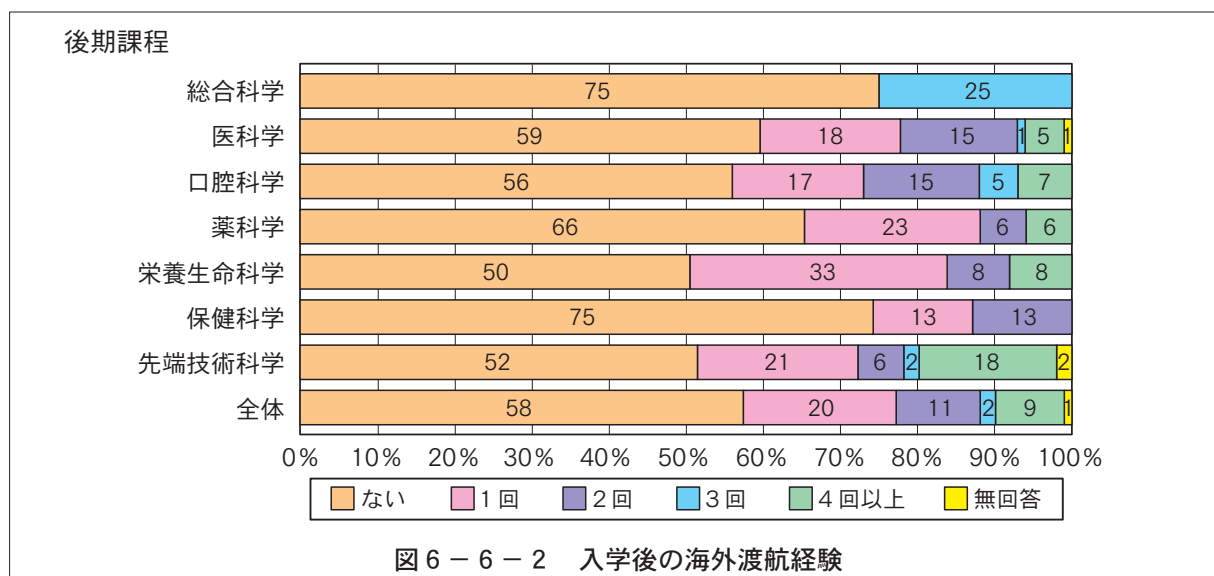
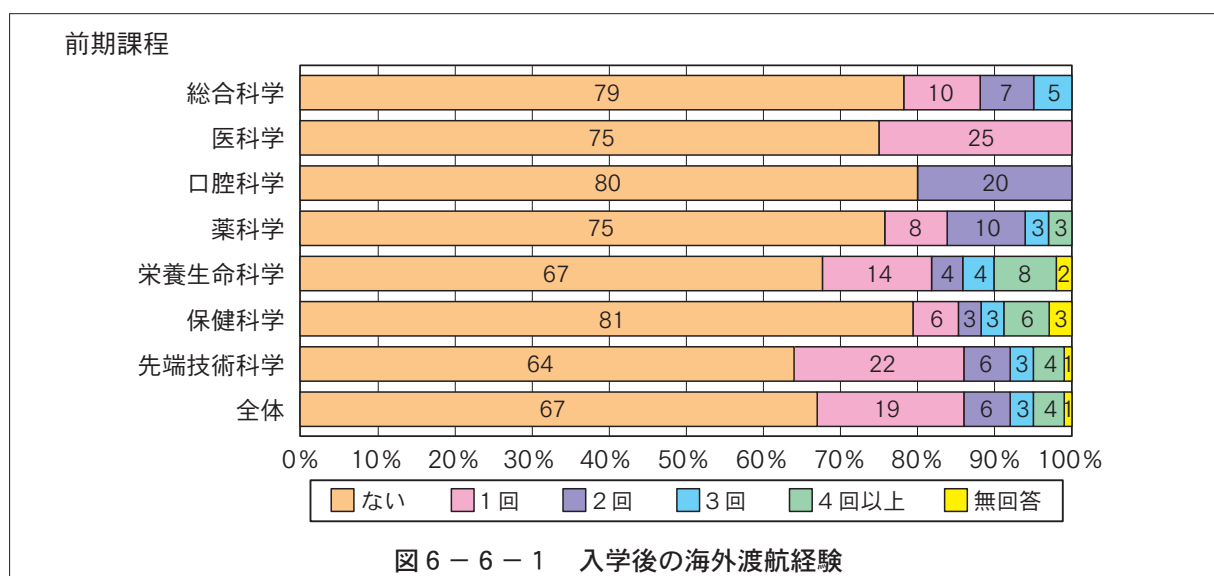


図6-5-6 図書館のサービス（施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等）に対する満足度

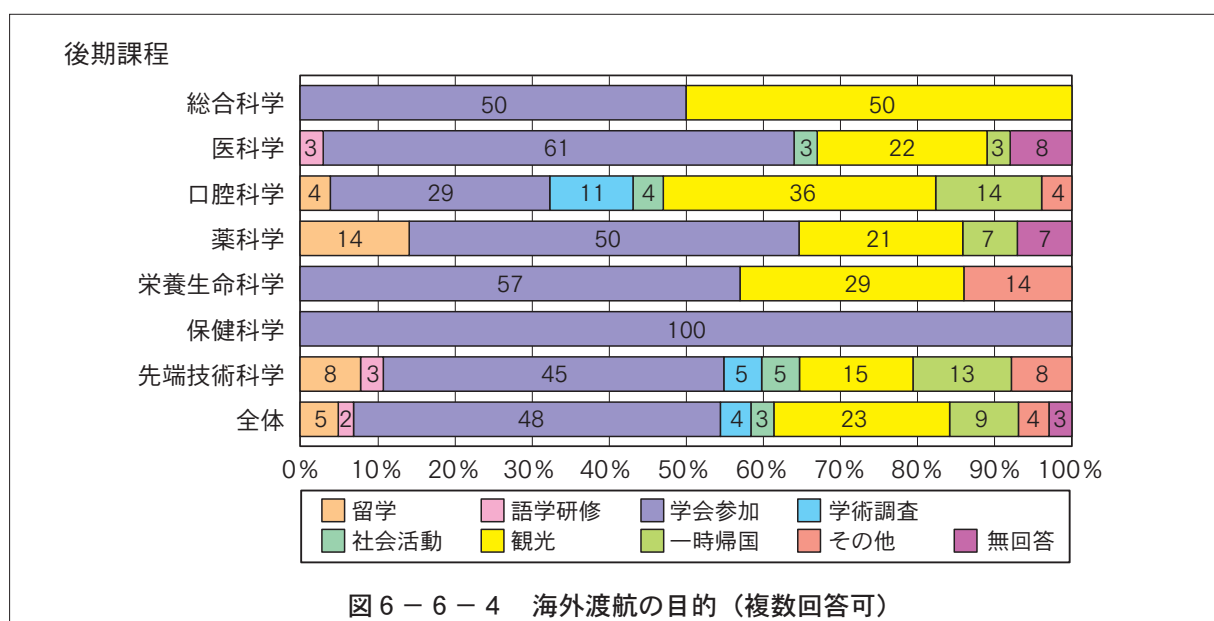
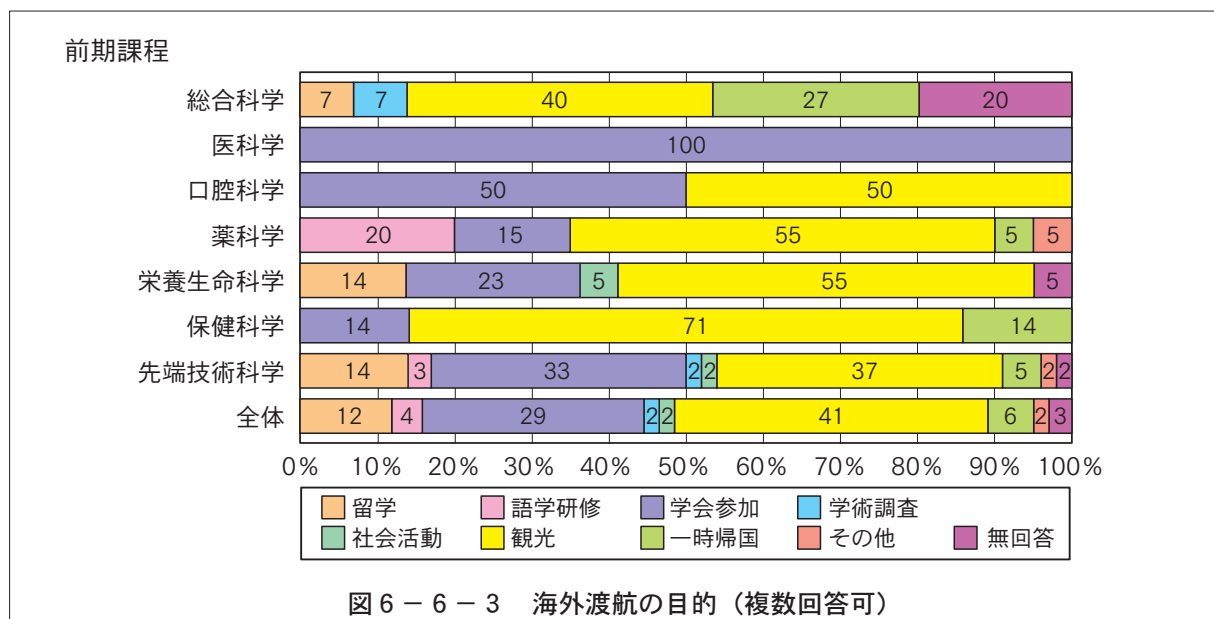
6-6 海外渡航の経験と英会話 (図6-6-1~6-6-10)

入学後の海外渡航経験については、前期課程の全体で見ると67%の学生は海外渡航経験が「ない」、あるいはあっても1回のみが19%で(図6-6-1)、これは平成24年度、平成26年度及び平成28年度実施の第4~6回調査の数値(それぞれ70%と19%、74%と17%及び70%と18%)と比較して、渡航歴に目立った増加は見えなかった。しかし教育部別に見た場合、4回以上の経験を持つ学生が複数の教育部で増加していた。また、後期課程の学生でも「ない」と答えた学生と渡航歴1回のみが58%と20%で前回の調査時とほぼ変わりなかったものの、第6回調査では二つの教育部で全学生が海外渡航経験を持たないという結果だったものが、今回は海外渡航経験を持たないと全学生が回答した教育部は皆無であった(図6-6-2)。



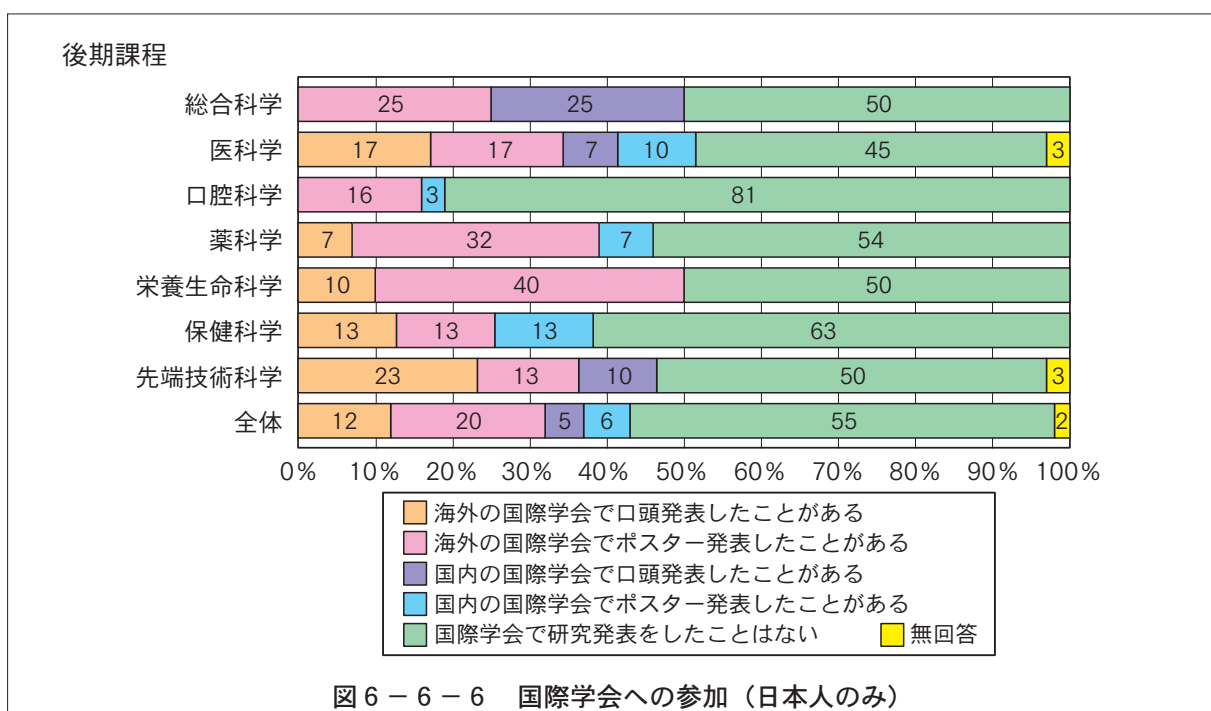
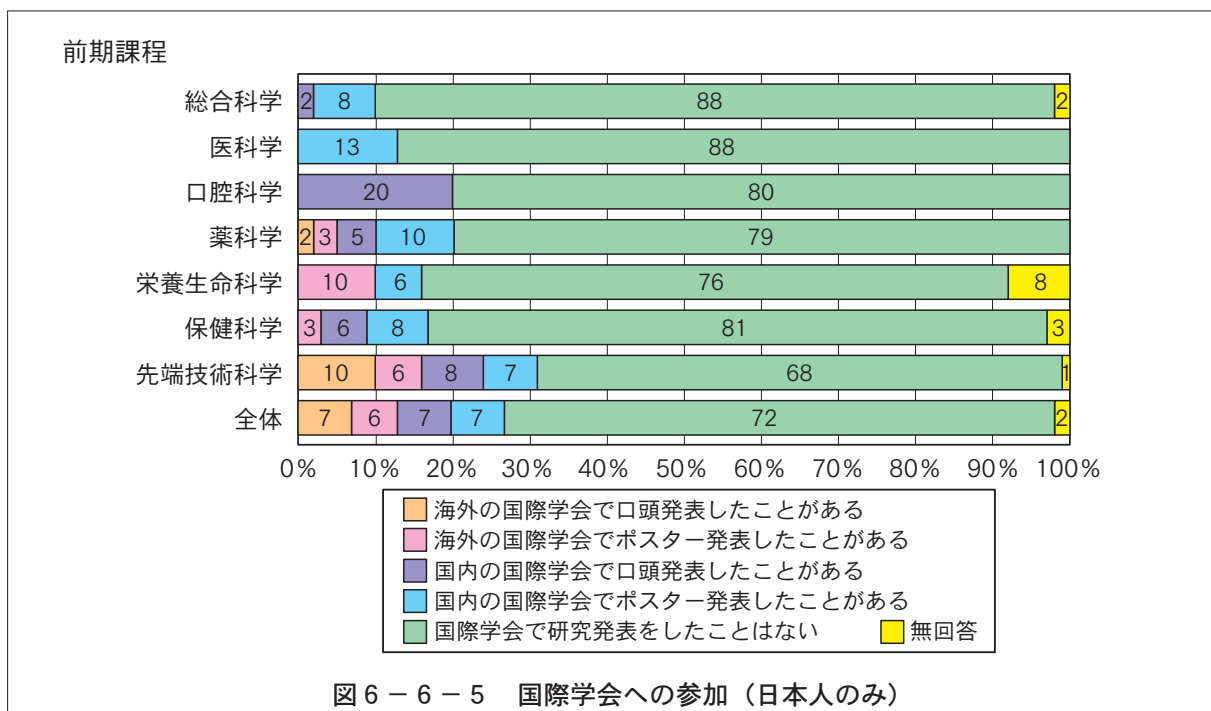
海外渡航の目的について全体平均で見た場合、前回の第6回調査結果では、前期課程学生は観光目的が38%と最も多く、次いで学会参加が24%だった。今回の調査でも、学会参加は29%とやや増加傾向は見られたものの、観光目的は41%と依然として高く、前回とほぼ同様な結果であった。(図6-6-3)。また、後期課程においても、留学や学会参加等の学術活動を目的とした渡航は全部で59%であり(図6-6-4)、前回調査と同じ数値に止まった。学生にとって、留学はもちろん、国際学会における発表等で海外の学会に参加する経験を大学院の早期に持つことは研究意欲を高める上でも、積極的に国

際的な活動を行える人材へと育つ上でも重要なことである。今後さらに両課程の大学院生に対して、このような学術目的の海外渡航をバックアップし促進するような制度整備や取り組みを強化していくことが必要と考えられる。



国内外で開催された国際会議での発表経験については、日本人学生の全教育部平均で見て、前期課程では72%、後期課程でも55%の学生が「国際学会で研究発表をしたことはない」と回答している（図6-6-5、図6-6-6）。この結果は前回調査と比較し、前期課程及び後期課程において、それぞれ5%及び4%とやや減少していた。前々回からも見られた低下傾向が鈍った結果ではあったが、以前として高い率を示しており、特に後期課程の学生の半数以上が国際会議での発表経験が無いというのは、国際レベルで活躍する人材の育成を目指す本学教育部としては早急な改善が必要であろう。今後、少なくとも後期課程の学生に対しては国際学会での発表を義務化するなどの制度的な改善を講じる一方、それを支援する方策も講じる必要があると考えられる。

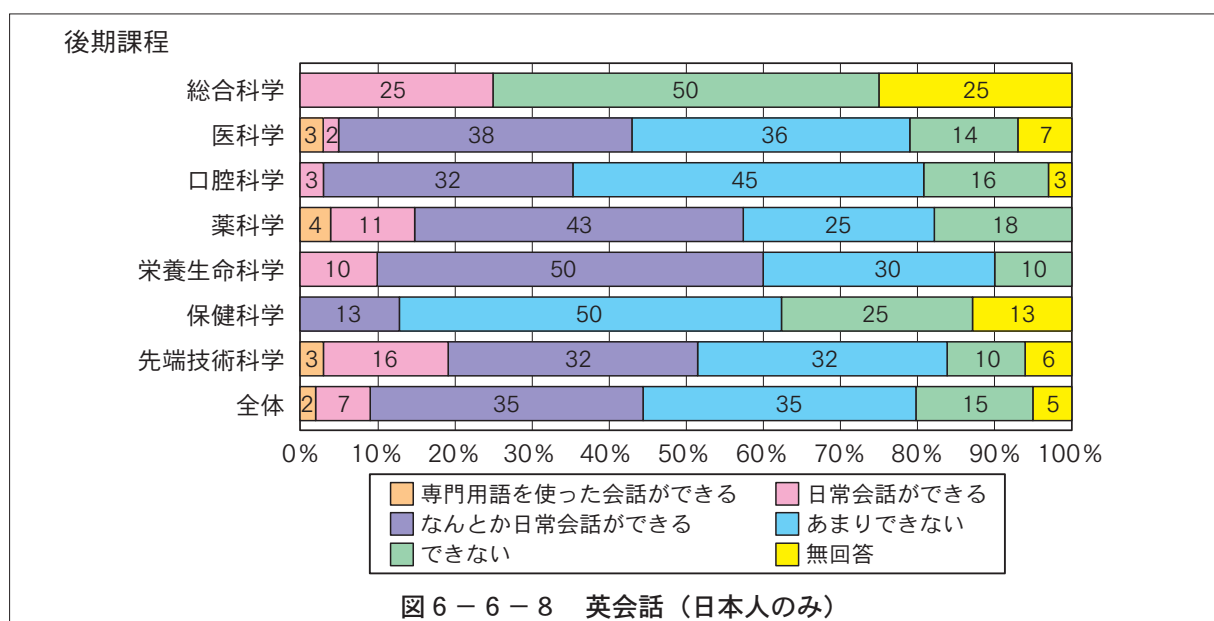
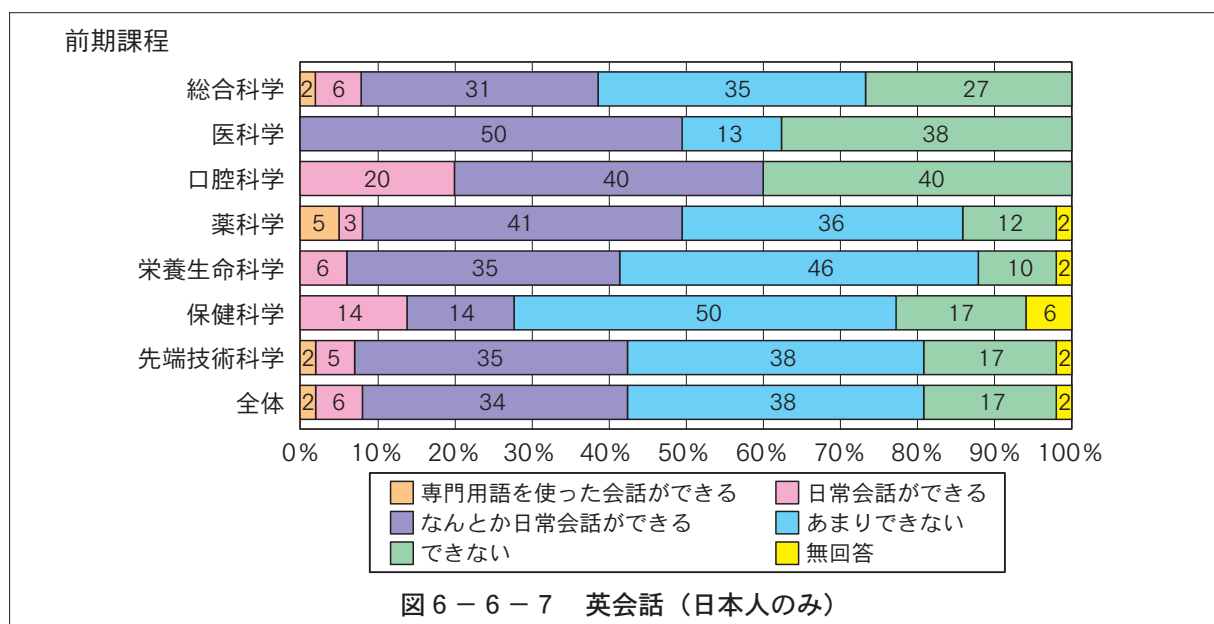
今回、英会話能力に関する質問に対し、前期課程の日本人学生では55%の学生が、また後期課程でも50%の日本人学生が「できない」か「あまりできない」と回答した（図6-6-7、図6-6-8）。この結果は第5回及び第6回調査と比べて大きな改善は認められず、依然として本学の日本人学生は英会

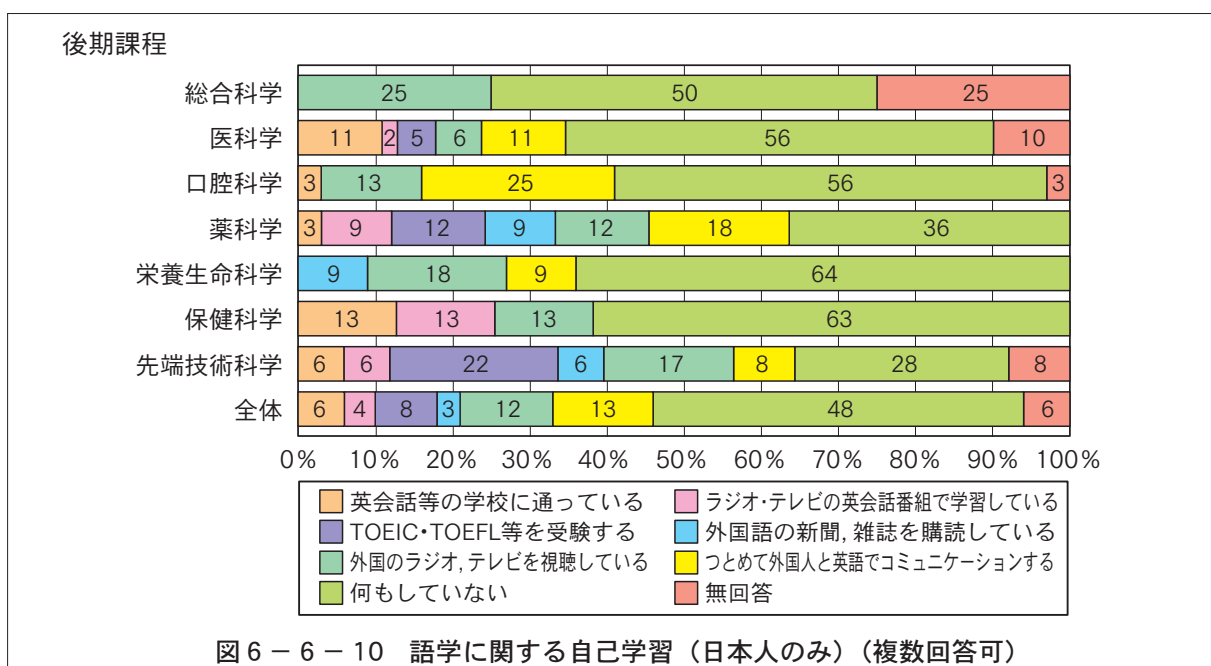
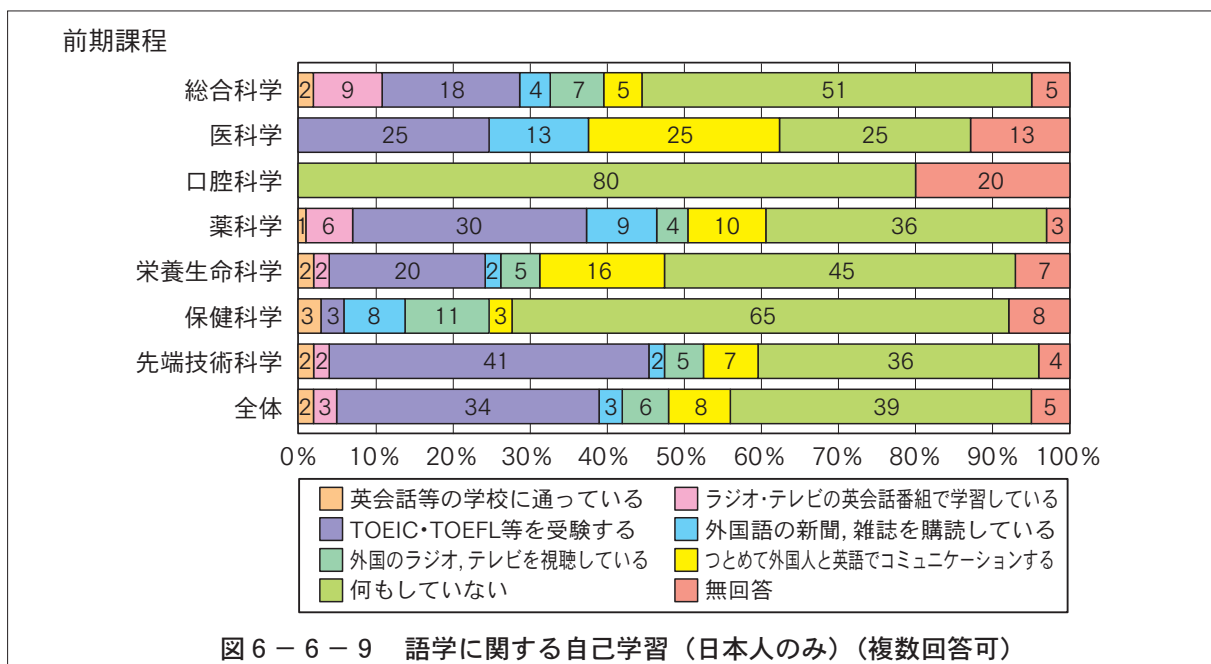


話を苦手としていることが見て取れた。また、その傾向が著しい教育部も見られた。

その一方で、英会話に関する自己学習状況については、「何もしていない」という学生が前期課程及び後期課程で、それぞれ39%及び48%に登り、多くの学生が語学力の修得に積極的な努力をしていないことが分かる（図 6 - 6 - 9、図 6 - 6 - 10）。この傾向は第 5 回調査時から見られ、特に後期課程学生において顕著になっている。また語学の学習を行っている場合でもこれまで同様に、前期課程では TOEIC や TOEFL の受験が中心であり、実際は外国人との対面学習ではないケースがほとんどである。他方、後期課程では TOEIC や TOEFL の受験に加え、外国人との英語でのコミュニケーション、外国のラジオ・テレビの視聴、ラジオ・テレビの英会話番組、英会話学校への通学などの多様な方法で学習していることがわかる。学生に語学力修得のための努力を促すためには、少なくとも後期課程は国際学会への参加を義務化するなどの対策を含め、英語による教育カリキュラムの整備、大学院生が個人

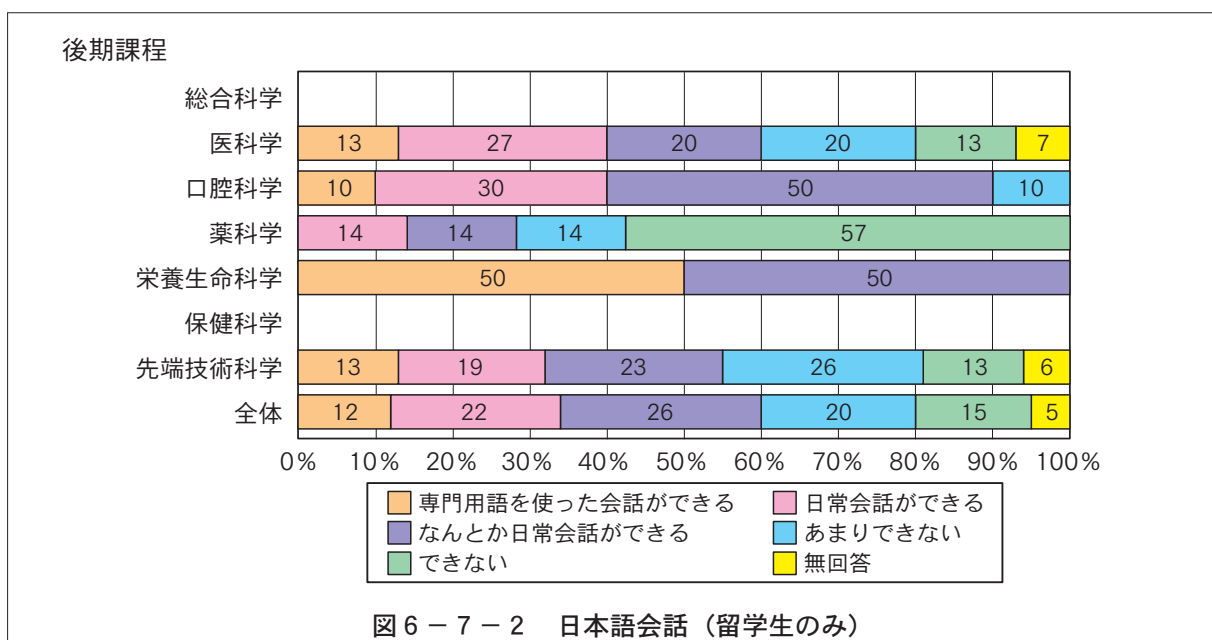
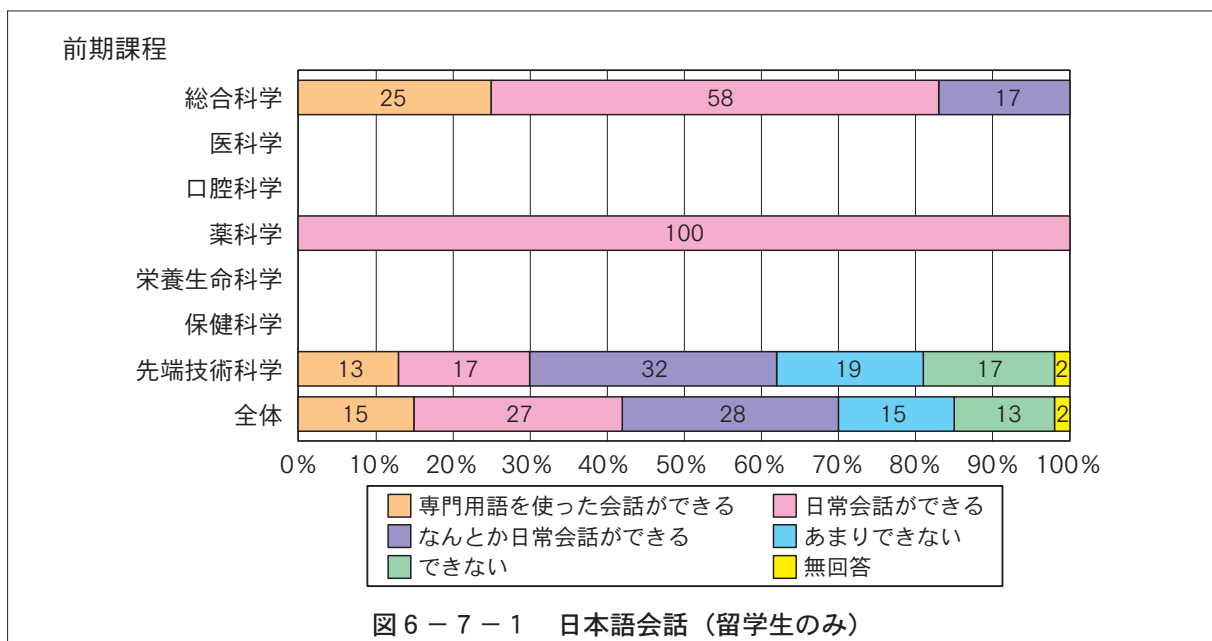
的に語学学習しやすくするための経済的援助，学内の留学生との交流など多面的な対策を検討する必要がある。





6-7 日本語会話 (図 6-7-1 ~ 6-7-6)

留学生の日本語会話の能力について、前期課程では70%、後期課程では60%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上と回答した（図 6-7-1, 図 6-7-2）。過去の全調査平均値と比較すると、前期課程は約7%低く、後期課程は約2%高かった。なお、前期課程の回答者は60名で、その内で先端技術科学が47名、総合科学が12名、薬科学が1名であり、半数以上の教育部では回答者がいない。また、2教育部では後期課程の回答者もおらず、今回の調査でも教育部別のデータの分析や教育部間での比較は困難であった。今回及び過去の調査に基づくと、前期課程では1/4~1/3程、後期課程でも1/3を上回る留学生が、日本語会話に支障を抱えている。本学の国際化がますます進展して全ての教育部でさらに多くの留学生を迎えることが考えられるが、この状況は今後も続く可能性が高い。留学生自身に日本語習得への努力を促すことは重要だが、さらにその努力に頼ることなく、事務手続き等にお



いては英語による学生のサポートを可能とする体制の整備が必要となるであろう。

今回の調査でも、前期課程では81%，後期課程では84%の留学生が日本語コースを「受講している」、「以前受講したことがある」あるいは「今後受講する予定である」と回答しており、日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが示された（図6-7-3、図6-7-4）。この日本語コースに対して、前期課程で100%，後期課程で89%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、受講生の評価は高い（図6-7-5、図6-7-6）。留学生の日本語能力向上のために、本学で開講されている「日本語コース」は重要な役割を果たしているものと考えられ、今後も現在のレベルより一層の充実化が望まれる。

前期課程

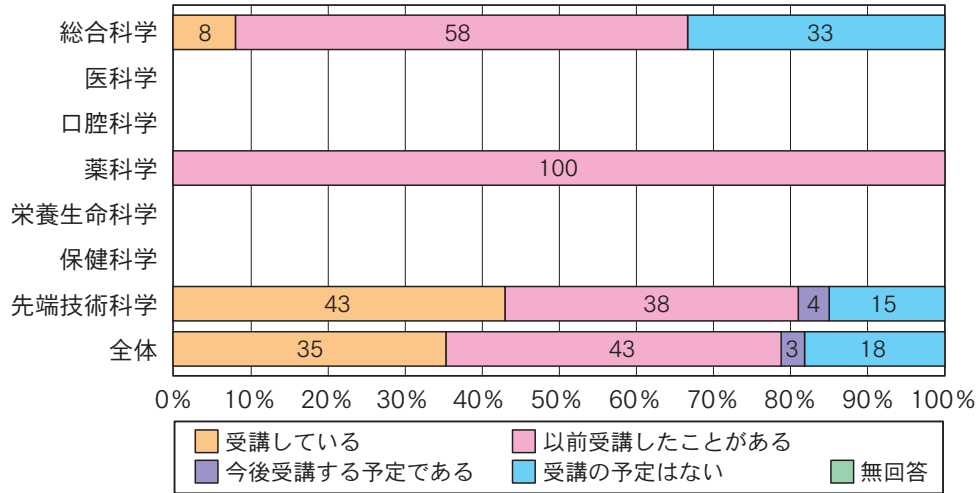


図 6-7-3 日本語コースの受講（留学生のみ）

後期課程

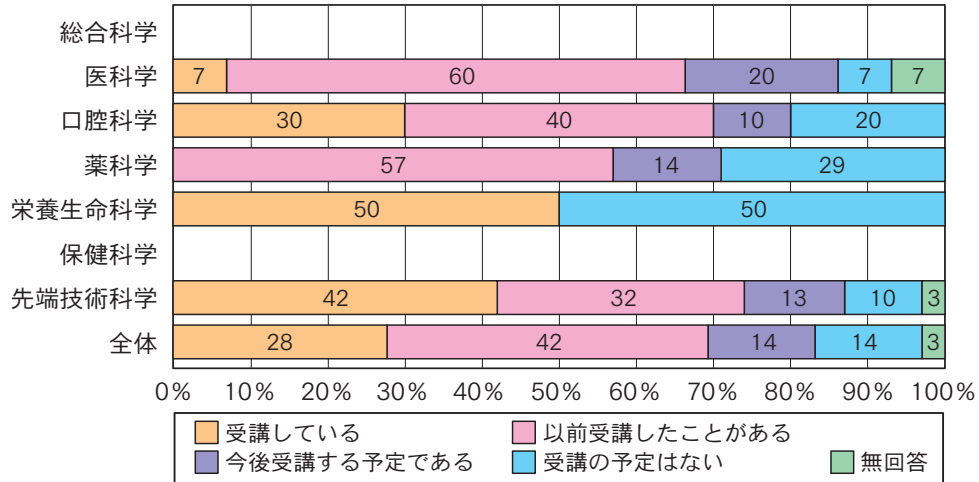


図 6-7-4 日本語コースの受講（留学生のみ）

前期課程

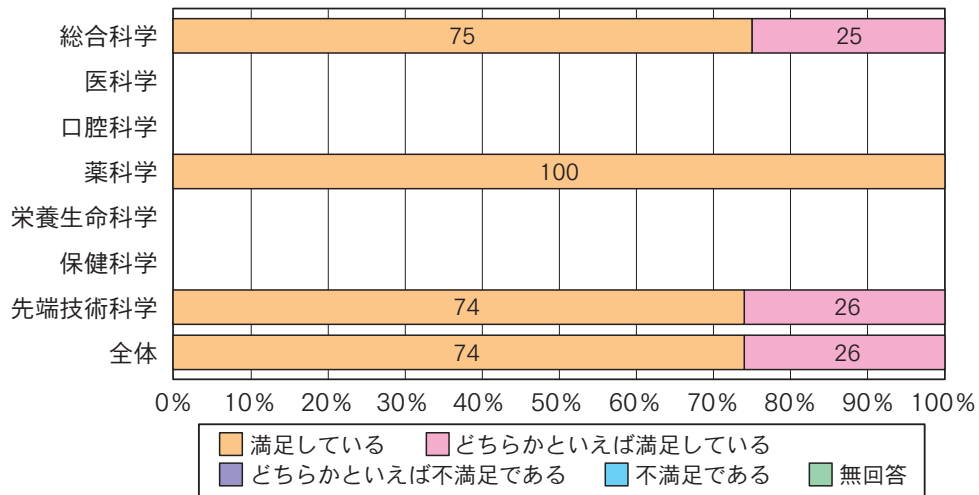
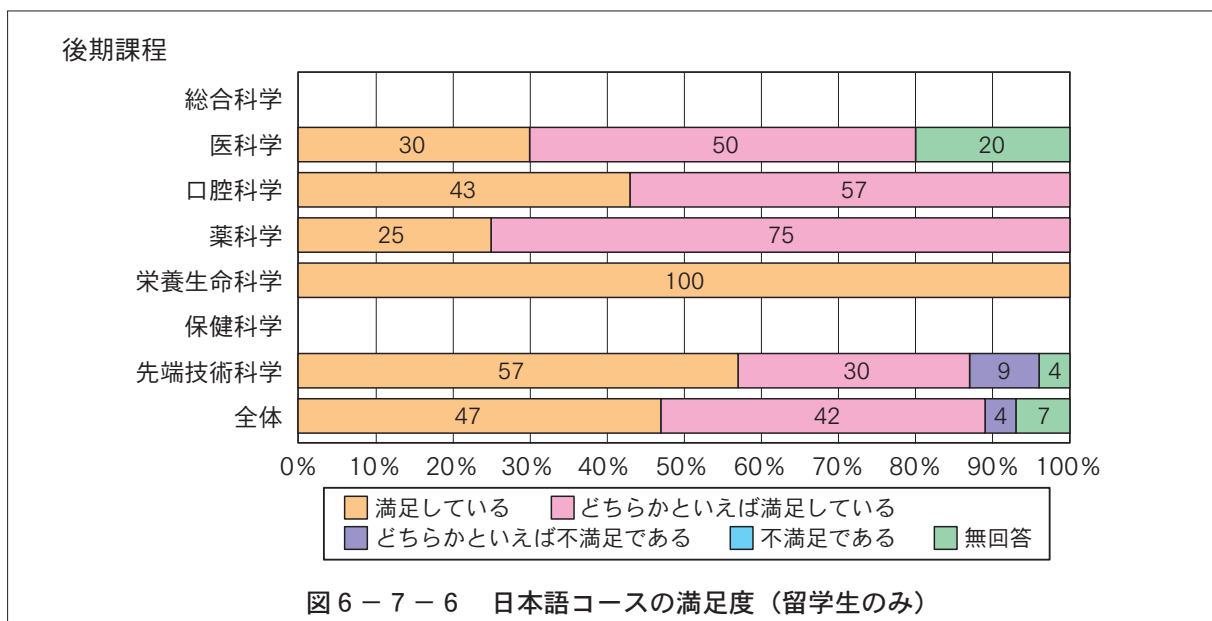
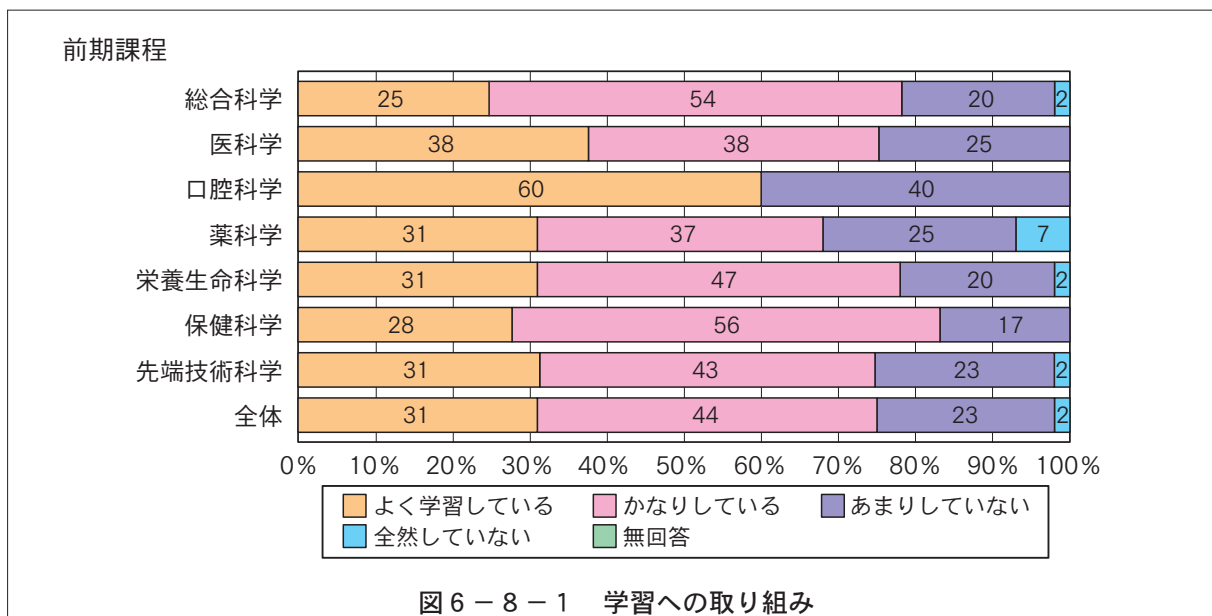


図 6-7-5 日本語コースの満足度（留学生のみ）



6-8 学習への取組みと本学の教育への期待 (図 6-8-1~6-8-10)

学習への取組み状況についての質問に対しては、「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答した学生が、前期課程全体で75%，後期課程全体73%であった(図6-8-1, 図6-8-2)。この質問について、第2~6回調査の結果における推移を見ると、前期課程全体では60%，61%，63%，62%，71%であり、第5回調査時(平成26年度)から今回にかけて明らかな改善傾向が見られた。しかし後期課程全体の推移では、77%，69%，68%，79%，75%であり、第5回調査時では大きな改善が見られたものの、2回連続で減少傾向にあった。教育部別で見ると、前期課程では全ての教育部で60%以上の学生が「よく学習している」か「かなり学習している」と回答していたが、口腔科学の学生では「よく学習する」集団と「あまりしていない」集団に2極化した結果が見られた。これは前回調査時にも類似の現象が保健科学で見られている。前期課程においては、現在の比較的良好な学生の学習モチベーションを維持し、さらに延ばす取り組みを行うと同時に、学習意欲の2極化現象については各教育部で分析と対策を講じることが望まれる。また後期課程においては、教育部間で学習意欲にばらつく傾



後期課程

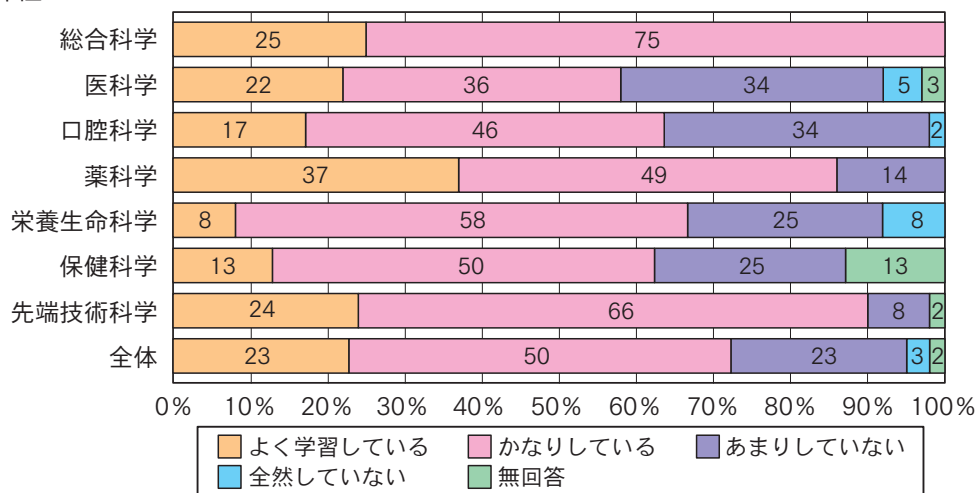


図 6 - 8 - 2 学習への取り組み

前期課程

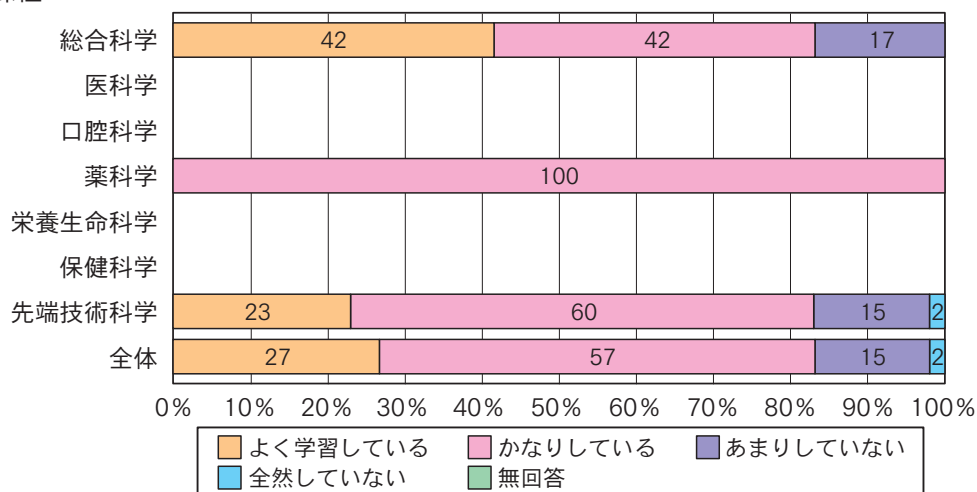


図 6 - 8 - 3 学習への取り組み (留学生のみ)

後期課程

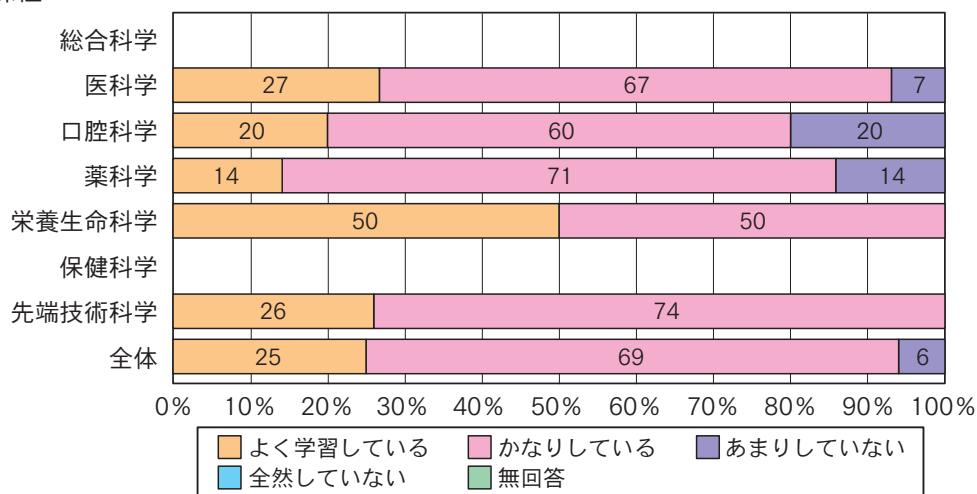
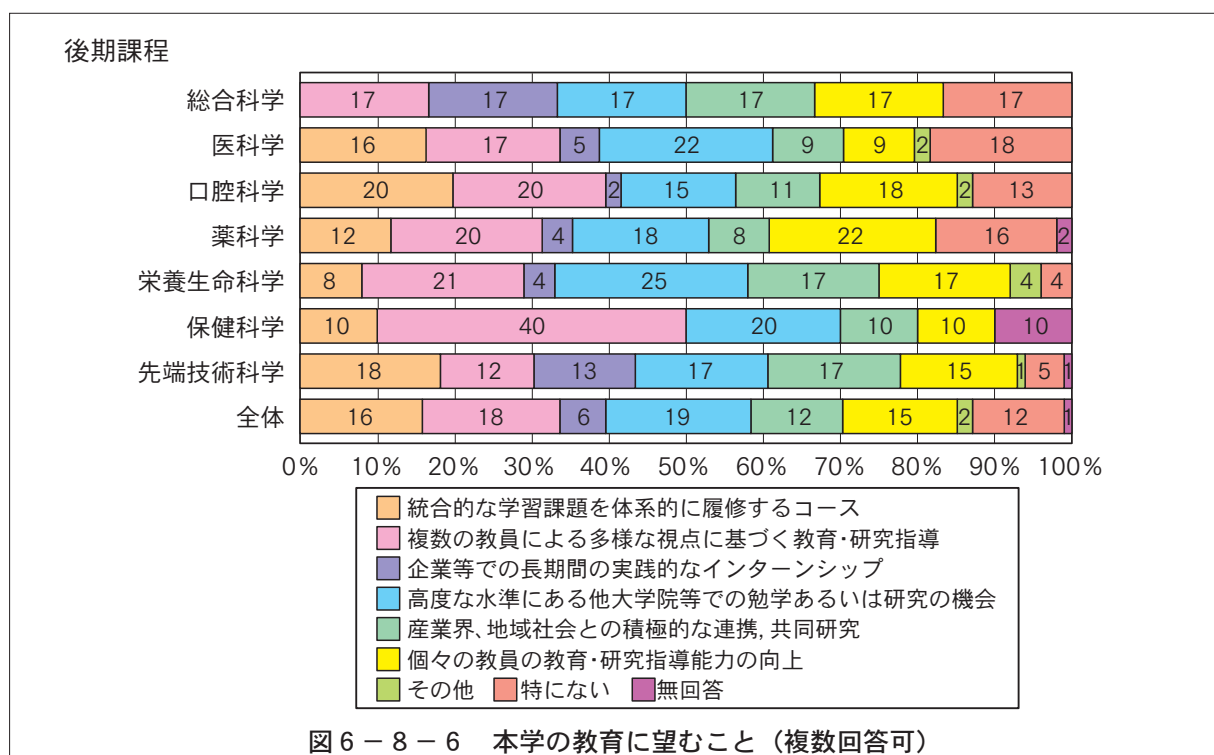
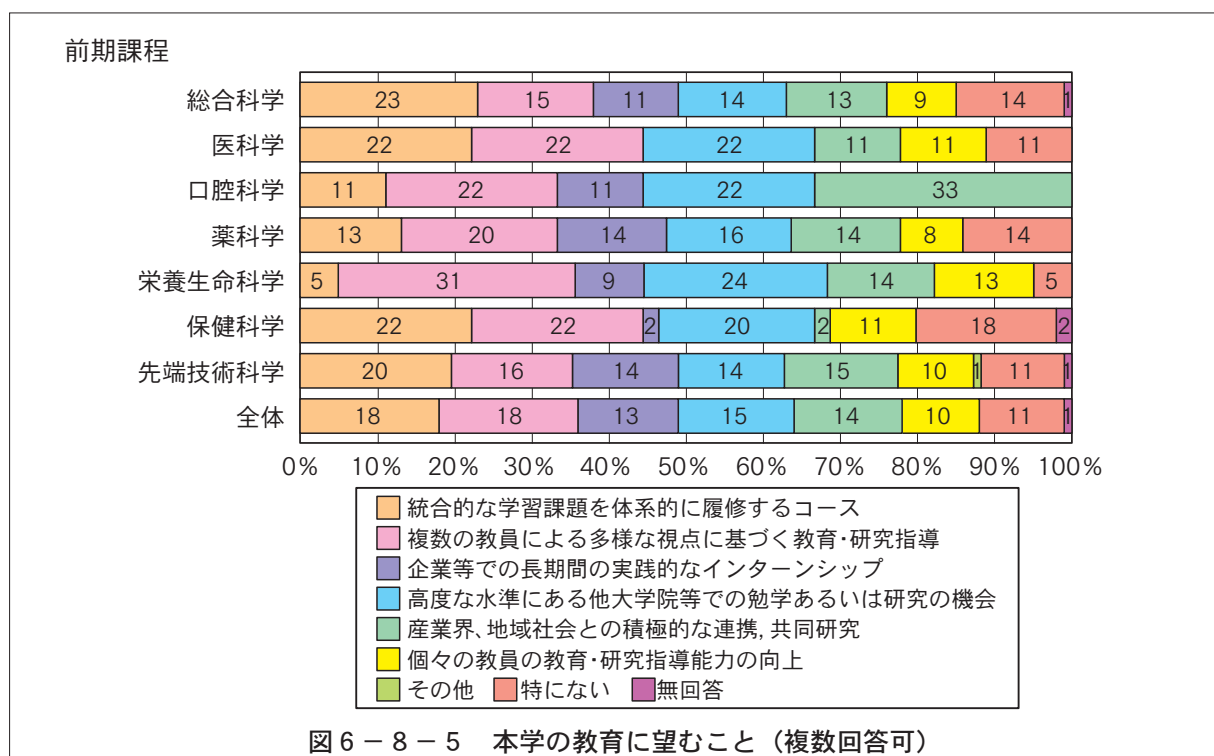


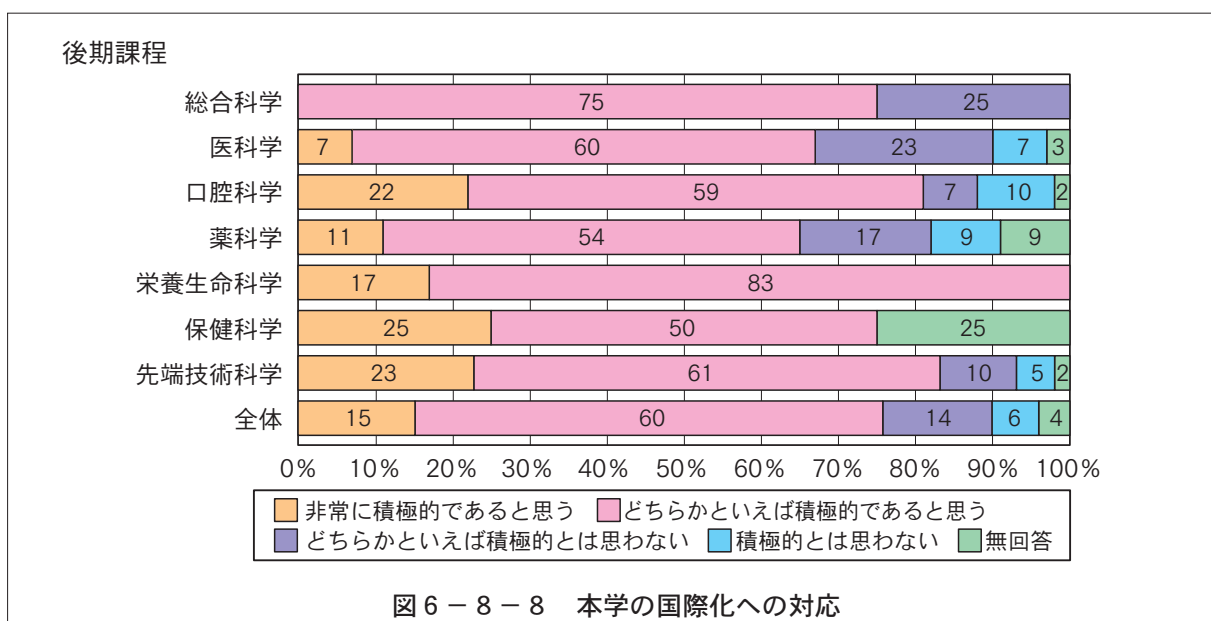
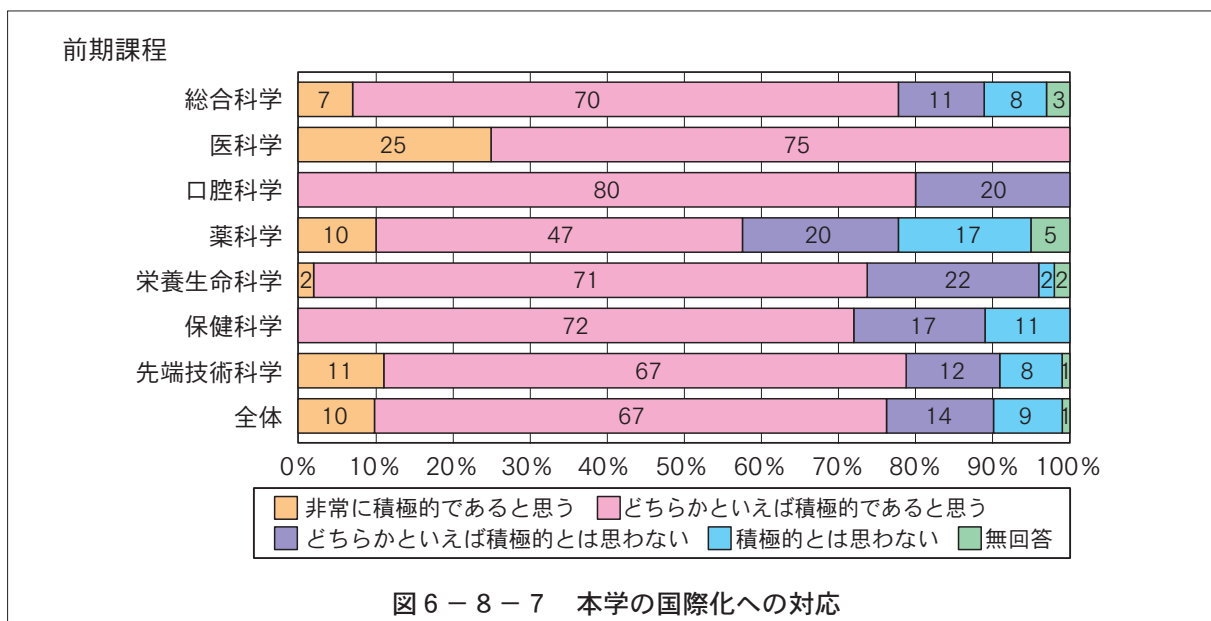
図 6 - 8 - 4 学習への取り組み (留学生のみ)

向が見られ、各教育部に即した学習意欲の底上げの取り組みが望まれる。

一方、留学生は前期課程で84%、後期課程で94%の学生が「よく学習している」あるいは「かなり学習している」と回答しており、学生全体の数値を顕著に上回っていた(図6-8-3, 図6-8-4)。従って両課程ともに、日本人学生の学習意欲を高める取組みが急務と言える。

「あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか」との設問に、6種類の選択肢を設定して回答を得た結果、前期課程と後期課程の両方で、ほぼ均等に意見が分かれた。これと同様な結果が、平成18年に本調査を始めてから継続的に得られており、学生ごとにニーズの多様性があると考えられ、各学生にきめ細かい対応を行う必要があるものと考えられる(図6-8-5, 図6-8-6)。





次に本学の国際化への対応については、前期課程全体の77%、後期課程全体の75%の学生が、「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と回答した（図6-8-7、図6-8-8）。また留学生に注目した場合は、前期課程の95%、後期課程の78%が、「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と答えている（図6-8-9、図6-8-10）。今回の結果を第5回調査及び第6回調査の結果と比較すると、前期課程ではほぼ同じ傾向であり、後期課程での評価はやや低下が見られたが、本学が行っている国際化への対応は大学院生に概ね認識されているものと考えられた。

一方で、6-6でも示した様に、学生側における国際化に必要な英会話能力の習得に向けた学習努力や国際学会への参加・発表への取り組み等については低調な結果が得られており、大学側に比べて十分な努力や対応がなされていないのが現状である。今後、大学院生による「本学の国際化への対応」への評価が学生自身の学習意欲の向上と国際的な学術経験に裏打ちされた結果となるよう、さらに各教育部の教育カリキュラムの改善・強化を図って、国際的に通用する質の高い大学院教育の提供を目指さなければならない。

前期課程

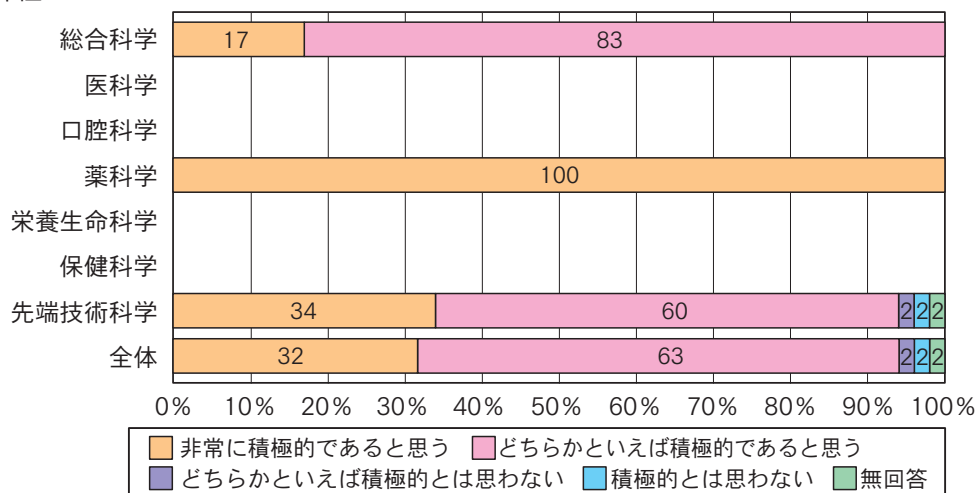


図 6 - 8 - 9 本学の国際化への対応（留学生のみ）

後期課程

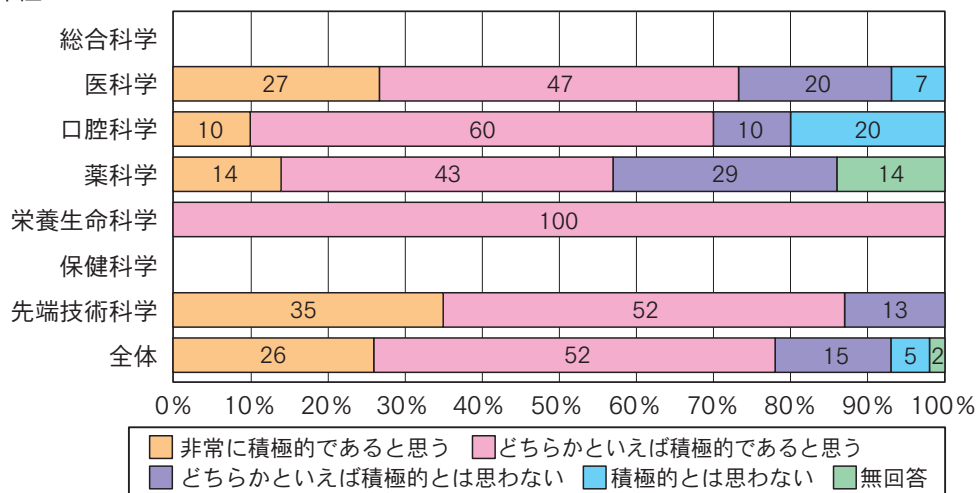
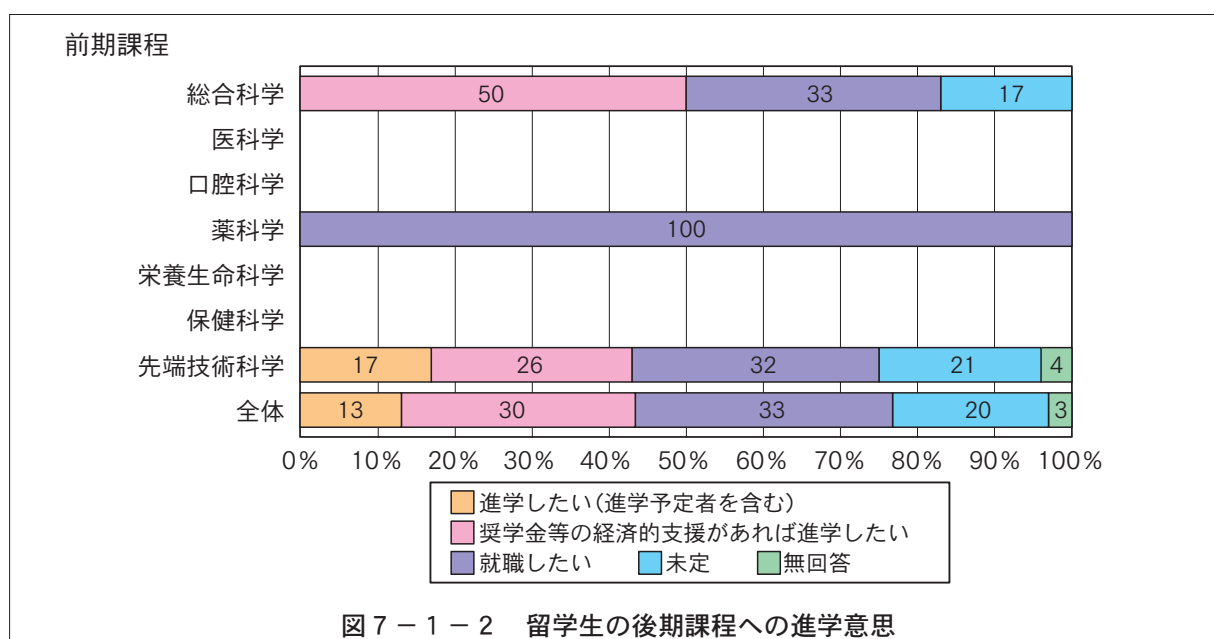
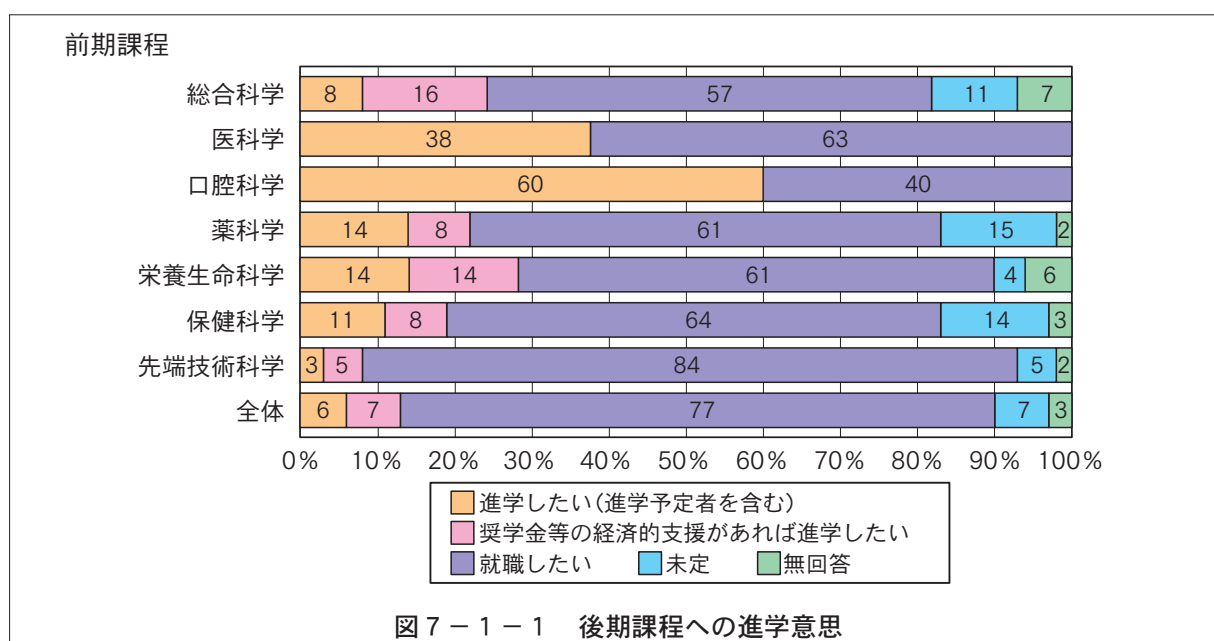


図 6 - 8 - 10 本学の国際化への対応（留学生のみ）

第7章 進路選択・就職について

7-1 後期課程への進学意思 (図7-1-1, 図7-1-2)

前期課程学生の後期課程への進学意思について、全体では「進学したい」(6%)、「経済的支援があれば進学したい」(7%)で進学を考えている割合の合計が13%となり、「就職したい」(77%)に対して17%となり全般的に高いとは言えない。教育部別では、「進学したい」の割合が、口腔科学が最も高く60%、次いで医科学が38%を示しており、他の教育部の2倍以上の値を示している。「経済的支援があれば進学したい」に注目すると、口腔科学と医科学では経済的支援を求めている学生がいないことに対して、それ以外の教育部ではそれぞれの「進学したい」の割合に対して、0.6~2倍の割合で進学を希望する学生がおり、経済的な問題が解決されれば進学を考える前期課程の学生は決して少なくないと考えられる。

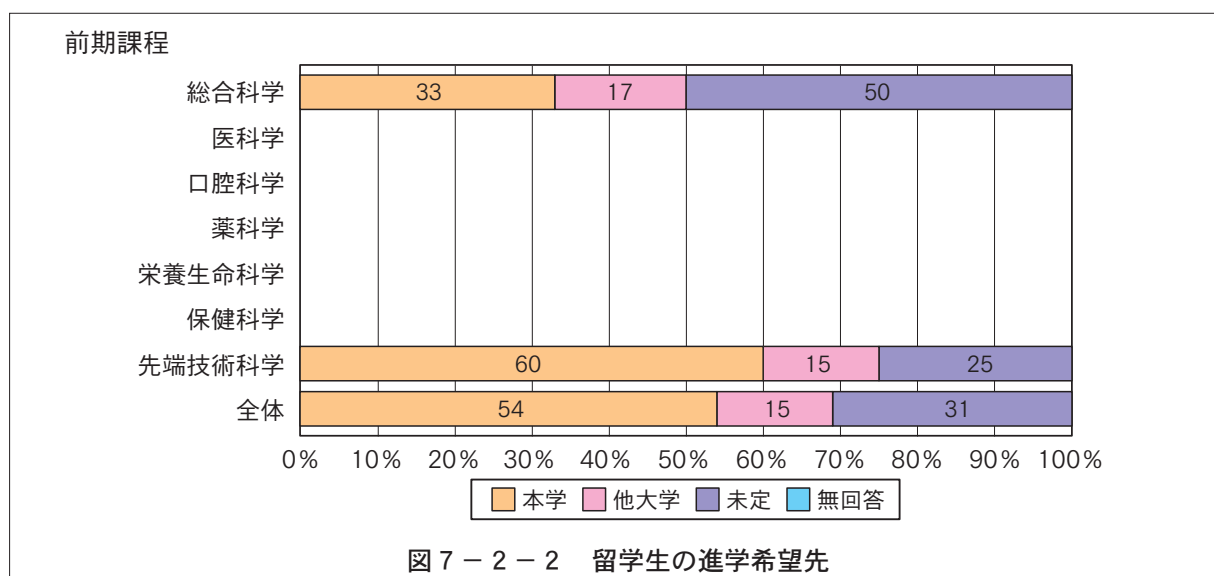
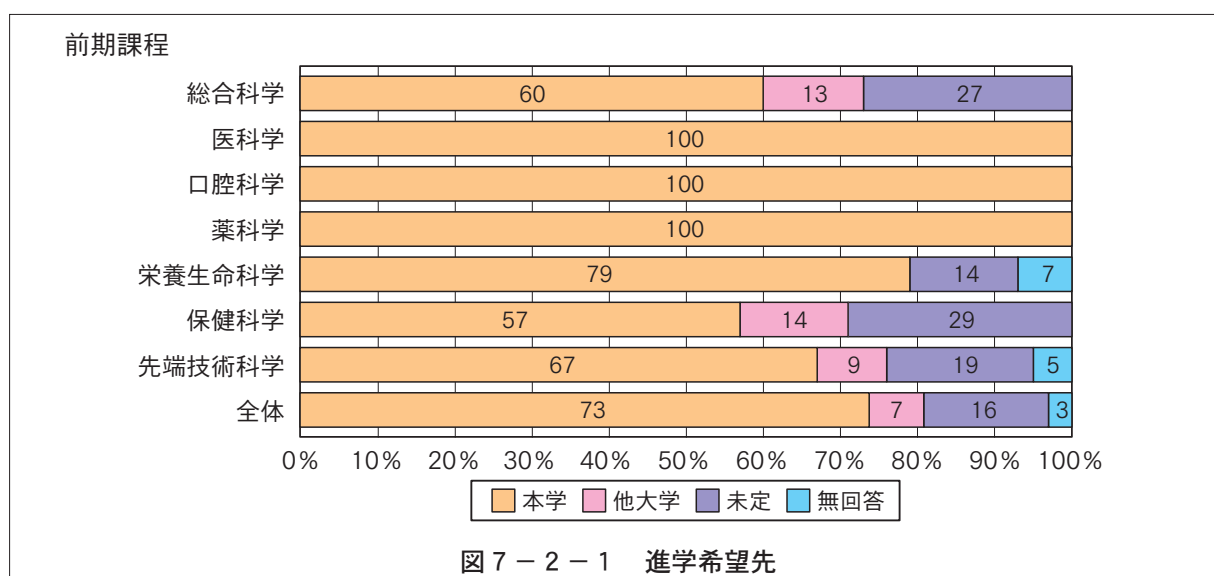


留学生については、全体では「進学したい」(13%)が日本人学生の2倍程度、さらに「経済的支援があれば進学したい」(30%)が日本人学生の4倍程度となっており、日本人学生と比較して後期課程への進学意識は高い。

7-2 進学希望先 (図7-2-1, 図7-2-2)

進学意思(「進学したい」「経済的支援があれば進学したい」)を示した学生(98名)の進学希望先大学院調査である。全体で73%が本学の、また7%が他大学の後期課程に進学することを希望している。医科学、口腔科学、薬科学では、全員が本学の後期課程への進学を希望している。調査では未定の学生が若干目に付くところで全体では16%に登り、今後何らかの対策は必要かもしれない。

留学生の場合、54%が本学の、また15%が他大学の後期課程を希望しており、日本人学生と比較して他大学を希望する傾向が高い。

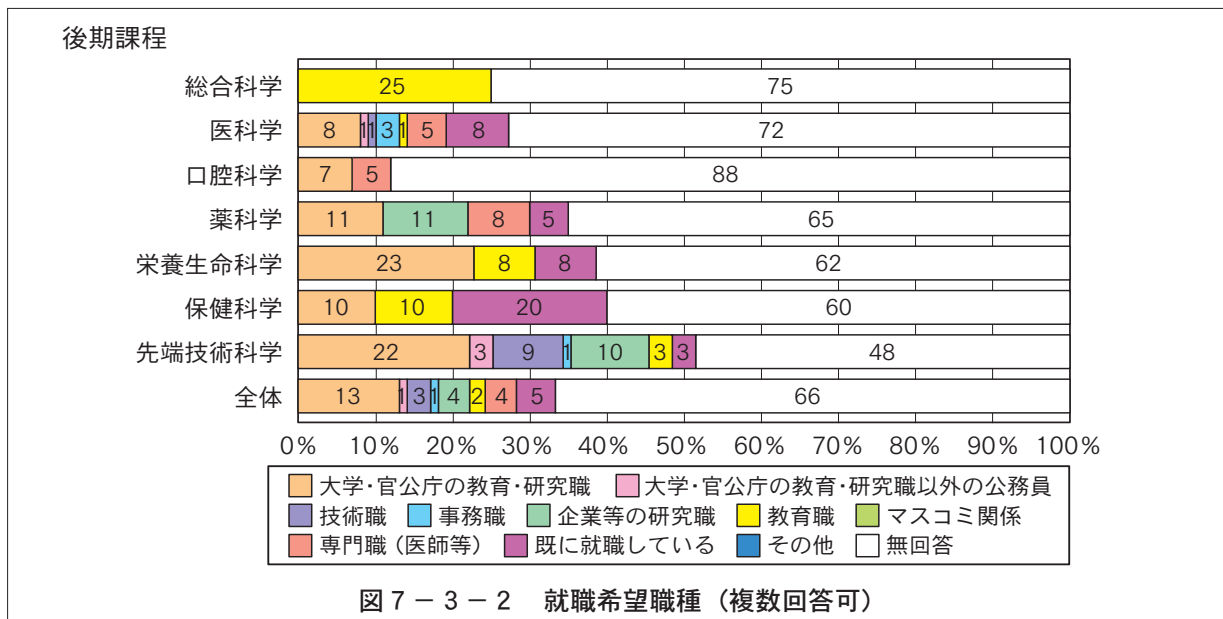
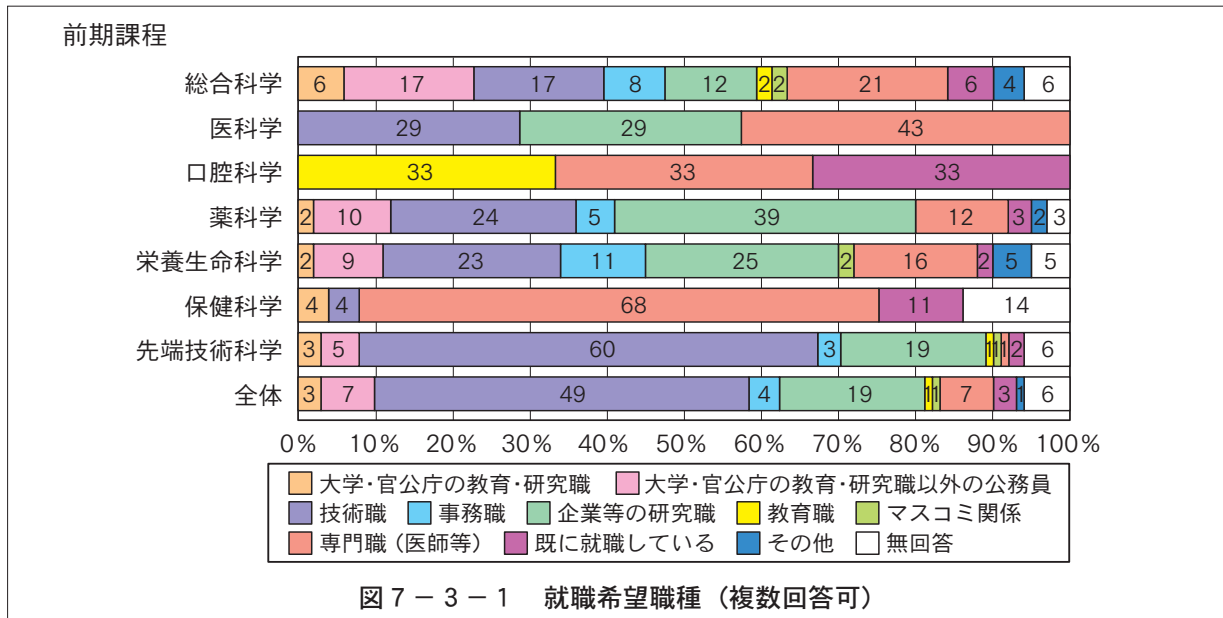


7-3 就職希望職種 (図7-3-1~図7-3-4)

図7-3-1は、項目7-1で「就職したい」「未定」と答えた前期課程の学生(753名)の就職希望職種である。前期課程の場合、前出の図7-1-1より分かるように、「就職したい」あるいは「未定」と答えた学生の比率は、高い順に①先端技術科学(89%)、②保健科学(78%)、③薬科学(76%)、④総合科学(68%)、⑤栄養生命科学(65%)、⑥医科学(63%)、⑦口腔科学(40%)である。

各教育部における主な希望職種は、①先端技術科学:「技術職」(60%)、「企業等の研究職」(19%)、②保健科学:「専門職(医師等)」(68%)、「技術職」(24%)、③薬科学:「企業等の研究職」(39%)、「技術職」(24%)、④総合科学:「専門職(医師等)」(21%)、「公務員」(17%)、「技術職」(17%)、⑤栄養生命科学:「企業等の研究職」(25%)、「技術職」(23%)、⑥医科学:「専門職(医師等)」(43%)、「技術職」(29%)、「企業等の研究職」(29%)、⑦口腔科学:「教育職」(33%)、「専門職(医師等)」(33%)、「既に就職している」(33%)となっている。

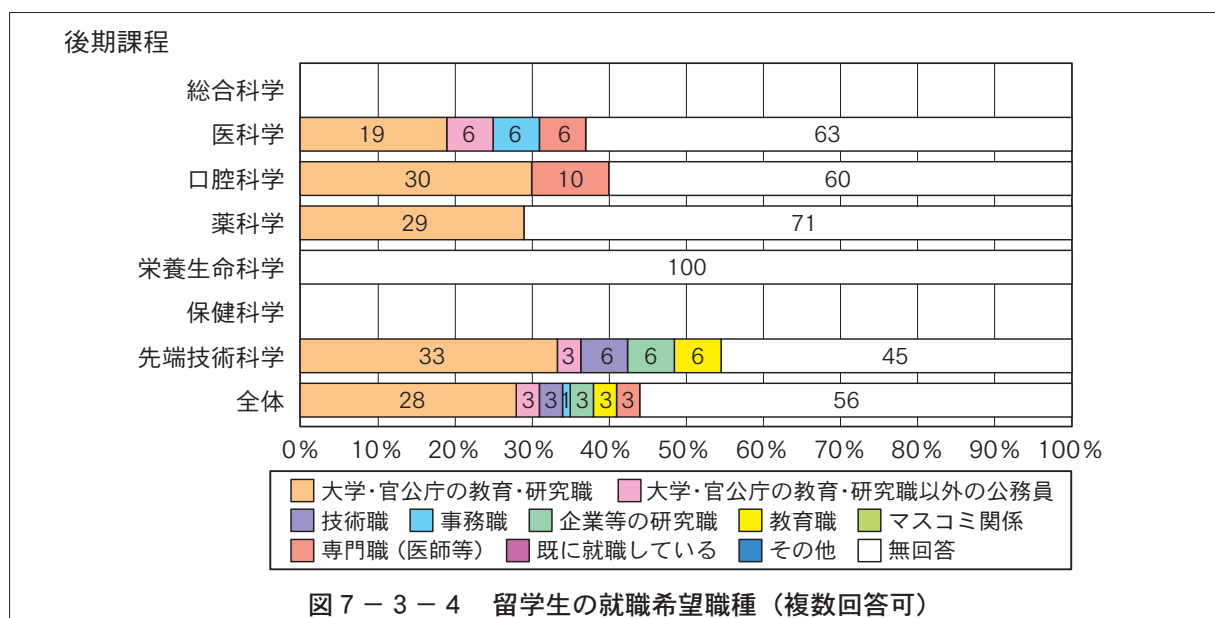
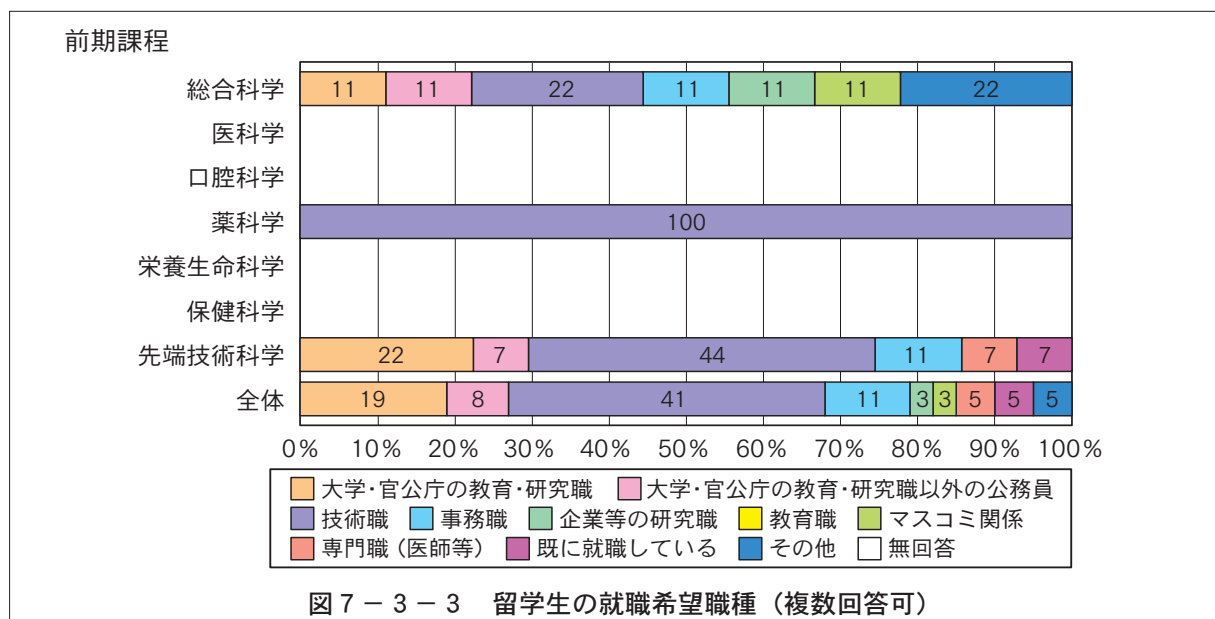
図7-3-2は後期課程の学生に就職希望職種を尋ねたものである。全回答者(248名)の66%が無回答であった。全体では、「大学・官公庁の教育・研究職」(13%)を希望している学生が比較的多く、



「既に就職している」(5%)、「企業等の研究職」(4%)、「専門職(医師等)」(4%)、「技術職」(3%)、「教育職」(2%)が分散している。

留学生に関しては、前期課程の回答者は37名(総合科学9名、薬科学1名、先端技術科学27名)であり、後期課程の回答者は68名(医科学16名、口腔科学10名、薬科学7名、栄養生命科学2名、先端技術科学33名)である。前期課程では「技術職」(41%)が最も多く、「大学・官公庁の教育・研究職」(19%)、「事務職」(11%)、「公務員」(8%)と続いている。後期課程では「無回答」が56%を占めるが、28%が「大学・官公庁の教育・研究職」を志望している。

日本人学生および留学生の後期課程の無回答が目につくところで、今後何らかの対策は必要かもしれない。



7-4 進路選択の要件 (図7-4-1~図7-4-4)

図7-4-1は前期課程の院生に進路選択で重視する要件を尋ねたもので3個以内の複数回答結果である。全体では「就職先の将来性・安定性」(28%)が最高比率を示し、「収入」(26%)、「能力を發揮できること」(15%)、「勤務地の地理的条件」(12%)が続いている。全ての教育部においてほぼ同様の傾向が見られるが、他の教育学部と比較して医科学では「能力を發揮できること」(55%)が高く、「収入」(9%)が低いことが特徴的である。

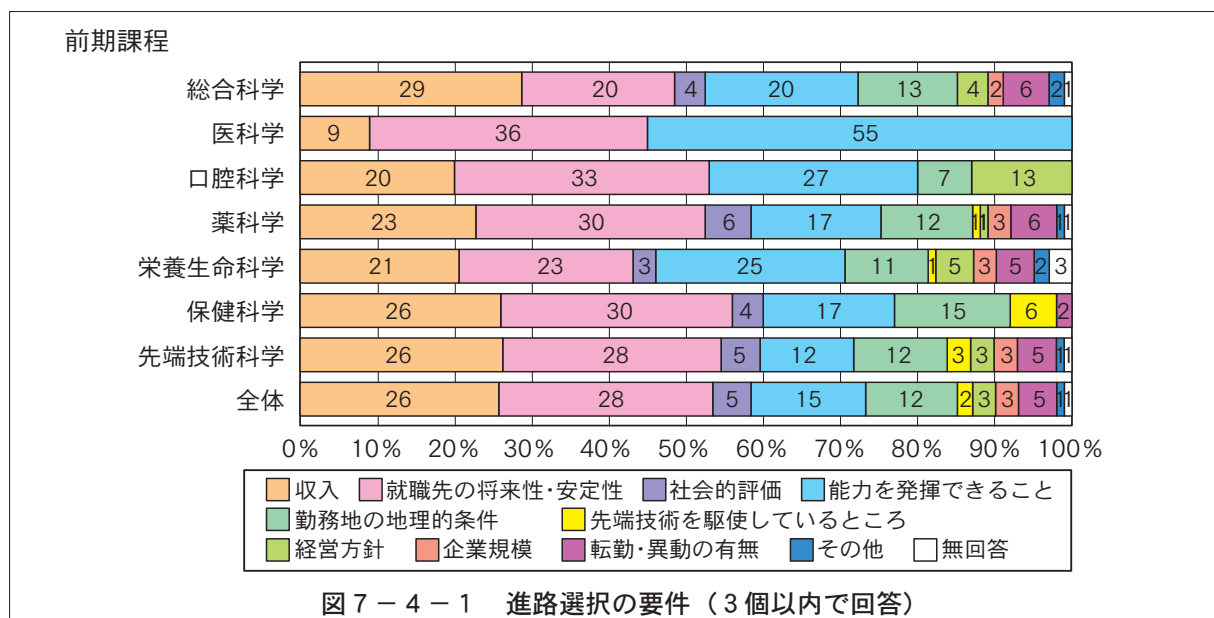
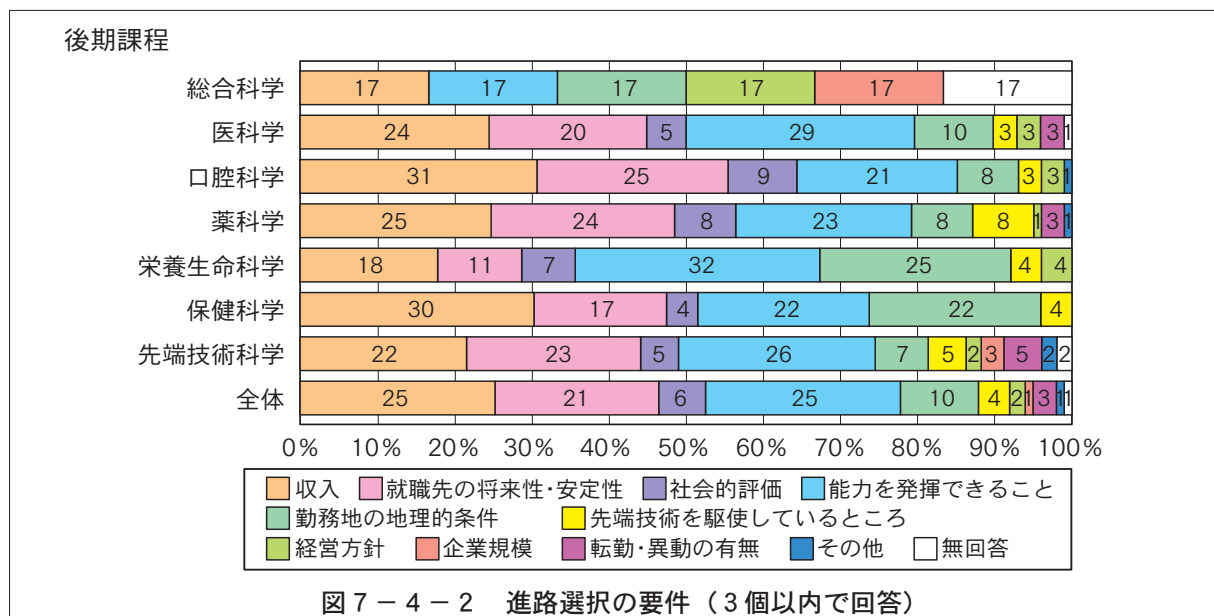


図7-4-2は後期課程の院生に進路選択で重視する要件を尋ねたものである(3個以内で回答)。全体では、「収入」(25%)、「能力を發揮できること」(25%)、「就職先の将来性・安定性」(21%)が特に重視され、「勤務地の地理的条件」(10%)、「社会的評価」(6%)等が続いている。

前・後期課程とも「収入」,「就職先の将来性・安定性」,「能力を發揮できること」が共通して重視されている傾向がある。

留学生においては、前・後期課程とも「収入」,「就職先の将来性・安定性」,「能力を發揮できること」が主要要件となっており、日本人学生と類似した傾向がある。



前期課程

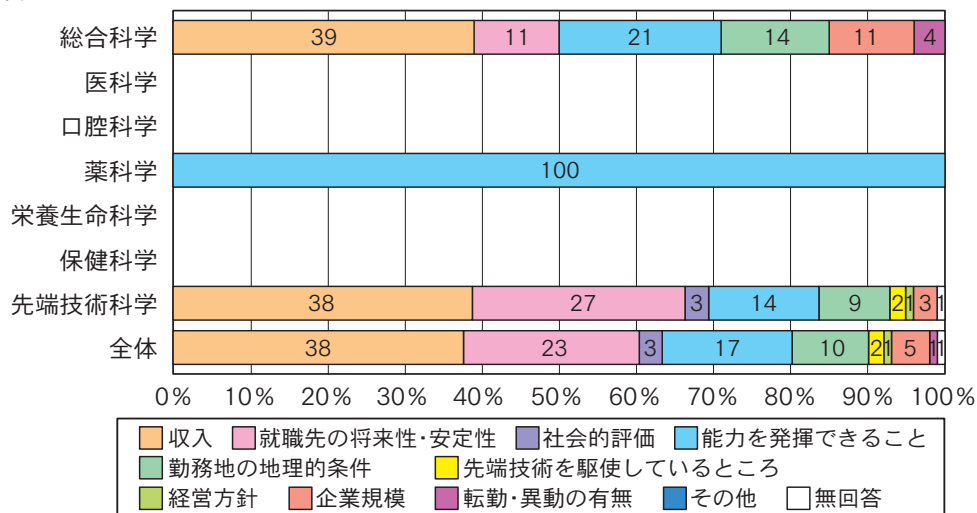


図 7-4-3 留学生の進路選択の要件 (3個以内で回答)

後期課程

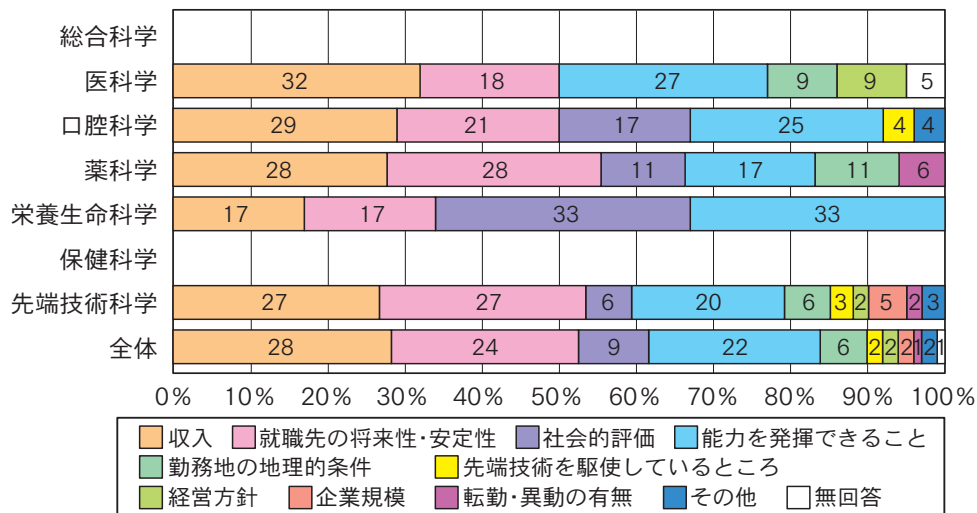
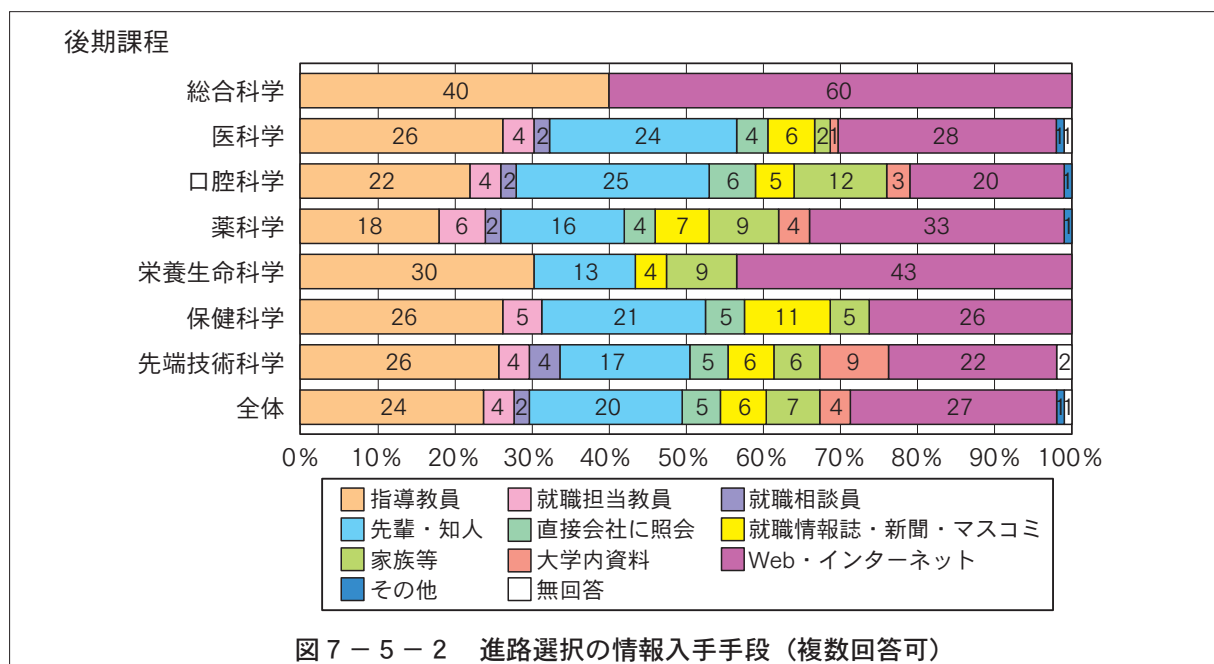
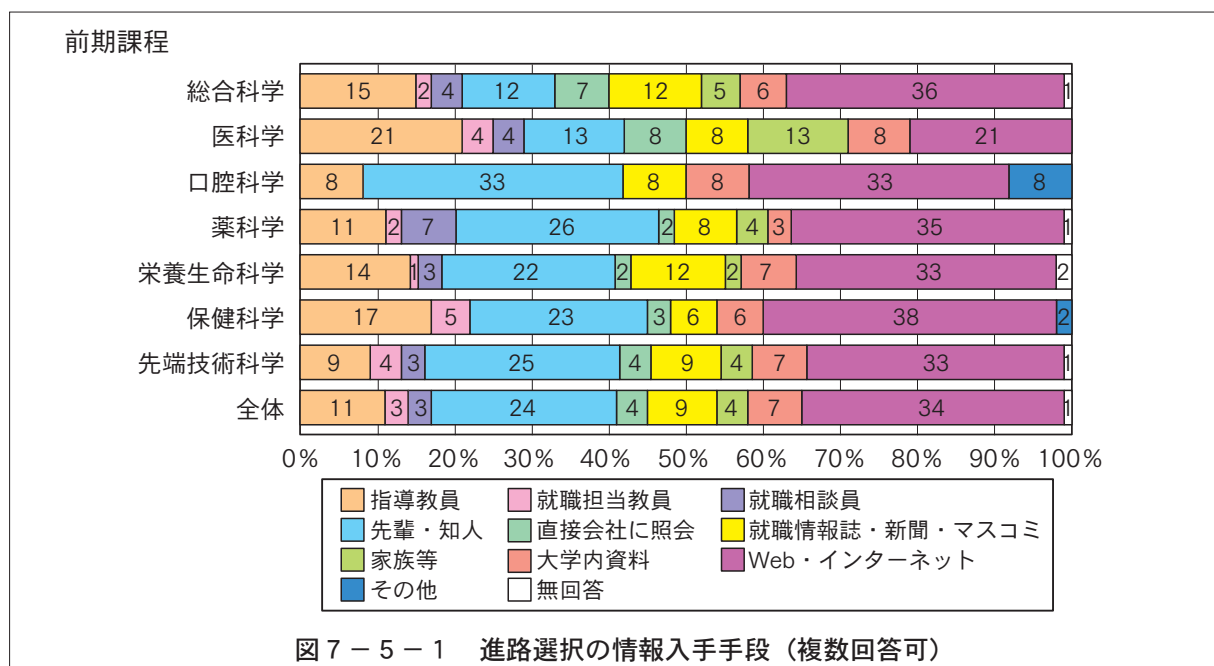


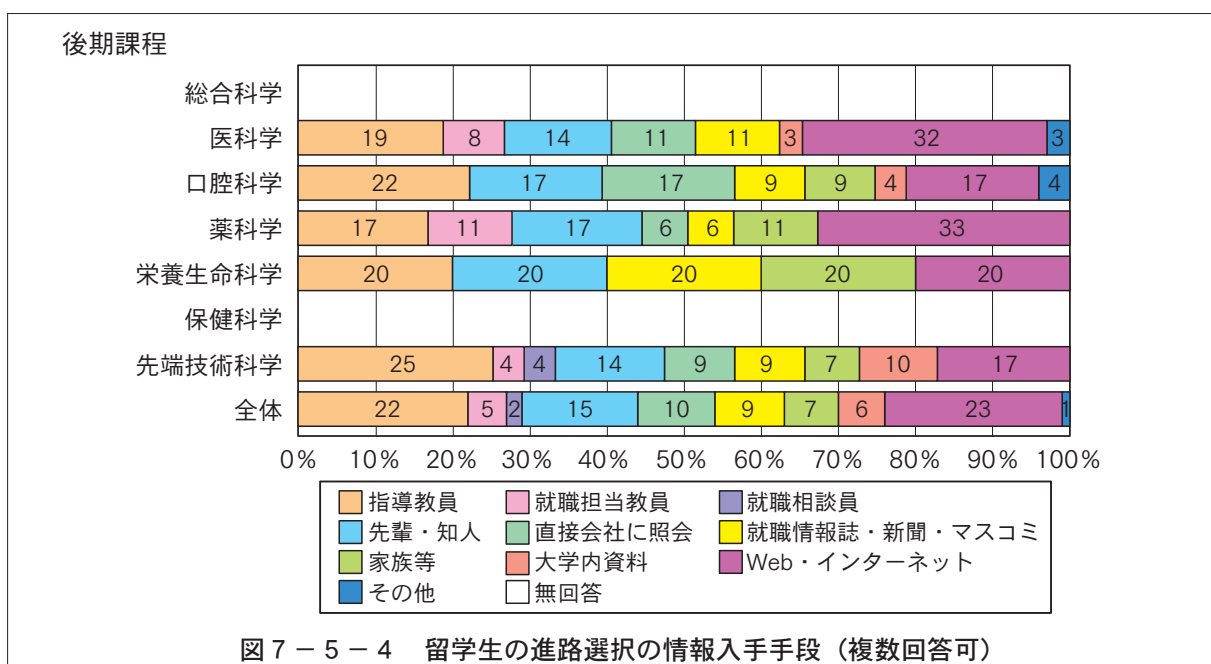
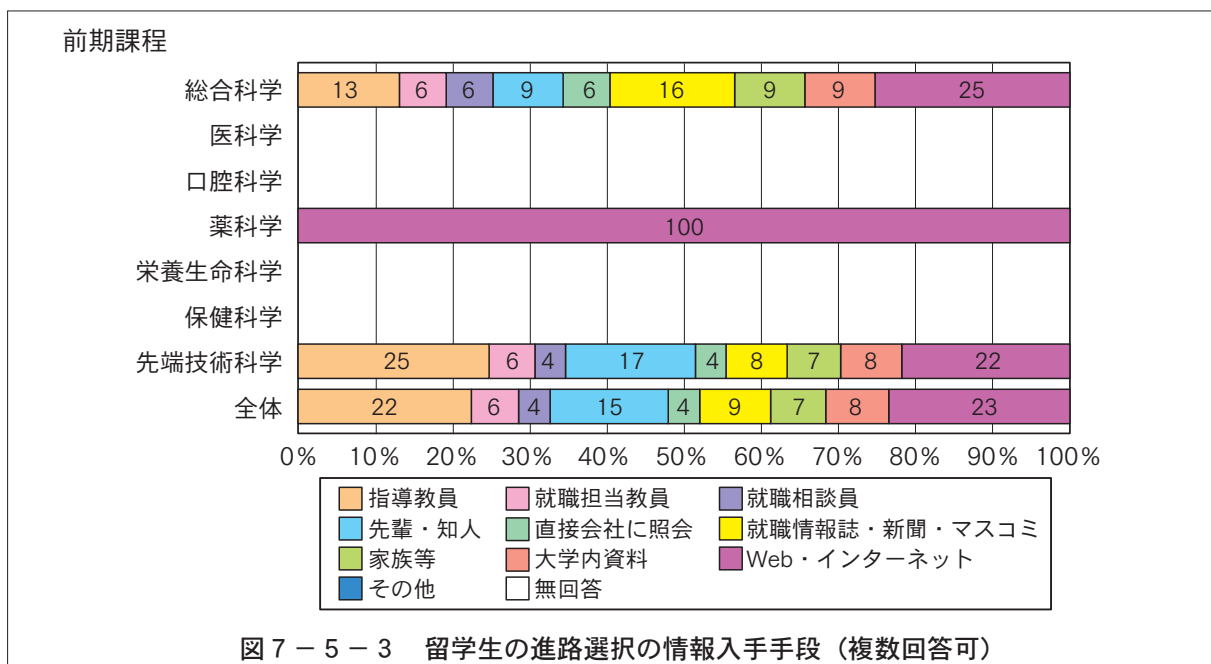
図 7-4-4 留学生の進路選択の要件 (3個以内で回答)

7-5 進路選択の情報入手手段 (図7-5-1～図7-5-4)

進路情報の入手手段において、前・後期課程において「Web・インターネット」がそれぞれ34%、27%と最高比率を示し、前期課程では「先輩・知人」(24%)、「指導教員」(11%)が続く、後期課程においては順位が逆転して「指導教員」(24%)、「先輩・知人」(20%)と続いている。また、前期課程においては、「就職情報誌・新聞・マスコミ」(9%)も「指導教員」(11%)と同程度の比率を示している。大学院生の場合、専門性の高さから「指導教員」の役割が高いと想像される。調査結果からも、後期課程学生は前期課程学生に比べ「指導教員」からの情報入手の割合が24%と約2倍になっている。ただし、この調査は複数回答可であり、「Web・インターネット」、「指導教員」、「就職情報誌・新聞・マスコミ」ならびに「先輩・知人」等も含めて、総合的に情報入手していると思われる。

留学生においても全体としては同様の傾向が見られた。





7-6 キャリア支援室の利用状況（図 7-6-1～図 7-6-4）

本学大学院生は、前期課程で54%が、後期課程で85%がキャリア支援室を「利用したことがない」と回答している（図 7-6-1, 7-6-2）。前回の調査結果とほぼ同様の利用率であるが、本学大学院の学生は、専門性の高い資格を求められる専門職（医師等）や技術職・研究職などの業種へ就職することが多く、そうした求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が多い。そのような背景においても、キャリア支援室の提供するガイダンスや企業説明会など開催およびその周知努力の効果もあり前回調査では利用率の上昇があった。今回の調査結果からは継続して利用率が維持されていると思われる。

留学生については、特に前期課程で日本人学生の利用率に比べて利用率が低い、語学や文化など特異な支援項目もあり国際センターとの連携を図りながら支援が行われていると思われる。

前期課程

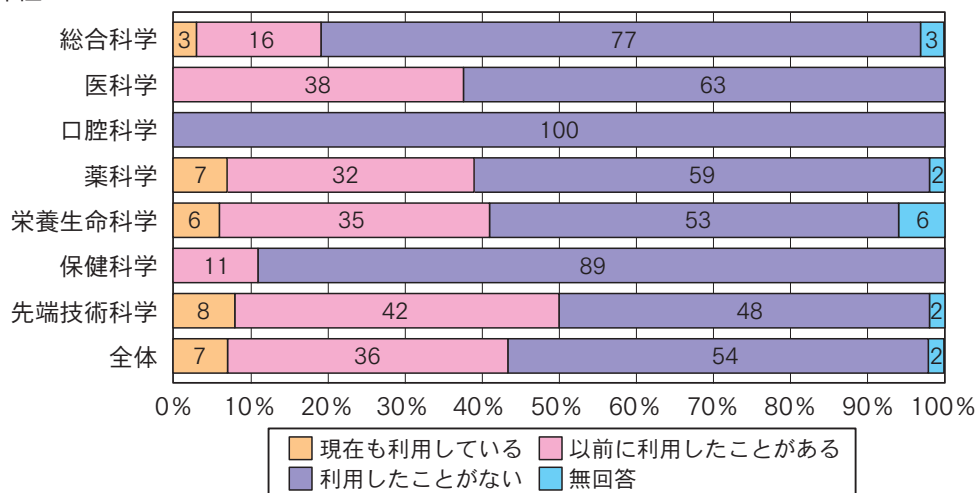


図 7-6-1 キャリア支援室の利用状況

後期課程

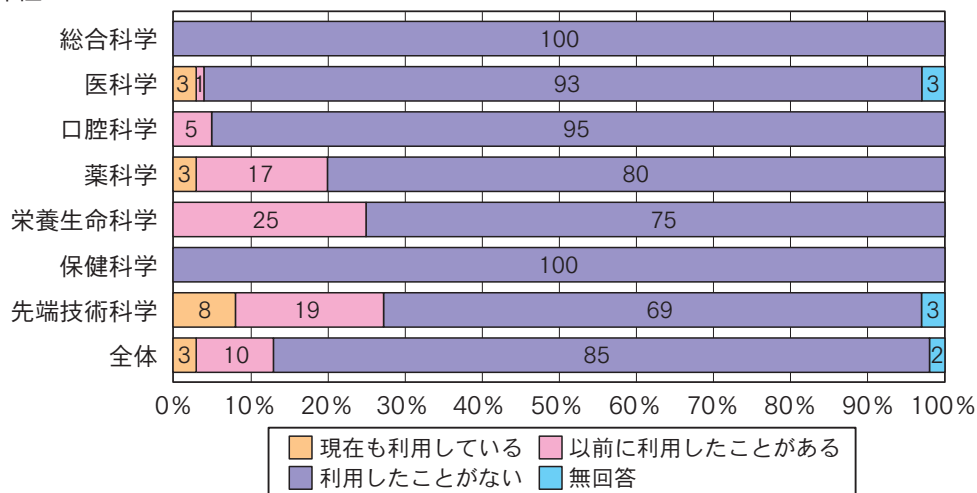


図 7-6-2 キャリア支援室の利用状況

前期課程

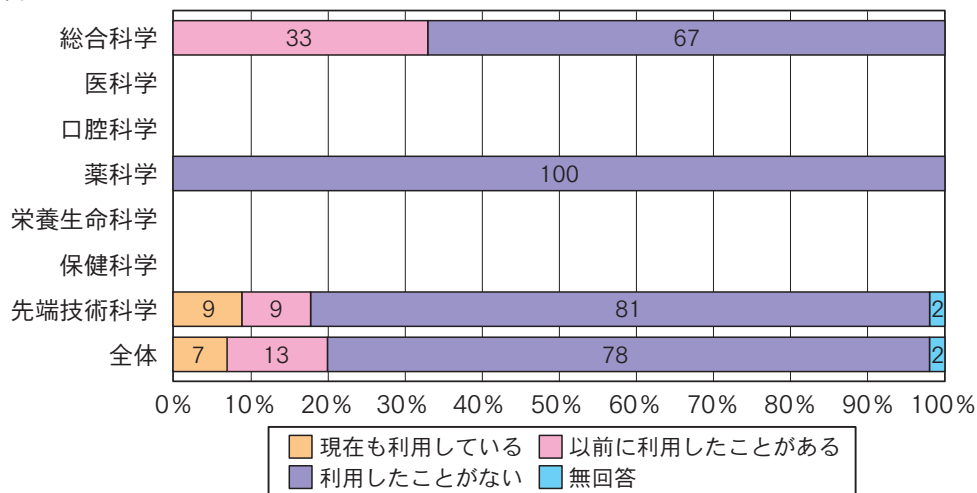
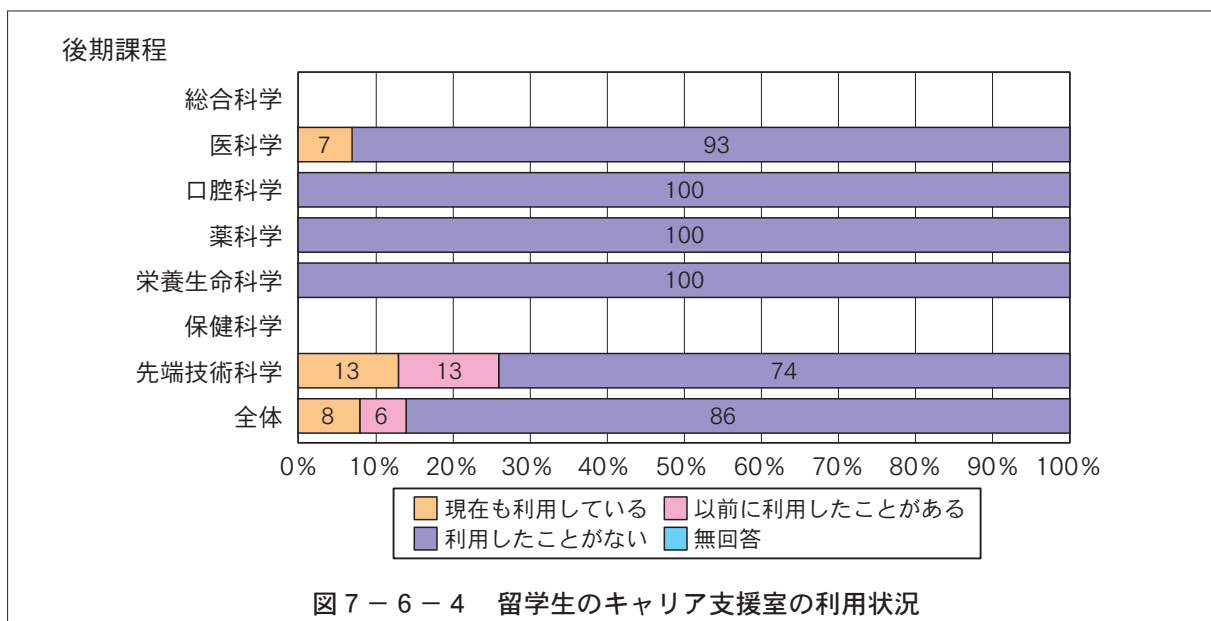


図 7-6-3 留学生のキャリア支援室の利用状況

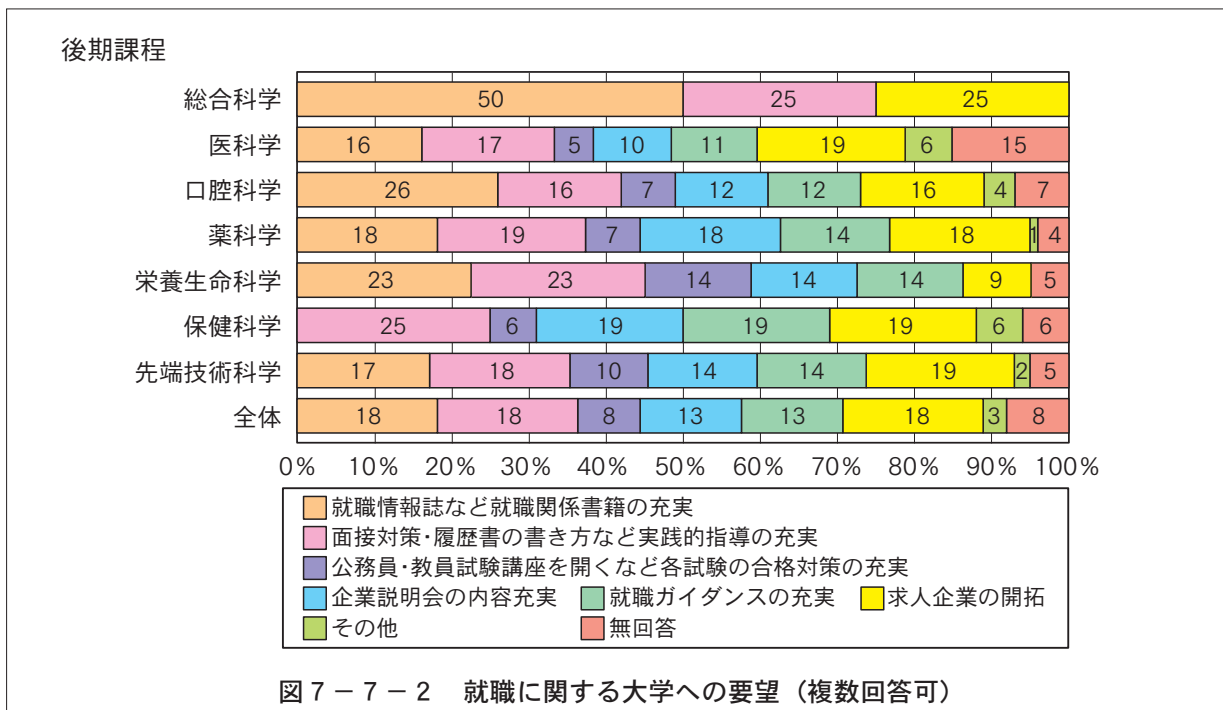
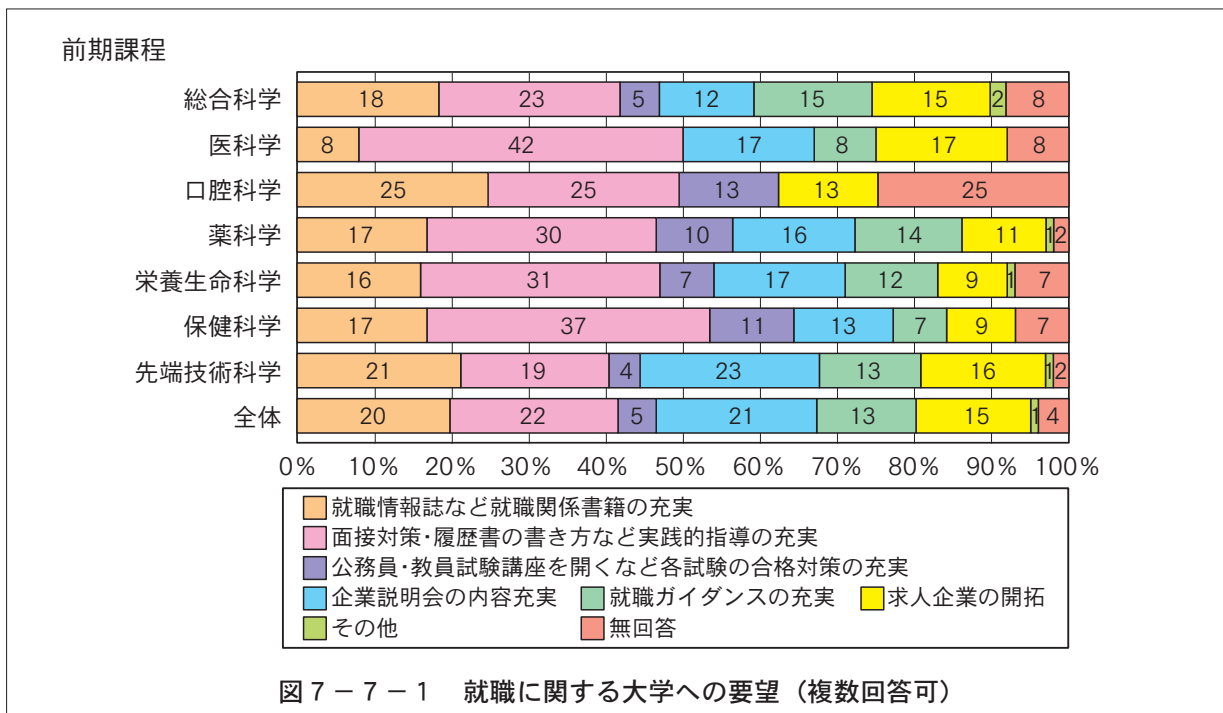


7-7 就職に関する大学への要望 (図 7-7-1~図 7-7-4)

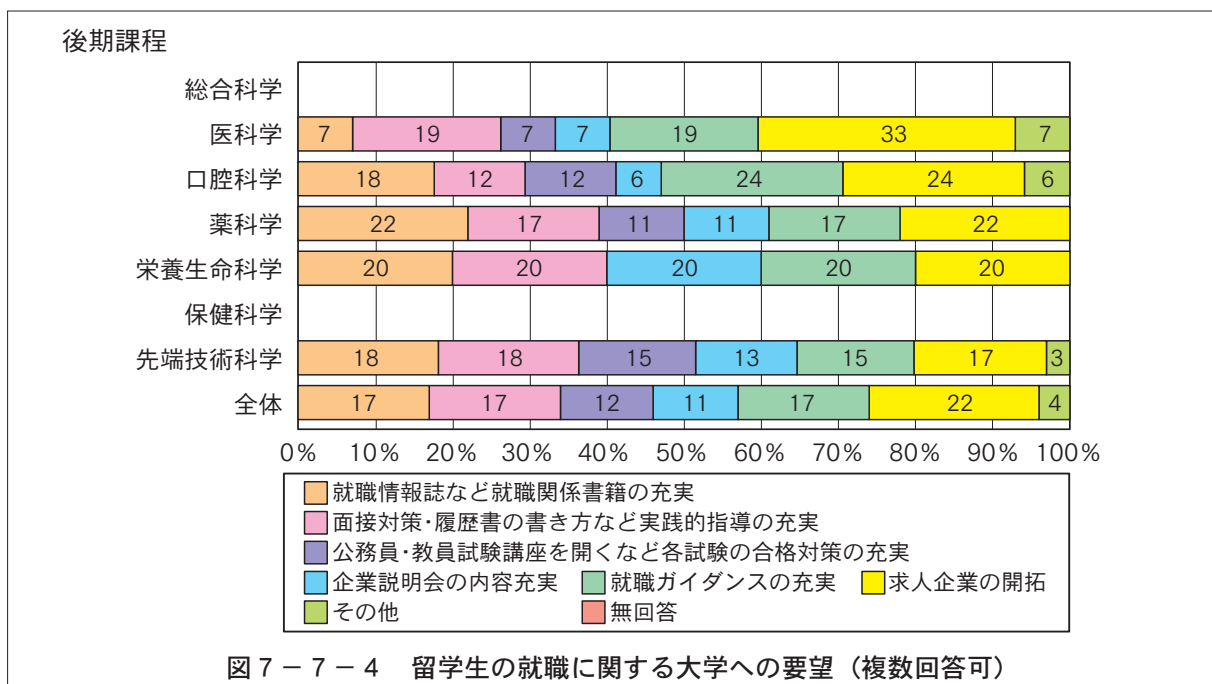
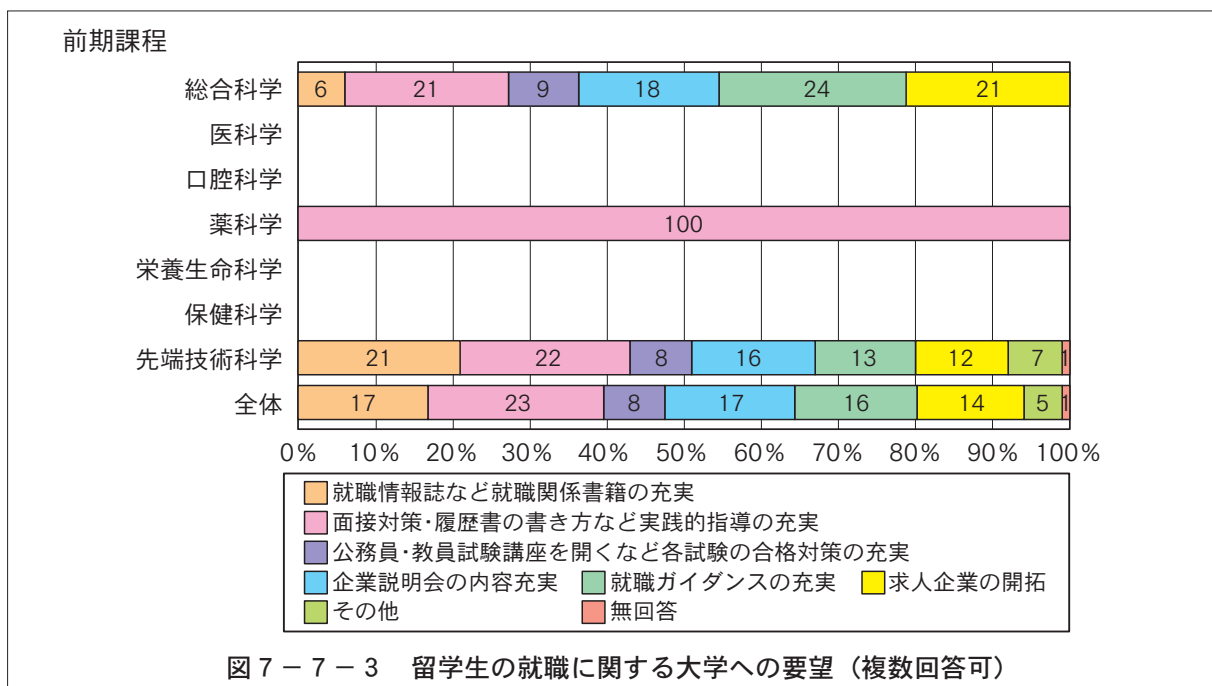
本質問・要望（複数回答）については延べ 1,864 件を数え、すべての回答項目について要望が寄せられている。ただし、前項目 7-6 で示されたように、キャリア支援室の利用状況は前回の調査結果を維持している状況である。キャリア支援室側から見ると、今回の回答項目の多くはいずれもキャリア支援室が主に取り組んでいるサービスであり、広く学生・院生の参加を呼びかけているものであるため、周知が徹底すれば学生にとって貢献度の高い情報提供となると考えられる。

以下に各要望に対する現状と対応等についてそれらの概略を示す。

- ①要望 1（就職関係書籍）：学生目線に立った書籍を備えるように、学生からの意見も聴きながら多種多様な就職関係書籍を増やしている。また、図書館にも就職関係書籍があるが、図書館と連携しながら、双方で必要な図書が閲覧できる体制を新たに構築している。
- ②要望 2（面接対策・履歴書の書き方）：面接対策・履歴書の書き方指導等は支援室の主業務の一つであり、専門のキャリアカウンセラー等による就職相談や就職ガイダンス等で繰り返し提供している。蔵本地区でも平日毎日開室するとともに、前回の調査時よりもキャリアカウンセラーを 2 名多く配置し、4 名体制で対応している。また、就職相談の内容を分析した上で、キャリア支援室のセミナーやガイダンスに重点項目として反映している。
- ③要望 3（試験対策）：キャリア支援室と徳島大学生協の共催により、本学では公務員講座を開講している。また、集団面接や筆記試験に対してはキャリア支援室で独自のガイダンスを企画しており支援に努めている。
- ④要望 4 & 5（企業説明会&就職ガイダンス）：年間を通じてガイダンス・セミナーの開催数を増やしているとともに、開催のスタイルもよりきめ細やかな支援を目標に少人数型やワークショップ型をより多く提供している。また、昨年度より保護者に対する説明会も開催し、好評をいただいている。
- ⑤要望 6（企業開拓）：各教育部ならびにキャリア支援室での継続的な努力により徐々に受入れ企業等が増加しつつある。また、平成 28 年度から 2 年をかけて雇用主インタビューを実施し、企業側の求める学生像をより詳しく把握することで学生に対するキャリア支援業務に反映している。さらに、今年度は地元企業との連携を密にするための講演会の開催や地元企業への訪問などキャリア支援室の機能拡大に努めている。



留学生については、回答数が少ないために部局によっては要望内容に偏りがみられるものの、総じて前・後期課程ともに、日本人学生の場合と同様な傾向が見られる。今後は国際センターとの連携をより強くしていく必要がある。



以上の分析結果をもとに、以下に、①後期課程への進学意思と進学希望先、②就職希望職種と進路選択要件、③就職情報の入手手段、④キャリア支援室の利用状況、⑤就職に関する大学への要望の5項目について、それらのまとめを示す。

① 後期課程への進学意思と進学希望先

前期課程学生の後期課程への進学意思は全般的に高いとは言えない。ただし、教育部別では、口腔科学と医科学が他の教育部の2倍以上の値を示している。「経済的支援があれば進学したい」に注目すると、口腔科学と医科学では経済的支援を求めている学生が一方で、それ以外の教育部ではそれぞれの「進学したい」の割合に対して、0.6～2倍の割合で進学を希望する学生がおり、経済的な問題が解決されれば進学を考える前期課程の学生は決して少なくないと考えられる。

留学生の全体比率においては、日本人学生に比較して「進学したい」が2倍程度、「経済的支援があれば進学したい」が4倍程度となっており、日本人学生に比較して後期課程への進学意識は高い。

② 就職希望職種と進路選択要件

就職希望職種について、前期課程の場合、「就職したい」あるいは「未定」と答えた学生の比率は、高い順に①先端技術科学（89%）、②保健科学（78%）、③薬科学（76%）、④総合科学（68%）、⑤栄養生命科学（65%）、⑥医科学（63%）、⑦口腔科学（40%）である。各教育部における主な希望職種は、①先端技術科学：「技術職」（60%）、「企業等の研究職」（19%）、②保健科学：「専門職（医師等）」（68%）、③薬科学：「企業等の研究職」（39%）、「技術職」（24%）、④総合科学：「専門職（医師等）」（21%）、「公務員」（17%）、「技術職」（17%）、⑤栄養生命科学：「企業等の研究職」（25%）、「技術職」（23%）、⑥医科学：「専門職（医師等）」（43%）、「技術職」（29%）、「企業等の研究職」（29%）、⑦口腔科学：「教育職」（33%）、「専門職（医師等）」（33%）、「既に就職している」（33%）となっている。

後期課程の場合、「大学・官公庁の教育・研究職」（13%）を希望している学生が比較的多く、「既に就職している」（5%）、「企業等の研究職」（4%）、「専門職（医師等）」（4%）、「技術職」（3%）、「教育職」（2%）が分散している。

留学生に関しては、前期課程では「技術職」（41%）が最も多く、「大学・官公庁の教育・研究職」（19%）、事務職（11%）、公務員（8%）と続いている。後期課程では「無回答」が56%を占めるが、28%が「大学・官公庁の教育・研究職」を志望している。

進路選択要件について、前期課程の場合、全体的には「就職先の将来性・安定性」（28%）が最高比率を示し、「収入」（26%）、「能力を發揮できること」（15%）、「勤務地の地理的条件」（12%）が続いている。全ての教育部においてほぼ同様の傾向が見られるが、他の教育学部と比較して医科学では「能力を發揮できること」（55%）が高く、「収入」（9%）が低いことが特徴的である。

後期課程の場合、「収入」（25%）、「能力を發揮できること」（25%）、「就職先の将来性・安定性」（21%）が特に重視され、「勤務地の地理的条件」（10%）、「社会的評価」（6%）等が続いている。

前・後期課程とも「収入」、「就職先の将来性・安定性」、「能力を發揮できること」が共通して重視されている傾向がある。

留学生においては、前・後期課程とも「収入」、「就職先の将来性・安定性」、「能力を發揮できること」が主要件となっており、日本人学生と類似した傾向がある。

③ 就職情報の入手手段

進路情報の入手手段において、前・後期課程において「Web・インターネット」、「先輩・知人」、「指導教員」が主要手段となっている。大学院生の場合、専門性の高さから「指導教員」の役割が高いと想像される。調査結果からも、後期課程学生は前期課程学生に比べ「指導教員」からの情報入手の割合が24%と約2倍になっている。留学生においても全体としては同様の傾向が見られた。

④ キャリア支援室の利用状況

前回の調査結果とほぼ同様の利用率であるが、本学大学院の学生は、専門性の高い資格を求められる専門職（医師等）や技術職・研究職などの業種へ就職することが多く、そうした求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が多い。そのような背景においても、キャリア支援室の提供するガイダンスや企業説明会など開催およびその周知努力の効果もあり前回調査では利用率の上昇があった。今回の調査結果からは継続して利用率が維持されていると思われる。

留学生については、特に前期課程で日本人学生の利用率に比べて利用率が低い、語学や文化など特異な支援項目もあり国際センターとの連携を図りながら支援が行われていると思われる。

⑤ 就職に関する大学への要望

キャリア支援室側から見ると、今回の回答項目の多くはいずれもキャリア支援室が主に取り組んでいるサービスであり、広く学生・院生の参加を呼びかけているものである、周知が徹底すれば学

生にとって貢献度の高い情報提供となると考えられる。

以下に各要望に対する現状と対応等についてそれらの概略を示す。

就職関係書籍：学生目線に立った書籍を備えるように、学生からの意見も聴きながら多種多様な就職関係書籍を増やしている。また、図書館にも就職関係書籍があるが、図書館と連携しながら、双方で必要な図書が閲覧できる体制を新たに構築している。

面接対策・履歴書の書き方：専門のキャリアカウンセラー等による就職相談や就職ガイダンス等で繰り返し提供している。蔵本地区でも平日毎日開室するとともに、前回の調査時よりもキャリアカウンセラーを2名多く配置し、4名体制で対応している。また、就職相談の内容を分析した上で、キャリア支援室のセミナーやガイダンスに重点項目として反映している。

試験対策：キャリア支援室と徳島大学生協の共催により、本学では公務員講座を開講している。また集団面接や筆記試験に対してはキャリア支援室で独自のガイダンスを企画しており支援に努めている。

企業説明会&就職ガイダンス：年間を通じてガイダンス・セミナーの開催数を増やしているとともに、開催のスタイルもよりきめ細やかな支援を目標に少人数型やワークショップ型をより多く提供している。また、昨年度より保護者に対する説明会も開催し、好評をいただいている。

企業開拓：徐々に受入れ企業等が増加しつつある。また、平成28年度から2年をかけて雇用主インタビューを実施し、企業側の求める学生像をより詳しく把握することで学生に対するキャリア支援業務に反映している。さらに、今年度は地元企業との連携を密にするための講演会の開催や地元企業への訪問などキャリア支援室の機能拡大に努めている。

留学生については、回答数が少ないために部局によっては要望内容に偏りがみられるものの、総じて前・後期課程とともに、日本人学生の場合と同様な傾向が見られる。今後は国際センターとの連携をより強くしていく必要がある。

第8章 教育部の現状と課題

8-1 総合科学教育部

総合科学教育部で回答が得られたのは、前期課程在学者90名中61名（回収率68%）、後期課程在学者11名中4名（回収率36%）であった。本教育部の回収率は、口腔科学の前期課程を除けば全体の中でも低い水準にあるといわざるを得ず、回収率を上げるための工夫が必要と考えられる。また、この結果に依拠して全体について推測するには注意を要する。特に後期課程においては4名の回答のみだったので、前期課程のデータのみを取り扱い、後期課程については必要な場合にのみ言及することとしたい。

まずは「出身・学歴等」についてである。徳島県の出身者は36%であった。第6回調査からは8ポイント低下したものの、例年と同様の高率とみてよいただろう。徳島大学出身者は41%で、前回調査（63%）からは大きく減少した。留学生についてみると、回答した前期課程の7名全員が外国の大学・大学院の卒業・修了であった。社会人・留学生の比率は40%で、社会人が突出して多い口腔科学を除けば、かなりの高率を示している。

「家族・住居・通学」について。年収は、500万円未満の家庭が52%を占めている。居住区分は、30%が自宅、66%がアパート・マンションであり、他の教育部とそれほど変わらない。アパート・マンション居住者の住居費についてみると、91%が5万円以下である。生計を共にする配偶者・子供の有無は、80%が両者とも無であった。また87%に子供がなかった。通学方法は62%が自転車であった。自転車が大半を占めるのは、口腔科学を除く他の教育部と同様である。通学所要時間は15分未満が64%で、1時間以上の者は5%であった。

「収入・支出」について。親等からの援助を除く収入金額は、39%が3万円未満、28%が3～5万円未満であった。数字の上では金額の増加傾向をみることができるが、依然として親等からの援助が求められる金額だと思われる。一方、親等からの援助を全く受けていない学生が43%おり、第6回調査より10ポイント以上増加している。また、支出の方は、7万円未満が66%を占めている。奨学金に目を転じると、23%が現在受給中であった。受給していないし希望しないという回答が59%にのぼる一方で、現在受給していないが希望するという回答は18%であった。これは口腔科学・栄養生命科学に次ぐ高率である。アルバイトは62%が行っている。将来返済義務のある奨学金よりもアルバイトに頼ろうとする傾向が、親等からの援助を除く収入金額の増加につながっている可能性が考えられる。この点は注視する必要がある。アルバイトをしている学生のうち、その目的として生活費や学費のためと学会参加のためを挙げた者を合わせると52%であった。これに対し、レジャー・旅行費のためと日常の娯楽・嗜好品等購入のためを合わせると29%となった。給料の不払いといったアルバイトでのトラブルを経験した学生も3%とわずかながら存在する。

「健康状態」について。睡眠時間は、4～6時間未満が38%、6～8時間未満が54%であり、比較的良好といえるだろう。身体症状については、時々あると常にあるが49%いた。第6回調査からは20ポイント以上低下している。常にあるとの回答でみられた症状としては、頭痛・腹痛・嘔気・不眠が多かった。現在の悩みや不安については30%がないと回答しており、数字の上では大幅に増えてはいるものの、種々の悩みを抱えている状況がうかがえる。悩みごとの相談相手は、54%が友人、52%が家族であった（複数回答）。それに比べると、教員の5%、総合相談部門の2%は低いといわざるを得ない。精神状態については、充実していると普通が58%であるが、なんとなく不安も18%いた。生活・学業の基本である身体的・精神的安定を充実させるための対応策が求められる。

「学生生活上の問題」について。87%が受けたことはないと回答したが、カルトのような集団への勧誘、

大学内でアカハラを受けたとの回答も皆無ではなかったことには注意を要する。また、アカハラを受けたとの回答者が相談したのは友人であったことも付記しておきたい。総合相談部門を利用したことがあるのは16%、一方18%がその存在を知らないと回答しており、周知をはかる必要があるだろう。総合相談部門を利用したことがある学生の内、満足あるいはどちらかといえば満足と回答したのは70%である。盗難等の被害について、84%が被害にあったことがないとしたものの、盗難被害が13%、痴漢被害は2%がありと回答している（複数回答）。交通事故は、31%が加害・被害のどちらかの経験があると答えており、引き続き対策を講じていく必要がある。違法薬物の使用は、あると回答した者はいなかった。事務室の対応については74%が満足あるいはどちらかといえば満足と回答しており、第6回調査からはやや減少している。

「修学状況」について、本学の教育理念の知識の有無については51%があまり知らないあるいは知らないと回答している。一方、教育理念を知っていると回答した者のうち、83%が教育理念や教育方針で教育を受けていると回答している。何れにせよ、教育理念についてはより多くの学生により深く理解させる必要があるのかもしれない。教育課程については89%が満足と答えている。進学した理由としては、希望する研究分野があるからが33%、次いで出身大学だからが18%であった。授業の内容や進め方の満足度については、88%が満足あるいはどちらかといえば満足していると回答した。研究活動時間にはばらつきがみられる。研究指導時間は90分未満が50%であり、第6回調査よりは10ポイント近く減少した。研究指導時間は増加傾向にあることがうかがえるが、その要因や背景については更なる調査・考察が必要だろう。指導内容と進め方については91%が満足あるいはどちらかといえば満足していると回答した。指導テーマについてもほぼ同じ回答結果となっている。大学院に相応しいレベルの教育が行われているかについては、97%が行われていると回答している。指導教員とのコミュニケーションについても90%がとれているとした。これに対し、22%の学生が指導環境については必ずしも満足していないと回答している。理由としては施設・設備が44%で、第6回調査時からやや改善されたといえるが、他にも研究費用と研究時間がともに28%にのぼっている。図書館利用については、各教育部でばらつきがみられる。図書館を利用する必要性なども違うはずなので、必要のある学生にとって充実した図書館であるかどうかを別途調査することが望まれる。この点は電子ジャーナルやデータベースの利用に関してもいえるのではないか。とはいえ図書館の全体的なサービスの満足度については84%と全体的に高かった。教育部にふさわしい学習については、あまりしていないあるいは全然していないとの回答が22%で、第6回調査よりも減少してはいるが、更に細かい調査が必要になるだろう。入学後の海外渡航経験については、79%がないと回答している。また、経験者の27%は留学生の一時帰国で、他の教育部よりも高い。海外渡航の経験に関しては各教育部に共通した課題となるだろう。ちなみに海外の国際学会での口頭発表経験者はいなかった。英会話のレベルについては、専門用語を使った会話ができる学生は0%、25%が日常会話ができるで、なんとか日常会話ができるとの回答が50%であった。一方で、語学力を高めるために何もしていないとの回答が51%であった。留学生の日本語での会話については、日常会話ができないあるいはあまりできないと回答した学生はいなかった。徳島大学の日本語コースには8名受講経験があり、全員が満足あるいはどちらかといえば満足と回答している。将来のために徳島大学の教育に何を望むかとの問いでは、体系的で多様な指導のほか、他の大学院との交流を望む声も寄せられている。

「進路選択・就職について」について。57%が就職希望であった。24%いた進学希望者のうち、60%は本学への進学希望であった。就職希望者の希望職種は多岐にわたるが、専門職(21%)・公務員(17%)・技術職(17%)が多い(複数回答)。進路選択で重視するものについては、収入、就職先の将来性・安定性、能力を発揮できることの順に多かった。進路情報についてはWeb・インターネット(36%)が群を抜き、指導教員(15%)、知人・先輩(12%)と続く。一方、就職担当教員・就職相談員と回答した

のは合わせて6%にとどまっている。また、キャリア支援室を利用したことがないとの回答は77%にのぼった。Web・インターネットや知人・先輩からの情報がどれほど役立っているのかといった現状把握に加え、学内のキャリア支援の在り方などに多くの課題があると考えられる。

8-2 医科学教育部

医科学教育部の前期課程大学院在籍者は8名でこのうち8名からアンケートに対する回答が得られ、回収率は100.0%であった。この中に留学生はいなかった。後期課程には191名の大学院生が在籍し(留学生18名を含む)、このうち73名からアンケートが回収できた(回収率38.2%)。留学生に関しては18名中14名からアンケートが回収され、回収率は77.8%となっている。アンケート回収率は前期課程では100.0%であったが、後期課程では低かったことから、アンケートに積極的に参加してもらうためにアナウンスを行ってアンケートの目的を理解してもらうと共にアンケート内容を簡素化する必要がある。

1. 本調査の対象者について

前期課程大学院生の63%は徳島県出身で、次いで四国(徳島県以外)、中国、近畿が各々13%となっている。後期課程では徳島県出身者が41%で、次いで日本以外、四国(徳島県以外)が各々16%となっている。大学院生の中で本学出身者の割合は前期課程で75%、後期課程で47%であり、前期課程では本学出身者の割合が本学以外よりも高かった。社会人大学院生の割合は前期課程で25%、後期課程で63%となっており、後期課程で割合が高い。医師免許を有する大学院生が多いことがその理由と思われる。

2. 家族・住居・通学について

前期課程大学院生の年収は500～750万円未満が38%で最も多く、次いで250～500万円、750～1,000万円未満が各々25%、1,000～1,500万円以上が13%となっている。これに対して、後期課程では年収250万円未満の大学院生が27%で最も多く、次いで750～1,000万円未満が26%、1,000～1,500万円未満が21%となっている。後期課程で年収250万円未満の大学院生の割合が高いのは留学生の数が多いのが原因と考えられる。

住居区分では前期課程大学院生の38%、後期課程では34%が自宅から通学している。自宅あるいはアパート/マンションから通学している大学院生は前期課程で100%、後期課程で93%となっている。

住居費については月4万円未満の家賃を払っている大学院生が、前期課程では60%、後期課程では28%を占めている。逆に、月4～6万円未満の住居費を支払っている大学院生は、前期課程では40%、後期課程では26%となっている。6万円以上の住居費を支払っている大学院生は、前期課程では見られないのに対し、後期課程では46%を占めている。後期課程で大学院生の約半数が高額の住居費を支払っているのは、医師免許を取得した学生が多いこと、社会人大学院生が多いこと、家族や子供がいるケースが多いために住居スペースを確保する必要があることなどが理由と思われる。

通学方法については、前期課程では自転車(42%)、自動車(38%)、徒歩(13%)であり、後期課程では自転車(42%)、自動車(36%)、徒歩(16%)となっている。前期課程、後期課程を通じて、通学方法に自転車を使う割合は他の多くの教育部(前期課程の口腔科学と後期課程の総合科学、保健科学を除く)と同様に高い傾向がみられた。通学時間に関する調査結果では、前期課程の63%が、後期課程でも60%が15分未満であり、大学院生の約半数は蔵本地区周辺に居住していると思われる。

3. 収入・支出について

前期課程では3万円未満の収入を得ている大学院生が50%で最も多く、次いで3～5万円未満、5

～7万円未満、25～30万円未満、30万円以上が各々13%であり、収入額は個人差が大きい。後期課程では30万円以上が58%であり、高収入の大学院生が多い理由の一つに社会人大学院生が多いことが挙げられる。一方で、月収3万円未満も8%存在した。医師免許を有する社会人大学院生が多数を占めるが、留学生が一定の割合で存在することが一因と考えられる。

親からの仕送りを受けず、経済的に自立している大学院生の割合は前期課程で50%、後期課程で86%である。仕送りを受けている大学院生は、前期課程で3万円未満、3～5万円未満、5～7万円未満、7～10万円未満が各々13%であり、後期課程では仕送りを受けている大学院生は3万円未満が7%、3～5万円未満が3%であり、仕送りを受けている前期課程の大学院生の割合は、第6回調査よりも増加している。

月あたりの平均支出額は前期課程で3～5万円未満が38%で最も多く、次いで3万円未満と5～7万円未満が各々25%であり、15～20万円未満が13%であった。後期課程では3～5万円未満が25%であり、次いで30万円以上が18%、7～10万円未満が15%、15～20万円が12%であった。5万円以上の支出額の割合は、前期課程で37%、後期課程で90%であり、後期課程で支出額が多いようである。これは後期課程大学院生の多くが医師免許を取得しており、社会人大学院生が多いことと関係すると思われる。

奨学金受給者／受給希望者の割合は前期課程では50%、後期課程では25%であり、後期課程でこの割合が低いのは医学科の後期課程の大学院生の収入額が高いことが理由と思われる。

アルバイトに従事している大学院生は前期課程で63%、後期課程で32%であり、週あたりの時間は、前期課程では全員が10時間未満であり、後期課程では10時間未満が26%、10時間以上が74%であり、後期課程でのアルバイトに従事する時間が長いことが分かった。アルバイトの目的は生活費／学費が最も多く、前期課程では67%、後期課程では50%であった。アルバイト収入は前期課程では3万円未満が80%、3～5万円未満が20%であり、後期課程では15万円以上が87%であり、3～5万円未満が9%、3万円未満が4%であった。後期課程で15万円以上のアルバイトによる収入の割合は他の教育部よりも高かった。

アルバイトに関わるトラブルは前期課程ではなく、後期課程でも87%はトラブルを経験しなかったが、解雇、雇用者との意見の不一致が各々4%あった。

4. 健康状態について

睡眠時間が6時間以上は前期課程では63%、後期課程では49%であり、半数近くの大学院生の睡眠時間は6時間未満であった。後期課程の3%の大学院生で睡眠時間が4時間未満であるのは問題である。健康のみならず安全管理の観点からも6時間以上の睡眠時間を確保することが望まれる。

気になる症状があると回答した大学院生は前期課程で38%、後期課程で55%であり、症状の内容については、頭痛の他に、腹痛・嘔気、下痢・便秘、動悸・不整脈、めまい・立ちくらみ、生理痛・生理不順、アトピー・アレルギーなど多岐であった。

精神的な問題（悩みや不安）に関しては、前期課程では勉強、交友・異性関係が各々25%で最も多く、次いで自分の性格、就職や進路が各々13%であった。後期課程では勉強が38%で最も多く、次いで経済状態が34%、就職や進路が23%であった。これらの悩みの相談相手は、前期課程では、友人が63%で最も多く、次いで家族が38%であり、後期課程では、家族が71%で最も多く、次いで友人が45%であり、誰にも相談しない大学院生は前期課程で13%、後期課程で14%であった。保健管理部門、総合相談部門（学生相談室）などの学内の相談窓口が十分に利用されていないので、活用されるよう努力が望まれる。

現在の精神状態については、前期課程で75%、後期課程で70%の大学院生の気分は普通あるいは充実していたが、前期課程で26%、後期課程で28%の大学院生が、なんとなく不安、落ち込みやすい、

やる気がでないなどの問題を抱えていた。喫煙については、前期課程ではみられなかったが、後期課程で8%が喫煙者であり、飲酒については、飲酒しないが、前期課程で34%、後期課程で25%であり、たまに飲酒するが、前期課程で41%、後期課程で63%であった。1週間に3日以上飲酒するが、前期課程、後期課程ともに13%みられたので、これらの大学院生は健康への配慮が必要と思われる。

健康管理・総合相談センターの認識については、前期課程で13%、後期課程で18%が存在を知らず、前期課程で50%、後期課程で37%が存在を知っているが行かなかった。健康の管理や相談に関して、健康管理・総合相談センターが有効に活用されるための方策が必要と思われる。

5. 学生生活上の問題点について

迷惑行為を受けたことについては、約80%以上の大学院生は受けたことはないが、前期課程では、13%が大学内でアカハラを受けたことがあり、後期課程では、11%がいたずら電話を受けたことがあり、大学内でセクハラあるいはアカハラを受けたのは各々1%であった。セクハラを受けた時の相談者としては、後期課程では、教員、総合相談部門（学生相談室）が各々50%であった。アカハラを受けた時の相談者としては、前期課程では、友人、教員が各々50%、後期課程では、家族、教員が各々50%であった。これらの迷惑行為に対する支援窓口として学生相談室が設置されているが、利用したことがあるのは、前期課程で13%、後期課程で5%であり、その存在を知らなかったは、前期課程で38%、後期課程で53%であった。存在を知っているが行かなかったは、前期課程で50%、後期課程で38%であった。総合相談部門（学生相談室）を利用した場合については、満足あるいはどちらかといえば満足であるのが、前期課程では全員であり、後期課程では75%であった。総合相談部門（学生相談室）の積極的および有効な活用が望まれる。

盗難（盗み）、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがあるかについては、前期課程では、全員が被害に遭ったことがなく、後期課程でも、95%が被害に遭ったことがなく、盗難（盗み）に遭ったのが3%であった。交通事故の被害者あるいは加害者になったことがあるのは、前期課程で38%、後期課程で40%であった。交通事故では加害者と同時に被害者にもなり得るので、交通マナーを遵守する教育を徹底する必要がある。法律上禁止されている薬物の使用はみられなかった。

大学事務室の対応への満足度については、満足あるいはどちらかといえば満足であるが、前期課程では100%であり、後期課程では88%であり、不満足あるいはどちらかといえば不満足であるが、後期課程で11%であった。

6. 修学状況について

医科学教育部の教育理念や教育方針を知っているかについて、前期課程で75%、後期課程で50%が良くあるいはだいたい知っていた。前期課程で25%があまり知らない、後期課程で48%が大学院教育の理念や目標をあまりあるいは全く知らなかったことから、大学院で何を学び将来にどのように繋げていくのかを周知させる必要があると思われる。

医科学教育部の教育理念や教育目標を知っている大学院生の多く（前期課程で100%、後期課程で89%）は教育理念や教育目標に沿った教育が行われていると考えているが、後期課程では11%が教育理念や教育目標に沿った教育が行われていないと考えていた。大学院教育課程についての満足度では、前期課程では100%、後期課程では87%が満足あるいはどちらかといえば満足であったが、後期課程で12%が不満足あるいはどちらかといえば不満足であった。第6回調査に比べて教育理念や教育目標に沿った教育であると考えている大学院生の割合が増加していることから、教育理念や教育目標に沿った教育が行われていると思われる。

大学院に相応しいレベルで教育が行われていると思いますかについて、前期課程では63%、後期課程では45%が充分あるいはある程度のレベルで行われていると考えていた。第6回調査に比べて、充分あるいはある程度のレベルで行われていると考えている割合が前期課程、後期課程ともに低下して

いるので、教育内容の改善が求められる。

医科学教育部の大学院に入学した理由については、前期課程では、希望する研究分野があるからが38%と最も多く、次いで、出身大学だから、希望する研究分野があるからが各々19%であり、後期課程では、希望する研究分野があるからが29%で最も多く、次いで出身大学だからが19%、指導教員に勧められたからが15%、継続して就職するためが11%であった。現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたかについては、徳島大学卒業者において、前期課程では100%、後期課程では91%が第一志望として医科学教育部に進学していた。他大学卒業者においては、前期課程では50%が第一志望、50%が第三志望であり、後期課程では89%が第一志望、7%が第二志望であった。

大学院で勉学することによってあなたの目指すものは何ですかについては、前期課程では、高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人が63%で最も多く、次いで、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人が各々13%であり、後期課程では、高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人との回答が51%で最も多く、次いで創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者が18%、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人が各々14%であった。

受講している授業の内容や進め方についての満足度については、満足あるいはどちらかといえば満足しているが前期課程では100%、後期課程では88%であり、不満足あるいはどちらかといえば不満足は、後期課程で11%であった。

授業以外の自分で行う週あたりの研究活動の時間については、前期課程では、90分～5時間未満、40～60時間未満が各々25%で最も多く、次いで5～10時間未満、10～20時間未満、20～40時間未満、60時間以上が各々13%であり、後期課程では、90分～5時間未満が16%で最も多く、次いで5～10時間未満が15%、30分未満、20～40時間未満が各々14%、60時間以上が12%、40～60時間未満が10%であった。研究活動に使う時間は第6回調査と異なり前期課程が後期課程に比べて多い傾向にあった。

研究の直接の指導教員が誰であるかについては、前期課程では、教授が63%で最も多く、次いで准教授、講師、助教が各々13%であり、後期課程では、教授が42%で最も多く、次いで准教授が25%、講師、助教が各々14%であった。

指導教員から研究指導を週何時間受けているかについては、前期課程では、30～90分未満、5～10時間未満が各々38%で最も多く、次いで30分未満、90分～5時間未満が各々13%であり、後期課程では、30分未満が36%で最も多く、次いで30～90分未満が32%、90分～5時間未満が26%であった。

研究指導の内容や進め方の満足度については、満足あるいはどちらかといえば満足しているが、前期課程で88%、後期課程で89%であり、不満足あるいはどちらかといえば不満足であるは、前期課程で13%、後期課程で8%であった。

研究テーマに対する満足度については、満足あるいはどちらかといえば満足しているが、前期課程では88%、後期課程で95%であり、不満足あるいはどちらかといえば不満足であるは、後期課程で3%であった。

指導教員とコミュニケーションがとれているかについては、前期課程では、充分あるいはある程度取れているが、前期課程、後期課程で各々86%であり、あまり取れていないが、前期課程で13%、後期課程で10%であった。前期課程、後期課程ともに指導教員と大学院生のコミュニケーションを改善する努力が望まれる。

研究環境に対する満足度については、前期課程では全員、後期課程では88%が満足あるいはどちら

かといえば満足しているが、後期課程では、9%が不満足あるいはどちらかといえば不満足であった。後期課程での不満足の原因としては、研究時間が75%で最も多く、次いで施設・設備が13%であった。

所属している教育部に対する満足度については、前期課程で100%、後期課程で92%が、満足あるいはどちらかといえば満足であったが、後期課程では、4%がどちらかといえば不満足であった。

図書館をどのくらいの頻度で利用するかについては、前期課程では、1か月に1回程度の利用が38%で最も多く、次いで半年に1回程度の利用、1年に1回程度かそれ以下の利用が各々25%、1週間に2～3回程度の利用が13%であった。後期課程では、1年に1回程度かそれ以下の利用であるが52%で最も多く、次いで半年に1回程度の利用が18%、1か月に1回程度の利用が12%、1週間に2～3回程度の利用が10%であり、前期課程、後期課程ともに、図書館の利用頻度は低いようである。

これに対して、図書館が提供する電子ジャーナルやデータベース等の利用頻度については、ほぼ毎日利用しているが、前期課程で25%、後期課程で42%であり、1週間に1回以上利用するが、前期課程で13%、後期課程で41%であった。図書館が提供する電子ジャーナルやデータベース等は後期課程においてかなり利用されている。

図書館が提供するサービスに対する満足度については、前期課程では88%、後期課程では86%が、満足あるいはどちらかといえば満足であった。

入学後での海外渡航の経験については、前期課程では、経験がないが75%で最も多く、次いで2回が25%であり、後期課程では、経験がないが59%で最も多く、次いで1回が18%、2回が15%、4回以上が5%であった。

海外渡航の目的については、前期課程では、学会参加が61%で最も多く、次いで観光が22%であり、後期課程では、全員が学会参加であった。

国際学会において自身で研究発表をしたことがあるかについては、前期課程では、研究発表をしたことがないが88%で最も多く、次いで海外の国際学会でポスター発表をしたことがあるが13%であった。後期課程では、研究発表をしたことがないが45%で最も多く、次いで海外の国際学会でポスター発表をしたことがあるが19%、海外の国際学会でポスター発表あるいは口頭発表をしたことがあるが各々17%、国内の国際学会でポスター発表をしたことがあるが10%であった。

英会話はどの程度できるかについては、前期課程では、なんとか日常会話ができるが38%で最も多く、次いで、あまりできないが36%であり、後期課程では、なんとか日常会話ができるが50%で最も多く、次いで、できないが38%、あまりできないが13%であった。

語学力を高めるために何をしているかについては、前期課程では、TOEIC、TOEFL等を受験する、つとめて外国人と英語でコミュニケーションする、何もしていないが各々25%、次いで、外国語の新聞、雑誌を購読しているが13%であった。後期課程では、何もしていないが56%で最も多く、次いで、英会話等の学校に通っている、つとめて外国人と英語でコミュニケーションするが各々11%、外国語のラジオ、テレビを視聴しているが6%、TOEIC、TOEFL等を受験するが5%であった。

留学生が日本語会話をどの程度できるかについては、後期課程では、日常会話ができるが27%、次いで、なんとか日常会話ができる、あまりできないが各々20%、専門用語を使った会話ができる、できないが各々13%であった。

徳島大学が開講する日本語コースを受講していますかについては、後期課程では、以前受講したことがあるが60%で最も多く、次いで、今後受講する予定であるが20%、受講している、受講の予定がないが各々7%であった。日本語コース受講者の満足度については、後期課程では、満足しているが30%、どちらかといえば満足しているが50%であった。

所属している大学院に相応しい学習をしていますかについては、前期課程では、良く学習している、かなり学習しているが各々38%で最も多く、次いで、あまりしていないが25%であり、後期課程では、かなり学習しているが36%で最も多く、次いで、あまりしていないが34%、よく学習しているが22%であった。同じ質問について、留学生の場合は、後期課程では、かなり学習しているが67%、よく学習しているが27%、あまりしていないが7%であった。

あなたの将来のために本学の教育に何を望みますかについては、前期課程では、統合的な学習課題を体系的に履修するコース、複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導、産業界、高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会が各々22%であり、次いで、産業界、地域社会との積極的な連携、個々の教員の教育・研究指導能力の向上が各々11%であり、後期課程では、高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会が22%で最も多く、次いで、複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導が17%、統合的な学習課題を体系的に履修するコースが16%であった。

本学は国際化への対応について積極的であると思えますかについては、どちらかといえば積極的であると思うが、前期課程で75%、後期課程で60%であり、非常に積極的であるが、前期課程で25%、後期課程で7%であった。同じ質問について、留学生の場合は、後期課程で、どちらかといえば積極的であると思うが47%であり、非常に積極的であるが27%であった。

7. 進路選択・就職について

修士・博士前期課程の大学院生が博士（後期）課程への進学を考えているかについては、前期課程において、就職したいが63%で最も多く、次いで、進学したいが38%であった。進学する場合に進学先が本学か他大学かについては、前期課程において、本学が100%であった。

就職する場合に希望職種は何であるかについては、前期課程では、専門職（医師等）が43%で最も多く、次いで、技術職、企業等の研究職が各々17%であり、後期課程では、無回答が72%で最も多く、次いで、大学・官公庁の教育・研究職、既に就職しているが各々8%、専門職（医師等）が5%であった。同じ質問について、留学生の場合は、後期課程では、無回答が63%で最も多く、次いで、大学・官公庁の教育・研究職が19%、次いで、大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員、事務職、専門職（医師等）が各々6%であった。

進路選択で重視するものは何ですかについては、前期課程では、能力を發揮できることが55%で最も多く、次いで、就職先の将来性・安定性が36%、収入が9%であり、後期課程では、能力を發揮できることが29%で最も多く、次いで、収入が24%、就職先の将来性・安定性が20%であった。同じ質問について、留学生の場合は、後期課程では、収入が32%で最も多く、次いで、能力を發揮できることが27%、就職先の将来性・安定性が18%、勤務先の地理的条件、経営方針が各々9%であった。

進路を考える上での情報入手手段は何ですかについては、前期課程では、指導教員、Web・インターネットが各々21%で最も多く、次いで、先輩・知人、家族等が13%、直接会社に照会、就職情報誌・新聞・マスコミ、大学内資料が各々8%であり、後期課程では、Web・インターネットが28%で最も多く、次いで、指導教員が26%、先輩・知人が24%であった。同じ質問について、留学生の場合は、後期課程では、Web・インターネットが32%で最も多く、次いで、指導教員が19%、先輩・知人が14%、直接会社に照会、就職情報誌・新聞・マスコミが各々11%、就職担当教員が10%であった。

キャリア支援室の利用状況については、利用したことがないが、前期課程で63%、後期課程で93%であり、以前に利用したことがあるが、前期課程で38%、後期課程で1%であった。現在も利用しているのは、後期課程で3%であった。同じ質問について、留学生の場合は、後期課程では、利用したことがないが93%、現在も使用しているが7%であった。

就職に関して大学に要望することについては、前期課程では、面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実が42%で最も多く、次いで、企業説明会の内容充実、求人企業の開拓が各々17%、就職情報誌などの就職関係書籍の充実、就職ガイダンスの充実が各々8%であり、後期課程では、求人企業の開拓が19%で最も多く、次いで、面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実が17%、就職情報誌などの就職関係書籍の充実が16%、就職ガイダンスの充実が11%、企業説明会の内容充実が10%であった。同じ質問について、留学生の場合は、後期課程では、求人企業の開拓が33%で最も多く、次いで、面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実、就職ガイダンスの充実が各々19%、就職情報誌などの就職関係書籍の充実、公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実、企業説明会の内容充実が各々7%であった。

結語

調査結果をより正確に解析するためにはアンケートの回収率を上げることが必要と思われる。質問項目が多岐にわたっており記入が煩雑であることが回収率の低い理由かもしれないので、アンケートの回収率を引き上げるために質問項目を簡略化するなどの工夫を検討してもらいたい。また、大学院における研究理念や教育理念について十分に知らないことや、研究内容に不満を持っている大学院生が存在していることから、大学院の研究理念や教育理念をさらに理解させると共に研究指導を充実させて質の高い大学院教育を実践する必要があると思われる。保健管理・総合相談センターやキャリア支援室などの支援施設についても積極的な活用が望まれる。

8-3 口腔科学教育部

口腔科学教育部には口腔科学専攻（博士課程）と口腔保健学専攻（博士前期課程と博士後期課程）が設置されている。本調査は口腔保健学専攻の博士前期課程（以後、前期課程）の大学院生15人中5人（1年生1人、2年生4人）（回収率33.3%）と、同じく博士後期課程および口腔科学専攻（以後、後期課程）の大学院生67人中41人（回収率61.2%）から回答を得た。留学生は前期課程に1人いるが回答は得られなかった。後期課程には留学生は16人おり、そのうち回答が得られたのは9人（回収率56.3%）であった。回収率については、前期課程においては第6回調査に比べて低下し、後期課程においては上昇した。また今回の回収率は、前期課程については第6回調査と同様に全教育部の中で最も低く、後期課程については平均よりも高かった。

第1章の「本調査の対象者について」をみると、前期課程は第6回調査では学生の17%が徳島県出身であったが今回調査では0%であり全体平均27%と比べると際立って低かった。これに対して関東出身者が40%であり、全体平均3%と比べて際立って高かった。社会人大学院生は80%であり、全教育部中最も高い割合であった。口腔科学の前期課程は社会人学生が圧倒的に多いという特徴をもつ。一方、後期課程の学生の29%は徳島県出身であり、全体平均と同様であった。39%は徳島大学出身で全体平均を少し上回った。社会人大学院生は32%であり、ここ数年で増加傾向にある。また、24%は留学生であり、第6回調査から7%増加した。社会人大学院生と留学生の占める割合は全体平均と類似していた。

第2章の「家族・住居・通学について」の結果から、前期課程の家庭の年間所得は40%が250万円未満で全教育部中最も割合が高い。また500万円未満は60%であり全体平均35%を大きく上回っている。後期課程については全体平均との類似性がみられるが、1,500万円以上の家庭が15%あり、これについては全体平均より高い傾向が続いている。住居については、前期課程で80%、後期課程で54%の学生はアパート・マンション住まいで家族と別居している。前期課程の75%は住居費が4~5万円未満である。後期課程の住居費は、ばらつきがあるものの72%の学生は6万円未満のアパートなどに居住している。前期課程の全てと後期課程の6割は未婚であり、後期課程の17%が子供をもつ。授業や研究遂行

時、後期課程の42%は配偶者が子供の世話をしている。通学方法は、前期課程の80%はバスであり、後期課程の49%がバス、27%が自動車を利用している。通学時間は、前期課程の80%は2時間以上である一方、20%の学生は15分未満である。後期課程の78%は30分未満であり、さらに61%は15分未満である。

第3章の「収入・支出について」の結果から、前期課程の80%は親等からの援助はなく、1か月の平均収入額は60%が20万円未満である。1か月の平均支出額はまちまちで、60%が5～15万円未満である。後期課程の71%は親等からの援助はなく、1か月の平均収入額は3万円未満が10%である一方で15%は30万円以上である。後期課程の1か月の平均支出額はまちまちであり、10～15万円未満が最も多く37%であった。奨学金受給は、前期課程と後期課程ともに6割が希望し、実際に受給しているのは後期課程の41%であった。前期課程の40%、後期課程の51%はアルバイトを行っている。前期課程のアルバイトの目的は50%が「生活費や学費のため」、25%が「学会参加のため」であり、25時間以上従事している学生が50%でこれは全教育部前期課程・後期課の中で突出している。後期課程のアルバイトの目的は、74%が「生活費や学費のため」であり、11%が「学会参加のため」であった。62%が週平均5～15時間未満従事し、29%が3～5万円未満の収入であるのに対して24%は15万円以上の収入を得ている。アルバイトにおけるトラブルについては、前期課程の5割の学生は「給料が契約より低かった」または「雇用者との意見の不一致」などのトラブルを経験しており、この割合は全教育部前期課程・後期課程の中で突出している。

第4章の「健康状態について」から、睡眠時間が4時間未満の学生はいなかった。前期課程では4～6時間未満の割合が60%と最も多く、後期課程では4～6時間未満と6～8時間未満がそれぞれ51%、49%であった。前期課程の60%と後期課程学生の41%には気になる身体症状が時々あり、「常にある」のは前期課程で40%、後期課程で12%であった。前期課程の現在の悩みや不安はさまざまで、経済状態(60%)、就職や進路(60%)、勉学(40%)などであった。後期課程では、勉学(51%)、経済状況(39%)、就職や進路(34%)などであった。両課程ともに、相談相手は家族または友人である割合が高く、総合相談部門(学生相談室)の利用はなかった。現在の精神状態は、前期課程学生は「なんとなく不安」が50%、「いらいらする」が25%であり、後期課程学生は「なんとなく不安」が15%、「落ち込みやすい」が10%であった。前期課程の60%と後期課程の32%は保健管理・総合相談センターがあることを知らず、健康診断以外で利用したことがあるのは後期課程の7%のみであった。前期課程の100%、後期課程の83%は喫煙習慣がなく、飲酒については前期課程の46%、後期課程の20%が「たまに飲酒する」であった。「飲酒はしない」の割合は前期課程で40%、後期課程で32%であった。

第5章の「学生生活上の問題点について」から、後期課程の2%は「いたずら電話を受けた」、2%は「大学内でセクハラを受けた」、5%は「大学内でのアカハラを受けた」などの経験があった。前期課程ではそのような問題はなかった。そのような問題に対して、後期課程の50%は友人に、50%は家族に相談していた。後期課程の5%は総合相談部門(学生相談室)を利用したことがあり、そのうちの50%は対応に満足していた。犯罪被害については前期課程の20%で痴漢に遭遇した経験があり、後期課程の5%で盗難被害に遭っている。交通事故に関しては、前期課程20%で被害者・加害者の両方に、20%で加害者になったことがあり、後期課程の17%で被害者・加害者の両方に、15%で被害者に、7%で加害者になったことがある。交通事故に関しては、被害者よりも加害者になった経験の方が多かった。両課程の学生に違法薬物の使用経験はない。大学事務室の対応には口腔科学の学生はおおむね満足している。

第6章「修学状況について」から、前期課程の80%と後期課程の56%は所属教育部の教育理念や教育方針を理解しており、前期課程の75%と後期課程の74%はその理念や方針に沿って教育が実践されていると感じている。教育課程の満足度については、前期課程の80%、後期課程の86%は「満足」または「どちらかといえば満足」であった。大学院に相応しい教育の実践度については前期課程・後期課

程ともにほとんどが「充分に行われている」または「ある程度行われている」と感じている。両課程とも大学院入学理由はさまざまであり、前期課程では、「先輩や友人に勧められて」（25%）が最も多く、後期課程では「希望する研究分野があるから」（27%）が最も多かった。所属している大学院の志望順位については、「第一志望だった」と回答したのは徳島大学卒業者では前期課程100%、後期課程89%であり、他大学卒業者では前期課程25%、後期課程68%であった。

研究活動と研究指導については、前期課程の40%が週に90分～5時間未満、20%が週に5～10時間未満の授業外の研究活動を行い、全員教授から直接指導を受け、60%は指導時間が週30～90分未満であった。一方、後期課程の44%が10～40時間未満の授業外の研究活動を行い、34%は教授から、39%は助教から研究指導を受け、34%は指導時間が週30～90分未満、29%が90分～5時間未満であった。両課程のほとんどは研究指導や研究テーマに対して満足しており、指導教員とのコミュニケーションもおおむねとれている。研究環境に対してもおおむね満足が得られているが、施設・設備、研究費用や研究時間の点で前期課程の20%と後期課程の7%は不満足であった。所属大学院の満足度については、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、前期課程で80%、後期課程で91%であった。

図書館の利用について、前期課程の60%は「半年に1回程度」で40%は「1年に1回程度かそれ以下」の利用頻度で、他の教育部に比べて利用頻度が少ない。電子ジャーナルやデータベース等の利用も40%は「半年に1回程度」で「ほぼ毎日利用する」は0%であった。図書館のサービスについては「満足」と「どちらかといえば満足」合わせて60%であった。一方、後期課程学生の図書館利用は「半年に1回程度」（37%）、「1か月に1回程度」（27%）の割合が多く、第6回調査よりも利用頻度は増大している。電子ジャーナルやデータベース等は37%が「ほぼ毎日」利用しており、27%が「1週間に2～3回ぐらい」利用している。図書館のサービスについては「満足」と「どちらかといえば満足」合わせて83%であった。

前期課程で20%、後期課程で44%の学生に入学後の海外渡航の経験がある。このうち留学や語学研修、学会発表を目的としたものは前期課程で44%、後期課程で50%であり、前期課程では第6回調査よりも大きく増加した。後期課程の16%には国際学会での発表経験がある。英会話能力については、前期課程の16%が「できない」、45%が「あまりできない」で、後期課程の40%が「できない」であった。一方、後期課程の60%は「日常会話ができる」との結果であった。前期課程の80%、後期課程の56%は語学に関する自己学習をしていない。留学生の日本語会話能力については、後期課程の10%で「専門用語を使った会話」が可能で、80%は「日常会話ができる」または「なんとか日常会話ができる」と回答し、80%が日本語コースの受講経験や受講予定があり、受講者全員が日本語コースにおおむね満足していた。

学習への取り組みとして、前期課程の全員、後期課程のほぼ全員と8割の留学生が大学院に相応しい学習をしており、学習意欲は十分高い。将来のために本学教育に望むことは、前期課程では「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」と「高度な水準にある他大学院での勉強あるいは研究の機会」がそれぞれ22%、後期課程では「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」と「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」がそれぞれ20%、「個々の教員の教育・研究指導能力の向上」が18%などであった。

また、前期課程の80%と後期課程の81%は本学の国際化への対応はおおむね積極的であると回答した。国際化への積極的対応を継続するためにも大学院生は英会話能力を向上させ、国際学会での発表など経験を積むことが肝要であり、一方、教育部は学生に数多く機会を作ることが大事である。

第7章「進路選択・就職について」の結果から、前期課程の60%は後期課程への進学を希望し、そのうち全員は本学口腔科学を希望している。一方、40%は企業等の研究職や教育職への就職を希望してい

る。後期課程の88%は「技術職」を、7%は「大学・官公庁の教育・研究職」を希望し、留学生の60%は「技術職」を、30%は「大学・官公庁の教育・研究職」を希望している。進路選択の要件として、留学生も含めて両課程とも「能力発揮の場」、「収入」、「就職先の将来性・安定性」をあげる割合が多く、進路選択の情報入手手段としては、前期課程では「先輩や知人」または「家族」の割合が多く、後期課程では「先輩や知人」、「指導教員」の割合が多かった。キャリア支援室は後期課程の5%のみが「以前に利用したことがある」であり、留学生を含む両課程のほとんどの大学院生は支援室を利用していない。就職に関しては、両課程ともに「面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実」や「就職ガイダンスの充実」、「求人企業の開拓」、「就職情報誌など就職関係書類の充実」について大学へ要望している。

以上を総括すると、以下の課題が挙げられる。

1. 研究指導体制下のハラスメントが依然存在しており、FD活動などを通じて予防策を継続する。また、生じた場合の相談支援体制としての相談室利用やメンター制度の周知を図る。
2. 保健管理・総合相談センターの利用者が少ないので、大学院生に対する周知徹底とセンターの利便性向上を図る。
3. 国際的能力を有する人材の育成および本学国際化の継続的推進のため、英語・英会話能力向上プログラムや国際学会プレゼンテーション技術向上プログラムなどの教育カリキュラムの多様化を図る。
4. キャリア支援室は就職希望の大学院生の要望を考慮して対処し、さらに利便性を高める。

口腔科学教育部の社会人大大学院生は他の教育部に比べて特に多いので、生活実態の特徴をより明確化するためには一般大学院生と社会人大大学院生を分けて分析することが望ましいと考え、今後の検討課題としたい。

8-4 薬科学教育部

薬科学教育部は、薬学専攻と創薬科学専攻の2専攻からなり、薬剤師養成のための専門教育を目的とする薬学部薬学科（6年制）と、創薬・製薬科学の研究者養成のための専門基礎教育を目的とする薬学部創製薬科学科（4年制）それぞれの特徴を継続した学部・大学院一貫教育により、新規医薬品の創製から医療現場での医薬品の適正使用に至る広範な分野の専門知識と高い研究能力を有する人材の養成を目指している。今回のアンケート調査対象者は、創薬科学専攻博士前期課程68名（うち留学生1名）、同専攻博士後期課程30名（うち留学生5名）、薬学専攻博士課程6名（うち留学生1名）の合計104名であり、留学生は全体で7名と第6回調査（11名）から減少している。回答者は創薬科学専攻前期課程59名、同専攻博士後期課程30名、薬学専攻博士課程5名であった。前期課程全体でのアンケート回収率は86.8%（第6回調査：85.7%）、後期課程全体でのアンケート回収率は97.2%（第6回調査：76.7%）で、回収方法を工夫したことにより回収率が上がった。回答者の出身地については、四国4県の出身者が前期課程で35%（うち徳島県：20%）、後期課程で26%（うち徳島県：17%）であった。また、全回答者の中で留学生の占める割合は、前期課程で1%、後期課程で17%となっている。

第2章「家族・住居、通学」より、家庭の年間所得は第6回調査と大きな違いはなく、前期課程では500～1000万円未満が54%（第6回調査：52%）、1,000万円以上が15%（第6回調査：13%）であった。住居費については、前期課程では「3万円～4万円未満」が50%と、第6回調査同様（37%）、最も多く、一方で、「3万円以下」が15%と第6回調査（31%）から大きく減少した。しかし、今回の結果は第5回調査とほぼ同じであり、この変動はバラツキの範囲内であると思われる。後期課程でも、「3万円～4万円未満」が最も多く（42%）、次いで「3万円未満」（33%）であった。いずれも、第6回調査（「3万円～4万円未満」：33%、「3万円以下」：21%）から増加し、特に「3万円以下」は第5回調査（15%）から連続で増加しており、学生が住居費を切り詰めている様子がみられた。通学方法と

しては「自転車」(前期課程:68%, 後期課程:54%)が、通学時間としては「15分未満」(前期課程:80%, 後期課程:63%)が、それぞれ両課程ともに最も多く、本調査開始以来変わりが無い。幸いにもここ数年、通学途中での重大な交通事故は発生していないが、交通安全についての意識喚起等は継続して実施する必要がある。

第3章「収入・支出」については、親等からの援助が「全くない」と回答した学生の割合は、前期課程で10%、後期課程で63%であり、後期課程は第6回調査(53%)と変わらない。一方、前期課程は第6回調査(28%)から減少しているが、第5回調査(12%)と変わらないことから、この変動もバラツキの範囲内であると思われる。奨学金については、前期課程で41%、後期課程で49%の学生が「現在受給中であるが、更に希望する」と回答している。その一方で、「現在受給していないし、希望もしない」と回答した学生が、前期課程で51%、後期課程で26%となり、二極化が見られる。特に前期課程で「現在受給していないし、希望もしない」が第6回調査(33%)から大幅に増加し、その分、「現在受給中であるが、更に希望する」が第6回調査(57%)から大幅に減少していた。アルバイトをしている学生の割合は、前期課程で31%、後期課程で20%であり、第6回調査(前期課程:35%, 後期課程:18%)と変わりが無い。アルバイト収入は両課程ともに「3~5万円未満」(前期課程:50%, 後期課程:43%)が最も多く、アルバイト従事時間(1週間)も両課程で大きな差は無く、過半数(前期課程:67%, 後期課程:58%)が10時間未満であった。第6回調査に比べ、後期課程でアルバイト収入(「5~7万円未満」:50%)も従事時間(10時間以上が50%)も減少していた。なお、アルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答した学生の割合は前期課程で41%(第6回調査:58%)、後期課程で50%(第6回調査:50%)であり、前期課程で前回調査より下回ったが、依然として学生を取り巻く経済状況が厳しいことには変わりがなく、大学院生への経済的支援は今後とも大学全体として取り組むべき重要課題のひとつである。

4章「健康状態」について、「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と回答した学生は前期課程で56%、後期課程で66%と、第6回調査とほぼ同じ結果(前期課程:49%, 後期課程:61%)であった。「常にある」と回答した学生の症状は様々で、前期課程では「アトピー・アレルギー」が50%と最も多く、「下痢・便秘」(33%)、「頭痛」,「腹痛・嘔気」,「生理痛・生理不順」がそれぞれ17%であったのに対して、後期課程では「頭痛」(100%)と「腹痛・嘔気」,「下痢・便秘」,「生理痛・生理不順」がそれぞれ50%であった。大学院生は研究室で過ごす時間がかなりの割合を占める(後述)ことから、生活リズムの乱れや運動不足等についてきめ細かい指導の必要性が感じられる。また、精神状態については、「充実している」あるいは「気分は普通」との回答は、前期課程が58%と第6回調査(61%)とほぼ変わらないが、後期課程は59%であり第6回調査結果(70%)を11ポイント下回っていた。悩みごとの主たる要因は、これまでの調査同様、前期課程、後期課程ともに「経済状態」,「勉強」,「就職や進路」であるが、「生き甲斐や目標」と回答した学生も少数ではあるが、いることに留意しておく必要がある。悩みごとの相談相手を問う設問では、前期課程では「友人」(53%)、後期課程では「家族」(46%)との回答が最も多く、第6回調査と変わらなかった。「総合相談部門(学生相談室)」との回答は、前期課程3%、後期課程0%と極めて少なく、一方で「誰にも相談しない」が前期課程25%、後期課程31%と、両課程ともに第6回調査(前期課程:10%, 後期課程:15%)から大幅に増加していたことから、保健管理・総合相談センターの存在やサービス内容を学生に周知徹底し、精神面を含めた健康維持管理を目的とした本センターの有効利用を促す取り組みを進めていく必要がある。

第5章「学生生活上の問題点」について、前期課程で18%(第6回調査:8%)、後期課程で3%(第6回調査:6%)の学生が何らかの迷惑行為(「大学内でアカハラを受けた」,「カルトのような集団への勧誘を受けた」)を受けたと回答している。充実した学生生活のためには、学生生活上の問題点に関して一層の注意喚起を行い、教員ならびに学生の意識をさらに向上させる必要がある。また、依然とし

て「総合相談部門（学生相談室）を知らない」と回答した学生が、前期課程で25%、後期課程で10%いることから、総合相談部門との緊密な連携のもとに、学生生活支援に係る啓発活動と指導を今後も継続的に進めていく必要がある。

第6章「修学状況」については、前期課程で51%、後期課程で63%が薬科学教育部の教育理念や教育方針を「良く知っている」あるいは「だいたい知っている」と回答しており、教育課程に対する満足度は、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した学生が前期課程、後期課程ともに95%と、第6回調査（前期課程：89%、後期課程：78%）より増加していた。今後も教育理念や教育方針の入学前周知に努め、入学後には学生の満足度が100%となるよう、教育部全体での取り組みと教員個々の不断の努力が求められる。授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、40時間以上が前期課程で72%、後期課程で74%と、大学全体の平均（前期課程：29%、後期課程：37%）を大きく上回っており、これまでの調査結果同様、他の教育部に比べて研究活動時間が長い。研究を直接指導している教員については、両課程ともに「教授」、「准教授・講師」が主であるが、前期課程では「助教」の割合が高い（24%）。研究指導の内容や進め方については、両課程ともに92%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、第6回調査（前期課程：88%、後期課程：85%）より両課程ともにポイントが上がっている。研究テーマへの満足度については、前期課程では94%、後期課程では97%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答している。全体として薬科学教育部に満足していますかとの設問については、前期課程で93%、後期課程で92%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、修学状況は高い満足度が維持されている。研究環境について「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程で78%、後期課程では94%であった。一方で、「研究環境に不満足」な理由としては、両課程ともに「施設・設備」と「研究費用」が最も多かった。特に「研究費用」は調査を重ねるごとに増加しており、研究費確保の厳しい現状が学生アンケートにも反映した結果となっている。図書館については、前期課程で51%、後期課程で69%の学生が電子ジャーナルやデータベースを「ほぼ毎日利用している」と回答しており、第6回調査結果（前期課程：53%、後期課程：61%）同様、利用頻度が高い。また、図書館のサービス（施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等）に対して、前期課程で86%、後期課程で91%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、満足度は高い。なお、WEB上で閲覧可能な雑誌の質ならびに量の維持や拡充、利用価値の高い検索ツールの導入などは、大学全体として取り組むべき重要課題の一つであり、情報関連技術の進歩に対して遅滞なく迅速に対応することが引き続き望まれる。入学後に海外渡航経験があると回答した学生は、前期課程で25%、後期課程で34%であり、第6回調査とほぼ同じ結果であった。海外渡航の目的として、前期課程では「観光」(55%)、「語学研修」(20%)、「学会参加」(15%)の順で多く、後期課程では「学会参加」(50%)、「観光」(21%)、「留学」(14%)の順であった。国際学会での発表経験については、前期課程で20%、後期課程で46%の学生があると回答しており、第6回調査で25%に減少していた後期課程でポイントの回復が見られた。一方で、語学力を高めるために「何もしていない」と回答した学生が、前期課程、後期課程でともに36%あり、依然として高い割合で学生が外国語修得の努力をしていないことがわかる。薬科学教育部では独自に薬学英語特論を必修科目として開講し、英語力強化に取り組んでいるが、今後も積極的な対策が望まれる。なお、本学の国際化への対応については、前期課程で57%、後期課程で65%の学生が「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と回答していた。今後も国際化への取り組みをさらに加速していくことが望まれる。

第7章「進路選択・就職」では、前期課程学生の後期課程への進学希望者は、経済的支援を前提とした者を含めて22%であり、第6回調査（20%）と変わりがない。就職を希望する学生（61%）の希望

職種としては「企業等の研究職」が39%で最も多く、次いで「技術職」の24%となっている。後期課程学生の就職希望職種としては「大学・官公庁の教育・研究職」と「企業等の研究職」がそれぞれ11%であった一方、65%の学生が本質問については無回答であり、進路の選択に悩んでいる様子が窺える。これらの傾向は第6回調査と変わらない。進路選択の情報入手手段としては両課程ともに「Web・インターネット」との回答（前期課程：35%，後期課程：33%）が最も多く、情報源として中心的役割を果たしている。一方で、本学のキャリア支援室を「利用したことがない」と回答した学生が、前期課程で59%，後期課程で80%であった。薬科学教育部では、独自の組織的な就職支援に加え、キャリア支援室とも連携した就職支援の強化を図っているところであるが、今後も学生のニーズに応じたきめ細かい就職支援に、より一層努力する必要がある。

最後に、本調査より明らかとなった薬科学教育部の現状と課題を総括する。

1. 昨今の社会情勢も踏まえ、経済的理由が大学院への進学を妨げることがないように、大学院生を対象とした経済的支援体制の充実が喫緊の重要課題である。
2. 研究・教育の現状には概ね学生は満足しているが、修学環境の改善に向けた継続的な取り組みが求められる。
3. 研究室で多くの時間を過ごす大学院生の心身の健康を保持増進するため、保健管理・総合相談センターとの緊密な連携による学生支援体制のより一層の強化が望まれる。また、迷惑行為根絶に向け、注意喚起を徹底するとともに、教員ならびに学生の意識をさらに向上させる必要がある。
4. 就職支援に関しては、教育部およびキャリア支援室が行っている様々な活動への学生の積極的な参加や利用の啓発・促進に努めるとともに、学生の多様化するニーズにきめ細かに対応する支援体制の一層の強化が望まれる。

以上、状況は第6回調査時とほとんど変わっていないが、上記課題の克服に向けて、今後も学生のニーズという視点に立って鋭意努力していかなければならない。

8-5 栄養生命科学教育部

栄養生命科学教育部において、前期課程在籍者は57人で、回答率は86.0%であった。留学生はいなかった。後期課程在籍者は34人で回答率は35.3%，留学生は4名で1名から回答を得ている。前回よりも前期課程在籍者の回答率は向上したが、後期課程在籍者の回答率が低下した。また、留学生からの回答率が低い状況であった。

「本調査の対象者」については、前期課程では、近畿地区出身者の割合が33%，次いで徳島県出身者の割合が24%であった。後期課程では、徳島県出身者と四国県内出身者および中部地域出身者の割合がともに25%でこれらの地域の出身者で75%を占めていた。出身大学別に見ると、前期課程では、徳島大学出身者が80%と多かった。後期課程では、徳島大学大学院修士・博士前期課程が42%で最も多かった。

「社会人か留学生か」については、後期課程では、社会人が25%，留学生が17%であった。

「家族・住居・通学について」の設問の「住居区分」では、前期課程では、全体で「アパート・マンション」が78%，次いで「自宅（家族と同居）」が22%となっていた。後期課程では、「アパート・マンション」が58%で一番多く、次いで「自宅（家族と同居）」が33%となっていた。前回調査より「自宅（家族と同居）」と回答した学生が14%増えていた。

「住居費」に関しては、前期課程では、「3～4万円未満」が37%で最も多く、次いで「5～6万円未満」が24%となっている。「3～4万円未満」が25%となっている。後期課程では、「3～4万円未満」が43%で一番多く、次いで「6～7万円未満」が29%であった。前回調査よりも住居費が上昇している傾向が見られた。

「配偶者・子供の有無」については、前期課程では100%が「配偶者・子供ともなし」となっている。後期課程では「配偶者・子供ともなし」が75%となっている。

「通学方法」では、前期課程では「自転車通学」が78%と一番多く、次いで「自動車」が16%となっている。後期課程では、「自転車通学」が67%と一番多く、次いで「自動車」が25%となっている。「通学時間」に関しては、前期課程では、「15分未満」が76%、後期課程では、「15分未満」が50%、「15分から30分未満」と「30分から1時間未満」までを合わせて34%であった。

「収入・支出」については、前期課程では、43%が親等からの援助を除く平均収入額は「3万円未満」、22%が「3～5万円未満」である。98%の学生が「10万円未満」の収入となっている。後期課程では、42%が「3万円未満」である一方で、25%が収入額「15～20万円未満」と回答している。収入「10万円未満」では、前回調査と同様に50%であった。

「親等からの援助」に関しては、前期課程では、18%が親等からの援助が全くなく、70%が10万円未満の援助を受けている。後期課程では、42%が親等からの援助が全くなく、50%が10万円未満の支援を受けている。博士前期・後期課程とも、前回調査より援助が全くない人が減り、10万円未満の支援を受けているものが増加していた。

「奨学金の希望」においては、前期課程では、37%が奨学金を受給しているが更に希望している。後期課程では、奨学金を受給しているが更に希望する割合が58%と全教育部で最も高い。

「アルバイト」については、前期課程では、80%の大学院生がアルバイトを行っており、全体で最も割合が多い。後期課程では、17%がアルバイトをしていると答え、前期課程に比較して4分の1以下の割合となっている。一方、1週間あたりのアルバイト従事時間は、前期課程では「5時間未満」が28%であったのに対し、後期課程では50%と、前期課程の学生は後期課程の学生に比べてアルバイトに従事している割合も多いが従事時間も長い。アルバイトの目的は、前期課程では、「生活費や学費のため」が39%、「レジャー・旅行」と「日常の娯楽・嗜好品等購入のため」を合わせると50%と全体でも最も高く、半数が娯楽などのためにアルバイトをしている。一方で、後期課程では、「生活費や学費のため」が50%と「社会体験のため」が50%で、娯楽などのためにアルバイトをしていると回答した者はおらず、前期課程と後期課程でのアルバイトに対する意識の違いが認められる。

「健康状態について」に関する設問の「睡眠時間」においては、前期課程では「6～8時間未満」が51%、「4～6時間未満」が45%であった。前期課程の学生は「6時間未満」が47%となっており、睡眠不足の蓄積が危惧される。後期課程では、「6～8時間未満」が42%、「4～6時間未満」が42%、「6時間未満」が50%と前期課程と同様に睡眠不足の傾向が見られた。

「気になる症状」において、「ある」と答えた学生は、前期課程は61%、後期課程では75%であった。主な症状は、前期課程は「頭痛」、「下痢・便秘」、「生理痛・生理不順」、「その他」、後期課程は、「不眠」、「その他」であった。

「主な悩みや不安」は、前期課程では「就職や進路」が55%、「勉学」が37%の順であった。後期課程は、「就職や進路」が83%、「勉学」50%、「経済状態」が42%であった。悩み事は、前期課程の約5～7割、後期課程の約6割の学生が「友人」もしくは「家族」に相談するとしており、悩みを最も身近な人に相談することで、ストレスを軽減したり、助言を得たり、問題解決をはかるなど、適切な対処行動をとっていることが推測される。主な悩みが「就職・進路や勉学」であるため、「教員」が相談相手となりやすいとも考えられる。第6回調査までは、後期課程の学生は「教員」に相談する者が14%、前期課程では7%と少なかったが、今回の調査では後期課程で50%、前期課程で18%と教員に相談する者が増えているようであった。また「悩みを誰にも相談しない」という学生が、前期課程、後期課程それぞれ6%、0%と自分で抱え込む学生は前回調査よりも減少した。相談相手としての「保健管理・総合相談センターの総合相談部門や保健管理部門の利用」は前期課程では2%と少ないが、後期課程では17%と

全体でも最も利用している割合が高い。「学生相談部門」が、より学生が気軽に相談できる場所として利用されることが望ましい。

「現在の精神状態」として、前期課程では63%の学生が「充実している」または「気分は普通」を選び、精神的な健康を保っていると考えられるが、32%は何らかの精神的症状を持っていた。症状別では「何となく不安」、「やる気がでない」が多かった。後期課程では、64%の学生が「充実している」または「気分は普通」と回答し、症状別では、「なんとなく不安」が多かった。

「学生生活上の問題点」の設問では、前期課程では、「大学内でセクハラを受けた」のが7%、「アカハラを受けた」が13%、「ストーカーにあった」が5%、「カルトのような集団への勧誘を受けた」が4%、「悪徳商法に引っかかった」と「いたずら電話を受けた」が2%ずつであった。後期課程では、「アカハラを受けた」が14%、「大学内でセクハラを受けた」が7%、「いたずら電話を受けた」が7%であった。いずれも、前回調査よりも増えている。教職員や学生へのアカハラ・セクハラに関するさらなる啓蒙が必要である。

セクハラを受けた時の相談者は、前期課程では、「友人」あるいは「教員」であり、後期課程では「友人」、「教員」、「総合相談部門」、「学務係」であった。アカハラを受けた時の相談者は、前期課程では「友人」、「家族」、「教員」であり、後期課程では、「友人」、「教員」、「総合相談部門」、「学務係」であった。「総合相談部門」については、「知らない」と回答した者の割合が、前期課程では前回調査の23%から37%と増加し、後期課程では前回の38%から8%と大幅に低下した。後期課程では、多くの学生が総合相談部門の存在を認識していた。「利用したことがある」と回答した前期課程の学生は、「満足である」と「どちらかといえば満足である」をあわせて100%であったが、後期課程の学生では、その割合は50%であった。

「盗難、強盗、傷害、痴漢などの事件」の被害については、いずれかにあったと回答した者は、博士前期課程で6%（盗難と痴漢）、後期課程で8%（その他）であった。「交通事故」については、被害者・加害者のいずれかになったことがある者が、前期課程で24%、後期課程で25%であった。「大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている薬物の使用」については、使用について「あり」と回答した学生が少数いたことから、薬物の危険性の周知を繰り返し行うことが必要である。

「大学事務室の対応への満足度」に関して、「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた回答は両課程とも92%であった。

「修学状況について」に関する設問の「教育理念・方針と教育に対する満足度」は、所属する教育部の教育理念や教育方針について、「良く知っている」、「だいたい知っている」と答えた人の割合は、前期課程で59%、後期課程で67%であった。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ、前期課程で86%、後期課程で88%が「思う」と答えている。

教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は18%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生（71%）と合わせて89%であった。一方、「どちらかといえば不満足である」は8%となっている。後期課程も全体の83%がほぼ満足している（「満足している」33%、「どちらかといえば満足している」50%）。前回調査と比べて、「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計はほとんど変わらないが、前期課程では「満足している」割合が低下したのに対して（前回26%）、後期課程では割合が上昇した（前回19%）。

大学院に相応しいレベルの授業については、前期課程では「充分に行われている」が23%、または「ある程度行われている」が65%となっている。後期課程もほぼ同様で、「充分に行われている」が42%、「ある程度行われている」が42%となっていた。「あまり行われていない」、「全く行われていない」の合計は、前期課程8%、後期課程16%であった。

「本学を選んだ理由と目的」において、前期課程の学生の主な入学理由は、「出身大学だから」が25%、「希望する研究分野があるから」が19%、「就職等将来を考慮して」が17%、「研究環境が整っているため」が14%となっている。後期課程の学生は、「希望する研究分野があるから」が最も多く33%、次いで「継続して修学するため」が20%、「出身大学だから」が13%、「研究環境が整っているから」が13%であった。「大学院進学における志望順位について」、当大学院を第一志望としていたものの割合は、本学出身者では前期課程で95%、後期課程で88%に対し、他大学出身者では、前期課程で67%、後期課程で100%であった。

「大学院での勉学で目指すもの」では、前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」39%、「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」33%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」24%、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員」4%の順であった。後期課程では、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員」が50%で最も多く、次に「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が33%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が17%であった。

「授業の内容や進め方」に対して、前期課程では、「満足している」18%、「どちらかといえば満足している」69%で、あわせて87%であった。後期課程では、「満足している」25%、「どちらかといえば満足している」67%とあわせて92%であった。

以上の教育課程や授業内容への満足度は、概ね高いものであったが、博士前期課程と博士後期課程で比較すると、博士後期課程の満足度が高い傾向がうかがえる。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」は、前期課程では「20～40時間未満」が41%、「40～60時間未満」が27%、「60時間以上」が8%となっている。後期課程では、「20～40時間未満」が25%で、それ以外では、「30分未満」[90分～5時間未満]、「40～60時間未満」[60時間以上]のいずれもが17%であった。後期課程で週に5時間未満のものが34%もいるが、現状から考えても数値の信頼性に問題があるように思われる。本調査項目における「授業以外の自分で行う研究活動」の定義に問題があると考えられることから、今後の調査において設問の方法を検討する必要がある。

研究指導としては、前期課程において、助教から指導を受ける院生の割合は35%で最も多く、次いで教授が31%、講師が24%であった。後期課程でも、助教が50%と最も多く、次いで講師が25%、教授が17%であった。全学で見ても、教授が直接の指導教員となっている割合は、栄養生命科学教育部が最も低い。

「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」の設問で、前期課程では「30分～90分未満」が53%と最も多く、「90分～5時間未満」が22%、「30分未満」が14%、「5～10時間未満」が10%の順となっている。後期課程では、「90分～5時間未満」と「30分未満」が33%、「30～90分未満」が25%、「5～10時間未満」が8%となっている。

「研究指導の内容や進め方について」の設問に対する前期課程の回答は、「どちらかといえば満足している」が最も多く61%、「満足している」の24%と合わせると、85%であった。後期課程の回答は、「満足している」33%と「どちらかといえば満足している」50%をあわせて83%であり、以下、「どちらかといえば不満足である」、「不満足である」の順であった。

論文のテーマについての満足度では、前期課程の「満足している」、「どちらかといえば満足している」をあわせた人の割合が94%、後期課程では83%であった。

「指導教員とのコミュニケーションに関する」設問では、前期課程の学生は、「ある程度とれている」が51%、「充分とれている」が24%、「あまりとれていない」が24%であった。同じ設問に対して、後期課程では「ある程度とれている」が58%、「充分とれている」が25%で、「あまりとれていない」が8%、「まったくとれていない」が8%であった。後期課程の「まったくとれていない」の8%は全学で

も最も多く、回答者の属性などを調査し原因を探る必要がある。

「研究環境に対する満足度」においては、前期課程では、研究環境に「どちらかといえば満足している」51%、「満足している」31%、「どちらかといえば不満足である」が16%、「不満足である」2%であった。後期課程では、研究環境に、「満足している」が42%、「どちらかといえば満足している」33%、「どちらかといえば不満足である」8%、「不満足である」17%であった。後期課程の「不満足である」割合が17%と全学でも最も高い。

「研究環境に満足していない理由」を尋ねた設問では、前期課程では「研究時間」と「その他」が30%、「施設・設備」「研究費用」がともに20%であった。後期課程では、「施設・設備」,「研究費用」,「その他」がいずれも33%であった。

「所属教育部に対する満足度」の設問では、前期課程学生は、「満足している」が39%、「どちらかといえば満足している」が53%であった。後期課程学生は、「満足している」が50%、「どちらかといえば満足している」が33%である一方で「不満足である」が8%あった。

後期課程の学生の中に、一定数、現在の研究環境やテーマ、教員とのコミュニケーションなどに問題を抱えている学生がいると思われる。

「電子ジャーナルやデータベース等の利用頻度」は、前期課程で「ほぼ毎日利用している」の35%が最も多く、次に「1週間に2～3回利用する」が20%、「1週間に1回程度利用する」が16%であった。後期課程では、「ほぼ毎日利用している」が67%と高く、「1週間に2～3回利用する」が8%、「1週間に1回程度利用する」が8%であった。図書館サービスに対する満足度は、前期課程で「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計で93%、後期課程では100%であった。

「入学後の海外渡航経験」に関しては、1回以上渡航経験のあるものが前期課程で30%、後期課程で49%であった。「国際学会での研究発表」に関して、「あり」の割合が前期課程では16%、後期課程では50%で、後期課程の学生には国際学会での発表の機会を与えるように務めている結果と考えられる。一方で、前期課程の学生にはもう少し参加の機会を与えることを考慮する必要がある。但し、限られた研究費から旅費を捻出している状況を考えると、国際学会への参加率を増加させるには大学からの経済的な支援が不可欠であろう。

日本人学生の「英会話」に関して、「日常会話ができる」と「なんとか日常会話ができる」をあわせて前期課程では60%、後期課程で41%と後期課程の方が低い結果であった。全学で比較して特段、栄養生命科学教育部の学生が英会話を苦手にしていないという訳ではないが、後期課程でも「専門用語を使った会話ができる」とした者がいなかった。一方で、「語学についての学習状況」は、「何もしていない」が前期課程では45%、後期課程では64%であった。

「学習への取り組み」に関して、「現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか」について、「良く学習している」と「かなりしている」を合わせると、前期課程では78%、後期課程では66%であった。後期課程学生の方が「あまりしていない」「全然していない」の割合が高い。

「本学の教育への期待」に関して「あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか」について、前期課程では「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究」が31%、「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」が24%、「産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究」が14%、「個々の教員の教育・研究指導能力の向上」が13%であった。後期課程では、「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」が25%と最も高く、以下、「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究」が21%、「産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究」、「個々の教員の教育・研究指導能力の向上」が共に17%であった。

「本学の国際化への対応」については、「非常に積極的であると思う」、「どちらかといえば積極的であると思う」を合わせると、前期課程では73%、後期課程では100%であった。英会話能力や国際学会での

発表の機会の結果と国際化への対応への評価との間に大きなギャップがみられた。

「進路選択・就職について」に関する設問の中で、前期課程の大学院生の「後期課程への進学意思」があるのは14%で、「奨学金等の援助があれば進学したい」の14%とあわせて28%であった。これは前回調査の13%と比べると2倍以上となっている。なお、進学希望先を本学としたものは79%であった。一方、65%が、「未定」「就職したい」と答えた。前期課程の学生の就職希望職種は、「大学、官公庁の教育・研究職」および「大学、官公庁の教育・研究職以外の公務員」をあわせて11%、「企業等の研究職」および「専門職（医師など）」をあわせて43%であった。後期課程の就職希望職種は「大学、官公庁の教育・研究職」と「教育職」をあわせて31%、「既に就職している」が8%、「無回答」が62%であった。

「進路選択で重視する要件」を尋ね、3個以内での複数回答結果では、前期課程では「能力を発揮できること」25%、「就職先の将来性・安定性」が23%で、次いで「収入」が21%、「勤務地の地理的条件」11%であった。後期課程では、「能力を発揮できること」32%、「勤務地の地理的条件」25%、「収入」が18%、「就職先の将来性・安定性」が11%であった。前期課程、後期課程ともにこれらの項目が主要件となっていた。

「進路選択の情報の入手手段」について、前期課程では、「Web・インターネット」33%、「先輩・知人」22%、「指導教員」14%、「就職情報誌・新聞・マスコミ」12%の順であった。後期課程では、一番多いのは、「Web・インターネット」が43%、「指導教員」が30%、「先輩・知人」13%、「家族等」9%であった。前期課程・後期課程ともに、「就職担当教員」としたものは1%以下であり、ほとんど活用されていない。

「キャリア支援室利用状況」については、前期課程は過去の利用も含めてキャリア支援室の利用は41%で、前回の53%よりやや低下したものの前々回の18%に比べて高く、一定の学生に定着してきた感がある。後期課程は「以前に利用したことがある」とした者が25%で、現在も利用している者はおらず、前期課程に比べてキャリア支援室の利用率が低い。大学院生は専門性の高い資格を持ち特殊な業種へ就職することが多く、その求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が高いためにキャリア支援室を利用することが少ないと思われる。

今回の調査の結果、明らかになった問題点と課題は、前回の調査とほとんど変わらないが

1. アカハラやセクハラ、違法薬物・犯罪行為に関する啓蒙
 2. 後期課程における学生とのコミュニケーション、研究指導体制の充実
 3. 前期課程における国際学会への参加の促進（経済的な支援が必要）
 4. 語学学習の支援
- 等が挙げられた。

8-6 保健科学教育部

保健科学教育部における前期課程在籍者は55人、回答者は36人、回答率は65.5%であった。後期課程在籍者は22人で、回答者は8人、回答率は36.4%であった。留学生の在籍者はいない。第6回調査の回収率と比較すると、前期課程では約10%上昇し、後期課程では約14%上昇した。回答率を高めるために指導教員から丁寧に調査への協力依頼を行った結果と言えるが、両課程とも社会人が多く、回答しづらさや返却しづらい問題は継続していると考えられる。電子メールやWeb上での回答等、回収方法の工夫を継続的に講じる必要がある。

第1章「本調査の対象者について」では、回答者の出身地は、前期課程の50%が「徳島県」で、第6回調査と同様であった。次いで「近畿」（14%）、徳島県以外の「四国」（11%）の順であった。後期課

程では、「徳島県」が38%、徳島県以外の「四国」と「中部」が25%ずつで、第6回調査と比較し、徳島県の割合は減少している。

回答者の出身大学（大学院）は、前期課程では「徳島大学」が75%で、第6回調査より微増している。後期課程は「徳島大学大学院」と徳島大学以外の「国内の大学院」がそれぞれ38%であった。社会人が占める割合は、前期課程25%、後期課程100%であり、後期課程は全教育部の中で社会人学生の割合が最も高い。

第2章「家族・住居・通学について」の「家庭の収入」では、前期課程は250～500万円未満が25%で最も多く、次いで500～750万円未満（22%）、1,000～1,500万円未満（20%）であった。後期課程は、500～750万円未満が63%で最も多かった。

「住居区分」では、前期課程で最も多かったのが、「アパート・マンション（家族と別居）」で58%、次いで「自宅（家族と同居）」が39%で、第6回調査とほぼ同様の傾向であった。後期課程は「アパート・マンション（家族と別居）」と「自宅（家族と同居）」がそれぞれ50%であった。

「婚姻状況」は、前期課程では「配偶者なし・子供なし」が89%で、第6回調査より11%増加している。「配偶者あり・子供あり」は11%で、授業や研究をしているとき、子供の世話をしているのは、「配偶者」と「親や親戚」を合すると51%で、家族や親戚の協力を得られていると言える。後期課程の「配偶者なし・子供なし」は63%、「配偶者あり・子供あり」が25%で、授業や研究をしているとき、「小学校等の学校に通っている」が50%であった。

「通学方法」は、前期課程では、「自転車」通学が44%で最も多く、次いで「自動車」が36%であった。後期課程では、「自動車」が75%で、この割合は全員が社会人学生であることと関連している。「通学時間」は、前期課程では、「15分未満」が53%、「15分～30分未満」が22%で「30分以内」が8割近くを占め、「2時間以上」は6%であった。後期課程は「15分未満」と「2時間以上」がそれぞれ50%で、近隣に住む学生と県外の学生とに2分され、県外の学生は通学に長い時間を費やしている。

第3章「収入・支出について」の「1か月の平均収入額」については、前期課程では58%の学生が5万円未満の収入であるが、20%は20万円以上の収入を得ている。後期課程では、25～30万円未満が38%で最も多く、「30万円以上」は25%で、第6回調査より50%減少していた。「親等からの援助」は、前期課程の36%が全くないと答えており、第6回調査より14%減少した。次いで「5～7万円未満」（19%）、「3万円未満」と「3～5万円未満」がそれぞれ17%であった。後期課程は、88%が援助が全くないと回答していた。

「1か月の平均支出額（授業料支出は除く）」は、前期課程で「7～10万円未満」が25%で最も多く、次いで「3～5万円未満」が22%で、「3万円未満」（11%）、「3～5万円未満」（11%）を合わせると、69%が支出を10万円未満に抑えていた。後期課程では、「15～20万円未満」と「20～25万円未満」がそれぞれ38%で、教育部の中で20万円以上の割合が最も高かった。

「奨学金」について、前期課程では、「現在奨学金を受けている」（25%）と「将来的に奨学金を希望する」（3%）を合わせると全体の28%が奨学金を希望しているが、残りの72%は受給も希望もしていない。また、後期課程で奨学金を希望するのは25%で、75%は奨学金を受給も希望もしていない。第6回調査と大きく傾向が異なり、前期課程、後期課程ともに7割以上が奨学金の受給希望を有しなかった。

「現在アルバイトをしているか」では、前期課程では、アルバイトをしている割合は58%であった。前期課程のアルバイトをしているもののうち、「アルバイトの従事時間」は、52%が週に10時間未満で、20時間を越えるものは24%であった。アルバイトの目的は、「生活費や学費のため」が38%で、「アルバイトの収入額」は、「3万円未満」が最も多く33%、次いで「3～5万円未満」が29%であった。全体の6割以上が5万円未満であったが、15万円以上が14%で、他の教育部に比べアルバイトによる収入額は多い傾向がある。「アルバイトのトラブル」は、「雇用者との意見の不一致」が9%で最も多く、「客と

のトラブル」が5%で、86%はトラブルがなかった。また、後期課程は全員が社会人であったため、アルバイトは0%であった。

第4章「健康状態について」では、「睡眠時間」は前期課程で「6～8時間未満」が67%、「4～6時間未満」が33%であった。後期課程では「4～6時間未満」が88%で、他の教育部よりも睡眠時間が少ない傾向にあった。「気になる症状」については、前期課程では「ない」が56%、「時々ある」が39%であった。症状として「頭痛」、「めまい・立ちくらみ」、「その他」がそれぞれ50%であり、分類しにくい多様な症状を抱えている。後期課程では50%が気になる症状を抱えており、全員が「頭痛」の症状があると回答していた。

「主な悩みと不安」については、前期課程の42%は「ない」と回答しており、第6回調査の3%より大幅に増加している。次いで「身体的不調」(33%)、「勉強」(28%)であった。また19%が「経済状態」と回答していた。後期課程では、38%が「勉強」と回答しており、第6回調査より10%増加している。「ない」、「経済状態」、「身体的不調」、「生きがいや目標」がそれぞれ25%であった。「相談相手」は、前期課程は、「友人」が67%、「家族」が58%、「教員」が14%であった。後期課程は、「家族」が50%で、「友人」と「誰にもしない」がそれぞれ25%であった。

現在の「精神状態」は、前期課程では「気分は普通」が53%で最も多い一方で、「なんとなく不安」、「落ち込みやすい」、「やる気がでない」を合わせると23%で、精神状態への支援の必要性がある。後期課程では、「何となく不安」と「やる気がでない」を合わせると38%で、心理状態への支援が必要である。

前期課程の92%は非喫煙者であったが、8%は毎日喫煙すると回答した。後期課程は全員が非喫煙者であった。飲酒は前期課程では「たまに飲酒する」が最も多く72%、後期課程では75%で最も多かった。

「保健管理・総合相談センター保健管理部門」を利用したことがあると回答したのは前期課程で73%であった。「保健管理・総合相談センター保健管理部門があることを知らなかった」学生は19%で、第6回より減少傾向にあった。後期課程で利用したことがある学生は41%であった。

第5章「学生生活上の問題点」において、「迷惑行為を受けたことがあるか」では、前期課程の86%が受けたことはなかったが、6%が「大学内でアカハラを受けた」と回答した。後期課程では全員が迷惑行為を受けていなかった。前期課程の迷惑行為を受けたことがある者のうち、「友人」と「家族」に相談したと回答した者がそれぞれ50%であった。

盗難や強盗、傷害、痴漢事件の被害については、前期課程の89%が「被害に遭ったことがない」と回答したが、「盗難に遭ったことがある」が5%、「傷害に遭ったことがある」が3%であった。後期課程で被害に遭った者はいなかった。また、前期課程で交通事故の「被害者となったことがある」と回答したのは28%、「被害者・加害者の両方になったことがある」が6%だった。後期課程では「被害者になったことがある」、「被害者・加害者の両方になったことがある」がそれぞれ13%であった。大麻・覚せい剤などの薬物使用は前期課程、後期課程ともに0%であった。

「保健管理・総合相談センター総合相談部門（学生相談室）の利用」について、「利用したことがある」学生は前期課程で6%、「知らない」と回答した学生が42%で、「知らない」と回答した割合は第6回調査よりも17%減少していた。後期課程では25%が「使用したことがある」と回答した。また、前期課程、後期課程ともに利用した学生は、対応について50%が「満足である」と回答しており、第6回調査よりも満足度は大幅に改善した。

「大学事務室の対応満足度」は、「満足している」と「どちらかといえば満足である」を合わせた割合は、前期課程で86%、後期課程は100%であった。

第6章「修学状況について」の「教育理念・方針と教育に対する満足度」では、前期課程において、

「教育理念や教育方針を知っている」割合は、「良く知っている」「だいたい知っている」の合計が53%で第6回調査とほぼ同様であった。後期課程は「良く知っている」と「だいたい知っている」の合計が88%で、第6回調査より13%増加した。教育理念や教育方針に沿った教育を受けていると「思う」は、前期課程で100%、後期課程が86%であった。教育課程の満足度は、前期課程では、「満足している」「どちらかといえば満足している」が91%、「どちらかといえば不満足である」「不満足である」が8%であった。後期課程は、「満足している」「どちらかといえば満足している」が100%で、第6回調査より大幅に改善している。

「現在所属する大学院に入学した主な理由」について、前期課程では「出身大学だから」が最も多く25%、次いで「希望する研究分野があるから」(23%)、「就職等将来を考慮して」(17%)であった。「研究環境が整っているため」、「地元の大学だから」、「継続して修学するため」がそれぞれ8%であった。後期課程では、「希望する研究分野があるから」が24%で最も多く、次いで「出身大学だから」と「研究環境が整っているため」が19%であった。徳島大学出身者は、前期課程、後期課程ともに全員が第一志望で入学していた。他大学卒業者の大学院進学の際には、前期課程の63%、後期課程の75%が「第一志望だった」と回答した。

「大学院での勉学により目指すもの」については、前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」が67%と最も高かったが、第5回調査、第6回調査に引き続いて減少している。後期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」が63%、次いで「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」(25%)、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」(13%)であった。後期課程の学生は高度専門職業人や研究者、大学教員を目指す明確な目的を有している。

「授業の内容や進め方」について、「満足している」「ある程度満足している」と回答した学生は、前期課程で86%、後期課程では100%で、第6回調査と同様であった。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」について、前期課程では「90分～5時間未満」が最も多く22%、「10～20時間未満」が17%であったが、8%は「30分未満」であった。「40～60時間未満」と「60時間以上」の合計は20%であった。後期課程では「90分～5時間未満」が38%、「5時間～10時間未満」が25%であった。

「研究を直接指導している教員」について、「教授」と回答した学生は、前期課程では86%、後期課程は100%で、後期課程は教育部の中で最も多かった。また、「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」について、前期課程では「30～90分未満」が47%で最も多く、次いで「90分～5時間未満」が28%であった。後期課程では「30～90分未満」が50%で、次いで「30分未満」が38%であった。研究の進行状況によって指導の重点が異なるため、学年によって差が生じている可能性がある。

「研究指導の内容や進め方についての満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程が89%、後期課程は88%で、第6回調査より微増している。「修士論文の研究テーマに関する満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、92%、「博士論文の研究テーマに関する満足度」については全員が「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答していた。

「指導教員とのコミュニケーション」について、前期課程では「充分とれている」「ある程度とれている」89%で、第6回調査より17%増加している。「まったくとれていない」学生はいなかった。後期課程では「充分とれている」と「ある程度とれている」を合わせると100%であった。

「大学院に相応しいレベルでの教育」については、前期課程において、「充分に行われている」が53%で第6回調査より19%増加している。「あまり行われていない」は6%で、「全く行われていない」と回答した者はいなかった。後期課程では、「充分に行われている」と「ある程度行われている」の合計が100%であった。

「現在の研究環境についての満足度」は、前期課程の86%が「満足している」と「どちらかといえば満足している」と回答した。後期課程の「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計は100%であった。前期課程における「研究環境に満足していない理由」は、「施設・設備」と「研究費用」がそれぞれ33%で、次いで「研究時間」の17%であった。「所属している教育部・専攻の全体としての満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程で86%、後期課程で100%であり、前期課程の8%は「どちらかといえば不満足である」と回答しており、改善が望まれる。

「図書館の利用頻度」について、前期課程では「1か月に1回程度利用する」学生が最も多く39%、次いで「1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である」が17%であった。「ほぼ毎日利用している」は6%、「1週間に2～3回利用する」は14%であった。後期課程では「1か月に1回程度利用する」が最も多く63%で、社会人学生にとって利用しにくい状況が推測される。「電子ジャーナルやデータベース等の利用頻度」について、前期課程では「1週間に2～3回利用する」学生が最も多く、42%、次いで「1週間に1回程度利用する」が22%で、第6回調査と同様の傾向であった。後期課程では「1週間に2～3回ぐらゐ利用する」と「1か月に1回程度利用する」、「半年に1回程度利用する」がそれぞれ25%ずつであり、後期課程も第6回調査と同様の傾向にあった。「図書館のサービスに対する満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程で86%、後期課程が75%で、前期課程は同様の傾向にあったが後期課程の満足度は低下していた。

「現在所属している大学院にふさわしい学修をしているか」について、「よく学習している」「かなりしている」と回答した学生は前期課程では84%で第6回調査と比較して40%増加している。後期課程では75%で、第6回調査と比較して減少傾向にある。

「入学後の海外渡航の経験」について、前期課程で「ない」と回答した学生は81%であったが一方で「3回以上」と回答した者が3%、「4回以上」と回答した者は6%であった。後期課程は75%が「ない」と回答した。前期課程で海外渡航の経験のある者のうち「学会参加」目的は14%であった。後期課程は「学会参加」が100%であった。

「国際学会での研究発表」について、前期課程では14%が「国内の国際学会での発表」であった。後期課程で国際学会における研究発表をしたことがあったのは39%で、第6回調査の0%から大幅に増加した。

「英会話能力」について、「できない」「あまりできない」と回答した学生は前期課程で67%、後期課程では75%であった。また前期課程、後期課程の両方で「専門用語を使った会話ができる」は0%であった。

「語学力を高めるためにしていること」では、前期課程の65%は「何もしていない」と回答した。「外国のラジオ、テレビを視聴している」が11%、「外国語の新聞、雑誌を購読している」が8%であった。後期課程では「何もしていない」が63%、「英会話等の学校に通っている」、「ラジオ・テレビの英会話番組で勉強している」、「外国のラジオ、テレビを視聴している」がそれぞれ13%であった。「何もしていない」と回答した学生の割合は特に後期課程で第6回調査よりも大幅に増加していた。後期課程の社会人学生に対する語学力向上のための動機づけが望まれる。

「あなたの将来のために本学の教育に望むこと」について、前期課程では「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」と「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」が最も多く22%、次いで「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」が20%であった。「特になし」は18%であった。後期課程では「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」が40%で最も多く、次いで「高度な水準にある多大学院等での勉学あるいは研究の機会」が20%であった。大学院教育への多様な希望に応じた、カリキュラム設計やシラバス作成が必要である。

「本学の国際化への積極性」について、「非常に積極的であると思う」「どちらかといえば積極的であると思う」と回答した学生は、前期課程で72%、後期課程は75%で、どちらも第6回調査より減少している。

第7章「進路選択・就職について」では、前期課程の学生で「博士（後期）課程への進学」について「進学したい」、「奨学金等の経済的支援があれば進学したい」と回答したのは19%、「就職したい」と回答したのは64%であった。後期課程への進学意志のある学生のうち、本学を希望しているのは57%で、これらの傾向は第6回調査と同様であった。前期課程で就職を希望する者のうち「専門職（医師等）」と回答した者が68%で、最も多く、第6回調査よりも大幅に増加した。「進路選択で重視する要件」は、前期課程では「就職先の将来性・安定性」が最も多く30%、次いで「収入」（26%）、「能力を発揮できること」（17%）、「勤務地の地理的条件」（15%）であり、これらの4項目が主要件になっていた。後期課程では、「収入」が30%で最も多く、「能力を発揮できること」と「勤務地の地理的条件」がともに22%であった。

「進路を考える上での情報入手手段」について、前期課程では、「Web・インターネット」が最も多く38%、次いで「先輩・知人」が23%、「指導教員」は17%で、第6回調査とほぼ同様の傾向を示した。後期課程では、「指導教員」と「Web・インターネット」が同率で26%であった。後期課程の学生にとって指導教員からの情報は重要であることがうかがえる。

「キャリア支援室の利用状況」については、前期課程の89%、後期課程の全員がキャリア支援室を「利用したことがない」と回答しており、第5回調査、第6回調査とほぼ同様の結果を示した。保健科学教育部の大学院生は専門性の高い免許や資格を持ち、比較的限定された業種へ就職することが多いため、キャリア支援室の情報や支援よりも他のサポートを利用していることが推測される。「就職に関する大学への要望」は前期課程では「面接対策・履歴書の書き方などの実践的指導の充実」が37%で最も多く、次いで「就職情報誌など就職関係書籍の充実」（17%）であった。後期課程では「面接対策・履歴書の書き方などの実践的指導の充実」が最も多く25%、次いで「企業説明会の内容充実」、「就職ガイダンスの充実」、「求人企業の開拓」が同率で19%であった。実践的な内容の就職活動支援に加えて、専門性の高い業種への就職支援の充実が望まれる。

以上を踏まえ、以下の4点を今後の課題としてあげた。

1. アンケート回収率の改善

前回の第6回と比較し回収率が1割以上改善したのは、学務課や指導教員の働きかけによるものと推測できるが、後期課程の回収率はまだ低く、学生生活を正確に把握できていないと言いはし難い。アンケート結果を反映した改善事例を示して、回答することの必要性を丁寧に伝えることや、メールやWeb上での回答を可能にして社会人で遠方の学生が回答しやすいようなシステムの工夫が必要である。

2. 経済状況に応じた奨学金等の情報提供

今回の調査においては、奨学金の受給や受給希望が低率である一方で、アルバイトの時間や収入が多く、学修や研究の時間を割いて収入を得ている背景が垣間見える。また、不安や悩みの要因に経済状況が一定の割合で含まれており、経済的な困窮が研究活動の障害とならないよう、手だてを講じる必要がある。

3. 国際学会への積極的な参加への継続的な支援

第6回調査の課題として、国際学会への参加の少なさがあげられていた。今回の調査では国際学会への参加と研究発表が大幅に増加したが、海外での口頭発表は非常に少ない。その背景に語学力の問題と渡航費用等の経済的な問題がある。語学力を高める取り組みへの動機づけの機会を増やすことや、資金獲得に早急に取り組む必要がある。

4. アカデミックハラスメントの根絶

学生生活上の問題点として、前期課程の6%が「学内でアカハラを受けたことがある」と回答したことは決して看過できない問題である。副指導教員やアドバイザー教員の指定等、複数の教員が関わる仕組みが構築されたところであるが、教員一人ひとりの意識を高めることが最も重要である。定期的な研修の機会を設ける等、二度とアカデミックハラスメントが起こらない対策が不可欠である。

8-7 先端技術科学教育部

先端技術科学教育部の学生数は、前期課程が702人、後期課程が126人であり、今回の調査における学生の回答割合は、前期課程が75.5%、後期課程が49.2%である。

第1章「本調査の対象者について」より、前期課程の出身地は、近畿36%、徳島県26%、中国15%、徳島以外の四国10%と徳島県と近隣府県の占める割合が相変わらず高い。後期課程では徳島24%、近畿19%、徳島以外の四国5%となっている。また、本学出身者の割合は、前期課程で89%と高い割合となっているが、後期課程では、本学出身者が26%、6%が国内他大学・大学院、29%が徳島大学大学院修士・博士前期課程出身となっている。社会人と留学生の割合は、前期課程はそれぞれ3%、9%と少数である傾向は変わらないが、後期課程はそれぞれ18%、50%と増加している。

第2章「家族・住居・通学」より、住居は、家族と別居したアパート・マンションが、前期課程で73%、後期課程で52%、自宅が前期課程で21%、後期課程で29%となっている。後期課程においては、配偶者がいる家庭が22%になっており、これが後期課程における自宅の割合を引き上げている要因になっていると推定される。さらに後期課程では国際交流会館が11%をしめ、国際交流会館が留学生の住居として一定の役割を果たしている。通学方法は、自転車前期課程68%、後期課程59%と最も多く、前期課程では、次いで徒歩、バイク、自動車の順である。後期課程では、自転車の次は自動車、徒歩、バイクの順となっている。15分未満の通学時間の割合は、前期課程で74%、後期課程では60%である。

第3章「収入・支出について」より、平均収入月額、前期課程では、3万円未満が45%と最も多く、収入額の増加とともに割合が減少する傾向がある。後期課程でも、3万円未満が27%と最も多いが、3万円以上から30万円以上まで広く分布している。また、親等からの援助について前期課程でみると、全くないと3万円未満の援助が20%と26%で第6回調査（18%と29%）とほぼ同じである。後期課程では、61%の学生が全く援助を受けていないと回答している。奨学金については「受給中であるが更に希望する」割合が、前期課程で41%、後期課程で52%と高くなっている。また「現在受給していないが希望する」割合は前期課程で11%、後期課程で21%と少なくない。両課程において、奨学金をより充実させる必要があり、特に、後期課程の徳島大学ゆめ奨学金制度をさらに充実させなければならない。

アルバイトは、前期課程で62%、後期課程で37%の学生が従事している。第6回調査時（前期課程58%、後期課程31%）より増加している。アルバイト従事時間数は10時間未満の学生は前期課程で45%、後期課程で56%である。また、アルバイトの目的も生活費や学費のためが最も多く、前期課程では38%だが、後期課程では63%となっており、前期課程よりもより手厚いサポートが必要であることがわかる。また、アルバイトにおいて、前期課程の25%、後期課程の8%の学生はトラブルに遭遇している。

第4章「健康状態について」より、気になる症状が「時々ある」と「常にある」の割合が前期課程で44%、後期課程で61%になっており、特に後期学生の割合が高い。主な悩みや不安については、前期課程においては就職や進路、後期課程では勉学や経済状態が最も多くなっているものの多岐にわたっており、個々人の悩みに応じた多様な対応が必要とされている。相談相手としては、友人や家族に相談する割合が高くなっている。しかし、誰にも相談しない者も前期課程16%、後期課程13%存在しており、深刻な状態になる前に学生相談室や教員等に早期に容易に相談できることを周知する必要がある。

現在の精神状態については、普通または充実していると回答した割合が、前期課程で71%、後期課程で75%あり、残りの学生は、なんとなく不安、やる気が出ない、いらいらする、落ち込みやすい等精神状態に問題を抱えている。この傾向は、第6回調査とほぼ同じ割合ではあるものの引き続き対策が必要であると考えられる。保健管理・総合相談センターがあることを知らない学生が未だ前期課程で4%、後期課程18%おり、特に後期課程には多いことから、ガイダンスなどで留意して周知する必要がある。

第5章「学生生活上の問題点について」より、迷惑行為は前期課程で87%、後期課程で89%が迷惑行為を受けたことはないと回答しており、第6回調査とほぼ同じ結果となっていた。第3回調査からカルト集団からの勧誘が項目に加わっているが、問題となっている迷惑行為の中では前期課程で3%の学生が被害を受けており、注意喚起および対策が必要である。また、アカハラも前期課程で3%、後期課程で2%の学生が受けたと回答している。

犯罪被害については、前期課程では15%の学生が何らかの被害を受けており、後期課程でも7%が被害を受けている。事件の中では盗難が最も多く、現金・貴重品の常時携行、自転車の施錠等、盗難予防の周知徹底に努める必要がある。交通事故については、前期課程で29%、後期課程で25%が被害者・加害者のいずれかに関わっており、交通安全に関する教育と周知徹底をする必要がある。また、違法薬物使用については前期課程において4名、後期課程において1名が経験ありと答えており、看過できない。

大学事務室の対応は、どちらかといえば不満足と不満足を合わせた割合が、前期課程13%、後期課程8%となっており、概ね満足していることがわかる。

第6章「修学状況について」より、教育部の教育理念や教育方針は、前期課程でだいたい知っているものを含めて40%、後期課程では67%の割合でしか知られておらず、周知方法を再度検討する必要がある。教育課程、教育レベル、授業の内容や進め方に対しては、両課程において、90%以上の満足度が得られている。

本学への進学理由は、前期課程では第6回調査と類似しており、出身大学41%が最も多く、就職等将来を考慮15%、継続して修学14%、希望する研究分野13%と続いている。後期課程では、希望する研究分野25%が最も多く、継続して修学20%、出身大学17%、指導教員の勧め10%となっている。また、本学出身者は、本学の大学院を第1志望とする割合は、前期課程では92%、後期課程は79%と第6回調査とほぼ同じであった。他大学卒業者では、前期課程で76%、後期課程で61%が第1志望と、第6回調査より増加した。

研究活動の1週間平均時間として、20時間以上と回答した割合は前期課程では57%、後期課程では68%である。また1日8時間、5日間とすると40時間程度は研究時間に確保できるが、40時間未満と回答した割合は前期課程では72%、後期課程では46%もあった。研究活動が生活の中心であるはずの大学院生が十分に研究をしていないというのはなぜか、健康面・心の状態も含めて至急調査し、対策を講じる必要がある。また、直接的に研究指導を受けている教員は、後期課程では、教授71%、准教授15%と、教授の割合は前期課程(54%)よりも多い。研究指導を受ける時間は、前期課程では第6回調査とほとんど変わらず、週30分未満の割合が24%、30～90分未満が43%、90分～5時間未満は30%である。後期課程でも、30分未満の割合が16%、30～90分未満が48%、90分～5時間未満は27%と全体的な傾向はほぼ変わらない。研究指導、研究論文のテーマ及び指導教員とのコミュニケーション、研究環境、大学院に対する満足度は、前期課程、後期課程ともに高い満足度となっている。しかし、指導教員との「コミュニケーションがあまりとれていない」「まったくとれていない」学生が前期課程で18%、後期課程で13%存在している。学生の研究時間や指導時間が短いことと、コミュニケーション不足の関連など、今後要因を解析し、改善に取組む必要がある。研究環境の満足度は、前期課程で80%、後期課程で89%と比較的高いが、満足していない学生からは施設・設備、研究費を理由としてあげる学

生が多く、これらの学生の研究環境の充実も今後の課題である。

海外渡航は、1回以上経験した学生が、前期課程で35%、後期課程で47%となっている。渡航目的は、前期課程では留学・語学研修・学会参加・学術調査・社会活動をあわせて66%、後期課程では54%となっていた。国際会議での発表は、前期課程で31%、後期課程で46%が経験しており、後期課程では第6回調査よりも減少している。学会参加への資金援助をより充実し、より多くの学生が参加できるように支援する体制の充実が引き続き必要である。

英会話については、前期課程において、何とか日常会話ができるレベル以上と回答した割合は42%で、後期課程は51%である。TOEIC、TOEFL等の受験等語学力の向上に努めている割合は前期課程で59%、後期課程で65%であり、より実践的なコミュニケーションの機会を増やす必要があると考えられる。

第7章「進路・就職について」より、前期課程の学生は8%ほどしか後期課程への進学を考えていない。また、就職希望職種としては、前期課程で技術職、企業等の研究職が前回とほぼ同様の60%、19%となっていた。後期課程では48%が無回答を選択しており、大多数は将来について確固たるキャリアが描けていないためであり、これについては後期課程の学生を増やす上でも大きな課題である。進路選択で重要視しているのは、前期課程の学生は、就職先の将来性・安定性、収入をあげており、後期課程では能力を発揮できることが優先されている。進路の情報入手先は、Web・インターネットが前期課程で33%、後期課程で22%と比較的高い。前期課程では先輩・知人25%も多く、指導教員9%や就職担当教員4%が低くなっている。一方、後期課程では、指導教員も26%と、先輩・知人17%よりも高い。キャリア支援室は、前期課程は48%が、後期課程では69%が利用したことがないと回答している。一方、就職支援に対する要望は多く、研究面のみならず、就職の面でも教員と学生、キャリア支援室とのコミュニケーションが十分に取れていないことがうかがい知れる。

本調査から明らかにされた問題点と課題を列举すると以下の通りである。

特に次の点は重点的に行う必要があると思われる。

1. 学生の研究時間が少ない。要因を明らかにし、学生の学習意欲を高めるための大学院教育カリキュラムや指導を充実させる。
2. 違法薬物使用者がいる。違法薬物の有害性、厳罰化を周知するなどの啓発活動を徹底する。
3. 学生の経済状況が厳しい。特に博士後期課程の学生には、奨学金制度や学会発表を行う上での支援制度を充実させる。
4. 博士前期課程の学生の博士後期課程への進学意欲が低い。項目1および項目3も含め、進学の障害となる事柄への対策を十分に検討すること。
5. 海外での学会発表が少ない。学会発表のための支援制度を充実させる。
その他に下記の点にも取り組むこと。
6. 教育部の教育理念や教育方針の周知徹底。
7. 研究環境のさらなる充実。
8. 学生の多様な悩みやハラスメントに対応するためのシステムの充実とその周知徹底。
9. 交通安全教育の実施と交通安全に関する周知徹底。

(特記) 留学生の現状と課題

留学生の現状と課題をアンケートの関連項目から検討する。本学大学院に在籍する留学生は193名であり、前期課程で92名、後期課程で101名である。第6回調査と比較して計36名の増加となっており、前期課程では33名、後期課程では3名増加した。留学生の割合は、前期課程では9.2%、後期課程では

20.7%である。留学生の回答率は、前期課程で60.9%、後期課程で64.4%であり、第6回調査と比較して前期課程、後期課程ともに増加している。

留学生の住居区分に関しては、前期課程では5%が自宅（家族と同居）、52%がアパート・マンション（家族と別居）、35%が国際交流会館に居住していたが、後期課程では15%が自宅、58%がアパート・マンション、15%が国際交流会館に居住していた。第6回調査と比較して、後期課程では、自宅と国際交流会館での居住は減少し、アパート・マンションでの居住が増加した。住居費用について見ると、3万円未満が前期課程では57%、後期課程では64%ともっとも多く、3～4万円未満が前期課程で31%、後期課程で24%であった。留学生の半数以上は3万円未満の居住費で生活していた。

収入については、前期課程の1か月の平均収入は3万円未満が33%で、3万～5万円未満が35%であり、多くは奨学金等の受給による収入と考えられる。後期課程の6割強が10万円未満、25%が10～15万円未満の収入を得ており、第6回の結果とほぼ同様であった。親等からの援助額については、前期課程の48%は親等からの援助が全くなく、37%が5万円未満の援助を受けていた。後期課程に関しては、75%の留学生が親等からの援助を受けていないことが分かった。第6回調査と比較して、留学生への親からの援助が減少していることが分かる。奨学金希望者は、前期課程では98%、後期課程では95%と非常に高い。アルバイトについては、前期課程の47%、後期課程の22%がアルバイトをしているが、これは第6回の調査結果（前期課程38%、後期課程18%）よりも増加している。アルバイトの収入金額は、第6回調査ではすべて7万円未満であったが、今回の調査では、前期課程では7万円以上が11%、後期課程では21%であった。これらの結果を見る限り、留学生の経済状況は良いとは言えず、奨学金やアルバイトなどでの収入が必要である。

留学生の健康状況については、前期・後期課程で気になる身体症状が「ある」とした学生は75%、88%である。これまでの調査同様、健康面の問題や不安に対する支援のニーズがあると思われる。主な悩みは、「勉学」、「経済状態」、「就職や進路」の順に多い。多くの学生が悩みごとを、友人、家族、教員などに相談しているようである。留学生で精神的不調感を自覚している学生は、前期課程では20%を超え、後期課程では約30%であった。依然として20%未満の留学生が、保健管理・総合相談センター保健管理部門を知らないと答えており、まだ保健管理・総合相談センターの認知度が低いことが分かる。留学生への周知を行うために、国際センターと連携しながら対応していく必要があると思われる。

教育課程に「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が、前期課程で91%、後期課程97%、大学院に相応しいレベルの教育が「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合が、前期課程で95%、後期課程98%と満足できる数値であった。本学を選んだ理由と目的について、「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合が前期課程で28%、後期課程で26%と最も多かった。

留学生の研究活動については、週20時間以上研究活動を行っている割合が、前期課程では67%、後期課程では82%と、第6回調査の結果よりそれぞれ約5%減少している。また指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間は前期課程、後期課程ともに「30～90分未満」と回答した学生の割合（前期課程：42%、後期課程：42%）が最も多かった。研究指導の内容や進め方については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で97%、後期課程91%となっていた。論文の研究テーマに関する満足度は、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で98%、後期課程で95%となっている。指導教員とのコミュニケーションに関する設問では、「充分とれている」または「ある程度とれている」と回答した学生の割合が、前期課程では98%で、後期課程で88%にとどまっていた。研究環境に「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で95%、後期課程94%であった。所属大学院に対して、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回

答した学生の割合が、前期課程で95%、後期課程96%となっていた。

日本語に関しては、「なんとか日常会話ができる」以上の回答をした留学生は、前期課程では70%、後期課程では60%であった。第6回調査の時と比較すると、前期課程で2%の減少、後期課程で4%の増加であった。また、前期課程では82%、後期課程では84%の留学生が日本語コースを「受講している」、「以前受講したことがある」あるいは「今後受講する予定である」と回答しており、日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが理解できる。また、日本語コースの満足度については、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した学生では、前期課程では100%、後期課程では89%と高い満足度を示している。留学生の日本語学習において本学で開講されている日本語コースが重要な役割を果たしており、今後も現在のレベルの維持と一層の充実化が期待される。

大学院での学習への取り組み状況についての質問に対して、「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答した留学生は、前期課程では84%と前回の調査より10%減少しているが、後期課程では前回同様94%であった。学生全体の数値（前期75%、後期73%）に比べて上回っており、一般学生の学習意欲を高める良い影響が期待できる。

本学の国際化への対応については、前期課程の95%、後期課程の78%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と答えており、第6回調査と比較して、前期課程では10%増加したものの、後期課程では16%減少している。本学が行っている国際化への対応は大学院生にある程度浸透していると考えられるが、さらなる改善が必要であると言えるであろう。

前期課程学生の進学選択に関して、全体として「進学したい」が13%、「経済的支援があれば進学したい」が30%となっており、日本人学生に比べ進学意欲を持つ学生が多い。第6回調査結果と比較すると、「進学したい」は7%の減少である一方、「経済的支援があれば進学したい」は10%の増加であり、経済的な問題のクリアが課題となっていることが分かる。また、進学希望者の54%は、本学の博士（後期）課程を希望しているが、前回調査より10%減少している。15%が他大学を希望している。進路選択で重視するものでは、前期課程・後期課程の学生共に、「収入」、「就職先の将来性・安定性」、「能力を発揮できる場所」と続いた。進路情報の入手手段については、留学生は日本人学生と同様、Web・インターネット、指導教員、先輩・知人が多かった。また、キャリア支援室の利用状況については、前期課程の留学生の場合、「現在も利用している」、「以前に利用したことがある」が20%、後期課程では14%であり、前期課程の学生は日本人学生の約半分にとどまっていた。利用率を高めるさらなる工夫が必要であると思われる。

今後の課題

本学では、第3期中期目標期間中に350人以上の外国人留学生を受け入れる目標を立てている。また、「徳島大学改革プラン」においても、外国人留学生を日本に定住させることを目標に、学部留学生を増加させ、外国人留学生の在籍者率を3%から6%に引き上げる目標を掲げ、加えて日本人学生のグローバル化を推進するため、海外派遣を倍増する目標も掲げている。これらの目標を達成するためには、

1. 渡日前許可制度の実績を拡大し、各卒業留学生同窓会や現地拠点との連携を推進し、優秀な人材を受け入れる必要がある。
2. 経済状況は恵まれてない留学生に対する住宅（日本人学生との混住型）、奨学金や授業料免除制度の拡充、TA/RA制度の活用などを含むさらなる支援を充実し、安心して勉学できる環境を整備する必要があると思われる。
3. 日本人学生の国際化意識の向上および異文化体験、英語能力、コミュニケーション能力の向上を強化する必要があると思われる。また、留学生の日本文化体験、日本語能力を向上するため、日本人学生と留学生との交流の場を整備する必要があると思われる。

4. 国際センター，キャリア支援室などを含む学内外の関連機関が連携して機能するための組織づくりを行い，留学生の就職支援，特に県内就職支援を強化する必要がある。
などが考えられる。

第9章 総括と提言

大学院生を対象とした学生生活実態調査は、大学院生の就学及び生活の実情を的確に把握し、大学として支援する事項を見出すことが主な目的である。今回（第7回）の調査は、本学大学院に在籍する1,482名（前期課程995名（うち留学生92名）、後期課程487名（うち留学生101名））を対象に行い、全体のアンケート回収率は66%であった。回収率は、第5回53%、第6回60%と着実に高上しているが、教育部間で回収率に大きな差がある。本調査目的である学生の生活実態を正確に把握するためには、より高い回収率が望まれることから、特に回収率の低い教育部においては今後、回収率の高上に向けた取り組み・工夫が求められる。

今回の調査結果は、2年前に実施した前回（第6回）調査から数値の変動はあるものの、傾向は大きくは変わっていない。教育部間で結果にバラつきがあるが、本調査の目的である大学院生の支援に大学全体としてどう活かすかという観点から、以下に総括と提言を取りまとめた。

1. 経済状態について

大学院生を取り巻く経済状態は依然として厳しいことが窺われ、奨学金希望者の割合は両課程ともに50%以上に上る。特に後期課程では、いずれの教育部においても保護者等からの経済的支援を受けていない大学院生の割合が最も多く、全体では71%（前期課程22%）に上る。そのため、収入面での独立傾向が強く、アルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答した割合が後期課程（59%）の方が前期課程（39%）よりも高く、また、10万円以上のアルバイト収入を得ている大学院生が後期課程で40%（前期課程0%）という結果に繋がっていると思われる。アルバイトに25時間以上従事している大学院生（後期課程13%、前期課程4%）の学業への支障が危惧される。経済的に援助が必要な大学院生が学業に専念する時間を持つことができる支援の構築は、大学院の充実に向けて取り組むべき継続的重要課題の一つである。

2. 健康状態について

身体的健康については、約半数の大学院生が「気になる症状がある」と回答しており、症状の多くは生活習慣の不良を原因として発生していると考えられることから、健康管理に対する学生の意識向上対策が求められる。精神的健康については、約7割の大学院生が悩みや不安などの何らかの精神的不調感を持っており、その多くは「勉強」、「就職」、「経済状態」といった学生特有の問題である。なお、身体的または精神的健康に問題を抱えている大学院生は、後期課程ほど多い。この結果から、健康面・精神面の問題に対する支援の強化が望まれるが、悩みや不安の相談相手は身近な友人や家族が主であり、専門家による支援が得られる総合相談部門（学生相談室）や保健管理部門の利用は依然として低調である。支援窓口としての保健管理・総合相談センターを気軽に利用してもらうための一層の啓蒙活動に加え、指導教員が学生の変調を一早く把握し、必要に応じて大学院生に当センターの利用を促すことも必要であろう。

3. 生活上の問題点について

大学院生の約15%が、何らかの迷惑行為を受けている。ハラスメント（「セクハラ」、「アカハラ」、「飲酒強要」）は、残念ながら今回の調査においても皆無とはならず、引き続き適切な予防啓発活動が望まれる。支援窓口となる総合相談部門（学生相談室）の利用率は15%であり、利用後の満足度が高い。なお、同部門の認知率、利用率はともに蔵本地区で低い傾向にあり、認知度向上対策が求められる。

交通事故（約30%）、盗難被害（約10%）を経験している大学院生がいることから、身近な事件・事故防止に向けた啓蒙活動の強化・継続が必要である。

4. 修学状況について

前期・後期課程ともに、授業および研究指導に対して高い満足度が維持されており、教員との意思疎通も良好で、全体として大学院生の90%以上が教育部に満足しており、今後も高い満足度が維持されるように努力を継続することが求められる。研究環境に対しても80%以上が概ね満足しているが、一方で、満足していない大学院生が少なからずおり、その理由として「施設・設備」、「研究費用」が多い。大学の財政事情が厳しく、教員個々の研究費獲得への依存度が今後更に高まることが予想される状況からは、すぐの改善は難しいと言わざるを得ない。また、「研究時間」と不満の理由にあげる大学院生も多いことから、指導教員による何らかの対応が望まれる。

図書館の利用頻度は教育部間で大きなばらつきがあるが、図書館のサービスに対して約90%の大学院生が満足しており、評価が高い。今回の調査においても、ウェブを介した学術雑誌やデータベースの利用頻度が高いことが再確認され、大学院生の日々の学習や研究活動に必要なこれら閲覧サービスの質・量の維持・充実は強く望まれる。

徳島大学の国際化への取組みは大学院生から一定の評価を受けているが、一方で、学生の英会話習得に向けた学習努力や、海外渡航経験、国際学会における発表経験などは低調に推移しており、学生の国際化意識は高いとは言えない。この傾向の原因を分析し、国際的に通用する有能な人材育成に向け、グローバル化教育の整備・推進、国際学会への発表支援などを組織的に強化していくことが求められる。

5. 進路・就職について

前期課程から後期課程への進学を希望する大学院生の割合が17%であり、高いとは言えない。後期課程への進学を促すためには、経済的支援や修了後の就職先の開拓など大学院生が安心して進学できる環境整備を進めていくことが必要である。

キャリア支援室の利用は、依然として「利用したことがない」との回答が両課程とも半分以上あり、まだ十分に活用されていない。学生の就職希望先は高度な専門職、研究職、技術職など教育部間で異なるが、就職に関する学生の要望の多くはキャリア支援室が主に取り組んでいるサービスであることから、キャリア支援室は各教育部と連携してサービス内容の周知を徹底すれば、大学院生にとって貢献度の高い情報提供ソースになると期待される。

6. 留学生について

留学生の学習への取り組み状況は良好で、日本人学生の学習意欲や国際化意識の向上に良い影響を及ぼしていることが期待される。留学生の良好な学習への取り組み状況や教育課程への高い満足度を維持し、大学院の国際化を加速していくためには、日本人学生と同様にニーズの高い経済的支援と健康面に関する支援、就職支援を充実し、安心して学習できる環境を整備することが望まれる。また、修学・生活支援に繋がる日本語学習の充実と英語による留学生への各種サポート体制の整備に、継続して取り組んでいく必要がある。

あ と が き

社会の様々な価値観や情勢が目まぐるしく変わる昨今、大学院学生の就学環境も社会の変化による影響を受けざるを得ません。平成17年度から隔年で継続的に行われている大学院生を対象とした生活実態調査は、今回で7回目となります。これまでの調査結果同様、今回も前回調査から大きな変化が見られていません。このことは、この2年間に社会的要因による急激な影響がなかった一方で、前回指摘された課題に対する取り組みが、残念ながら学生が実感できる成果に至っていないことを示しています。しかし、社会の影響や取り組みの成果には、その変化を実感するまでに時間がかかるものもあります。そこで、本調査においても、前回からの急激な変化に注目するだけでなく、第1回調査からの10年以上に及ぶ長い期間での変化にも注目していくことが必要ではないかと思えます。調査結果からフィードバックした改善成果を実感できる形で示すことができれば、学生がアンケートに回答することに意義を見出し、より積極的に調査に協力してくれることが期待できます。その結果、回収率の向上は勿論のこと、有意義な声が多く聞けるなど、学生の生活実態をより正確に把握することができると考えられますので、今後の課題として取り組んで参りたいと思えます。

最後になりましたが、今回の調査にご協力いただいた大学院生諸君、調査・分析、報告書の執筆を担当された委員の先生方、およびご協力頂いた事務職員の皆様に深く感謝します。

学生生活支援室長

滝 口 祥 令



第7回 CAMPUS LIFE

キャンパスライフ

大学 院 生 生 活 実 態 調 査 報 告 書

徳島大学

平成31年3月



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。(平成26年3月26日)

- ・認定評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
- ・認定期間：7年間（平成26年4月1日～平成33年3月31日）

